

授 業 計 画

平成 28 年度

Syllabus 2016

健康科学部 栄養マネジメント学科

兵庫大学の教育

兵庫大学の教育は、聖徳太子の十七条憲法に示された「和」の精神に基づいています。「和」の精神が含む「感謝・寛容・互譲」の心を持つとともに、自ら学び、自ら考える力を身につけ、共生社会の形成に主体的に貢献できる人間を育てます。

兵庫大学の3つの方針（ポリシー）について



アドミッションポリシー (AP)

入学者受け入れ方針

兵庫大学では、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を理解する、次のような学生を受け入れます。

1. 自ら学ぼうとする意欲のある人
2. 自己を見つめ、自己を振り返る努力ができる人
3. 多様な考えを受け入れ理解しようとする人

カリキュラムポリシー (CP)

教育課程編成方針

兵庫大学では、学生が、ディプロマポリシーで示された「3つの力」を身につけることができるよう、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 大学において学ぶために基本的学習技術を習得し、自ら考える態度を身につける
2. 幅広い学問分野の知識や技術を習得し、多面的なものの見方を身につける
3. 実践的専門家になるために必要な専門的知識や技術を習得し、運用することができる力を身につける
4. 社会生活・職業生活についての理解を深め、卒業後も自律的に学習を継続することができる力を身につける
5. 社会や地域社会について体験的に学び、その一員として知識や能力を運用し行動する力を身につける

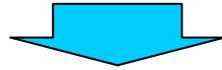
ディプロマポリシー (DP)

学位授与方針

兵庫大学では、学習者が「学士」の学位を取得するために、卒業までに次の能力を備えていることを求めます。

1. 自己を認識し、物事に進んで取り組む力
2. まわりに働きかけ、共に行動する力
3. 学んだ知識や身につけた技術を運用し、生涯にわたって活用できる力

兵庫大学 建学の精神・教育理念

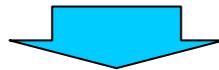


兵庫大学

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

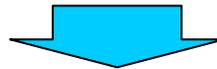


健康科学部

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)



栄養マネジメント学科

アドミッション
ポリシー
(AP)

カリキュラム
ポリシー
(CP)

ディプロマ
ポリシー
(DP)

みなさんは、

APに基づいて入学し、

CPに沿って学び

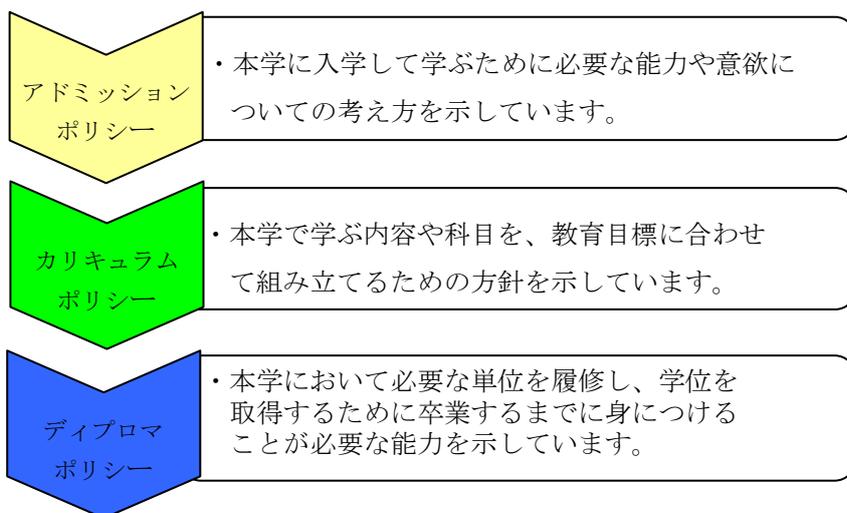
DPに定められた能力を身につけて卒業します。

健康科学部ポリシー

アドミッション ポリシー	カリキュラム ポリシー	ディプロマ ポリシー
<p>・健康科学部のディプロマポリシーを理解し、学ぶ意欲や学問に対する熱意をもち、自らを省みて努力を惜しまず、向上心を忘れない、柔軟な姿勢をもつ学生を受け入れます。</p>	<p>・健康科学部では、専門知識と技術の習得に向けて、基礎となる知識と社会人としての基礎学力を培います。また、学科の専門性に基づいて、健康課題を科学的に解明していく力を養うと共に、実践力を身につけることを目指して、カリキュラムを編成します。</p>	<p>・健康科学部では、生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。</p>



3つの方針（ポリシー）について



栄養マネジメント学科ポリシー

栄養マネジメント学科は、学部ポリシーに基づき、豊かな人間性を礎とし、管理栄養士をはじめとした「食」と「健康」のスペシャリストの養成を目指します。

アドミッション ポリシー

・健康科学部のアドミッションポリシーに基づき、次のような学生を受け入れます。

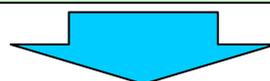
1. 「食を通じて人々の健康の維持と増進および疾病予防と回復のために役に立つ仕事がしたい」という姿勢を持ち、その仕事を通して自己の向上を目指す人
2. 自己の成長のために、自己を謙虚にみつめ、改善を心がける努力ができる人
3. 仲間と共に学び、共に成長する事に喜びを感じ、協力して意欲的に取り組むことのできる人



カリキュラム ポリシー

・栄養マネジメント学科のディプロマポリシーに示された3つの力を身につけるために、次の方針に沿ってカリキュラムを編成します。

1. 高校から大学への円滑な移行をはかり、大学で学ぶ姿勢を身につける
2. より広い視野をもち総合的に判断する能力を身につける
3. 実践的な食の専門家となるために、周囲と協力して課題発見・問題解決できる能力を身につける
4. 社会人としての一般常識および食の専門家としての誇りを礎に、生涯に渡る自己研鑽の姿勢を身につける
5. 地域住民を対象とした実践活動を通し、応用力とコミュニケーション能力を強化する



ディプロマ ポリシー

・健康科学部のポリシーに基づき、卒業までに次の力を身に付けた人に学士(栄養学)の学位を授与します。

1. 食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力
2. 食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力
3. 自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる

「カリキュラムマップ」には

「ディプロマポリシーに基づいて身につけるべき能力」を具体化したものが上部に記載されています。

各科目において、「特に重要」及び「重要」と思われる能力には「◎」や「○」が記載されます。

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ【共通教育科目】(平成28年度入学者)

授業科目区分		授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○							
			兵庫大学ディプロマポリシー							
			1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を活用し、生涯にわたって活用できる力							
			A	B	C	D	E	F	G	
			コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力	
共通教育科目	建学の精神	宗教と人生			○	◎	○			
		仏教と現代社会			◎	○	○			
	コミュニケーション	日本語(読解と表現)	◎				○		○	
		英語	◎		○		○			
		実用英語Ⅰ	◎				○			
		実用英語Ⅱ	◎				○			
		実用英語Ⅲ	◎				○		○	
		中国語(初級)	◎				○			
		中国語(中級)	◎				○			
		韓国語(初級)	◎				○			
		韓国語(中級)	◎				○			
	コンピュータ演習	○	◎						○	
	国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○			
		国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○			
		国際関係論			◎		○			
		比較文化論			◎	○	○			
	歴史と文化	歴史学			○	○	◎			
		文学			◎	○	○			
		芸術			◎		○			
		色彩とデザイン		○	○		◎		○	
	地域に学ぶ	地域文化論			○	○	◎			
		現代社会を読み解く	哲学			◎	○			○
			法と社会			○		◎		○
			日本国憲法			○		◎		○
			人権の歴史			○	◎	○		
			政治学			◎		○		○
社会学					○		◎		○	
経済学					◎		○		○	
自然と科学		生命倫理学			○			◎		
		心理学			◎	○			○	
	化学			○			◎			
	生物学			○			◎			
くらしと健康	食と健康	○				○	◎			
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○		
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎			
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎			
アキヤリ	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○		

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ【基礎・教養科目】(平成27、26、25年度入学者)

授業科目区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○						
		兵庫大学ディプロマポリシー						
		1) 自己を認識し、物事に進んで取り組む力 2) まわりに働きかけ、共に行動する力 3) 学んだ知識や身につけた技術を活用し、生涯にわたって活用できる力						
		A	B	C	D	E	F	G
		コミュニケーション力	情報リテラシー(情報処理能力、情報収集・発信力)	多様なものの見方、考え方ができる力	自己を認識し、他者を理解する力	社会・文化について理解する力	自然・健康について理解する力	論理的思考力
基礎科目	日本語(読解と表現)	◎				○		○
	英語	◎		○		○		
	コンピュータ演習	○	◎					○
	化学基礎			○			◎	○
	生物基礎			○			◎	○
教養科目	宗教と人生			○	◎	○		
	生命倫理学			○			◎	
	哲学			◎	○			○
	文学			◎	○	○		
	芸術			◎		○		
	心理学			◎	○			○
	仏教と現代社会			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)			◎	○	○		
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)			◎	○	○		
	色彩とデザイン		○	○		◎		○
	法と社会			○		◎		○
	日本国憲法			○		◎		○
	人権の歴史			○	◎	○		
	政治学			◎		○		○
	社会学			○		◎		○
	経済学			◎		○		○
	化学			○			◎	
	生物学			○			◎	
	食と健康	○				○	◎	
	実用英語(初級)	◎				○		
	実用英語(中級)	◎				○		
	中国語(初級)	◎				○		
	中国語(中級)	◎				○		
	韓国語(初級)	◎				○		
	韓国語(中級)	◎				○		
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)			○			◎	○
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	○			○		◎	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	○			○		◎	
	私のためのキャリア設計	○		○	◎			○

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ(平成28年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業区分	授業科目名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		1					2					3				
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー														
食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を立案・実践できる力		食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力										自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力				
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
専 門 科 目	生物基礎	◎														
	化学基礎	◎														
	基礎ゼミ I	◎														
	基礎ゼミ II			◎												
	基礎生化学	◎														
	調理基礎実習	◎														
	コミュニケーション論								◎							
	食料経済		◎													
	健康科学	○	◎													
	健康情報処理演習					○						◎				
	フードスペシャリスト論									○					◎	
	フードコーディネーター論									○					◎	
	管理栄養士概論	○			◎											
	公衆衛生学 I	○							◎							
	公衆衛生学 II		○						◎							
	社会保障制度論	◎														
	保健統計学実習										◎					
	生化学 I	◎	○	○												
	生化学 II	○	◎													
	生化学実験 I			◎												
生化学実験 II				○	◎											
解剖生理学 I	◎															
解剖生理学 II		◎														
解剖生理学実験 I				◎												
解剖生理学実験 II			◎													
臨床病態学 I	◎															
臨床病態学 II		◎														
生体防御論		◎														
食品学 I	◎	○														
食品学 II		◎														
食品学実験 I			○		◎											
食品学実験 II					◎											
食品衛生学		◎						○								
食品衛生学実験			○		◎											
調理学		◎			○											
調理学実習 I					○				◎							
調理学実習 II								◎	○							
基礎栄養学 I	○	◎														
基礎栄養学 II	○	◎														
基礎栄養学実験					◎											
応用栄養学 I		◎														
応用栄養学 II		◎														
応用栄養学 III			○	◎												
応用栄養学実習		◎							○							
栄養教育論 I		◎														
栄養教育論 II		◎														
栄養教育論演習											◎					
栄養教育論実習 I			○			◎										
栄養教育論実習 II						◎			○							
臨床栄養学 I		○			◎											
臨床栄養学 II		◎			○											
臨床栄養学 III									◎							
臨床栄養学実習								○	◎							
臨床栄養学演習											◎					
公衆栄養学 I					◎											
公衆栄養学 II		◎														
公衆栄養学実習											◎					
給食経営管理論									○					◎		
給食管理実習 I		◎														
給食管理実習 II									○	◎						
フードサービスマネジメント論									◎	○						
総合演習 I					○						◎					
総合演習 II						○						◎				
総合演習 III							○						◎			
総合演習 IV								○						◎		
給食管理臨床実習									◎							
臨床栄養学臨床実習											◎		○			
公衆栄養学臨床実習												◎	○			
卒業研究 I					◎											
卒業研究 II												◎				

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ(平成27年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活気に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授 業 区 分	授 業 科 目 名	ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー															
		1					2					3					
		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力					
	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5		
専 門 基 礎 に 関 連 す る 科 目 群 （ I 群 ）	基礎ゼミ I	◎															
	基礎ゼミ II			◎													
	基礎生化学	◎															
	調理基礎実習	◎															
	コミュニケーション論								◎								
	食料経済		◎														
	健康科学	○	◎														
	健康情報処理演習					○						◎					
	フードスペシャリスト論											○				◎	
	フードコーディネート論											○				◎	
	専 門 基 礎 に 関 連 す る 科 目 群 （ II 群 ）	管理栄養士概論	○			◎											
		公衆衛生学 I	○					◎									
		公衆衛生学 II		○				◎									
		社会保障制度論	◎														
		保健統計学実習						○				◎					
		生化学 I	◎	○	○												
		生化学 II	○	◎													
		生化学実験 I			◎												
		生化学実験 II				○	◎										
		解剖生理学 I	◎														
		解剖生理学 II		◎													
解剖生理学実験 I					◎												
解剖生理学実験 II				◎													
臨床病態学 I		◎															
臨床病態学 II			◎														
生体防御論			◎														
食品学 I		◎	○														
食品学 II			◎														
食品学実験 I				○		◎											
食品学実験 II						◎											
食品衛生学			◎					○									
食品衛生学実験			○		◎												
調理学		◎			○												
調理学実習 I						○											
調理学実習 II								◎	○								
専 門 基 礎 に 関 連 す る 科 目 群 （ III 群 ）	基礎栄養学 I	○	◎														
	基礎栄養学 II	○	◎														
	基礎栄養学実験						◎										
	応用栄養学 I		◎														
	応用栄養学 II		◎														
	応用栄養学 III			○	◎												
	応用栄養学実習		◎						○								
	栄養教育論 I		◎														
	栄養教育論 II		◎														
	栄養教育論演習												◎				
	栄養教育論実習 I			○			◎										
	栄養教育論実習 II							◎			○						
	臨床栄養学 I		○			◎											
	臨床栄養学 II		◎			○											
	臨床栄養学 III										◎						
	臨床栄養学実習							○	◎								
	臨床栄養学演習									○				◎			
	公衆栄養学 I					◎											
	公衆栄養学 II		◎														
	公衆栄養学実習									○				◎			
	給食経営管理論															◎	
給食管理実習 I		◎															
給食管理実習 II									○	○	◎						
フードサービスマネジメント演習							◎	○									
総合演習 I					○						◎						
総合演習 II						○						◎					
総合演習 III							○						◎				
総合演習 IV								○						◎			
給食管理臨地実習										◎				○			
臨床栄養臨地実習												◎	○				
公衆栄養臨地実習														◎			
卒 業 研 究	卒業研究 I					◎											
	卒業研究 II													◎			

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ(平成26年度入学者)

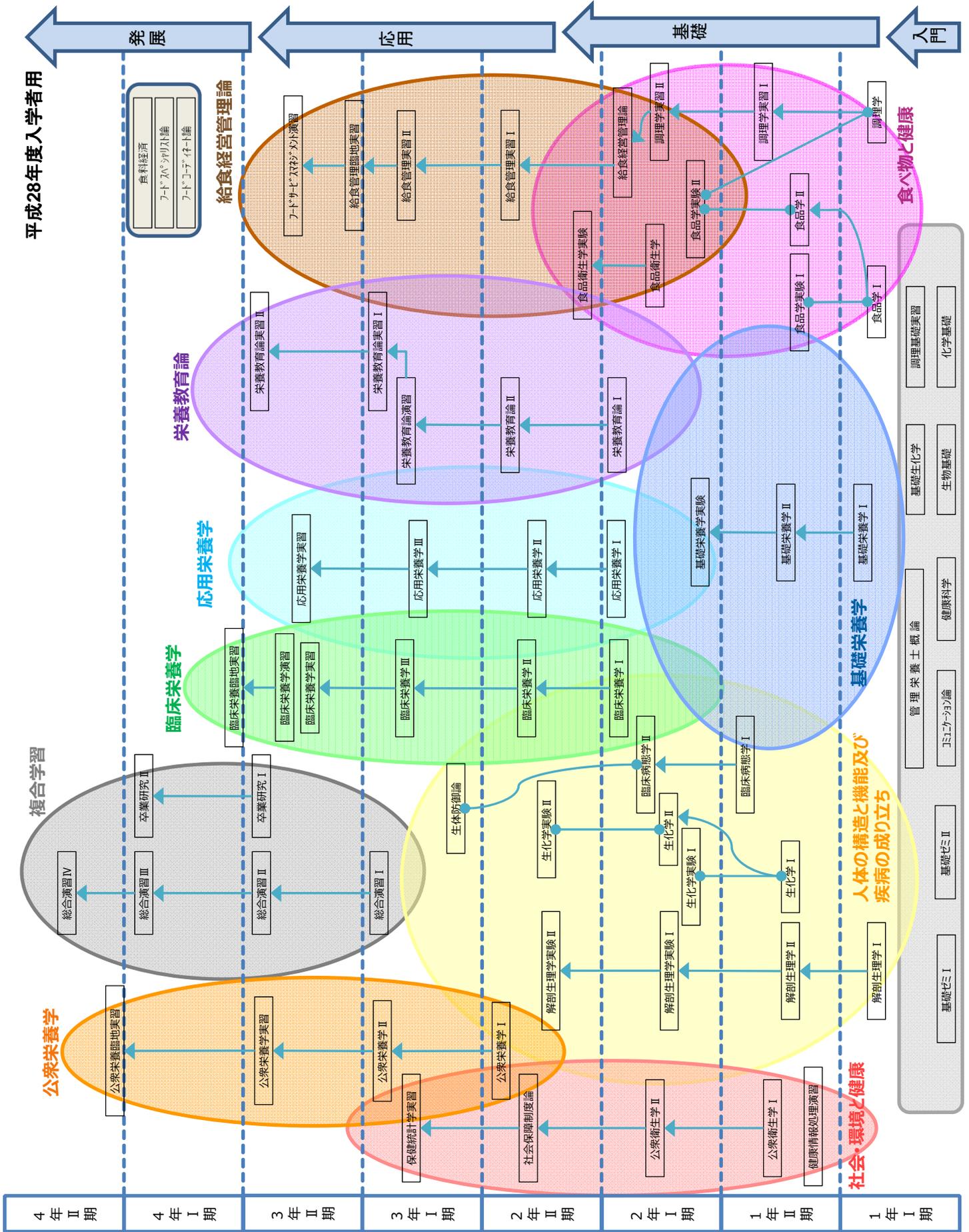
【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活力に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

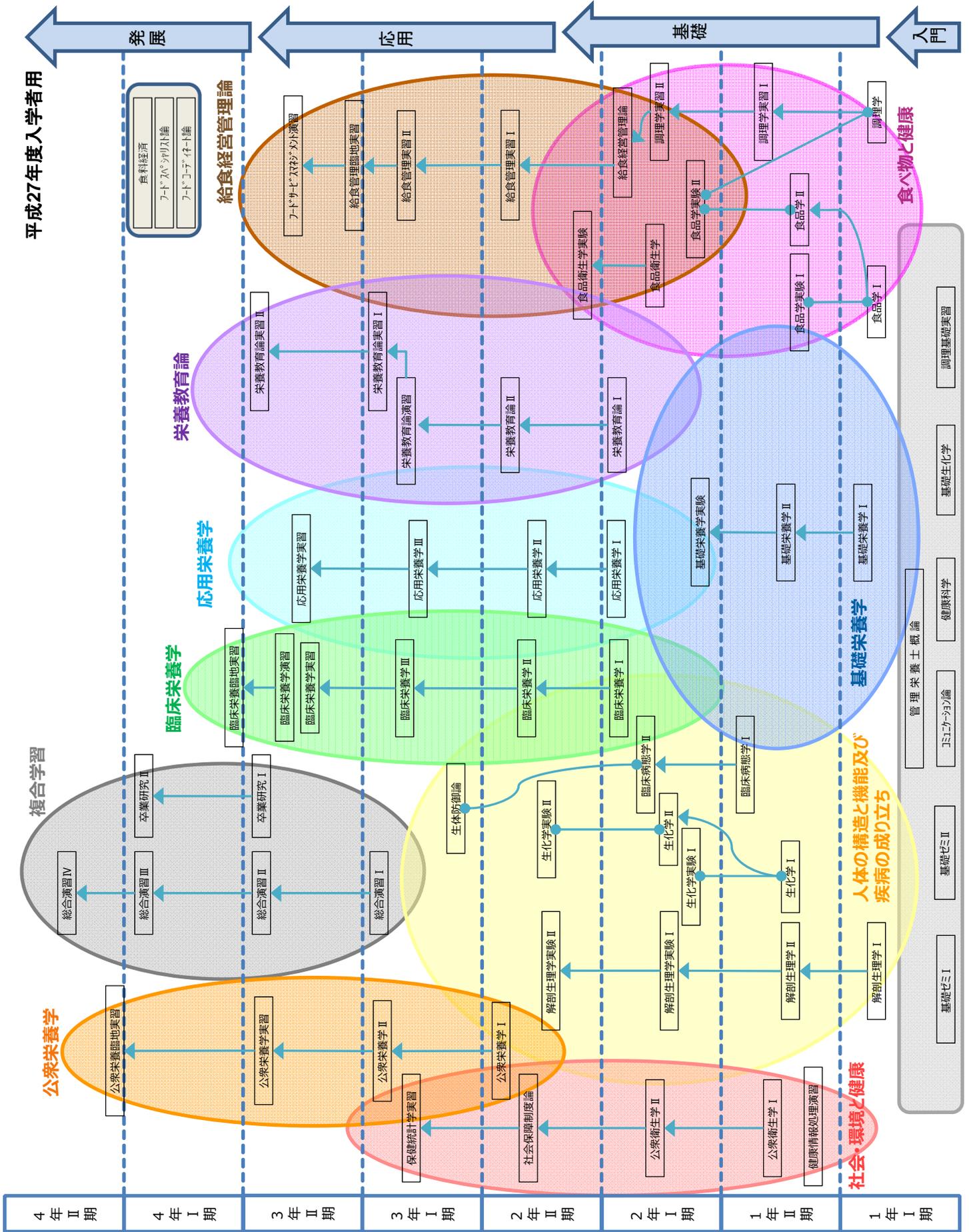
授業科目		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○															
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー															
		1					2					3					
授業科目名		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起草・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力					
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	
I 群	基礎ゼミ	◎															
	基礎生化学	◎															
II 群	基礎演習			◎													
	調理基礎実習	◎															
	コミュニケーション論									◎							
	食料経済		◎														
	健康科学	○	◎														
	健康情報処理演習					○						◎					
	フードスペシャリスト論											○				◎	
	フードローディネット論											○				◎	
	管理栄養士概論	○			◎												
	公衆衛生学 I	○							◎								
III 群	公衆衛生学 II		○						◎								
	社会保障制度論	◎															
	保健統計学実習							○				◎					
	生化学 I	◎	○	○													
	生化学 II	○	◎														
	生化学実験 I			◎													
	生化学実験 II				○	◎											
	解剖生理学 I	◎															
	解剖生理学 II		◎														
	解剖生理学実験 I				◎												
IV 群	解剖生理学実験 II			◎													
	臨床病態学 I	◎															
	臨床病態学 II		◎														
	生体防御論		◎														
	食品学 I	◎															
	食品学 II		◎														
	食品学実験 I			○		◎											
	食品学実験 II					◎											
	食品衛生学		◎						○								
	食品衛生学実験			○		◎											
V 群	調理学		◎			○											
	調理学実習 I					○			◎								
	調理学実習 II								◎	○							
	基礎栄養学 I	○	◎														
	基礎栄養学 II	○	◎														
	基礎栄養学実験						◎										
	応用栄養学 I		◎														
	応用栄養学 II		◎														
	応用栄養学 III			○	◎												
	応用栄養学実習		◎														
VI 群	栄養教育論 I		◎														
	栄養教育論 II		◎														
	栄養教育論演習												◎				
	栄養教育論実習 I			○			◎										
	栄養教育論実習 II							◎			○						
	臨床栄養学 I		○			◎											
	臨床栄養学 II		◎			○											
	臨床栄養学 III												◎				
	臨床栄養学実習							○	◎								
	臨床栄養学演習									○				◎			
VII 群	公衆栄養学 I					◎											
	公衆栄養学 II		◎														
	公衆栄養学実習										○			◎			
	給食経営管理論															◎	
	給食管理実習 I		◎														
	給食管理実習 II								○	○	◎						
	フードサービスマネジメント演習								◎	○							
	総合演習 I					○						◎					
	総合演習 II						○						◎				
	総合演習 III							○						◎			
総合演習 IV								○						◎			
VIII 群	給食管理臨床実習										◎				○		
	臨床栄養臨床実習												◎		○		
	公衆栄養臨床実習											◎			○		
	卒業研究 I					◎									◎		
IX 群	卒業研究 II													◎			

栄養マネジメント学科カリキュラムマップ(平成25年度入学者)

【健康科学部ディプロマポリシー】 生涯を通じて健康の維持と増進に関わる高い専門性を備え、健康で活気に満ちた地域社会の実現に貢献しようとする志をもつ人に、学士の学位を授与します。

授業科目区分		ディプロマポリシー達成のため:特に重要=◎ 重要=○														
		栄養マネジメント学科ディプロマポリシー														
		1					2					3				
授業科目名		食と健康の専門家としての社会的役割を自覚し、課題発見・分析、解決策を起案・実践できる力					食と健康に関する社会的な課題について、周囲の人達と協調し、時にはリーダーとして率先して解決に取り組める力					自らが身につけた食と健康に関する知識や技術を常に研鑽し、持続的に社会に還元できる力				
		1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
		食と健康の専門家としての基礎知識と技術力(自己学習力・知識)	食と健康に関心をもち、問題点を探索しようとする態度(知的好奇心・探究心)	学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力(自己管理能力)	洞察力を持ち、課題を発見する力(課題発見力)	方法、結果、分析を関連づけて考察できる力(論理思考力)	主体性を持ち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力(フォロワーシップ力・共感力を含む)	現象を幅広く深く視野から分析できる力(観察力と分析力)	与えられた課題において、作業効率を考へながら行動する力(計画・実行力)	他者への理解力と適切な自己表現力(コミュニケーション力)	他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる力(リーダーシップ力)	新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力(情報リテラシー)	科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力(情報発信力)	データや情報に基づいて論理的に評価できる力(客観的評価力)	常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度(自己啓発力)	食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信する力(社会的責任の自覚)
I群 (領域に関する科目)	基礎ゼミ I	◎														
	基礎ゼミ II	◎														
	栄養のための基礎生化学	◎														
	実験基礎演習			◎												
	調理基礎演習 I	◎														
	調理基礎演習 II						○		◎							
	医学概論		◎													
	コミュニケーション論									◎						
	バイオテクノロジー		◎													
	食料経済		◎													
健康科学	○	◎														
II群 (専門基礎に関する科目)	健康情報処理演習					○						◎				
	情報処理と栄養統計 I											○	◎			
	情報処理と栄養統計 II												○	◎		
	公衆衛生学 I(公衆衛生)	○							◎							
	公衆衛生学 II(健康増進)		○						◎							
	社会福祉概論	◎														
	生化学 I	◎	○	○												
	生化学 II	○	◎													
	生化学実験 I			◎												
	生化学実験 II					○	◎									
III群 (専門に関する科目)	栄養解剖学・人体生理学 I	◎														
	栄養解剖学・人体生理学 II		◎													
	栄養解剖学実験			◎												
	人体生理学実験				◎											
	臨床病態学 I	◎														
	臨床病態学 II		◎													
	生体防衛論		◎													
	食品学 I	◎	○													
	食品学 II		○													
	食品学実験 I			○		◎										
食品学実験 II					◎											
食品衛生学		◎						○								
食品衛生学実験			○		◎											
食品機能論		◎														
調理学		◎			○											
調理学実験			◎													
調理学実習 I						○		◎								
調理学実習 II								◎	○							
基礎栄養学 I(健康栄養)	○	◎														
基礎栄養学 II(基礎栄養)	○	◎														
栄養学実習						◎										
応用栄養学 I(メタボリック症候群)		◎														
応用栄養学 II(メタボリック症候群)		◎														
栄養管理学			○	◎												
栄養管理学実習		◎						○								
基礎栄養教育論		◎														
健康栄養教育論		◎														
基礎栄養教育実習			○				◎									
健康栄養教育実習							◎			○						
実践栄養教育演習													◎			
臨床栄養学 I		○														
臨床栄養学 II		◎														
臨床栄養学実習								○	◎							
臨床栄養管理学										◎						
臨床栄養管理演習													◎			
公衆栄養学 I						◎										
公衆栄養学 II		◎														
公衆栄養活動実習													◎			
給食経営管理論										○					◎	
メニュー管理実習		◎														
給食管理実習									○	○	◎					
フードサービスビジネスの発展							◎	○								
総合演習																◎
卒業演習 I											◎					
卒業演習 II												◎				◎
給食管理臨床実習(校外実習)											◎			○		
臨床栄養臨床実習													◎	○		
公衆栄養臨床実習														◎		
学校栄養教育論 I	◎	○														
学校栄養教育論 II		◎														
卒業研究 I						◎										
卒業研究 II														◎		





複合学習

公衆栄養学

臨床栄養学

応用栄養学

栄養教育論

給食経営管理論

社会・環境と健康

人体の構造と機能及び
疾病の成り立ち

食への物と健康

4年II期 4年I期 3年II期 3年I期 2年II期 2年I期 1年II期 1年I期

食料経済
フード・ビジネス論
フード・デザイン論

フードサービス実習
給食管理臨地実習
給食管理実習II
給食管理実習I

給食経営管理論
調理学実習II
調理学実習I
調理学
食品衛生学実験
食品衛生学
食品学実験II
食品学II
食品学実験I
食品学I

栄養教育論実習II
栄養教育論実習I
栄養教育論演習
栄養教育論II
栄養教育論I

応用栄養学実習
応用栄養学III
応用栄養学II
応用栄養学I

臨床栄養学臨地実習
臨床栄養学実習
臨床栄養学演習
臨床栄養学III
臨床栄養学II
臨床栄養学I

総合演習IV
卒業研究II
卒業研究I
総合演習III
総合演習II
総合演習I

公衆栄養学臨地実習
公衆栄養学実習
公衆栄養学II
公衆栄養学I
保健統計学実習
社会保障制度論
解剖生理学実験II
解剖生理学実験I
生化学実験II
生化学II
生化学実験I
生化学I
臨床病態学II
臨床病態学I
公衆衛生学II
公衆衛生学I

基礎栄養学実験
基礎栄養学II
基礎栄養学I

管理栄養士概論
基礎ゼミ
基礎演習
健康情報処理演習
基礎生化学
健康科学
調理基礎実習

シラバスの見方

「ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力」について

「重点的に身につける能力」は、学部学科のディプロマポリシーに基づいて、さらに細かく設定された「能力」（下表 1-1…、2-2…など）の中から、授業を通して特に身につけてほしいものを選び出したものです。

なお、シラバスには5つまで記載されていますが、カリキュラムマップでは5つ以上記載されている科目もあります。

経済情報学科ディプロマポリシー														
1				2				3						
自己を認識し、他者を理解し思いやる心と志をもって社会で生きていく力				経済と情報の諸問題について関心をもち、まわりに働きかけ、ともに行動する力				学んだ知識や習得した技術を生涯にわたって活用し、社会に貢献できる力						
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5

科目名、担当者名、授業方法、単位・必選、開講年次・開講期：履修する科目が「必修」なのか「選択」についてチェックしましょう。

《シラバス例》

授業の概要：科目の全体的な内容とともに、その科目を学ぶ意義や必要性について解説されています。

授業の到達目標：科目の目的にそって、学習者が身につけることをめざす能力・知識・態度などについて、具体的な目標が示されています。

成績評価の方法：学習の目標がどの程度達成できたかについて、評価方法や評価の基準、評価方法ごとの配点などが示されています。

授業計画：授業で学習するテーマと学習内容・学習目標などが示されています。15回の授業の流れやキーワードにも目を通しましょう。

テキスト：授業で使用する図書が示されています。図書の他に、プリント教材や視聴覚教材などが示される場合があります。
参考図書：テキスト以外に授業や授業時間外学習の参考となる図書や教材等が示されています。

授業時間外学習：履修している科目の単位は、授業時間以外の学習時間も合わせて認定します。予習復習について、担当教員の指示や考え方をよく読んでおきましょう。

備考：担当教員の授業運営の方針や授業参加に関する考え方、指示・要望等が示されています。必ず目を通しましょう。

「カリキュラムマップ」とは、ディプロマポリシーに基づいて細かく設定された「能力」（マップ上部 1-1…、2-1…など）をどの授業によって身につけるのかについて一覧にしたものです。

単位を積み上げるだけでなく、入学から卒業までにどんな能力を身につける必要があるのかを意識しながら履修していきましょう。

授業科目のナンバリングについて

<ナンバリングとは？>

科目ごとに数字とアルファベットを用いて「ナンバー」を割り振ることを指します。これにより、科目の学修内容の順番や科目間のつながりなどがわかりやすくなります。また、学生が自分に合った科目のレベル（難易度）や専門内容を考えて履修計画を立てることができます。

<ナンバリングの見方>

各授業科目には、9桁のナンバーが付与されています。

そのナンバーは次の基準等により設定しています。

詳細	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
ナンバー	学科	科目の位置づけ			履修区分	学年 (レベル)	通し番号 (001～)

詳細①：学科

N	栄養マネジメント学科
---	------------

詳細②③④：科目の位置づけ（専門科目）

②	
I	I 群（入門科目）
B	II 群（基礎科目）
A	III 群（応用科目）
D	発展科目

③	
a	導入
b	入門
c	社会環境と健康
d	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち
e	食べ物と健康
f	基礎栄養学
g	応用栄養学
h	栄養教育論
i	臨床栄養学
j	公衆栄養学
k	給食管理
m	総合科目
n	臨地実習
p	卒業研究

④	
X	該当なし
D	管理栄養士

詳細②③④：科目の位置づけ（共通教育科目）

② ③		
F	O	建学の精神
C	O	コミュニケーション
I	N	国際理解
H	I	歴史と文化
L	O	地域に学ぶ
S	O	現代社会を読み解く
N	A	自然と科学
L	I	くらしと健康
C	A	キャリアデザイン

④	
L	講義
S	演習
P	実技

詳細②③④：科目の位置づけ（基礎・教養科目）

② ③		
B	A	基礎科目
H	U	教養科目（人文）
S	O	教養科目（社会）
N	A	教養科目（自然）
L	A	教養科目（語学）
P	H	教養科目（体育）
C	A	教養科目（キャリア）

④	
L	講義
S	演習
P	実技

詳細⑤：履修区分

1	必修
2	選択
3	選択必修

詳細⑥：学年（レベル）

1	1年
2	2年
3	3年
4	4年

詳細⑦：通し番号

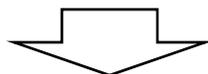
001～

（教職に関する科目）

詳細	学科	科目の位置づけ				免許必選の別	学年レベル		通し番号		
	①	②	③		④	⑤	⑥		⑦		
ナンバー	B E N H K S	T	教職科目	A	L	全学科共通	4	必修	1	1年相当	001～
				I	N	情報			2	2年相当	
				P	U	公民			3	3年相当	
				A	C	商業			4	4年相当	
				E	I	栄養	5	選択	3	3年相当	
				H	H	保健			4	4年相当	
				Y	O	養護					
				S	W	福祉					

例えば、「管理栄養士概論」という科目には、<NBcD11011>というナンバーが付与されています。このナンバーは、次の組み合わせにより付与されたものです。

詳細①：学科	→	栄養マネジメント学科「N」
詳細②：科目の位置づけ	→	Ⅱ群（基礎科目）「B」
詳細③：科目の位置づけ	→	社会環境と健康「c」
詳細④：科目の位置づけ	→	管理栄養士「D」
詳細⑤：履修区分	→	必修科目「1」
詳細⑥：学年レベル	→	1年生相当「1」
詳細⑦：通し番号	→	通し番号「011」



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
詳細	栄養マネジメント学科	Ⅱ群（基礎科目）	社会環境と健康	管理栄養士	必修科目	1年生相当	通し番号
ナンバー	N	B	c	D	1	1	011

健康科学部栄養マネジメント学科

【卒業要件単位数】

■平成 28 (2016) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
共通教育科目		26 単位	8 単位	4 科目
専門教育科目	I 群 (領域に関する科目)	13 単位	13 単位	7 科目
	II 群 (専門基礎に関する科目)	28 単位	28 単位	17 科目
	III 群 (専門に関する科目)	24 単位	24 単位	16 科目
	卒業研究	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		33 単位	—	—
合 計		124 単位	73 単位	44 科目

■平成 27～26 (2015～2014) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	I 群 (領域に関する科目)	9 単位	9 単位	5 科目
	II 群 (専門基礎に関する科目)	28 単位	28 単位	17 科目
	III 群 (専門に関する科目)	24 単位	24 単位	16 科目
	卒業研究	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		37 単位	—	—
合 計		124 単位	73 単位	44 科目

■平成 25 (2013) 年度入学生

科目区分		卒業必要単位	内必修単位と科目数	
基礎・教養科目		26 単位	12 単位	6 科目
専門教育科目	I 群 (領域に関する科目)	14 単位	14 単位	7 科目
	II 群 (専門基礎に関する科目)	16 単位	16 単位	9 科目
	III 群 (専門に関する科目)	15 単位	15 単位	8 科目
	卒業研究	—	—	—
その他上記の科目区分のいずれかから		53 単位	—	—
合 計		124 単位	57 単位	30 科目

平成 28（2016）年度入学者

共通教育科目

平成 27～25（2015～2013）年度入学者

基礎科目・教養科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成28年度（2016年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数	栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
									1年		2年		3年		4年				
									I	II	I	II	I	II	I	II			
建学の精神	宗教と人生	NFOL11001	講義	2					2								(本多 彩)	26	
	仏教と現代社会	NFOL21002	講義	2					②	②	②	②					(本多 彩)	27	
コミュニケーション	日本語(読解と表現)	NCOS11001	演習	2					2								[野田 直恵]・[辻本 恭子]	28	
	英語	NCOS11002	演習	2			△		2								(未定)	29	
	英語	NCOS11002	演習	2					2								[Michael H. Fox]	30	
	英語	NCOS11002	演習	2					2								[笹平 康弘]	31	
	実用英語Ⅰ	NCOS21003	演習	2					②	②	②	②					[松盛 美紀子]	32	
	実用英語Ⅰ	NCOS21003	演習	2					②	②	②	②					[Michael H. Fox]	33	
	実用英語Ⅰ	NCOS21003	演習	2					②	②	②	②					(笹平 康弘)	34	
	実用英語Ⅱ	NCOS22004	演習	2						②	②	②	②						
	実用英語Ⅲ	NCOS22005	演習	2							②	②	②	②					
	中国語(初級)	NCOS21006	演習	2					②	②	②	②					[佟 曉寧]	35	
	中国語(中級)	NCOS21007	演習	2					②	②	②	②					[佟 曉寧]	36	
	韓国語(初級)	NCOS21008	演習	2					②	②	②	②					[高 秀美]	37	
	韓国語(初級)	NCOS21008	演習	2					②	②	②	②					(李 良姫)	38	
	韓国語(中級)	NCOS21009	演習	2						②	②	②	②				[高 秀美]	39	
	韓国語(中級)	NCOS21009	演習	2						②	②	②	②				(李 良姫)	40	
コンピュータ演習	NCOS11010	演習	2				△	2								(湯瀬 晶文)	41		
コンピュータ演習	NCOS11010	演習	2				△	2								(河野 稔)	42		
国際理解	国際理解と宗教Ⅰ(キリスト教)	NINL21001	講義	2					②	②	②	②					[根川 幸男]	43	
	国際理解と宗教Ⅱ(イスラム教)	NINL21002	講義	2					②	②	②	②					[重親 知左子]	44	
	国際関係論	NINL21003	講義	2					②	②	②	②					(斎藤 正寿)	45	
	比較文化論	NINL21004	講義	2					②	②	②	②					(本多 彩)	46	
歴史と文化	歴史学	NHIL21001	講義	2					②	②	②	②					(金子 哲)	47	
	文学	NHIL21002	講義	2					②	②	②	②					(未定)	48	
	芸術	NHIL21003	講義	2					②	②	②	②					[岩見 健二]	49	
	色彩とデザイン	NHIL21004	講義	2					②	②	②	②					(稲富 恭)	50	
地域文化論	地域文化論	NL0L21001	講義	2					②	②	②	②					(金子 哲)	51	
	現代社会を読み解く	哲学	NSOL21001	講義	2					②	②	②	②					[三浦 摩美]	52
		法と社会	NSOL21002	講義	2					②	②	②	②					[豊福 一]	53
		日本国憲法	NSOL21003	講義	2			△		②	②	②	②					[笹田 哲男]	54
		人権の歴史	NSOL21004	講義	2					②	②	②	②					[岩本 智依]	55
		政治学	NSOL21005	講義	2					②	②	②	②					(斎藤 正寿)	56
		社会学	NSOL21006	講義	2					②	②	②	②					(吉原 恵子)	57
		経済学	NSOL21007	講義	2					②	②	②	②					(石原 敬子)	58
自然と科学	生命倫理学	NNAL21001	講義	2					②	②	②	②					[本多 真]	59	
	心理学	NNAL21002	講義	2					②	②	②	②					(北島 律之)	60	
	化学	NNAL21003	講義	2				A	②	②	②	②					[阿部 真幸]	61	
	生物学	NNAL21004	講義	2					②	②	②	②					佐藤 隆	62	
くらしと健康	食と健康	NLIL21001	講義	2					②	②	②	②					嶋津 裕子	63	
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	NLIL21002	講義	2					②	②	②	②					(三宅 一郎)	64	
	健康・スポーツ科学Ⅰ(講義)	NLIL21003	講義	2					②	②	②	②					(矢野 琢也)	65	
	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)	NLIS21004	演習	2					②	②	②	②					(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	66	
	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)	NLIS21005	演習	2					②	②	②	②					(三宅一)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	67	
イデリキ ンガア	私のためのキャリア設計	NCAL21001	講義	2					②	②	②	②					[三上 嘉代子]	68	

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目 ▲は栄養教諭選択科目(いずれか1科目選択必修)

※食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授 業 区 分	授 業 科 目 の 名 称	ナ ン バ ー リ ン グ	授 業 方 法	単 位 数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学 年 配 当 (数 字 は 週 当 り 授 業 時 間)								平 成 28 年 度 の 担 当 者	ペ ー ジ
				必 修	選 択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	NBAS11001	演習	2						2									
	英語	NBAS11002	演習	2						2									
	英語	NBAS11002	演習	2						2									
	英語	NBAS11002	演習	2						2									
	コンピュータ演習	NBAS11003	演習	2						2									
	コンピュータ演習	NBAS11003	演習	2						2									
教 育	化学基礎	NBAL11004	講義	2						2									
	生物基礎	NBAL11005	講義	2						2									
	宗教と人生	NHUL11001	講義	2							2								
	生命倫理学	NHUL11002	講義	2							②		②		②		②	[本多 真]	69
	哲学	NHUL11003	講義	2							②		②		②		②	[三浦 摩美]	70
	文学	NHUL11004	講義	2							②		②		②		②	(未定)	71
	芸術	NHUL11005	講義	2							②		②		②		②	[岩見 健二]	72
	心理学	NHUL11006	講義	2							②		②		②		②	(北島 律之)	73
	仏教と現代社会	NHUL11007	講義	2							②		②		②		②	(本多 彩)	74
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	NHUL11008	講義	2							②		②		②		②	[根川 幸男]	75
国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	NHUL11009	講義	2							②		②		②		②	[重親 知左子]	76	
色彩とデザイン	NHUL11010	講義	2							②		②		②		②	(稲富 恭)	77	
法と社会	NSOL21011	講義	2							②		②		②		②	[豊福 一]	78	
養 育 科 目	日本国憲法	NSOL21012	講義	2						②		②		②		②		[笹田 哲男]	79
	人権の歴史	NSOL21013	講義	2						②		②		②		②		[岩本 智依]	80
	政治学	NSOL21014	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	81
	社会学	NSOL21015	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	82
	経済学	NSOL21016	講義	2						②		②		②		②		(石原 敬子)	83
	化学	NNAL21017	講義	2					A	②		②		②		②		[阿部 真幸]	84
	生物学	NNAL21018	講義	2						②		②		②		②		佐藤 隆	85
	食と健康	NNAL21019	講義	2						②		②		②		②		嶋津 裕子	86
	実用英語（初級）	NLAS21020	演習	2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]	87
	実用英語（中級）	NLAS22021	演習	2						②		②		②		②		[松盛 美紀子]	88
目	中国語（初級）	NLAS21022	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	89
	中国語（中級）	NLAS21023	演習	2						②		②		②		②		[佟 曉寧]	90
	韓国語（初級）	NLAS21024	演習	2						②		②		②		②		[高 秀美]	91
	韓国語（初級）	NLAS21024	演習	2						②		②		②		②		(李 良姬)	92
	韓国語（中級）	NLAS21025	演習	2						②		②		②		②		[高 秀美]	93
	韓国語（中級）	NLAS21025	演習	2						②		②		②		②		(李 良姬)	94
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	NPHL21026	講義	2						②		②		②		②		(三宅 一郎)	95
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	NPHL21026	講義	2						②		②		②		②		(矢野 琢也)	96
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	NPHS21027	演習	2						②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	97
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	NPHS21028	演習	2						②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)	98
私のためのキャリア設計	NCAL21029	講義	2						②		②		②		②		[三上 嘉代子]	99	

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授 業 区 分	授業科目の名称	ナンバリング	授業 方法	単位数		栄 養 士	管 理 栄 養 士	栄 養 教 諭 一 種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ペー ジ	
				必修	選択					1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
基 礎 科 目	日本語（読解と表現）	NBAS11001	演習	2						2										
	英語	NBAS11002	演習	2						2										
	英語	NBAS11002	演習	2					△	2										
	英語	NBAS11002	演習	2						2										
	コンピュータ演習	NBAS11003	演習	2						2										
	コンピュータ演習	NBAS11003	演習	2					△	2										
教 育 目	化学基礎	NBAL11004	講義	2						2										
	生物基礎	NBAL11005	講義	2						2										
	宗教と人生	NHUL11001	講義	2							2									
	生命倫理学	NHUL11002	講義	2							②		②		②		②		[本多 真]	69
	哲学	NHUL11003	講義	2							②		②		②		②		[三浦 摩美]	70
	文学	NHUL11004	講義	2							②		②		②		②		(未定)	71
	芸術	NHUL11005	講義	2							②		②		②		②		[岩見 健二]	72
	心理学	NHUL11006	講義	2							②		②		②		②		(北島 律之)	73
	仏教と現代社会	NHUL11007	講義	2							②		②		②		②		(本多 彩)	74
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	NHUL11008	講義	2							②		②		②		②		[根川 幸男]	75
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	NHUL11009	講義	2							②		②		②		②		[重親 知左子]	76
	色彩とデザイン	NHUL11010	講義	2							②		②		②		②		(稲富 恭)	77
	法と社会	NSOL21011	講義	2							②		②		②		②		[豊福 一]	78
	養 育 目	日本国憲法	NSOL21012	講義	2						②		②		②		②		[笹田 哲男]	79
		人権の歴史	NSOL21013	講義	2					△	②		②		②		②		[岩本 智依]	80
政治学		NSOL21014	講義	2						②		②		②		②		(斎藤 正寿)	81	
社会学		NSOL21015	講義	2						②		②		②		②		(吉原 恵子)	82	
経済学		NSOL21016	講義	2						②		②		②		②		(石原 敬子)	83	
化学		NNAL21017	講義	2						A	②		②		②		②		[阿部 真幸]	84
科 目	生物学	NNAL21018	講義	2							②		②		②		②		佐藤 隆	85
	食と健康	NNAL21019	講義	2							②		②		②		②		嶋津 裕子	86
	実用英語（初級）	NLAS21020	演習	2							②		②		②		②		[松盛 美紀子]	87
	実用英語（中級）	NLAS22021	演習	2								②		②		②		②	[松盛 美紀子]	88
	中国語（初級）	NLAS21022	演習	2							②		②		②		②		[佟 曉寧]	89
	中国語（中級）	NLAS21023	演習	2							②		②		②		②		[佟 曉寧]	90
	韓国語（初級）	NLAS21024	演習	2							②		②		②		②		[高 秀美]	91
	韓国語（初級）	NLAS21024	演習	2							②		②		②		②		(李 良姬)	92
	韓国語（中級）	NLAS21025	演習	2								②		②		②		②	[高 秀美]	93
	韓国語（中級）	NLAS21025	演習	2								②		②		②		②	(李 良姬)	94
目	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	NPHL21026	講義	2							②		②		②		②		(三宅 一郎)	95
	健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	NPHL21026	講義	2							②		②		②		②		(矢野 琢也)	96
	健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	NPHS21027	演習	2					△	②		②		②		②		②	(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	97
	健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	NPHS21028	演習	2							②		②		②		②		(三宅-)・(徳田)・(橋本)	98
	私のためのキャリア設計	NCAL21029	講義	2							②		②		②		②		[三上 嘉代子]	99

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
（ ）は兼任、[]は兼任講師

授業 科目 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士 管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食品 衛生 管理者 等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の 担当者	ページ
			必修	選択				1年		2年		3年		4年			
								I	II	I	II	I	II	I	II		
基礎 科目	日本語（読解と表現）	演習	2					2									
	英語	演習	2			△		2									
	コンピュータ演習	演習	2			△		2									
	化学基礎	講義	2					2									
	生物基礎	講義	2					2									
教 養 科 目	宗教と人生	講義	2						2								
	生命倫理学	講義	2						②		②		②		②	[本多 真]	69
	哲学	講義	2						②		②		②		②	[三浦 摩美]	70
	文学	講義	2						②		②		②		②	(未定)	71
	芸術	講義	2						②		②		②		②	[若見 健二]	72
	心理学	講義	2						②		②		②		②	(北島 律之)	73
	仏教と現代社会	講義	2						②		②		②		②	(本多 彩)	74
	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）	講義	2						②		②		②		②	[根川 幸男]	75
	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）	講義	2						②		②		②		②	[重親 知左子]	76
	色彩とデザイン	講義	2						②		②		②		②	(稲富 恭)	77
	法と社会	講義	2						②		②		②		②	[豊福 一]	78
	日本国憲法	講義	2				△		②		②		②		②	[笹田 哲男]	79
	人権の歴史	講義	2						②		②		②		②	[岩本 智依]	80
	政治学	講義	2						②		②		②		②	(斎藤 正寿)	81
	社会学	講義	2						②		②		②		②	(吉原 恵子)	82
	経済学	講義	2						②		②		②		②	(石原 敬子)	83
	化学	講義	2					A	②		②		②		②	[阿部 真幸]	84
	生物学	講義	2						②		②		②		②	佐藤 隆	85
	食と健康	講義	2						②		②		②		②	嶋津 裕子	86
	実用英語（初級）	演習	2						②		②		②		②	[松盛 美紀子]	87
	実用英語（中級）	演習	2								②		②		②	[松盛 美紀子]	88
	中国語（初級）	演習	2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	89
	中国語（中級）	演習	2						②		②		②		②	[佟 曉寧]	90
	韓国語（初級）	演習	2						②		②		②		②	[高 秀美]	91
	韓国語（初級）	演習	2						②		②		②		②	(李 良姫)	92
	韓国語（中級）	演習	2						②		②		②		②	[高 秀美]	93
	韓国語（中級）	演習	2						②		②		②		②	(李 良姫)	94
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2						②		②		②		②	(三宅 一郎)	95	
健康・スポーツ科学Ⅰ（講義）	講義	2				△		②		②		②		②	(矢野 琢也)	96	
健康・スポーツ科学Ⅱ（演習）	演習	2						②		②		②		②	(三宅-)・(徳田)・(橋本)・(矢野)	97	
健康・スポーツ科学Ⅲ（演習）	演習	2						②		②		②		②	(三宅-)・(徳田)・(橋本)	98	
私のためのキャリア設計	講義	2						②		②		②		②	[三上 嘉代子]	99	

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 食品衛生管理者・食品衛生監視員取得には「化学」を修得すること。……A

※ 学年配当欄において○囲みで表示している科目については、○囲みで表示されている学年・学期のいずれかにおいて履修できる科目である。

科目名	宗教と人生	科目ナンバリング	NFOL11001
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

兵庫大学「建学の精神」と仏教についての理解を深める。また、宗教へ多角的にアプローチすることによって、宗教に対する理解を深める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

・兵庫大学の「建学の精神」への理解を深め、兵庫大学の学生としての自覚を涵養する。
 ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教のあり方を通して、人間や世界や生や死を考える。自分自身を見つめなおす手掛かりや、異文化や他者理解へのきっかけとしてほしい。さらに現在、社会で起こっている様々な課題を宗教という視点からとらえなおしていく視点を養う。

《成績評価の方法》

受講態度 約25%
 小テスト・レポート 約25%
 定期テスト 約50%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度予習・復習が必要となるが、それも「受講態度」として評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教とは何か	誤解されがちな宗教について、その機能についての理解を目指す
2	宗教の種類	分布や性格によって分けられる宗教の種類を理解することを目指す
3	世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系	世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性の理解を目指す
4	建学の精神①	建学の精神である「和」や「睦」の精神を理解し、兵庫大学生としての誇りが持てるよう仏教思想の理解を目指す
5	建学の精神②：学内宗教ツアー	学内にある宗教施設をまわり、体験を通して建学の精神についての学びを深めることを目指す
6	キリスト教を知る①	キリスト教の歴史や教えの理解を目指す
7	キリスト教を知る②	キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学ぶ
8	イスラームを知る	イスラームの歴史や教えの理解を目指す
9	仏教を知る①	建学の精神の基盤でもある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解することを目指す
10	仏教を知る②	仏教の伝播と仏教が人間や社会とのかかわりをどのように考えてきたのかを学ぶ
11	仏教を知る③	日本に伝来した仏教とその展開について学ぶ
12	日本の仏教を知る①	身近にある日本仏教の特性を理解することを目指す 建学の精神と関連の深い仏教の教えについて理解を目指す
13	日本の仏教を知る②	仏教を中心に、日本宗教の特性を理解することを目指す
14	建学の精神③	兵庫大学の歴史と建学の精神について学ぶ
15	建学の精神④	建学の精神と仏教について理解を深め自ら考える

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への積極的な参加を推奨する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～ 参加を強く推奨する。
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	NFOL21002
担当者氏名	本多 彩			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約40%
 期末プロジェクト 約30%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	日本語(読解と表現)	科目ナンバリング	NCOS11001
担当者氏名	野田 直恵、辻本 恭子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学での学習、就職活動、および日常生活、社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・主語と述語・助詞・敬語の用法などの日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。毎回、配布プリントの問題を解いていく演習形式で行い、教員の説明のあと、実際に辞書などを引きながら問題を解いていく。

《テキスト》

授業時に、設問形式のプリントを配布する。

《参考図書》

授業時に、指示する。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、主語と述語の呼応、適切な助詞の使い方、敬語を適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって、日本語の教養とコミュニケーション能力を高める。

《授業時間外学習》

当日の授業で不明であった点を辞書で調べ、あるいは先生に質問して不審箇所を明らかにしておく。また、次回の授業のプリントを読み、内容を確認しておく。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と定期試験(50%)によって評価する。

《備考》

毎回、設問を解くなどの課題を行うので、国語辞典(電子辞書も可)を必ず持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の流れの説明・漢字の書き取り	15回の授業の進行と学習する内容の説明をする。
2	漢字の書き取り・四字熟語	漢字の音読み・訓読みを理解し、同音異義語・同訓異義語を書き分ける。
3	漢字の書き取り・四字熟語	四字熟語には日本文化のエッセンスが凝縮されている。多くの四字熟語を知り、それらを理解する。
4	ことわざ・故事成語	ことわざ・故事成語には、古くから伝わる生活の知恵や社会生活を送る上での教訓が詰まっている。現代にも生きているそれらの表現を学ぶ。
5	慣用句	現代でも、「気がおけない」「悪びれないで」など、よく使われるけれども、間違いやすい慣用句がある。それらの意味と使い方を学ぶ。
6	主語と述語	主語と述語を関係づけて文を理解することにより、正確に文章を読解する。
7	主語と述語	述語には、動詞・形容詞・形容動詞・～ある(ない)などの型があることを学ぶ。
8	修飾語と被修飾語、接続詞と副詞の用法	修飾語を被修飾語に近づけてわかりやすく書くことを学ぶ。文と文、語と語との接続や、副詞による用言の修飾について学ぶ。
9	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
10	助詞の用法	「は」と「が」の意味の違い、「に」と「へ」の意味の違いなど、助詞を正しく使い分けることを学ぶ。
11	敬語	尊敬語、謙譲語Ⅰ・Ⅱ、丁寧語、美化語という敬語の5分類について学ぶ。
12	敬語	尊敬語と謙譲語の動詞について学ぶ。
13	敬語	現代では通用しているが、本当は誤った敬語である過剰敬語について学ぶ。
14	敬語	社会的な場における敬語の使い方について学ぶ。
15	授業のまとめ	授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	英語	科目ナンバリング	NCOS11002
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視する。試験なしの評価もあるのでぜひ精一杯に努力すること。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction & Orientation	自己紹介をする
2	Describing People	人を述べる事
3	Everyday Activities	毎日の活動・習慣を喋る
4	Food and Drinks	食べ物と飲み物の話
5	Snacks	スナックの世界
6	Housing	家・住宅をデザインし、話す事
7	Free Time Activities	暇と活動
8	Popular Sports	人気なスポーツは？
9	Life Events	一生の一大事な行事
10	Weekend Plans	週末を過ごす
11	Movies	映画が好きですか？
12	TV Programs	テレビとその番組
13	Health Problems	健康と病気
14	On the telephone	電話の言葉
15	まとめ or 自己評価	まとめ or 自己評価

科目名	英語	科目ナンバリング	NCOS11002
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、「社会、文化、人間関係」をテーマに、英語コミュニケーションの真髄である「できる・できない」に関わらず、英語で発信すること大切さを理解し、その基礎を身につけることを目的とする。そのために、ペア・グループ活動を通して、英語で聞き、話すことに特に重点を置き、「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

英語の4技能である「聴き、話し、読み、書く」について、日常語500語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事（自己紹介、家族、興味・関心事など）について意見交換できる；3) 読む・書く：日常的な話題の英文を読んで理解し、書くことができる

《成績評価の方法》

成績評価は、日頃の学習の積み重ねを重視し、次の項目で評価する：
 1) 授業参加 20%
 2) 課題 30%
 3) 復習テスト 20%
 4) 発表 30%

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro A」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4779-4

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間では会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 1: Introduction	A:自己紹介、クラスメートへのインタビューなどをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
2	Unit 1: Introduction	B:友人関係、興味・関心をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
3	Unit 2: Countries	A:世界の国々。旅などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
4	Unit 2: Countries	B:世界の様々な都市をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に重点を置いて应用する
5	Unit 3: Possessions	A:様々な贈り物の習慣などをテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
6	Unit 3: Possessions	B:自分の持ち物をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に应用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 1からUnit 3までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 1からUnit 3で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 4: Activities	A:大学生活などの日常生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
9	Unit 4: Activities	B:大学での学び(科目、クラスなど)をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に应用する
10	Unit 5: Food	A:食生活をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
11	Unit 5: Food	B:健康と食事をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に应用する
12	Unit 6: Relationships	A:家族の人間関係をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話、読み・書きに应用する
13	Unit 6: Relationships	B:結婚などの人間関係をテーマに、発音、語彙、文法を学びながら、聞き取り、会話に应用する
14	Review Quiz & Presentation	1) Unit 4からUnit 6までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 4からUnit 6で扱ったテーマで2分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation & General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	NCOS21003
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』(桐原書店、2015年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《共通教育科目 コミュニケーション》

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	NCOS21003
担当者氏名	Michael.H.FOX		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

このコースの主な特徴は、日本語を話せる外国人講師の英語の歌など使ったゆっくりとした親切な指導にあり、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《テキスト》

教科書『Four Corners Book 1』と「Topic Talk」を購買部で購入。先輩から古本を受けることが禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する生きている英語を楽しみながら身につける。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

試験をせず、出欠のみで成績を評価。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Introduction	自己紹介をする
2	My Interests	臭味・興味を述べる
3	Geography	地理学を語る
4	Weather	気候や天気を述べる
5	Everyday Activities	日常活動を喋る
6	Life Experiences	人生の主な体験を語る
7	School Subjects	学内の教科・科目について語る
8	At School	大学にて。。話し合い
9	Phone Messages	電話で英語を
10	Favors and Requests	依頼とお願いを述べる
11	Wishes	将来の希望
12	Opinions	意見を述べる事
13	Getting Away	海外へ旅行
14	Talking About Sports	暇とスポーツ活動
15	Review and Self-Evaluation	復習と自己評価

科目名	実用英語 I	科目ナンバリング	NCOS21003
担当者氏名	笹平 康弘		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この授業は、基礎教の「英語」で身につけたリスニング・スピーキングの基礎力をさらにレベルアップすることを目的とする。原則として、英語のみを使用して授業を展開する。ペア・グループ活動においても、すべて英語で実践することによって、英語で聞き、話すことを「日常化」する。そのため、授業は「インタラクティブ」な活動を中心に主体的かつ積極的なコミュニケーション活動を展開する。

《授業の到達目標》

日常語1000語程度を使って次のことができるようになる：
 1) 聴く：日常生活における社会、文化、人間関係をテーマにした英語が理解できる；2) 話す：身の回りの出来事（日課、人間関係、仕事など）について意見交換できる；3) 読む：読んだ内容について話し合える；4) 書く：聞き、話し、読んだ内容を基にまとまった英文が書ける

《成績評価の方法》

日頃の学習の積み重ねを重視し、次の項目で評価する：

- 1) 授業参加 20%
- 2) 課題 30%
- 3) 復習テスト 20%
- 4) 発表表 30%

《テキスト》

Susan Stempleski他著「World Link 3rd Edition: Intro Combp Split B」(センゲージ出版) ISBN:978-1-3056-4780-0

《参考図書》

なし

《授業時間外学習》

仲間でラーニング・コモンズやアクティブ・ラーニング・ゾーンなどを利用して、次のことに留意して予習・復習を行う：
 1) 予習：授業の範囲の英文を音読し、発音、単語の意味など、わからないことを確認し、英文を音読することになれる；
 2) 復習：仲間で会話練習をして、その日の内容をマスターする

《備考》

基礎教「英語」で上記テキストの完全版 (Unit 1-Unit 12) を購入している学生は、新たにテキストを購入する必要はない

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	Unit 7: Time	A: 日課などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み・書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
2	Unit 7: Time	B: 週末・余暇の過ごし方などをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
3	unit 8: Special Occasions	A: 休日、祭りをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
4	unit 8: Special Occasions	B: 祭りについてプレゼンテーションを行う。そのために必要な、語彙、文法を学ぶ
5	Unit 9: Come Together	A: 休日、友達関係をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
6	Unit 9: Come Together	B: デートをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
7	Review Quiz& Presentation	1) Unit 7からUnit 9までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 7からUnit 9で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
8	Unit 10: Home	A: 休日、自分の部屋、アパートなどをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
9	Unit 10: Home	B: ホーム・デザインをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
10	Unit 11: Clothing	A: 衣服、買い物などをテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
11	Unit 11: Clothing	B: ファッションをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
12	Unit 12: Jobs	A: アルバイトなどの仕事をテーマに、必要な発音、語彙、文法を学び、読み書きを通して、リスニング・スピーキングに応用する
13	Unit 12: Jobs	B: 将来のキャリアをテーマに、必要な語彙、文法を学び、リスニング・スピーキングに応用する
14	Review Quiz& Presentation	1) Unit 10からUnit 12までで学習した内容の復習テストを実施する；2) Unit 10からUnit 12で扱ったテーマで5分程度のプレゼンテーションを行う
15	Presentation and General Review	1) 前回ははじめたプレゼンテーションを実施する；2) 全体のまとめ

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	NCOS21006
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	NCOS21007
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	NCOS21008
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語(ハングル)の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム(子音+母音の後に来る子音、支えると意味)について勉強する。
6	文化項目(1)：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか(합니체)、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何ですか。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	NCOS21008
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）		科目ナンバリング	NCOS21009	
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することを願います。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	NCOS21009
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	コンピュータ演習		科目ナンバリング	NCOS11010	
担当者氏名	湯瀬 晶文				
授業方法	演習	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力				

《授業の概要》

コンピューティング環境は私たちの生活に不可欠なものになっており、このことは大学の授業においても同様である。授業では、「コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面でコンピュータが有用であるか」を少しでも身につけることを目指しつつ、コンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーションの基礎を演習する。なお、内容は大学の設備や講義の進捗状況等により、変更することもある。

《授業の到達目標》

この演習では、コンピュータの基礎的な知識や能力（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分、あるいは、今後受講することになる専門科目などで必要となるコンピュータに関する知識や技能の基礎を身につけることを目標とする。とりわけいくつかのソフトウェア環境において、基礎的な作業を自力で行えるようになることを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の授業・課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（100%）。なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	コンピュータ演習の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	環境設定	演習教室の利用環境の設定 コンピュータの利用の準備
3	電子メールの設定とタイピング練習	電子メール環境の設定 電子メールの操作方法を知る
4	操作の基礎	タイピングとその練習 ファイルとテキストファイルについて
5	基礎の確認	基礎的な知識の確認 課題ファイルのやり取りについて知る
6	簡単な情報検索	検索における論理演算について知る 情報検索の基礎を知り、簡単な情報検索を行う
7	ワープロソフト（1）	ワープロソフトと画像ソフトの基本を知る アプリケーションソフトの連携について知る
8	ワープロソフト（2）	ワープロソフトを利用するとともに、プリントアウトについて知る
9	プレゼンテーションソフト（1）	プレゼンテーションソフトの基本を知る ワープロソフトとの違いを知り、書き換えを行う
10	プレゼンテーションソフト（2）	プレゼンテーションソフトを用いて発表用スライドを作成する 他のアプリケーションソフトとの連携について知る
11	表計算ソフト（1）	表計算ソフトの基本操作を知る
12	表計算ソフト（2）	数式や関数についての基本を知る
13	表計算ソフト（3）	表計算ソフトと他のアプリケーションソフトとの連携について知る
14	総合演習（1）	実際のプレゼンテーションとその手順について知る
15	総合演習（2）	コンピュータ演習のまとめ

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。詳細は初回授業時に説明する。

《参考図書》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社
 『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店
 『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社
 『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版
 「コンピュータリテラシ」、「オフィスソフト」についての各種解説書 その他授業中に適宜案内

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。触って、どういう操作をすればどのような反応を示すのかを注意深く観察して下さい。そうすれば上達も早くなることでしょう。

科目名	コンピュータ演習	科目ナンバリング	NCOS11010
担当者氏名	河野 稔		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ◎ 基教-B 情報リテラシー（情報処理能力、情報収集・発信力） ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。

《テキスト》

- 毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- 配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

- 矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『（新課程）インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろからパソコンを利用する機会をつくりましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／コンピュータ実習室の利用
2	学内ネットワークシステムの利用	学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用
3	インターネット(1)	インターネットとコミュニケーション
4	インターネット(2)	インターネットと情報検索
5	インターネット(3)	ウェブの最新トピック、情報倫理
6	プレゼンテーション(1)	文字による基本的なプレゼンテーションの作成
7	プレゼンテーション(2)	図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題
8	文書作成(1)	レポート形式の文書による基礎的な文書の作成
9	文書作成(2)	文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題
10	データ処理(1)	表形式データの簡単な処理とグラフ作成
11	データ処理(2)	関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題
12	総合的な演習(1)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成
13	総合的な演習(2)	情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開
14	総合的な演習(3)	プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成
15	総合的な演習(4)／まとめ	相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）		科目ナンバリング	NINL21001
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- *キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に提出する復習シート（40%）と期末レポート（40%）、平常点（20%＝出席10%＋授業参加態度10%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか？講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19～20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係を読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているのか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、
『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002

《授業時間外学習》

- *その日の復習シートと質問（400字程度）をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- *配布資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

*授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上＝欠席、20分以内の欠席×3回＝欠席とする。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	NINL21002
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジレンマ-秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎ジャリド・アブドゥル・ナシール 襲撃/イスラム国入国事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラールショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

《共通教育科目 国際理解》

科目名	国際関係論	科目ナンバリング	NINL21003
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

この講義では、諸君に「自分なりの20世紀像を作り上げてもらう」ことを目標に、20世紀の歴史を、前史としての19世紀末の帝国主義時代から始めて、第1次世界大戦と戦間期、第2次世界大戦、脱植民地化と第3世界の勃興、米ソ冷戦構造の成立とベトナム戦争、ソ連社会主義の崩壊を経て、ポスト冷戦社会の今日に至るまで、政治史を中心に論じていきたい。

《授業の到達目標》

- 自分なりの20世紀像を構想するために必要な歴史的事象を指摘できる。
- 20世紀の歴史的事象を知り相互連関を考察することで21世紀現代社会の歴史的な条件を把握できる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

教科書は指定しない。講義の際に教科書に代わるプリントを配布する。

《参考図書》

高校世界史の教科書レベルで、かつ安価・ハンディなので、『世界の歴史がわかる本 [帝国主義～現代] 篇』綿引弘著（三笠書房・知的生きかた文庫、2011年）が講義のペースメーカーとして役立つ。ほかには『世界近現代全史Ⅲ－世界戦争の時代』大江一道著（山川出版社）1997あたりが適当であろう。

《授業時間外学習》

講義ごとに必ず、授業内容のスケルトンと、講義内容に関連する資料を集めたものを1枚のプリント（場合によってはそれ以上の量）にして配布するので、それをよく読み理解すること。また講義で掲げる参考文献も積極的に読むこと。

《備考》

・講義では歴史的事実の羅列が続くかも知れませんが、皆さん独自の20世紀像をつくるためには必要な作業ですので頑張ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	講義の進め方、19世紀の概観
2	前史・帝国主義時代（1）	19世紀末の世界状況
3	帝国主義時代（2）	列強による世界分割
4	帝国主義時代（3）	アジアの近代
5	第1次世界大戦（1）	列強の対立・再編
6	第1次世界大戦（2）	開戦・終戦処理
7	戦間期の時代（1）	ヴェルサイユ体制
8	戦間期の時代（2）	ワシントン体制
9	第2次世界大戦（1）	世界恐慌、ファシズムの台頭
10	第2次世界大戦（2）	極東の危機、日中戦争
11	第2次世界大戦（3）	ヨーロッパ戦争、アジア太平洋戦争
12	冷戦構造（1）	戦後処理、米ソ対立
13	冷戦構造（2）	中東戦争、ベトナム戦争
14	第3世界の台頭	脱植民地化、低開発、資源
15	ポスト冷戦の世界	社会主義の崩壊、民族紛争の激化

《共通教育科目 国際理解》

科目名	比較文化論	科目ナンバリング	NINL21004
担当者氏名	本多 彩		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

あなたの生活やあなたが生きている社会は、国内外の複雑で多様な人間や社会と結びついています。この授業は、アジア・ヨーロッパ・南北アメリカの文化・社会について、海外経験の豊富な教員がオムニバスで講義を行います。講義を通して文化の多様性について学び、他者理解を進めます。世界に広がる様々な文化を学び、考えることは、グローバル化する社会であるあなたが生きていくための一助となるでしょう。

《授業の到達目標》

- ・自国の文化を知り、海外の多様な文化や社会について理解を深める。
- ・兵庫大学が行う海外研修や提携大学の学生との交流の際に、相手を理解するための知識を身につける。

《成績評価の方法》

レポート・テスト50%
 受講態度（授業への積極的な参加）50%

《テキスト》

特に指定しません。

《参考図書》

特に指定しません。適宜授業内で紹介します。

《授業時間外学習》

メディア等に登場する国内外の動向に注目しておきましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	比較文化論概説（1）	「文化」とは何かを理解し、身近な文化について考える。
2	比較文化論概説（2）	文化を比較するとはどういうことかを考え、いくつかの理論を学び比較文化について理解を深める。
3	アジアの文化（1）	本学が交流している韓国の文化や社会について学ぶ。
4	アジアの文化（2）	本学が交流しているタイの文化や社会について学ぶ。
5	アジアの文化（3）	アジア各国・地域の文化や社会について理解を深める。
6	ヨーロッパの文化（1）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学ぶ。
7	ヨーロッパの文化（2）	本学が交流しているヨーロッパの国の文化や社会について学びを深める。
8	ヨーロッパの文化（3）	ヨーロッパの文化や社会について理解を深める。
9	北アメリカの文化（1）	本学が交流しているアメリカの文化や社会について学ぶ。
10	北アメリカの文化（2）	アメリカの文化や社会について学びを深める。
11	北アメリカの文化（3）	北アメリカの文化や社会について理解を深める。
12	南アメリカの文化（1）	本学や加古川市が交流している南アメリカの国の文化や社会について学ぶ。
13	南アメリカの文化（2）	南アメリカの国の文化や社会について理解を深める。
14	学習のまとめ（1）	各地域の文化や社会について学んだことをふりかえり、学んだことをまとめる。
15	学習のまとめ（2）	授業全体をふりかえり多様な文化や考え方について学ぶ。

科目名	歴史学	科目ナンバリング	NHIL21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

主として日本の前近代を扱います。歴史事実の学習ではなく、「歴史の見方」「歴史的思考方法」の獲得を目指します。アナール歴史学—社会史、等身大の視点からの歴史学—の方法論を主に用います。前近代の市井の人々の感覚世界を探求します。「前近代の自由」が通底するテーマとなります。時代によって変わることのない普遍的人間の感覚、および、時代・地域により変化する感覚・諸価値を考察します。

《授業の到達目標》

1. 各自の感覚・価値観は「時代」「地域」「社会」に規定されている事に気付く。
2. 既に構築されている各自の感覚・価値観を相対化し、疑問を懐き、クラック（ひび割れ）を入れ、将来に脱皮しうるシード（種子）を獲得する。
3. 他時代・異文化のもつ、異なる感覚・価値観の存在を認め、共存しうる感性・理性を涵養する。

《成績評価の方法》

講義への積極的参加度（リアクションペーパー、ディスカッション、アンケート、等を行います）を40パーセントとします。学期末のペーパーテストを60パーセントとします。

《テキスト》

なし。
随時レジュメを配布します。

《参考図書》

1. 網野善彦『増補 無縁・公界・楽』、平凡社ライブラリー（大学図書館にあり）
2. 『週刊朝日百科日本の歴史』、朝日新聞社（大学図書館にあり）
3. 福岡大学人文学部歴史学科『歴史はおもしろい』、西日本新聞社

《授業時間外学習》

異なる時代、異なる文化が発している情報に敏感になってください。テレビ、新聞、雑誌、映画、DVD、ゲーム、そして、ネットの板情報、などが発信している、「自分とは異なる感覚・論理」を拒絶するのではなく、受け止める気持を持って情報に接してください。

《備考》

オモチャ箱をひっくり返したような講義に出来たらな、と思っています。重い病苦にあえぐ人、不条理な差別を受ける人なども多数扱います。ご理解の上で御受講くださいませ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義全体のガイダンス。全体計画説明。注意事項の説明。
2	創られた伝統1	夫婦同姓問題。三行半って本当？ 近代の常識を疑え！
3	創られた伝統2	「大和撫子」「日本男児」幻想。「盆」と「正月」って何？
4	創られた伝統3	母系社会と父系社会。相続原理と社会倫理規範。
5	自由への賛歌1	近代的「唯一絶対的自我」への疑問。多様な自我。「排他的近代」の限界。
6	自由への賛歌2	市と自由1。環太平洋的「マナ」世界と交換の原理。
7	自由への賛歌3	市と自由2。縁切りと変身の原理。
8	自由への賛歌4	変容と変身の原理。俗世界と聖なる世界。
9	自由への賛歌5	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理1。
10	自由への賛歌6	スキジな世界。逃げろよ逃げろ。一揆と逃散の原理2。
11	小さな神仏の世界1	来世利益と現世利益。本堂・本殿と末社・摂社の世界。
12	小さな神仏の世界2	背面信仰と第三項排除理論（差別問題を含む）。
13	小さな神仏の世界3	暗黒世界の神仏と王権。王権と第三項排除理論（差別問題を含む）。
14	総括1	各項目間の関連の確認。
15	総括2	全体のまとめ。

科目名	文学	科目ナンバリング	NHIL21002
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅の追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

《共通教育科目 歴史と文化》

科目名	芸術	科目ナンバリング	NHIL21003
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を迎える事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	NHIL21004
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス:デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1):色① 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2):色② 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従って解説する。
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する。
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《共通教育科目 地域に学ぶ》

科目名	地域文化論	科目ナンバリング	NL0L21001
担当者氏名	金子 哲		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

播磨地域、特に東播地域の文化特質を考察する。アジア的視座、日本的視座、西国内部の視座、兵庫県内部の視座、からこれを比較検討する。

地理、歴史、文化、民俗、などから問題にアプローチしていきたい。

《授業の到達目標》

自らの属する地域を外部の視点から相対的に考察する能力の第一歩を獲得する事を目標とする。自文化の相対化、とも表現できる。

これは、異文化との共存、多文化共生をなし得る感覚の取得でもある。

《成績評価の方法》

学期末に行う筆記試験を60パーセントとする。毎回の講義への積極的関与度を40パーセントとする。毎回の講義では、様々な質問を提示し、回答してもらい、評価する。

《テキスト》

なし

《参考図書》

網野善彦、『東と西の語る日本の歴史』、講談社学術文庫1343。

原田曜平、『ヤンキー経済』、幻冬舎新書335。

《授業時間外学習》

常に地域の文化、自分の文化に関心を払ってください。日常生活の中で、講義内容を時々思い出し、反芻して、納得してください。他地域の文化、異文化への関心を持つように心がけ、情報に接してください。

できれば、参考文献を御一読ください。

《備考》

楽しい講義にしたい、と考えております。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の全体像の提示。考え方の提示。
2	考現学的アプローチ1	現代日本社会を席卷する「マイルドヤンキー文化」に関する考察。
3	考現学的アプローチ2	「マイルドヤンキー文化」の「聖地」は、何故「東加古川」なのか。
4	アジアの中で日本を考えてみよう	日本は大国か？小国か？日本は「単一民族国家」なのか？日本文化は均質なのか？などなど、社会常識を再検討する。
5	東は東、西は西	日本の東西文化の極めて大きい差異を、様々な事例から考察する。
6	歴史的アプローチ1	日本文化の中に残る、縄文文化と弥生文化の濃淡を考察する。さらに、日本の「周縁地域」の文化的独自性を考察する。
7	歴史的アプローチ2	播磨、特に東播の古代を再考し、その位相を考察する。日本武尊関連の神話分析も行う。
8	歴史的アプローチ3	播磨、特に東播の中世を再考し、東播の全盛期の位相を考察する。
9	歴史的アプローチ4	播磨、特に東播の文化財を考察する。
10	歴史的アプローチ5	播磨、特に東播の近世・近代を、「産業」に重点をおいて考察する。
11	文化論的アプローチ1	播磨、特に東播の「祭り」「祭祀」を考察する。
12	文化論的アプローチ2	播磨、特に東播の「芸能」を考察する。
13	文化論的アプローチ3	播磨、特に東播の「食」を考察する。第一回。
14	文化論的アプローチ4	播磨、特に東播の「食」を考える。第二回。
15	おわりに	全体の総括。

科目名	哲学	科目ナンバリング	NSOL21001
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	ベルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

《共通教育科目 現代社会を読み解く》

科目名	法と社会		科目ナンバリング	NSOL21002
担当者氏名	豊福 一			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	NSOL21003
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	NSOL21004
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
 砂川秀樹・RYOJI 『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
 岩本孝樹 『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	NSOL21005
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にする事ができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすめるながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	NSOL21006
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会学のものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしぐみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会学のものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会学の道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会学のものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレームについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団の平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	NSOL21007
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	NNAL21001
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持て余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《成績評価の方法》

講義の出席 40%
 授業の参加態度 20%
 学期末レポート 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	心理学	科目ナンバリング	NNAL21002
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういふこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人が、きつこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

科目名	化学	科目ナンバリング	NNAL21003
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『あなたと化学』暮らしを支える化学
齋藤勝裕 著（裳華房）

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

《共通教育科目 自然と科学》

科目名	生物学	科目ナンバリング	NNAL21004
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版 (南雲保編、羊土社)

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%) により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性 (ホメオスタシス)、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

《共通教育科目 暮らしと健康》

科目名	食と健康	科目ナンバリング	NLIL21001
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介しますので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎします。

《テキスト》

「暮らしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）

ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	NLIL21002
担当者氏名	三宅 一郎			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
				1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

＜予習方法＞
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)	科目ナンバリング	NLIL21002
担当者氏名	矢野 琢也		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-F 自然・健康について理解する力 <input type="radio"/> 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		科目ナンバリング	NLIS21004
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《共通教育科目 くらしと健康》

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		科目ナンバリング	NLIS21005
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也			
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力			

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《共通教育科目 キャリアデザイン》

科目名	私のためのキャリア設計	科目ナンバリング	NCAL21001
担当者氏名	三上 嘉代子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

科目名	生命倫理学	科目ナンバリング	NHUL11002
担当者氏名	本多 真		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

人間の歴史は、新しい自由を持て余さないために、新しいルール／倫理を生み出すことで、社会に混乱が生み出されないよう絶えず工夫してきた。ところが技術が発達し、個々の自由が保証されてくると、「いのち」をめぐる課題についてのルール設定が難しくなってきた。
この講義では、安楽死、脳死、臓器移植、妊娠中絶、遺伝子操作などのテーマを取り上げ、生命倫理学の入り口へ誘いたい。

《授業の到達目標》

技術とルールをめぐる「いのち」の問題について、自分なりに理解し、問題の複雑さを整理できるようになる。

《成績評価の方法》

講義の出席 40%
 授業の参加態度 20%
 学期末レポート 40%

《テキスト》

講義の時、配布する。

《参考図書》

講義時に指示する。

《授業時間外学習》

講義の時、次の講義内容について紹介するので、そのテーマに沿って関連する書籍や映像資料を閲覧する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	はじめに	講義の概要説明
2	インフォームド・コンセント①	患者の権利／情報を与えられたうえでの合意
3	インフォームド・コンセント②	何をどこまで説明すればよいか／患者と医師の対立
4	安楽死と尊厳死①	安楽死と尊厳死／違いについて
5	安楽死と尊厳死②	誰が死期の決めるのか？
6	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
7	脳死と臓器移植①	脳死と臓器移植
8	脳死と臓器移植②	「死の基準」について
9	脳死と臓器移植③	ドナーカードについて
10	相互インタビュー	これまでの講義のふりかえり
11	遺伝子操作／クローン技術①	遺伝子操作とクローン技術
12	遺伝子操作／クローン技術②	この問題をめぐる事例
13	生命倫理と宗教①	日本の宗教：神道
14	生命倫理と宗教②	日本の宗教：仏教
15	まとめ	講義のまとめ

科目名	哲学	科目ナンバリング	NHUL11003
担当者氏名	三浦 摩美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

原因・根拠・原理の探求として古代ギリシャに開かれた「哲学」が何をどのように問題にしてきたのか、すなわち哲学とは何かについて、いくつかの哲学思想を繙きながら概説する。この作業は哲学史の理解に寄与するが、哲学思想の歴史的な流れに関する学習というよりは、哲学上のいくつかの根本問題への理解につながるような哲学的探求を試みたいと思う。

《テキスト》

岩崎武雄著『西洋哲学史』（再改定版）有斐閣、1996年

《参考図書》

適時紹介する。

《授業の到達目標》

・哲学が扱ってきたいくつかの問題について理解できるようにする。
 ・人間の認識の枠組みについて、哲学的に思考することを学ぶ。
 ・各テーマについて、柔軟に自分なりの考察や感想を持つことができるよう試みる。

《授業時間外学習》

・講義内容に関連するテキストの箇所をよく読むことで、予習や復習を行う。
 ・講義内容に直接関係のないテキストの箇所についても、目を通しておく。
 ・テキストや哲学者の著作、その他の参考文献を読み、レポートにまとめる。

《成績評価の方法》

平常のレポート課題（60%）および学期末に設定するレポート課題（40%）によって評価を行う。

《備考》

・講義中のスマートフォンや携帯電話の使用、私語を厳禁とする。
 ・提出レポートは、必ずホッチキス止めをする。
 ・その他受講上必要な注意事項については、最初の講義内で伝達する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	哲学の創始 ソクラテス以前の哲学1.	哲学とは何かについて ミレトス学派およびエレア学派の哲学思想について
2	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテス以前の哲学2.	ピュタゴラス学派および多元論者の哲学思想について
3	古代ギリシャの哲学思想 ソクラテスとプラトン1.	アテナイ期の哲学思想—ソクラテスとプラトンの哲学について 問答法と真理の探究について
4	古代ギリシャの哲学思想 プラトンの哲学2.	プラトンのイデア説について
5	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学1.	アリストテレスの哲学思想—存在・実体概念、自然・運動の概念について
6	古代ギリシャの哲学思想 アリストテレスの哲学2.	アリストテレスの哲学思想—靈魂論（心理学）・倫理学・論理学に関する学説について
7	中世の哲学思想	アウグスティヌスの教父哲学について
8	中世の哲学思想	トマス・アクィナスのスコラ哲学について
9	近世の哲学思想 デカルトの哲学1.	精神および物体の概念について
10	近世の哲学思想 デカルトの哲学2.	心身二元論について
11	近世の哲学思想 カントの哲学1.	カントの批判哲学—『純粋理性批判』について ア・プリオリな判断およびア・ポステリオリな判断、分析的判断・総合的判断について
12	近世の哲学 カントの哲学2.	カントの批判哲学—『実践理性批判』について（実践理性の根本法則） 『判断力批判』について（自然の合目的性）
13	現代の哲学 生の哲学・実存主義哲学	ベルクソンの哲学思想およびハイデッガーの哲学思想について
14	現代の哲学 プラグマティズムの哲学	ジェームズの哲学思想およびデューイの哲学思想について
15	まとめ	予備およびまとめ

科目名	文学	科目ナンバリング	NHUL11004
担当者氏名	未定		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

古典文学について講義し、「古典」とは何かを考える。日本の古典文学作品は数百年、あるいは千年以上もの間読み継がれてきている。なぜその作品が現代まで残り、「古典」となるのか。「古典」とはただ古い作品ということではない。授業では、いくつかの作品を取り上げて少しずつ読みながら、テーマや構想、文章、また作者と制作された時代について説明し、如上の問題を考える。

《授業の到達目標》

文学作品の言葉を読み解き、作品のテーマについて考え、また作者と時代について考えること。および、そのことによって文学および「古典」について深く理解することを目指す。

《成績評価の方法》

10回以上出席しないと単位を与えない。その上で、授業時に提出する課題やレポートによる平常点（40%）、及び、定期試験（60%）によって評価する。

《テキスト》

毎回、プリントを配布する。

《参考図書》

授業中に指示する。

《授業時間外学習》

配布したプリントを熟読しておくこと。分からない言葉は辞書を引いて確認しておくこと。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	全体の授業の流れの説明	15回の授業でどのような作品を扱うか、どのように授業を進めるかを説明する。
2	『万葉集』を読む	最古の歌集である『万葉集』は8世紀半ばに成立した。内容は、宮廷を中心としたもの、防人や東歌など労働に関するものなどさまざまである。その歌を考える。
3	『古今和歌集』を読む	905年に成立し、和歌を春夏秋冬に分類して日本の四季の認識を確立するなど以降の文学や人間生活に大きな影響を及ぼした作品である。その歌を考える。
4	『伊勢物語』を読む	主人公在原業平が東国に下ったり、高貴な女性を盗んだりなど、当時としては驚かされる行動をとる。すべての章段に和歌がある物語であり、歌をめぐる面白さを読む。
5	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第一部・第二部の、主人公光源氏の女性たちとの恋愛、またさまざまな困難を乗り越えて栄華に至り、さらに死を迎えるまでの物語を読む。
6	『源氏物語』を読む	『源氏物語』第三部の、光源氏死後、その子薫と孫匂宮が宇治を舞台として浮舟など女性たちをめぐる争い、恋のはかなさを認識するに至る物語を読む。
7	『新古今和歌集』を読む	最高権力者後鳥羽院が自ら撰集した勅撰和歌集である。藤原定家らの歌は、古典和歌との関係によって制作され、古典とは何かを考えさせる。
8	『方丈記』を読む	鴨長明作『方丈記』は無常をテーマとして災害の記述で有名である。災害は住居の破壊に繋がる。住居とはどうあるべきかを語る長明の思考について考える。
9	『愚管抄』を読む	著者慈円は撰家出身である。時代は鎌倉幕府を無視できない歴史の転換期にきている。そのとき貴族は歴史をどのように捉えるのか、考える。
10	『宇治拾遺物語』を読む	文学の担い手は貴族層から、武士や庶民に広がっていく。優雅さだけが価値ではなく、時代は俗を取り込み変化する。貴族文学とは異なる美意識や価値観について考える。
11	『奥の細道』を読む	江戸時代に入り、平和が訪れ、安全な旅が可能になる。松尾芭蕉の旅の追いながら、俳諧と紀行について考える。
12	『五輪書』『葉隠』を読む	『五輪書』は宮本武蔵が兵法の極意について語ったもの、『葉隠』は鍋島藩士山本常朝が、理想的武士像について説いたものである。江戸時代の武士について考える。
13	『雨月物語』を読む	江戸時代に書かれた上田秋成作の怪異小説を二回に分けて読む。恐怖の中にも人間を見つめたテーマ設定がなされている。この回は「白峯」「菊花の契り」を読む。
14	『雨月物語』を読む	女性や異類を主人公とした怪異譚である、「吉備津の釜」「蛇性の姪」を読む。
15	授業のまとめ	授業で取り上げた古典文学についてふりかえり、「古典」とは何かについて考える。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	芸術	科目ナンバリング	NHUL11005
担当者氏名	岩見 健二		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人は何故創作活動をするのか[芸術]とは何なのかを、画家一人一人に焦点をあてその創作の過程・時代との係わりなどを探りながら、解き明かしていく

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

授業中に随時紹介

《授業の到達目標》

1. 画家それぞれの内面を探ることにより創造のすばらしさや厳しさを知り、芸術の存在意義を理解する事が出来る。
2. 芸術的感性を養う

《授業時間外学習》

毎回学習した作家について、各自でより深く調べておく事。

《成績評価の方法》

- ・課題レポート (100%)

《備考》

特になし

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習の内容・目的を理解する。
2	佐伯祐三とブラマンク	大正時代末期バリで制作し、死した佐伯祐三の人生を辿る事により、絵を描く意味を理解することができる。
3	古代⇒ルネッサンス	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
4	ルネッサンス⇒印象派	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
5	印象派⇒現代	西洋絵画の大まかな流れを理解することができる。
6	ジョット	中世の象徴主義を打破したジョットの制作意図について理解することができる。
7	ヴェロネーゼ	宗教と画家との関係及び相克について理解することができる。
8	カラヴァッジョ	リアルとは何かを理解することができる。
9	ハルスとレンブラント	市民と画家との関係について理解することができる。
10	ゴヤ	ゴヤの人間洞察の深さについて理解することができる。
11	ダヴィッド・アングル・ドラクロア	政治と画家との関係について理解することができる。
12	クールベとマネ	ロマン主義・写実主義など、印象派以前の画家の絵画的主張について理解することができる
13	モネとセザンヌ	印象派の絵画理論について理解することができる。
14	エゴン・シーレ	人間存在の核心に触れるシーレの絵画を理解することができる。
15	岩見健二	自信と責任を持って表現する事の大切さを理解することができる

科目名	心理学	科目ナンバリング	NHUL11006
担当者氏名	北島 律之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

人間を理解すること、とりわけ「心」について理解することは、社会において適応的な生活を行う上でとても重要です。本授業では、心の学問である心理学の科学的な考え方にに基づき、これまでにわかっている知見を整理し、人間の心の多様性を理解します。プロジェクトにより図や映像を多く示すとともに、簡単にできる実験的観察を取り入れながら説明を行い、視覚的、体験的理解を重視します。

《授業の到達目標》

- 「心理学」にはどのような領域があるか類別できる。
- 種々のデータを基に、心を科学的な視点から説明できる。
- 心に関する共通的な性質と個人差を説明できる。

《成績評価の方法》

ペーパーテスト80%，レポート・小テストなど10%，受講態度10%

《テキスト》

『図説心理学入門 第2版』 齋藤勇(編)/誠信書房

《参考図書》

『心理学』 無藤隆, 森敏昭, 遠藤由美, 玉瀬耕治/有斐閣 (より深く勉強したい人向き)

『イラストレート心理学入門』 齋藤勇/誠信書房 (内容が難しすぎると感じる人向き)

《授業時間外学習》

- ・ 予習の方法：下の授業計画にはテキストの該当する箇所を記載しています。読んでおくようにしてください。この段階では必ずしも内容を理解できている必要はありません。前もって内容を意識することが大切です。
- ・ 復習の方法：授業中に整理するプリントを中心に復習してください。

《備考》

- ・ 心理学を学ぶには、日頃から自分の心や他人の行動について関心をもつことが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	心理学とはどんな学問なの？	心の科学的な考え方や心理学の各分野について《序章 § 1~9》
2	情報、入ります(知覚)	情報の入り口である知覚が成立するまでの流れ《第1章 § 1~2, § 6~7》
3	覚えているって、どういふこと？(記憶)	記憶過程と記憶の分類 各記憶の特徴《第3章 § 4》
4	どうやって、学んでいくのだろう？(学習)	学習についての基本的な考え方 条件づけやモデリング《第3章 § 1》
5	笑ったり怒ったり(感情)	喜怒哀楽に関する科学的な見方《第2章 § 5~9》
6	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) I	欲求の分類 各欲求の性質《第2章 § 1~3》
7	いつも何かを望む(欲求とフラストレーション) II	欲求の階層 思うようにいかないときの行動《第2章 § 2~4》
8	君って、どんな人？(性格) I	性格の基本的考え方 類型論と特性論
9	君って、どんな人？(性格) II	性格テストの体験 生得説と経験説《第4章 § 1, 第5章》
10	私たちは大人になってきた(発達)	生涯にわたる心の発達 エリクソンの発達段階《第4章 § 2~3》
11	あの人って、きっとこうなんだ(社会的認知)	ステレオタイプ 原因帰属 印象形成《第6章 § 1~2》
12	人が周りにいるから(社会的影響)	説得や無言の圧力に関する効果《第6章 § 4》
13	無意識って何だろう？(無意識と深層の心理)	無意識に関するいくつかの理論. 心理療法《第5章 § 4, 第8章》
14	心理学アラカルト	身近にある心理学の様々なテーマ
15	心理学はどんな学問か？(まとめ)	「心の共通性」と「心の多様性」を基にした心理学の理解.

科目名	仏教と現代社会		科目ナンバリング	NHUL11007	
担当者氏名	本多 彩				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<input type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 <input type="radio"/> 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

宗教研究は民俗学や人類学や社会学など多くの領域とも関連する学際的性格をもつ。我々の周りを観察すると、いかに仏教が生活や思想に関わっているかに気付くだろう。講義では幅広く仏教文化を解説する。そして仏教と人間、グローバル社会、生と死、医療、環境についての理解を深める。現代社会や文化を通して仏教を学び、他者理解、異文化理解につなげるとともに自分自身を見つめるきっかけとしてほしい。

《授業の到達目標》

- ※比較文化の視点を学んだうえで身近な宗教について考える
- ※現代仏教についての理解をめざす
- ※仏教と社会の関係から仏教が社会問題などにどう向き合ってきたかについての理解をめざす
- ※浄土系仏教と環境問題、社会問題についての理解をめざす

《成績評価の方法》

受講態度 約30%
 小テスト・レポート 約40%
 期末プロジェクト 約30%
 この3項目で評価する。講義中に質問するのである程度の復習が必要となるがそれも「受講態度」として評価する。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

学内で行われる宗教行事への参加を積極的に評価する。
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー

その他に宗教ツアーや花まつり法要もあるので参加してほしい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	宗教文化と社会の多様性	宗教と文化の関係について学び多様な宗教文化についての理解をめざす
2	宗教の理念とその影響	基本となる教えについての理解をめざし社会や文化への影響について学ぶ
3	仏教・仏教文化の概説①	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
4	仏教・仏教文化の概説②	仏教の基礎と仏教が育んできた文化についての理解をめざす
5	現代日本の仏教文化	現代の日本文化を取りあげて仏教の与えた影響を理解することをめざす
6	現代社会における仏教①	社会を読み解くカギとして仏教を学び両者の関係を理解することをめざす
7	現代社会における仏教②	社会で起きている問題について仏教からのアプローチを学ぶ
8	仏教と社会	現代日本社会における仏教や仏教施設と人々との関わりについて学ぶ
9	浄土仏教の展開と日本浄土仏教	浄土仏教の教えの源泉とその展開について学ぶ
10	現代社会と浄土仏教	社会で起きている問題について浄土仏教の理解を学ぶ
11	宗教多元世界と仏教①	海外でみられる仏教の広がりについて学ぶ
12	宗教多元世界と仏教②	海外で展開される仏教と日本仏教について理解する
13	宗教多元世界と仏教③	グローバル社会における日本仏教と教えについて学ぶ
14	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす
15	仏教の生命観①	仏教の死生観についての理解をめざす

科目名	国際理解と宗教Ⅰ（キリスト教）		科目ナンバリング	NHUL11008
担当者氏名	根川 幸男			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

本講義では、キリスト教の教義、歴史、現在、キリスト者などについて学ぶとともに、それを通じて国際理解を深める。キリスト教をめぐるさまざまな事柄を手がかりに、教師と学生がコミュニケーションを深めながら、自分たちの人生や将来、それを取りまく世界や社会、文化、人間関係などについて考える。

《授業の到達目標》

- *キリスト教について学ぶことによって、世界の歴史や国際関係、人間関係について理解できるようになる。
- *キリスト教について学ぶことによって、自分たちと異なる地域や集団の人々の文化や生き方が理解できるようになる。
- *復習シートやレポート作成を通じて、自覚的にテーマを選び、資料を探し、考え、発信する能力を獲得する。

《成績評価の方法》

- *毎回の講義後に提出する復習シート（40%）と期末レポート（40%）、平常点（20%＝出席10%＋授業参加態度10%）を合算して評価する。
- *授業の性格上、講義を聞き、教師とコミュニケーションすることが大切です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	何のためにキリスト教について学ぶのか？講義の目的とシラバスの説明。履修学生のキリスト教との関わり、イメージについて問う。
2	国際問題と宗教1	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
3	国際問題と宗教2	宗教対立や民族対立、環境問題、人口問題など国際問題を取り上げつつ、人間社会とキリスト教をはじめとする宗教との関係を読み解いていく。
4	聖書の世界観・人間観1	旧約聖書の物語を追いながら、ユダヤ・キリスト教の世界観・人間観を読み解いていく。
5	聖書の世界観・人間観2	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
6	聖書の世界観・人間観3	新約聖書、特に福音書に書かれた物語を追いながら、イエスの生涯と教えを読み解いていく。
7	キリスト教の歴史1	イエスと彼の弟子たちによるキリスト教の成立からローマ帝国での国教化、東西教会の分裂とイスラム教との接触を概観する。
8	キリスト教の歴史2	宗教改革による旧教と新教の分裂、キリスト教会の変容・再編成、日本への伝道を世界的視野で概観する。
9	キリスト教の歴史3	近現代におけるキリスト教の歴史と変遷、位置づけについて学び、その影響について考える。レポートのテーマ中間発表。
10	キリスト教と文化・芸術	キリスト教と西洋の文化・芸術について概観し、それが非西洋、特に日本の文化・芸術とどのように交渉をもったのかについて学ぶ。レポートのテーマ中間発表。
11	キリスト教と国際人口移動1	大航海時代以降の歴史を、宗教改革とキリスト教伝道の観点から読み解き、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのテーマ中間発表。
12	キリスト教と国際人口移動2	19～20世紀の人口移動をキリスト教の観点から読み解き、日本人の海外移民も含めて、自分たちの生活との関係を考えてみる。レポートのアウトライン発表。
13	キリスト教と日本	日本に伝わったキリスト教がどのような影響を与えたのかを時系列的に概観し、自分たちの生活とどう関係しているのかを考える。レポートのアウトライン発表。
14	キリスト教の現在	生命、ジェンダー、中絶、同性愛、戦争、環境問題など、現代社会が抱えている問題を取り上げ、キリスト教との関係で読み解き、考える。
15	まとめとふりかえり	今まで学習してきたことをふりかえり、キリスト教がどのような宗教であり、自分たちとどう関わっているのか、また国際理解をどのように深めていけばよいのかを整理する。

《テキスト》

講義の際に適宜資料を配布する。

《参考図書》

- 『よくわかるキリスト教』土井かおる著（PHP研究所）2004、
- 『ふしぎなキリスト教』橋爪大三郎X大澤真幸（講談社現代新書）2011、
- 『岩波キリスト教辞典』大貫隆他編（岩波書店）2002

《授業時間外学習》

- *その日の復習シートと質問（400字程度）をまとめ、次回の授業に提出する。用紙は授業ごとに配布する。
- *キリスト教の正典である聖書にふれておく。
- *配布資料が散在しないように整理しておく。
- *新聞・雑誌等でキリスト教に関する記事があれば目を通し、できればコメント付きのコピーを提出

《備考》

- *授業進行は概ね授業計画に拠るが、学生の理解度やニーズに応じて変更していく。*携帯電話・メール使用、食事の禁止、遅刻20分以上＝欠席、20分以内の欠席×3回＝欠席とする。

科目名	国際理解と宗教Ⅱ（イスラム教）		科目ナンバリング	NHUL11009
担当者氏名	重親 知左子			
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力			

《授業の概要》

世界におけるムスリム(イスラム教徒)の数は約16億人、総人口の約1/4を占める。ムスリム訪日人数や国内のモスク(イスラムの礼拝所)も増加している。一方、海外で邦人がイスラム関連の事件等に遭遇する可能性も高まっている。この授業を通して、イスラムに関する基本的な内容を把握すると同時に、激動期に入ったイスラムをめぐる内外の情勢への理解を深めることを目的とする。VTRの視聴を通して、具体的なイメージの把握に役立てたい。

《授業の到達目標》

- ・イスラムの基本的な信仰内容と信仰行為を説明できる。
- ・イスラムにおける日常生活の規範について説明できる。
- ・政治経済面からイスラムに関わる国際問題を把握できる。
- ・日本におけるイスラムをめぐる歴史と現状を把握できる。
- ・イスラムに関わるニュースについて主体的に考えることができる。

《成績評価の方法》

- ・全授業終了後に課すレポート(70%)と、VTR視聴後に課すレポート(30%)で評価する。
- ・レポートの提出遅れについては減点する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	世界と日本のイスラム	今日のイスラムをめぐる世界情勢を概観するとともに、日本におけるイスラムの現状を把握する。
2	イスラムの成立と発展	イスラムの成立した状況とその後の発展、また「スンナ派とシーア派」について学ぶ。
3	イスラムの基本的信仰内容(1)	イスラムの根本原理とともに、基本的信仰内容である「アッラー」「預言者」「天使」について学ぶ。
4	イスラムの基本的信仰内容(2)	基本的信仰内容である「啓典」「来世」「運命」について学ぶ。
5	イスラムの信仰行為(1)	信仰行為である「信仰告白」「礼拝」「喜捨」について学ぶ。
6	イスラムの信仰行為(2)	信仰行為である「断食」「巡礼」について学ぶ。
7	日常生活の中のイスラム(1)	飲食におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、ハラール(イスラム的に合法)をめぐる内外の状況について考察する。
8	日常生活の中のイスラム(2)	服装におけるイスラムの規範について学ぶと同時に、イスラム社会における女性をめぐる状況について考察する。
9	日常生活の中のイスラム(3)	結婚、葬礼におけるイスラムの規範について学ぶ。
10	日常生活の中のイスラム(4)	離婚、遺産相続、血縁関係におけるイスラムの規範について学ぶ。
11	イスラム圏の映画鑑賞	イスラム圏の映画を鑑賞し、その生活様式や価値観に触れる機会を持つ。
12	国際理解とイスラム(1)	経済面からイスラム金融について、社会面からイスラム暦について学ぶ。
13	国際理解とイスラム(2)	政治面から近現代史を中心に、帝国主義によるイスラム世界の衰退とその影響について考察する。
14	国際理解とイスラム(3)	イスラムをめぐる昨今の問題を取り上げ、その原因を検証すると同時に今後の課題について総括する。
15	日本とイスラム	日本とイスラム圏の関係を、歴史的に検証する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

店田廣文『イスラムを知る14 日本のモスク 滞日ムスリムの社会的活動』山川出版社、2015/辻上奈美江『イスラム世界のジェンダー秩序』明石書店、2014/内藤正典『イスラム戦争 中東崩壊と欧米の敗北』集英社、2015/『別冊歴史REAL イスラムと日本人』洋泉社、2015/『現代思想 2015年3月臨時増刊号 総特集◎ジャリド・アブドゥル・アジズ 襲撃/イスラム国入国事件の衝撃』青土社、2015

《授業時間外学習》

- ・授業計画を参照し、次回の授業範囲を参考文献等により予習する。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問もしくは自分で調べる。
- ・イスラムに関する内外のニュースをチェックし、考察する。
- ・可能な範囲でイスラムと接点を持つ(例:モスクやハラールショップ 見学など)。

《備考》

- ・私語をはじめ、他の受講者の迷惑になる行為は慎むこと。
- ・第一回講義にて、連絡用のメールアドレスを知らせます。

科目名	色彩とデザイン	科目ナンバリング	NSOL21010
担当者氏名	稲富 恭		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

「デザイン」とは技術、芸術、経済にまたがる複合的な生産物、生産行動を表す。文化的な成熟期に入った現代社会において、デザインに関する知識は分野を問わず非常に重要性を増している。本講義においては、まずデザインを色彩、かたち、素材の側面から考察し、さらにデザインの各分野について解説を行う。

《授業の到達目標》

- ・デザイン分野に関する一般的な知識を身につける。
- ・色、かたち、素材に関する基礎的な知識を身につける。
- ・現代社会におけるデザインの役割について理解する。
- ・デザインを分析的に理解する能力を身につける。

《成績評価の方法》

授業中に実施するレポート、課題(70%)、及び、学期末レポート(30%)によって評価する。また授業ノートの提出は単位認定の必要条件になる。

《テキスト》

テキストは使用しないが、「新配色カード129a」日本色研事業(株)(<参考>¥500程度)の購入が必要である。

《参考図書》

- ・『生活と色彩』(朝倉書店)
- ・『カラーコーディネーター入門・色彩』(日本色研事業)
- ・『世界デザイン史』(美術出版社)

《授業時間外学習》

- ・予習の方法:シラバスに従い、事前に文献、雑誌、インターネット等を利用して基礎的な用語、知識を調査する。
- ・復習の方法:授業後は授業内容に従い、授業ノートを制作する。
- ・学期末レポート:「学期末レポート」の執筆を行う。課題は第11週(予定)に提示する。

《備考》

・出欠管理端末を利用するため、学生証の持参が必要である。授業態度によって出席確認を取り消す場合がある。他の受講生に迷惑になる行為があった場合、座席の指定を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス:デザインの基礎	デザインの要素である「色」「かたち」「素材」について理解し、授業全体の流れについて理解する。
2	デザインの基礎(1):色① 色の表示	色彩学の基礎である色の三属性を基に、各国のカラーシステムの違いについて説明する。
3	デザインの基礎(2):色② 配色調和	色の調和の歴史、配色調和の基本原則を学び、それによって配色を考える。イメージを基に色相、トーンで美しく調和を得る方法を解説する。
4	デザインの基礎(3):かたち	デザインのかたちについて、比例、プロポーション、シンメトリーといった幾何学的側面から解説する。
5	デザインの基礎(4):素材	デザインの素材について、材料、質感、科学技術の発展、機能といった点から多面的に解説する。
6	デザインの基礎(5):デザインの歴史	近代以降のデザインの歴史について概観し、7回目以降の講義の流れを理解する。
7	デザインの各分野(1):グラフィック	ポスター、広告、パッケージのデザインについて解説する。
8	デザインの各分野(2):家具	家具のデザインについて、歴史的な変遷に従い解説する。
9	デザインの各分野(3):建築	建築・インテリアを取り上げ、「もの」のデザイン、「空間」のデザインについて解説する。
10	デザインの各分野(4):ファッション	19世紀後半以降のファッションを取り上げ、歴史的な変遷と社会の関わりについて解説する。
11	デザインの各分野(5):プロダクト	プロダクトデザインについて、主として携帯電話を例に、プロダクトデザインとマーケティングについて解説する。
12	デザインの各分野(6):工業デザイン	工業デザイン分野について、主として産業革命以降のデザインと自動車デザインの変遷から解説する。
13	デザインの各分野(7):都市	造形物としての都市に注目し、その発生要因と社会の状況について考察する。
14	デザインの各分野(8):映像	映画、ドラマを対象に映像作品の構成要素、構成規則について解説する。
15	課題の発表と講評	学期末レポートのプレゼンテーション、および講評を実施する。

科目名	法と社会	科目ナンバリング	NSOL21011
担当者氏名	豊福 一		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 		

《授業の概要》

現在の日本社会において生活するうえで、法との関わりは避けて通ることのできないものである。そこで、日常生活と密接に関係すると思われる法制度について、その概略を紹介し、基礎的な法律知識への理解を深める。民法に限らず、刑事事件など幅広く講義する予定。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

授業中、適宜紹介する。

《授業の到達目標》

日常生活において目にしたり、耳にしたりする法律用語、あるいは遭遇した法律問題やトラブルにおいて、その最低限の意味を理解できるようになること。

《授業時間外学習》

予習は不要であるが、授業内容の性質上、講義を聞くことによって初めて知識を得ることができるので、積極的に出席するように。

《成績評価の方法》

レポート課題の提出（100%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	法と社会の関わり	日本の法制度の概略について理解し、今後の授業の流れも理解する。
2	土地・建物の賃貸借契約	賃貸借契約の内容、土地や建物を賃貸借する際に決めておくべきことやその注意点について理解する。
3	クレジット・キャッシング	クレジットカードやキャッシュカードを利用した金銭のやり取りに関する法律関係について理解する。
4	住宅・自動車ローン①	住宅や自動車を購入する際に締結される売買契約とそれに関する法律関係、さらには不動産や自動車の登記・登録制度等について理解する。
5	住宅・自動車ローン②	住宅や自動車を購入する際に金融機関からお金を借りる場合の法律関係とその注意点等について理解する。
6	債務の整理・清算	負担した債務（ローン）の返済が困難になった場合のその清算方法について、私的整理・公的整理に分けてその制度について理解する。
7	刑事事件①	犯罪が発生し、その被疑者（容疑者）が逮捕された場合の刑事手続きの流れについて理解する。
8	刑事事件②	逮捕された被疑者（容疑者）が起訴された場合の刑事裁判手続きについて理解する。
9	婚姻・離婚	結婚・離婚する場合の法律関係、注意点、さらに養子縁組や離縁についても理解する。
10	相続	相続人の範囲や順位、相続割合、遺言の書き方等相続に関する一般的知識を理解する。
11	成年後見制度	自らの財産を自らの意思で管理することが困難になった場合の主として高齢者保護のための成年後見の制度の概略を理解する。
12	交通事故	交通事故に遭遇した場合、どのような損害が発生し、それをどの程度賠償する必要があるのか、交通事故に関する一般的知識を理解する。
13	各種保険制度	日常生活に馴染みの深い自動車保険・生命保険・傷害保険・火災保険等の一般的知識を理解する。
14	民事訴訟制度	刑事訴訟とは別に日常生活で市民が利用できる民事訴訟制度についてその概略を理解する。
15	知的財産権	著作権・特許権・意匠権・商標権等知的財産権の種類とその内容について、概略を理解する。

科目名	日本国憲法	科目ナンバリング	NSOL21012
担当者氏名	笹田 哲男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「国民主権」「平和主義」「基本的人権の保障」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂 現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室 全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法 第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法（国家の基本法）とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、定期試験期間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	憲法とは何か	①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。
2	日本の憲法のおいたち	①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。
3	平和主義(1)	①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。
4	平和主義(2)	「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。
5	人権の性格と歴史(1)	①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。
6	人権の性格と歴史(2)	日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。
7	基本的人権の保障(1)	①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家族生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。
8	基本的人権の保障(2)	精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。
9	基本的人権の保障(3)	①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。
10	基本的人権の保障(4)	①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。
11	基本的人権の保障(5)	①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。
12	国民主権(1)	①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。
13	国民主権(2)	①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。
14	国民主権(3)	①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。

科目名	人権の歴史	科目ナンバリング	NSOL21013
担当者氏名	岩本 智依		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

人権とは歴史の中で培われ、広がり深まってきた。「人権の世紀」といわれるが現代社会の人権の現状を理解し、今後人権がどのように発展していくのかを考える。

《授業の到達目標》

多様な視点をもって自己と他者との人権をとらえられるようになる。
現代社会に生きる上で、身の回りの差別を見抜く力をつける。

《成績評価の方法》

定期試験80% 課題提出20%（学期末の最終授業を締切に参考図書を課題としたレポート）

《テキスト》

レジメを配布し、レジメによって授業を行う。また適時に必要な資料を配布する。

《参考図書》

毎日新聞「境界を生きる」取材班 『境界を生きる 性と生のはざままで』毎日新聞社
砂川秀樹・RYOJI『カミングアウト・レターズ』太郎次郎社エディタス
岩本孝樹『「いのち」の保育——一人ひとりの人権をまもる』京都阿吽社

《授業時間外学習》

レジメや資料、また参考図書などで学習し、不明な点は質問するように。

《備考》

今日的な課題を取り上げるため、普段から社会問題について関心を持っておくように。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	差別とは何か	現代社会における人権を通して「差別とは何か」を考える。
2	ライフタイムと人権	自分自身の生涯に人権がどのように関わっているかを考える。
3	人権の歴史とは①	人権の歴史を通して、人権の享有主体としての私たちのあり方を考える。
4	人権の歴史とは②	人権の歴史を通して、現代社会における人権の内容を学ぶ。
5	部落差別と現代社会①	部落差別とは何かをその歴史と部落史の発展の視点から学ぶ。
6	部落差別と現代社会②	「身元調査」を通して部落差別の現状と課題を学ぶ。
7	いのちと人権①	ハンセン病やHIV等、医療における差別の歴史と現実の課題を学ぶ。
8	いのちと人権②	障害者差別禁止法と障がい者差別について学び、「差別の禁止」とは何かを考える。
9	いのちと人権③	尊厳死や生命倫理に関わる人権の歴史を通して、人権といのちについて考える。
10	宗教と差別	主に仏教と差別について学ぶ。
11	教育と差別	いじめや体罰など、教育や保育における人権的課題について学ぶ。また反差別の教育である「同和教育」について考える。
12	性差別と現代社会①	性差別の歴史とジェンダーについて学ぶ。
13	性差別と現代社会②	セクシャル・ハラスメントを中心に現代の性差別の現実を学ぶ。
14	性差別と現代社会③	セクシャル・マイノリティの差別の現実を学ぶ。
15	まとめ	現代社会の中に生きる人間として人権とはなにか、を考える。

科目名	政治学	科目ナンバリング	NSOL21014
担当者氏名	斎藤 正寿		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

この講義では、私達の身近にある小さな政治現象から出発して、少しずつ政治学的なボキャブラリーを身に付けてもらいながら、次第にプロの大きな政治の世界の理解へと進んでいくこととしたい。政治学的な考え方の修得を主たる目標とするが、プロの政治の理解には業界特有の事情を知る必要もあるので、それらの知識の獲得も同時並行して行うことにしたい。

《授業の到達目標》

- 政治学のボキャブラリーを使用して、現実起こっている、小さな、あるいは大きな政治現象を分析し説明できるようになる。
- 現代の日本政治について鳥瞰図を手にすることができる。

《成績評価の方法》

学期末の定期試験期間に筆記試験（100%）を実施する。

《テキスト》

テキストは使用しない。講義中に必要な資料を配布する。

《参考図書》

『現代政治学・新版』加茂利男他、有斐閣、2003年
 『政治学』久米郁男他、有斐閣、2003年
 他の参考文献は講義をすすりながら、紹介をしていく。

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：毎日の政治に関するニュースに関心をもって接すること。
- (2) 復習の方法：授業内容を再確認し、講義で配布された参考資料を熟読しておくこと。

《備考》

・政治現象を解剖し、その生理（病理）を明らかにしたいと考えています。私達がよりよく生きるためには、現実の「現実的」理解から出発すべきというのが私のスタンスです。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	A. 素人の政治 小さな政治と大きな政治	政治のイメージ、大きな政治と小さな政治、政治の定義、政治と政治学
2	制度・原理・状況	人間思考の3側面、制度・状況・原理の発想法、官僚、ジャーナリスト、知識人
3	ノモス・コスモス・カオス	社会生活の3局面、ノモス・コスモス・カオス
4	権力と正統性	権力の定義、実体的見方、関係的見方、伝統・カリスマ・合法的正統性
5	リーダーとフォロワー	権威の発生、服従の調達、強制・買収・説得
6	B. 玄人の政治 様々なアクター・利益	アクター、役割、葛藤、利益集団、鉄の三角同盟
7	職業政治家	地盤・看板・鞆、族議員、派閥、政党
8	官僚	国家公務員試験、キャリア、昇進、天下り、官高政低、政高官低
9	マスコミ	世論、マスメディア、アナウンスメント効果
10	C. 政治の制度 政党と選挙	衆議院、参議院、小選挙区、中選挙区、比例代表
11	政治体制と政権	保守・革新、右・左、
12	政策・イデオロギー	イデオロギー、1955年体制、小さい政府・大きな政府
13	政治と文化	体制の変動、政権の交代
14	国家と国民	ナショナリズム、民族
15	まとめ	日本政治の鳥瞰図

科目名	社会学	科目ナンバリング	NSOL21015
担当者氏名	吉原 恵子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

本講義は、社会学をはじめて学ぶ人に、社会的ものの見方のおもしろさや有効性について理解してもらうことを目的とする。目の前の現実について、いろいろな見方ができること、裏を返せば、自分からみた社会は一つの見え方にすぎないという感覚を身につけてほしい。授業では、社会学の専門用語を解説しながら、現代社会における個人と社会の関係やしくみについて見抜く理論的道具を使えるようになることをめざす。

《テキスト》

『社会学のエッセンス』友枝敏雄・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵（2013，有斐閣アルマ）

《参考図書》

『社会学がわかる事典』森下伸也（2000，日本実業出版社）、厚生労働白書その他、適宜提示します。

《授業の到達目標》

- (1) 社会的ものの見方ができるようになる
- (2) 社会を理解するために、社会的道具を使うことができるようになる
- (3) みんなで共に生きていくために、人間がどんな工夫をしているのか説明できるようになる

《授業時間外学習》

- (1) 毎回、該当する章を読んでから授業に臨んでください
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りに活かしてください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《成績評価の方法》

- 授業内レポート1-2回およびミニ・テストを数回実施する。（配点：文章作成能力および知識の定着度45点）
- 定期試験（持ち込み不可）により学習達成度を評価する。（配点：理論体系の理解度、データを読む力、社会問題に取り組みようとする意欲、批判的視点等の獲得度：55点）

《備考》

この授業では、講義内容を確実に修得することを重視しているが、ただ知識を暗記するのではなく考えながら「聴く」ことがポイントである。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会的ものの見方	社会学の成立、個人と社会について理解する
2	行為の分析 (1) 意味と相互主観性	意味、慣習的行為、役割行為、役割取得、ステレオタイプ、相互主観性、自己と他者について理解する
3	行為の分析 (2) アイデンティティ	アイデンティティ、役割、アイデンティティの確立、重要な他者、近代社会について理解する
4	行為の分析 (3) スティグマ	スティグマ、レイバリング、パッシングについて理解する
5	行為の分析 (4) 正常と異常	正常、異常、コンテクスト、分類（社会的カテゴリー）について理解する
6	行為の分析 (5) 予言の自己成就	予言の自己成就、ポジティブ・フィードバック、ネガティブ・フィードバック、社会的世界について理解する
7	行為の分析 (6) 社会構築主義	社会構築主義、社会構成主義、社会問題の構築、クレーム申し立て活動、対抗クレームについて理解する
8	学習の総まとめ (1)	「行為の分析」についてふりかえる
9	秩序の解読 (1) ジェンダー	性別認知、らしさの役割、性別役割分業、フェミニズム、メンズリブについて理解する
10	秩序の解読 (2) 規範と制度	規範、文化の恣意性、慣習・道徳・法、価値と制度、社会形成と維持について理解する
11	秩序の解読 (3) 社会のなかの権力	姿を見せる権力、姿を見せない権力、情報の受容を促すメディア、強制力としての権力、伝統的支配、カリスマ的支配、合理的支配、官僚制組織について理解する
12	秩序の解読 (4) 不平等と正義	社会構造、社会階層、属性主義、業績主義、機会の平等、結果の平等、集団的平等、格差、格差社会、不平等、階級社会について理解する
13	社会の構想 (1) 共同体	近代家族、核家族、親密性、国民、国家、家父長制、家事労働、主婦の誕生、ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、コミュニティ、アソシエーションについて理解する
14	社会の構想 (2) 国家と市民社会	個人と社会、自由と連帯、市民社会、共同体、私的領域と公的領域、福祉国家論、アナーキズムについて理解する
15	学習の総まとめ (2)	「秩序の解読」「社会の構想」についてふりかえるについて理解する

科目名	経済学	科目ナンバリング	NSOL21016
担当者氏名	石原 敬子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力		

《授業の概要》

「経済学」というと、「企業」「お金儲け」などの言葉を連想し、ビジネスに携わらなければあまり関係がないと思う人もあるかもしれませんが、たしかに、ビジネスの世界と密接にかかわる分野であることに違いありませんが、皆さんが日ごろ行っているモノを買う行動（消費）も重要な経済活動です。この授業では、経済学とはどのような学問か、私たちに身近な経済の仕組みについてわかりやすく解説します。

《授業の到達目標》

- ・私たちが暮らしている市場経済の仕組みについて理解する。
- ・身近な問題を通して「経済学的考え方」を学ぶ。
- ・需要と供給、交換の利益、貨幣の役割など、経済学入門レベルの基礎知識を身につける。

《成績評価の方法》

平常点（授業時に取り組む課題についての評価）と学習のまとめとして学期末に行う筆記試験をもって評価します。評価の割合は、平常点40%、学期末の試験60%とします。

《テキスト》

特に指定しません。毎時間プリントを配布します。

《参考図書》

授業時に適宜紹介します。

《授業時間外学習》

- ・毎回1つのテーマについて解説する予定です。授業ごとにしっかりと内容を復習してください。わかりにくいこと、疑問に思うことがあるときには、そのままにせず、質問して理解を深めるように努めてください。
- ・第11週目を終わった頃に復習用教材（自習用）を配布する予定です。授業内容を理解できているか、振り返ってみましょう。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業の概要 「経済学」とは	「経済学」とはどのような学問かを説明します。授業の概要と受講上の注意事項についても説明します。
2	市場のはたらきについて考えよう	経済の基本問題（資源配分問題）を解決するうえで、市場は重要な役割を演じています。そのメカニズムについてわかりやすく解説します。
3	交換の利益・分業の利益 協業の利益	私たちの暮らしを支える基本的な経済の仕組みについて解説します。「比較優位の理論」もとりあげ、貿易の利益についても考察します。
4	貨幣の歴史と役割	貨幣がどのような役割を演じているかをわかりやすく解説します。IT革命が生み出した「電子マネー」の特徴と可能性についても考察します。
5	IT革命がもたらしたもの	情報技術革命により、私たちの暮らしやビジネスの世界にどのような変化が生じたか、最近注目されている「ビッグデータ」の活用などについて考察します。
6	企業戦略について考えよう (1)	「需要曲線」を用いて、企業の価格戦略について考察します。
7	企業戦略について考えよう (2)	身近な販売戦略の1つである「セット販売」がなぜ行われるのか、経済学の基礎理論を用いて分析します。
8	市場経済での競争の役割 (1)	競争的市場と独占市場を比較し、経済の領域での競争の意味について考察します。
9	市場経済での競争の役割 (2)	市場経済で根本的に重要な経済政策の1つである競争政策の役割について解説します。
10	「市場の失敗」について考えよう (1)	市場のはたらきでは解決できない問題にはどのようなものがあるのかを解説します。その1つである「格差問題」について考察します。
11	「市場の失敗」について考えよう (2)	地球温暖化問題はなぜ生じたのか、解決策にはどのようなものがあるかを経済学の考え方をを用いて考察します。
12	「市場の失敗」について考えよう (3)	食の安全を守るにはどのような制度が必要か、子どもから高齢者まで安心して消費活動を行える社会にするためにどのような制度が求められるかを経済学的に考察します。
13	景気の問題について考えよう	マクロ経済学の基礎的概念について解説しながら、景気に関する問題、景気対策について考察します。
14	少子高齢化問題について考えよう	少子高齢化社会が抱える問題、少子高齢化社会での政府の役割について考察します。
15	学習のまとめ	これまでの授業内容を振り返り、理解度を確認してみましょう。

科目名	化学	科目ナンバリング	NNAL21017
担当者氏名	阿部 真幸		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ○ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

化学は個々の化合物の性質や構造、反応の様子を明らかにする学問であり、食品や健康、医療や看護に関わりの深い学問です。専門領域に関連する学問を本格的に学ぶ前に、その基礎となる化学的知識を、一年次における導入として解説します。私たちの身の回りの物質と化学知識のつながりを通して、物質を科学的に見る眼を養って欲しいと考えます。

《テキスト》

『コ・メディカル化学』
 齋藤勝裕、荒井貞夫、久保勘二 共著（裳華房）

《参考図書》

『あなたと化学』暮らしを支える化学
 齋藤勝裕 著（裳華房）

《授業の到達目標》

- 溶液の濃度の表し方を理解し、これらの濃度を互いに変換できる。
- 代表的なアルキル基と官能基について構造と特徴（性質）を理解している。
- 有機化学反応の生成物を構造式で示し、反応を説明できる。
- 生体に関わりのある代表的化合物の種類および働きを説明できる。

《授業時間外学習》

- 授業前に、テキストの学習する範囲を読んでおくこと。
- 各自で演習問題を解くなど、授業の復習を行い、理解に努めること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）および授業中に行う小テスト（20%）により評価します。

《備考》

- 授業中分からないところが有れば、その都度、質問してください。
- 他の履修者に迷惑になる行動はしないこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	化学で扱う数値 原子の構造	物理量と単位 原子の構造、原子の電子構造、周期表と元素
2	化学結合と分子	イオン結合、共有結合、結合の極性、水素結合
3	物質の量と状態	原子量と分子量、モル、パーセント濃度、モル濃度
4	酸・塩基と酸化・還元	酸と塩基の定義、中和反応と塩の生成、水素イオン濃度とpH、酸化と還元、酸化・還元反応
5	有機化合物の構造（1）	有機化合物の結合、炭化水素の種類、構造式の表示法
6	有機化合物の構造（2）	置換基の種類、有機化合物の種類と性質、異性体と立体構造
7	有機化学反応（1）	化学反応とエネルギー、反応速度、酸化・還元反応
8	有機化学反応（2）	置換反応、脱離反応と付加反応
9	糖質（1）	糖質の定義と分類、単糖類
10	糖質（2）	二糖類、多糖類
11	脂質（1）	単純脂質、複合脂質
12	脂質（2）	誘導脂質、生体膜
13	アミノ酸とタンパク質（1）	アミノ酸の種類と構造、（ポリ）ペプチド
14	アミノ酸とタンパク質（2）	タンパク質の立体構造、タンパク質の種類と機能
15	核酸（DNAとRNA）	核酸の構造、DNAの機能と複製、遺伝子とRNA合成、RNAの機能、ATP

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	生物学	科目ナンバリング	NNAL21018
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

生物の構造と機能および環境との関わりについてプリントやスライドを使用して解説する。また、質問時間を設けるとともに、理解を深めるために試問を行う。

《テキスト》

やさしい基礎生物学 第2版 (南雲保編、羊土社)

《参考図書》

カラー図解 アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻～第5巻 (デイビッド・サダヴァ 他：著、石崎泰樹 他：監訳)

《授業の到達目標》

生物や環境についての知識を深めるとともに、自然の中におけるヒトの位置づけについて理解することを目標とする。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験 (100%) により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞	細胞の構造と機能
2	生命体を構成する物質①	アミノ酸、タンパク質、糖質
3	生命体を構成する物質②	脂質、核酸、ビタミン
4	遺伝子の構造と機能	DNA・RNAの構造、DNA複製・転写、翻訳
5	生体とエネルギー	解糖系、トリカルボン酸回路、電子伝達系
6	光合成	光合成の機構
7	細胞分裂と細胞の分化	体細胞分裂、減数分裂、細胞の分化、がん化
8	生命体の受精と成長	生殖の仕組み、初期発生、アポトーシス、老化
9	多細胞生物の自己維持機構①	細胞間情報伝達システム
10	多細胞生物の自己維持機構②	恒常性 (ホメオスタシス)、生体防衛機構
11	遺伝のしくみ	メンデルの法則、遺伝病
12	生態系①	生物と環境
13	生態系②	環境問題、動物の行動
14	生物の進化と多様性	生物の誕生と進化、系統分類
15	生命科学技術と社会	生命倫理、遺伝子組み換え技術、クローン技術、再生医療

科目名	食と健康	科目ナンバリング	NNAL21019
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力		

《授業の概要》

本授業では、食と健康をキーワードに食を中心とした消費生活全般における消費者力の向上を目指します。消費者問題の歴史とともに消費者教育の最前線で何が行われているか、多角的に提示します。国内外での実践事例や教材を紹介しますので、特にエシカル消費についての理解を深め、消費者市民社会の担い手としての基礎づくりとなることをまぎします。

《テキスト》

「くらしの豆知識2016年版」 国民生活センター

《参考図書》

「ハンドブック消費者」 消費者庁

《授業の到達目標》

- 消費生活、消費文化に関する基礎知識を習得することができる。
- 消費者市民教育の必要性と意義を理解することができる。
- エシカル消費（倫理的消費）について理解し、自らの生活を見つめなおし改善する能力を身につけることができる。

《授業時間外学習》

- ニュース、新聞などにより、健康や栄養、消費生活に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

課題レポート・提出物（50%）、定期試験（50%）
 ただし、授業の出席回数が授業実施回数の3分の2以上に満たない場合には、定期試験の受験資格はありません（遅刻・早退3回は欠席1回とみなします）。

《備考》

- 授業初回に授業内容や成績評価について詳しく説明する。できるだけ出席すること。
- 課題レポートは指定した書式や内容のものを作成すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	高等学校までの学びのふりかえり及び身近な消費生活の課題を整理することができる。
2	消費者教育の必要性	消費者の権利と消費者教育の必要性について学ぶ。
3	消費者市民社会とは	消費者市民社会（コンシューマーシチズンシップ）の定義と概要を説明できる。
4	消費者問題と歴史 1	不良品問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
5	消費者問題と歴史 2	食品偽装問題について過去の事件・事例より具体的に捉えることができる。
6	消費者問題と歴史 3	食の安全・安心問題について過去や近年に発生した事件・事例より具体的に捉えることができる。
7	法から見た消費生活	近年の消費トラブルの特徴から消費者行政法と行政の対応、消費生活センターの業務を理解する。
8	企業から見る消費者教育	A C A Pの活動を中心に、消費者教育とコンプライアンス経営について理解する。
9	海外における消費者教育	ユニセフやA C Eの活動を通して海外における実情を理解することができる。
10	持続可能社会と消費者	持続可能社会の定義と必要性について主体的に考えることができる。
11	エシカル（倫理的）消費 1	エシカル消費の定義（フェアトレード、環境配慮型商品等）について概説できる。
12	エシカル（倫理的）消費 2	消費者教育実践例を学び、エシカル消費について理解を深めることができる。
13	エシカル（倫理的）消費 3	消費者教育教材を使って修得した知識について実感できる。
14	エシカル（倫理的）消費 4	エシカルコンシューマーについて主体的に考えることができる。
15	まとめ	消費者教育の意義・必要性を理解し、教育企画（案）を作成し情報発信・情報交換ができる。

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語(初級)	科目ナンバリング	NLAS21020
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

テキストの各ユニットの学習を通して、実際のTOEICテストの問題形式に慣れるとともに、TOEICでよく用いられる語いや表現を身につけ、文法事項を再確認する。

《テキスト》

水本篤、Mark D. Stafford 『Successful Keys to the TOEIC TEST Intro—レベル別TOEICテスト総合トレーニングINTRO』(桐原書店、2015年)

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア400点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明。TOEIC Pre-Test。
2	Unit 1 Daily Life	日常生活で使われる単語や表現を身につける。文法事項：品詞を区別しそれぞれの働きを学ぶ。
3	Unit 2 Places	場所を表す単語や表現を身につける。文法事項：日常的によく使われるフレーズを身につける。
4	Unit 3 People	職業を表す単語やそれに関連する表現を身につける。文法事項：代名詞を正しく使う。
5	Unit 4 Travel	出勤・出張・休暇など旅行関連の単語や表現を身につける。文法事項：再帰代名詞を正しく使う。
6	Unit 5 Business	ビジネスシーンで使われる用語やフレーズを身につける。文法事項：文脈に応じた動詞を選ぶ。
7	Unit 6 Office	オフィスで使われる単語や表現を身につける。文法事項：時制について理解を深める。
8	Unit 7 Technology	テクノロジー関連の単語や表現を身につける。文法事項：類語を整理する。
9	Unit 8 Personnel	雇用、昇進、異動、退職など人事に関する単語や表現を身につける。
10	Unit 9 Management	経営に関する単語や表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める①。
11	Unit 10 Purchasing	商品の生産、請求、支払いなど売買に関する表現を身につける。文法事項：接続詞について理解を深める②。
12	Unit 11 Finances	金融に関する単語や表現を身につける。文法：不定詞 (to do) や動名詞 (~ing) について理解を深める。
13	Unit 12 Media	メディアに関する単語や表現を身につける。文法事項：助動詞について理解を深める。
14	Unit 13 Entertainment	娯楽に関する単語や表現を身につける。文法事項：前置詞について理解を深める。
15	Review	Review Test

《基礎・教養科目 教養科目》

科目名	実用英語（中級）	科目ナンバリング	NLAS22021
担当者氏名	松盛 美紀子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

TOEICに必要な語いを強化し、文法事項を再確認する。リスニングではディクテーションや発話活動を取り入れながら、応答問題や会話問題の聞き取りを重点的に行う。各テーマに沿った練習問題を繰り返し学習することで、必要な情報を的確に捉える力をつける。

《テキスト》

植木美千子、Brent Cotsworth他『Lighting Up the TOEIC Test—重点特化型TOEICテスト実力養成』（金星堂、2016年）

《参考図書》

必要に応じて授業で紹介する。

《授業の到達目標》

TOEICテストの問題形式に慣れ、スコア500点以上の取得を目標にする。

《授業時間外学習》

授業で取り上げる内容について予習復習をすること。リスニング問題の音声は専用ウェブサイトからダウンロードできるので、予習復習の際に活用すること。

《成績評価の方法》

小テスト 30%、発表・課題 30%、定期試験 40%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	学習内容全体の説明、TOEIC Pre-Test
2	Unit 1 Traveling	位置を表す表現、WHで始まる疑問文／自動詞と他動詞を理解する
3	Unit 2 Daily Life & Shopping	動作、動きを表す表現①／呼応を理解する
4	Unit 3 At Restaurants	動作、動きを表す表現②／比較級や最上級を使いこなす
5	Unit 4 Job Hunting	依頼の表現／関係代名詞、分詞を理解する
6	Unit 5 At the Office 1	オフィスでの頻出表現
7	Unit 6 At the Office 2	状況の把握／文脈に応じた動詞の使い方
8	Unit 7 Review Test	Review Test
9	Unit 8 Doing Business Online	語句の言い換え表現①／仮定法
10	Unit 9 Housing	動作、動きを表す表現③／前置詞
11	Unit 10 Making Deals & Contracts	語句の言い換え表現②／動名詞とto不定詞
12	Unit 11 Public Service	付加疑問文／接続詞
13	Unit 12 Banking & Finance	受け身の表現／副詞と形容詞
14	Unit 13 At Seminars & Workshops	選択肢の表現に注意する／文脈をとらえる
15	Unit 14 News & Media	Yes/No 以外の応答表現／時制

科目名	中国語（初級）	科目ナンバリング	NLAS21022
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は中国語の入門クラスで、発音、基礎文法、挨拶の言葉、会話文を勉強します。発音段階にDVD（発音要領）などを見ながら勉強し、同時にあいさつも勉強します。その後、日本人留学生中西くんの話を中心に、自己紹介から、ホテルの宿泊、買い物など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。この勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第1課 こんにちは 発音1	挨拶の言葉1 中国語の音節 声調 ドリル（発音のDVD視聴）
2	第2課 また明日 発音2	挨拶の言葉2 単母音 複母音 ドリル（発音のDVD視聴）
3	第3課 ありがとう 発音3	挨拶の言葉3 子音1 ドリル（発音のDVD 視聴）
4	第4課 お久しぶり 発音4	挨拶の言葉4 子音2 鼻音 ドリル（発音のDVD 視聴）
5	発音のまとめ	発音についての総復習
6	第5課 名前の言い方とたずね方	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
7	第6課 動詞、助詞	ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
8	第5課・第6課の復習	第5・6課についてのまとめと練習
9	第7課 中国語語順	基本語順・連動文 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
10	第8課 助動詞、動詞、指示代名詞	助動詞の位置・動詞「有」 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
11	第7課・第8課の復習	第7・8課についてのまとめと練習
12	第9課 動詞、方位詞	動詞「在」・方位詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
13	第9課 前置詞、場所代名詞	前置詞・場所代名詞 ポイントの練習 会話文 ワードバンクの単語を使い会話文を作る ドリル（CD、DVD）
14	まとめ	発音・文法についての総復習
15	まとめ	会話・作文についての総復習

科目名	中国語（中級）	科目ナンバリング	NLAS21023
担当者氏名	佟 曉寧		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

この講義は「中国語（初級）」の続きで基礎文法、会話文を勉強します。日本人留学生中西くんの話を軸に、買い物、料理の注文など中国への旅行に役立つ会話文を勉強します。一年間の勉強を通して中国語の基礎文法、挨拶、簡単な会話をマスターすることを目指します。中国語の検定試験準4級を受けるレベルをも目指します。

《テキスト》

『しゃべってもいいとも 中国語』
陳 淑梅・劉 光赤、朝日出版社、2010

《参考図書》

特に使いません。
ポイントにあわせてDVD視聴します。

《授業の到達目標》

- 発音 中国語式のローマ字（ピンイン）をマスターする。
- 挨拶 文法にこだわらず、簡単な日常挨拶ができる。
- 文法 基礎文法の勉強により、簡単な文章が作れる。
- 会話 簡単な日常会話ができる。
- 中国語検定試験準4級を受けるレベルに達することができる。

《成績評価の方法》

- ・授業態度30%
- ・課題などの提出物20%（発音、ヒヤリングの実施を含む）
- ・期末試験50%（テキストなどの「持ち込み不可」にて実施）

《授業時間外学習》

- ・予習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②新出単語をチェックすること
- ・復習の方法
 - ①CDを聞くこと
 - ②会話文を暗誦すること

《備考》

- ・「中国語（初級）」と「中国語（中級）」をペアでとるのがお勧めです
- ・毎回出席をとる、授業中の私語を禁じる

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	第10課 文法	①数の言い方 ・ お金の言い方 ②形容詞の文
2	第10課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
3	第11課 文法	①年月日、曜日の言い方 ②年齢の言い方
4	第11課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
5	第12課 文法	①量詞（ものの数え方） ②動詞の重ね方
6	第12課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
7	第13課 文法	①時刻の言い方 ②状態の変化の「了」（～になる）
8	第13課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
9	第14課 文法	①時間量の言い方 ②完了の「了」の使い方
10	第14課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
11	第15課 文法	①前置詞「給」 ②助動詞「可以」「能」
12	第15課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
13	第16課 文法	①現在進行形の言い方 ②助動詞「会」
14	第16課 会話	会話の練習、ヒヤリング、ドリル
15	まとめ	総復習

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	NLAS21024
担当者氏名	高 秀美		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

テキストに付いているCDを良く聞きながら発音の練習をすることが必要です。又は出席及び積極的授業参加、復習・予習が求められます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業ガイダンス・文字と発音①基本母音	授業のガイダンスを始め、簡単に韓国文化、韓国語の歴史や文字について説明する。そして、韓国語の基本母音（10個）について説明する。
2	文字と発音②子音（平音）	韓国語の基本母音を復習後、基本子音（10個）を学ぶ。
3	文字と発音③子音（激音・濃音）	韓国語の基本子音を復習後、激音と濃音を学ぶ。
4	文字と発音④二重母音	韓国語の子音を復習後、基本母音字の組み合わせで作られた複合母音を勉強する。
5	文字と発音⑤子音（終声子音）・読み方の法則	子音と母音の組み合わせを単語を使って練習後、パッチム（子音+母音の後に来る子音、支えろと意味）について勉強する。
6	文化項目（1）：韓国の映画感想	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第1課 私は吉田ひかるです。	～です・ですか（합니체）、～は(助詞)について学習する。
8	第2課 お名前は何か。	～です・ですかの(해요체)、～が(助詞)について学習する。
9	第3課 ここは出口ではありません。	～ではありません(名詞文の否定)、～も(助詞)について学習する。
10	Review 1	第1課から第3課まで復習、練習問題を通じて確認する。自己紹介の練習を行う。
11	第4課 近くに地下鉄の駅ありますか。	～います・～あります又は～いません・ありません、～に(助詞)について学習する。
12	第5課 学校の図書館でアルバイトをします。	～をします又は～で(場所+에서)を学習する。
13	第6課 私の誕生日は10月9日です。	漢数字：日本語のいち、に、さんに相当する年、月、日、値段、電話番号、何人前、学年、階、回、号室などに使う。漢数字を学習する。
14	Review 2	第5課と第6課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（初級）	科目ナンバリング	NLAS21024
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

韓国語の正しい読み書きと会話ができるようにする。韓国語の文字の仕組みと発音を徹底的に習得した上で、文法について総合的に学ぶ。また語学のみならず、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。授業では、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。

《テキスト》

『新装版できる韓国語 初級 I』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『できる韓国語 初級 I ワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業の到達目標》

- 1) 韓国語の読み書きができる。
- 2) 日本語にはない韓国語の発音ができる。
- 3) 日本語との類似点や相違点について理解できる。
- 4) 挨拶、自己紹介、近況に関する挨拶などの会話ができる。

《授業時間外学習》

- 1) 前日に学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	韓国と韓国語について	韓国・韓国語の紹介／本講義のオリエンテーション／基本母音について
2	基本母音・子音・平音	ハングル表に沿って、正しい発音をみにつける。
3	激音と濃音	日本語にはない独特の発音形態である激音・濃音について理解をする。単語を読みながら発音する。
4	パッチム	パッチムの型と、正しい発音を、単語を使って発音する。
5	合成母音	合成母音の正しい発音を、単語を使って発音する。
6	挨拶／「私は日本人です。」	「～です」「～ですか?」という基本文型と、韓国語で自己紹介を行う。
7	「日本人ではありません。」	「～ではありません」という基本文型について理解する。
8	「それは何ですか。」	日常会話の練習と、指示詞（この・その・あの・どの）について理解する。
9	「約束があります。」	「あります」「います」の基本文型を話す。
10	「約束がありません。」	「ありません」「いません」の基本文型を話す。
11	「会社はどこにありますか。」	位置、場所の表現について理解する。
12	「週末は何をしますか。」	基本動詞について理解し、話す。
13	「週末は何を作りますか。」	「です・ます型」、「並列」を理解する。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話練習を行う。
15	まとめ	今まで学んだ文法のまとめ。

科目名	韓国語（中級）		科目ナンバリング	NLAS21025	
担当者氏名	高 秀美				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力				

《授業の概要》

韓国語（ハングル）の文字の仕組みを理解しながら単語と文章の読み書きや聞き取りの練習をしながら学習する。文法事項を理解しながら挨拶や自己紹介などの基礎的な会話表現を学習する。韓国の社会や生活文化などが理解できる映画やドラマを選定し、語学能力を含む文化の理解を深める。

《授業の到達目標》

1. ハングル文字構成を理解し、日常生活で最も良く使われる基礎的な短文表現を身につける。
2. 簡単な挨拶や自己紹介からはじめ、学習内容を基礎にして場面別の会話表現を習得する。
3. 韓国・朝鮮の文化の理解を深め、コミュニケーション能力及び国際感覚を身につける。

《成績評価の方法》

授業への取り組み姿勢30%、小テスト20%、期末テスト50%

《テキスト》

『みんなで学ぶ韓国語（文法編）』
 金眞・柳圭相・芦田麻樹子 朝日出版社

《参考図書》

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』
 油谷幸利 他編著 小学館、2004年
 『パスポート朝鮮語小事典』
 塚本勲 監修・熊谷明泰編集 白水社、2011年
 『基礎から学ぶ韓国語講座 初級』
 木内 明著、国書刊行会、2004年

《授業時間外学習》

テキストの基礎学習内容を中心に学習し、話せる語学授業を目指すのが大事ですので声を出して発音の練習をしてください。自作のプリントなど様々な資料を配るので自ら学習することをお願いします。

《備考》

発音の練習やペアで応用会話の練習をしながら楽しく話せる語学授業を考えています。特に、「韓国語（初級）」を必ず受講してから「韓国語（中級）」を受講するのをおすすめします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	復習及び数字の活用	「韓国語（初級）」の学習内容を再確認し、質疑応答
2	第7課 友達とランチを食べます。	用言の『です・ます形』 『～합니다体』、～と(助詞) について学習する。
3	第8課 日本の冬はあまり寒くありません。	動詞や形容詞の否定表現と覚えておきたい動詞を文章を作りながら学習する。
4	第9課 キムチは辛いけどおいしいです。	接続語尾～して、～くて、～であり、～が、～けれどについて学習する。
5	Review 3	第7課から第9課まで復習、練習問題を通じて確認する。
6	文化項目(2)：韓国の映画を通しての文化理解	韓国文化や韓国人の生活を映像を通じて学ぶ
7	第10課 今日は天気がとても良いです。	用言の『です・ます形』、『～해요体』～と不可能の表現について学習する。
8	第11課 公園で友達を待ちます。	用言の『です・ます形』、『～해요体』を復習し、縮約形の『～해요体』を学習する。
9	第12課 合コンは今日の夕方6時です。	固有数字：日本語の一つ、二つに当たる数字、～歳、時間、個、名、枚、台などに使う、固有数字を学習
10	Review 4	第10課から第12課まで復習、練習問題を通じて確認する。
11	第13課 KTXで3時間かかりました。	動詞の過去形を学習する。又は～から～までと手段を表す助詞を学ぶ。
12	第14課 韓国の映画は好きですか。	様々な尊敬の表現を学習する。
13	第15課 道を教えてください。	お願い表現、丁寧な命令形について学習する。
14	Review 5	第14課と第15課を復習、練習問題を通じて確認する。
15	まとめ	これまで学習内容を再確認し、質疑応答

科目名	韓国語（中級）	科目ナンバリング	NLAS21025
担当者氏名	李 良姫		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-E 社会・文化について理解する力		

《授業の概要》

初級で学んだ読み書きと会話を復習した上で、様々な状況で使う会話を幅広く学習する。さらに、ビジネスや文化など現在の韓国の最新事情を学ぶことで、韓国に対する理解とコミュニケーション能力を高める。また、最近の韓国のドラマや音楽などの視聴覚資料を使い、現在韓国で使われている一般的な韓国語に慣れるようにする。加えて、韓国語能力試験についても対策を行う。

《授業の到達目標》

- 1) 様々な状況で使う会話ができる。
- 2) 語彙を増やして豊かな表現ができる。
- 3) 韓国語で自分の意見を言うことができる。
- 4) 韓国語能力試験初級レベルを目指すことができる。

《成績評価の方法》

- 1) 小テスト20%
- 2) 課題等の提出物20%
- 3) 定期試験60%

《テキスト》

『できる韓国語初級Ⅰ』、李志暎、新大久保語学院、2010

《参考図書》

『韓国語 初級Iワークブック』、李志暎、新大久保語学院、2011

《授業時間外学習》

- 1) 前回到学習した単語を徹底的に復習し、次回の授業に備えて予習をする。
- 2) 出された課題について学習し、提出する。

《備考》

常に韓国、韓国語に興味を持ち、資料等を集める。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	挨拶	韓国語で挨拶を行い自己紹介をする。様々な場面での挨拶について学習する。
2	初級の復習	初級で学んだ内容を復習する。
3	「お名前は？」	敬語の基本形・初対面の時の敬語について理解できる。
4	「そんなに遠くありません。」	形容詞について理解できる。
5	「いつきますか。」	漢数詞について理解できる。
6	「今日は雨が降りますね。」	感嘆・同感の表現できる。
7	「釜山までどうやっていきますか。」	へヨ体が使える。
8	「何時からですか。」	固有語数詞が話せる。
9	「私は毎朝、8時に起きます。」	「私の一日」「スケジュール」が作成できる。
10	「いつ日本にきましたか。」	過去形が使える。
11	「キムチが美味しかったよ。」	過去形の基本形が理解でき、使い分けができる。
12	「今、学校の前にいますか。」	位置、場所の表現ができる。
13	韓国語能力試験について	韓国語能力試験の構成について理解できる。
14	フリートーキング	今まで学んだ文法を使っての会話ができる。
15	まとめ	今まで学んだ文法をまとめる。

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	NPHL21026	
担当者氏名	三宅 一郎				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力			

《授業の概要》

体力科学・運動科学・健康科学の三つの柱で進める。体力とは？運動の必要性は？健康とは？それぞれの側面から健康づくり・体力づくりを考える。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料を配付する。

《授業の到達目標》

健康とスポーツの関わりについて理解を深める。健康については、生活習慣病の予防や日常生活における健康管理等について探る。スポーツも見る楽しさやスポーツを実践する際の効果的な方法を学ぶ。健康とスポーツ関連の事項を学ぶことにより、“生涯を通して積極的に健康づくりができる力” “自己の健康管理ができる力”を身につける事をめざす。

《参考図書》

『健康・スポーツ科学入門』出村真一・村瀬智彦（大修館書店）、『体力を考える～その定義・測定と応用～』宮下充正著（杏林書院）、『からだの‘仕組み’のサイエンス』—運動生理学の最前線—加賀谷淳子他（杏林書院）、『生涯スポーツ実践論』川西正志・野川春夫（市村出版）、『運動発達の科学』～幼児の運動発達を考える～三宅一郎（大阪教育図書）

《授業時間外学習》

＜予習方法＞
下記の授業計画における次時の授業内容をあらかじめ参考文献等で確認しておくことでより理解が深まる。
＜復習方法＞
学んだ内容を配付資料等で再確認することによって今後の自己の健康管理に生かして欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間与えるテーマに対するミニレポート（50%）、受講に取り組む姿勢等の平常点（20%）、学期末に課題に対するレポート（30%）の総合で評価する。

《備考》

この授業を受講することによって、自分自身の健康づくりや体力づくりを再確認して欲しい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の進め方や方法・評価方法・その他注意事項等について
2	体力の考え方と構造	体力とは何か？体力の分類等の考え方とその構造について学ぶ
3	体力の測定と評価	体力の測定方法と評価の意義について学ぶ。さらに測定結果の活用方法についても併せて学ぶ。
4	体力の加齢変化と性差	発育発達と体力。また加齢による体力の変化について学ぶ。
5	運動生理学の基礎	運動生理学の基礎知識を学ぶ。
6	バイオメカニクスの基礎	バイオメカニクスの基礎意識を学ぶ。
7	運動栄養学の基礎	運動栄養学の基礎知識を学ぶ。
8	トレーニング論の基礎	トレーニングの種類と実施方法等を学ぶ。
9	健康の考え方	様々な健康の捉え方や考え方について学ぶ。
10	健康づくりと運動処方	健康づくりに必要な運動処方の考え方について学ぶ。
11	健康づくりと運動実践	健康づくりの為の運動実践を考えると共に実践の仕方を学ぶ。
12	健康と体力の関係	健康と体力の関係について学び、必要な体力づくり等を学ぶ。
13	今後の健康づくりについて考える①	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その1）。
14	今後の健康づくりについて考える②	学んだ知識を基にしたこれからの健康づくりを考え実践方法を構築する（その2）。
15	まとめ	学んだ内容の確認と評価

科目名	健康・スポーツ科学 I (講義)		科目ナンバリング	NPHL21026	
担当者氏名	矢野 琢也				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力 ○ 基教-G 論理的思考力 			

《授業の概要》

健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要条件です。健康運動科学の入門にあたって、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけ、適切に組み合わせる事で、より効果的な健康・スポーツ活動が行えるようにします。そうした基礎知識の習得を行います。

《授業の到達目標》

健康運動科学の入門として、1.運動(トレーニング)、2.栄養、3.休養の3つの基礎知識を身につけます。健康や運動に関する興味関心の向上や運動実施の動機付けも目標とします。

《成績評価の方法》

ほぼ毎回の「授業のまとめ」の提出60%、期末の課題レポート20%、小テスト20%で評価します。出席回数が授業回数の2/3未満は評価対象外とします。

《テキスト》

指定しません。必要に応じて資料を配布します。

《参考図書》

「健康づくりのための運動科学」化学同人、「スポーツ生理学」化学同人、「エクササイズ科学」文光堂

《授業時間外学習》

事前に関連の箇所を参考図書等で学ぶこと。新聞、雑誌、テレビ等から関連の情報を入手し、基礎知識を増やす事。

《備考》

受講態度に問題がある場合は、注意、警告の上、退出等の指導を行います。時間厳守で授業に望むことを強く希望します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の展開方法や評価等について説明します。受講者希望者は必ず出席する事。
2	健康科学の現状について	健康運動科学の現状を最新の情報も交えながら解説する。
3	健康づくりと運動について1	健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
4	健康づくりと運動について2	高齢者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
5	健康づくりと運動について3	中高年者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
6	健康づくりと運動について4	若者、特に女性における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する(減量など)。
7	健康づくりと運動について5	年少者における、健康づくりのためのレジスタンストレーニング(筋トレ)の必要性や効果を理解する。
8	健康づくりと運動について6	有酸素系運動の効果と重要性について理解する。
9	健康づくりと栄養について1	栄養素の働きと重要性について理解する。
10	健康づくりと栄養について2	栄養素の働きと重要性について。特にサプリメントの活用方法とその意義について理解する。
11	健康づくりと栄養について3	運動と栄養の関係について。効果的な運動処方について理解する。
12	休養について1	コンディショニングとしての積極的休養について理解する。
13	休養について2	休養における睡眠の意義と重要性について理解する。
14	休養について3	スポーツにおける休養(リカバリー)の方法とそのメカニズムの基礎について理解する。
15	まとめ	まとめを行い、小テストでその理解度を確認する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅱ(演習)		科目ナンバリング	NPHS21027	
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)随時テーマに対するレポート提出(20%)学期末にまとめのレポート提出(30%)

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト(1回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目(体育館)	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。
4	②屋外種目(テニスコート・周辺)	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。
5	③屋外種目(グラウンド)	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。
6	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
7	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
8	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
9	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
10	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
11	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
12	①屋内種目(体育館)	前週③実施グループ→①屋内種目(体育館)を実施
13	②屋外種目(テニスコート・周辺)	前週①実施グループ→②屋外種目(テニスコート・周辺)
14	③屋外種目(グラウンド)	前週②実施グループ→③屋外種目(グラウンド)
15	体力テスト(2回目)	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正(大修館)
『からだロジー入門』宮下充正(大修館)

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
<復習方法>実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする(平服は不可)。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

科目名	健康・スポーツ科学Ⅲ(演習)		科目ナンバリング	NPHS21028	
担当者氏名	三宅 一郎、徳田 泰伸、樽本 つぐみ、矢野 琢也				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 基教-A コミュニケーション力 ○ 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力 ◎ 基教-F 自然・健康について理解する力				

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>
 シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法>
 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

評価の基準は以下の通りである。毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	授業オリエンテーション	授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。
2	体力テスト（1回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。
3	①屋内種目（体育館）	バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。
4	②屋外種目（テニスコート・周辺）	テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。
5	③屋外種目（グラウンド）	ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。
6	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
7	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
8	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
9	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
10	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
11	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
12	①屋内種目（体育館）	前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施
13	②屋外種目（テニスコート・周辺）	前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）
14	③屋外種目（グラウンド）	前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）
15	体力テスト（2回目）	文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。

科目名	私のためのキャリア設計	科目ナンバリング	NCAL21029
担当者氏名	三上 嘉代子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<input type="radio"/> 基教-A コミュニケーション力 <input type="radio"/> 基教-C 多様なものの見方、考え方ができる力 <input checked="" type="radio"/> 基教-D 自己を認識し、他者を理解する力		

《授業の概要》

「キャリアデザイン」に必要とされる自己理解について、自分自身を知るためのワーク（ワークシート作成等）を行いながら、体験的に社会が求める力について学ぶ。

《授業の到達目標》

キャリアについて理論や演習を通じて学び、有意義な大学生活を過ごすための力や将来の自分自身について主体的に考え、行動することができる。

《成績評価の方法》

平常点(授業への取組姿勢) 50%、各分野の学習後に課するレポート 50%

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の狙い、授業の進め方、現在の自己全体を考える
2	マナー①	基本編：挨拶の重要性・言葉づかい
3	マナー②	実践編：面接時のマナー
4	コミュニケーションについて①	聴く力、傾聴について考える
5	コミュニケーションについて②	伝える力、アサーショントレーニングについて考える
6	自分自身を理解する①	自我状態や対人関係の基本的な姿勢を知り自己理解を深める
7	自分自身を理解する②	自他評価を分析する
8	自分自身を理解する③	相互理解を深める
9	人を選ぶ・選ばれる	学生時代に力をいれたこと
10	自分の将来設計	これから就きたい仕事
11	社会が求める力を考える①	採用会議～自律性・自立性を高める
12	社会が求める力を考える②	考える力を身につける～適正を知る～
13	社会が求める力を考える③	総合力を身につける
14	行動計画：プレゼンテーション	準備（自分を語るシート記入）、発表
15	行動計画：プレゼンテーション	発表

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

平木典子『自分の気持ちをきちんと伝える技術』PHP研究所(2011年)、小樽商科大学キャリア教育開発チーム+キャリアバンク編『大学ノムコウ』日本経済評論社(2008年)、寿山泰二『社会人基礎力が身につくキャリアデザインブック～自己理解編～』金子書房2012年

《授業時間外学習》

シラバスの進行に合わせて予習する内容を伝えます。毎回の授業の課題等を整理し、まとめて復習することが必要です。

《備考》

コミュニケーションの基本は「あいさつ」です。授業は「あいさつ」から始め「あいさつ」で終わります。

平成 28（2016）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成28年度（2016年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
I群 (領域に関する科目)	化学基礎	NlbX11011	講義	2						2							[谷口 武]・[大藤 隆彦]	103	
	生物基礎	NlbX11012	講義	2						2							[市村 豊]・[立谷 正樹]	104	
	基礎ゼミⅠ	NlaX11001	演習	2						2							*1	105	
	基礎ゼミⅡ	NlaX11003	演習	2						2							*1	106	
	基礎生化学	NlbX11002	講義	2					B	2							本澤 真弓	107	
	調理基礎実習	NlbX11004	実習	1						3							富永しのぶ	108	
	コミュニケーション論	NlbX11005	講義	2						2							[柏木 登起]	109	
	食料経済	NlbX24006	講義	2									2						
	健康科学	NlaX21007	講義	2						2							松村 末夫	110	
	健康情報処理演習	NlbX11008	演習	2						2							湯瀬 晶文	111	
	フードスペシャリスト論	NlbX24009	講義	2									2						
	フードコーディネータ論	NlbX24010	講義	2									2						
II群 (専門基礎に関する科目)	管理栄養士概論	NBcD11011	講義	2		◇	○	△		2							小林 麻貴	112	
	公衆衛生学Ⅰ	NBcD11012	講義	2		◇	○	△	D		2						(多田 章夫)	113	
	公衆衛生学Ⅱ	NBcD22013	講義	2			○	△			2								
	社会保障制度論	NBcD12014	講義	2		◇	○	△				2							
	保健統計学実習	NBcD23015	実習	1			○	△					3						
	生化学Ⅰ	NBdD11016	講義	2		◇	○	△	B	2							本澤 真弓	114	
	生化学Ⅱ	NBdD22017	講義	2			○	△	B		2								
	生化学実験Ⅰ	NBdD12018	実験	1		◇	○	△	B			3						☆	
	生化学実験Ⅱ	NBdD22019	実験	1			○	△	B				3					☆	
	解剖生理学Ⅰ	NBdD11020	講義	2		◇	○	△	B	2							佐藤 隆	115	
	解剖生理学Ⅱ	NBdD11021	講義	2		◇	○	△	B	2							佐藤 隆	116	
	解剖生理学実験Ⅰ	NBdD12022	実験	1		◇	○	△				3						☆	
	解剖生理学実験Ⅱ	NBdD22023	実験	1			○	△					3					☆	
	臨床病態学Ⅰ	NBdD12024	講義	2		◇	○	△	E	2							内田 亨	117	
	臨床病態学Ⅱ	NBdD22025	講義	2			○	△	E		2								
	生体防御論	NBdD23026	講義	2			○	△	C				2						
	食品学Ⅰ	NBeD11027	講義	2		◇	○	△	B	2							中井 玲子	118	
	食品学Ⅱ	NBeD11028	講義	2		◇	○	△	C	2							細川 敬三	119	
	食品学実験Ⅰ	NBdD11029	実験	1		◇	○	△	B		3						中井 玲子	120	
	食品学実験Ⅱ	NBdD12030	実験	1		◇	○	△	B			3						☆	
食品衛生学	NBdD12031	講義	2		◇	○	△	D			2								
食品衛生学実験	NBdD23032	実験	1			○	△	D				3					☆		
調理学	NBdD11033	講義	2		◇	○	△		2							富永しのぶ	121		
調理学実習Ⅰ	NBdD11034	実習	1		◇	○	△			3						富永しのぶ	122		
調理学実習Ⅱ	NBdD12035	実習	1		◇	○	△				3						☆		

*1 細川・中井・真鍋・富永・増村・嶋津

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成28年度（2016年度）入学者対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当り授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択					1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目 (専門に関する科目)	基礎栄養学Ⅰ	NAfD11036	講義	2		◇	○	△	E	2								松村 末夫	123	
	基礎栄養学Ⅱ	NAfD11037	講義	2		◇	○	△	E		2							松村 末夫	124	
	基礎栄養学実験	NAfD12038	実験	1		◇	○	△	E			3								☆
	応用栄養学Ⅰ	NAgD12039	講義	2		◇	○	△	E			2								
	応用栄養学Ⅱ	NAgD22040	講義	2			○	△					2							
	応用栄養学Ⅲ	NAgD23041	講義	2			○	△	E					2						
	応用栄養学実習	NAgD23042	実習	1			○	△							3					☆
	栄養教育論Ⅰ	NAhD12043	講義	2		◇	○	△	E			2								
	栄養教育論Ⅱ	NAhD12044	講義	2		◇	○	△					2							
	栄養教育論演習	NAhD23045	演習	2			○	△						2						
	栄養教育論実習Ⅰ	NAhD13046	実習	1		◇	○	△							3					☆
	栄養教育論実習Ⅱ	NAhD13047	実習	1		◇	○	△								3				☆
	臨床栄養学Ⅰ	NAiD12048	講義	2		◇	○	△				2								
	臨床栄養学Ⅱ	NAiD22049	講義	2			○	△					2							
	臨床栄養学Ⅲ	NAiD23050	講義	2			○	△						2						
	臨床栄養学実習	NAiD13051	実習	1		◇	○	△							3					☆
	臨床栄養学演習	NAiD23052	演習	2			○	△							2					
	公衆栄養学Ⅰ	NAjD12053	講義	2		◇	○	△	E				2							
	公衆栄養学Ⅱ	NAjD23054	講義	2			○	△						2						
	公衆栄養学実習	NAjD13055	実習	1		◇	○	△							3					☆
	給食経営管理論	NAkD12056	講義	2		◇	○	△				2								
	給食管理実習Ⅰ	NAkD12057	実習	1		◇	○	△						3						☆
	給食管理実習Ⅱ	NAkD13058	実習	1		◇	○	△	E						3					☆
	フードサービスマネジメント演習	NAkD23059	演習	2			○	△							2					
	総合演習Ⅰ	NAmD23060	演習	1			○	△						1						
	総合演習Ⅱ	NAmD23061	演習	1			○	△							1					
	総合演習Ⅲ	NAmD24062	演習	1			○	△								1				
	総合演習Ⅳ	NAmD24063	演習	1			○	△									1			
	給食管理臨地実習	NAnD13064	実習	1		◇	○	△							2					☆
	臨床栄養臨地実習	NAnD23065	実習	2			○	△							4					☆
	公衆栄養臨地実習	NAnD24066	実習	1			○	△								2				☆
	卒業研究	卒業研究Ⅰ	NDpX23067	演習	3											3				
卒業研究Ⅱ		NDpX24068	演習	3												3				

- ◇は栄養士免許必修科目
- は管理栄養士国家資格必修科目
- △は栄養教諭必修科目

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄の①～⑤は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

①～⑤別表第14にかかげた科目・⑥は別表第15にかかげた科目

①化学関係（教養科目「化学」）修得のこと ②生物化学関係 ③微生物関係 ④公衆衛生学関係 ⑤その他関連科目

①～⑤群から1科目以上、最低修得単位数(①+②+③+④)22単位以上

最低修得単位数合計(①+②+③+④+⑤) 40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成28年度（2016年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職概論	NTAL41001	講義		2			△		2								[砂子 滋美]	125
	教育原理	NTAL41002	講義		2			△		2								(岡本 洋之)	126
	教育史	NTAL53003	講義		2			▲						2					
	教育心理学	NTAL42004	講義		2			△				2							
	教育制度論	NTAL42005	講義		2			△		2								(古田 薫)	127
	教育課程論 (道徳・特別活動を含む)	NTAL42006	講義		2			△				2							
	教育方法・技術論	NTAL42007	講義		2			△				2							
	生徒指導論	NTAL42008	講義		2			△				2							
	教育相談(カウンセリングを含む)	NTAL41009	講義		2			△		2								(原 志津)	128
	事前事後指導	NTEI43003	演習		1			△						1					
	栄養教育実習	NTEI44004	実習		1			△							3				
	教職実践演習 (栄養教諭)	NTEI44005	演習		2			△								2			

〔栄養に係る教育に関する科目〕

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養に係る教育に関する科目	学校栄養教育論 I	NTEI43001	講義		2			△						2					
	学校栄養教育論 II	NTEI43002	講義		2			△						2					

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 栄養教諭免許を取得するためには、上記「栄養に係る教育に関する科目」を修得しなければならない。

ただし、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	化学基礎	科目ナンバリング	NBAL11004
担当者氏名	谷口 武、大藤 隆彦		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

授業期間の2/3を用いて、原子の構造や化学結合、化学反応や分子の状態などについて学び、物質への理解を深めます。その後の1/3の期間で、生命に関連の深い有機化学の基礎について学び、健康・医療・栄養科学を学ぶための導入となる講義を行います。

《授業の到達目標》

大学で健康・医療・栄養の関連分野を学ぶためには、化学の基礎知識が必要となります。化学的な知識があつてこそ、これらの学問の理解を速やかに進め、応用することができると考えます。本講義では、高校で履修する化学と同程度の基本的な知識を、生体成分や栄養成分の知識と密に関連して授業を進めることによって、健康・医療・栄養という各専門分野での勉強が確かな土台の上でおこなえるようにします。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び受講態度を含めた平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	物質の探求・構成粒子	物質を構成する原子と原子の構想、電子配置など
2	物質と化学結合	イオン結合や共有結合などいろいろな結合
3	物質質量	原子量と分子量、式量、モル
4	溶液の濃度	質量パーセント濃度、モル濃度
5	化学反応	化学変化における反応物と生成物の関係、化学反応と熱エネルギー
6	酸と塩基	酸と塩基、水素イオン濃度、中和反応
7	酸化還元反応	酸化・還元とは、参加数
8	物質の状態	状態変化、熱運動、アチーブメントテスト
9	溶液	溶解、溶解度、浸透圧とは
10	有機化合物Ⅰ	有機化合物とは、官能基
11	有機化合物Ⅱ	飽和炭化水素、不飽和炭化水素
12	有機化合物Ⅲ	アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸など
13	有機化合物Ⅳ	ベンゼン、フェノール、ニトロベンゼンなど
14	天然高分子化合物	糖類、タンパク質、核酸
15	まとめ	学習の総括とアチーブメントテスト

《テキスト》

「サイエンスビュー化学総合資料」（実教出版）

《参考図書》

上記のテキストで十分ですが、さらに進んだ化学の学習を望む者には次の書籍を推薦します。
「化学の基礎 化学入門コース1」竹内敬人著（岩波書店）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、次回の授業で行う確認テストで満点を目指してください。

《備考》

食品や健康について専門的に学ぶためには化学の基礎知識は不可欠です。この化学基礎講義で、専門分野の勉強の基礎をしっかり築きましょう。化学の予備知識は不要です。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	生物基礎	科目ナンバリング	NBAL11005
担当者氏名	市村 豊、立谷 正樹		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

本講義では、毎回の授業ごとに異なるテーマを設けています。特に生体・生命のしくみに関する知識に重点をおいて、まず生物の基本単位である細胞の機能と構造から学習を進め、最後の免疫系の学習に至るまで、全体の授業で生体・生命のしくみの概要を幅広く網羅した内容となっています。

《授業の到達目標》

健康・医療・栄養の専門家を目指す学生に必須となる生物の基礎知識を身につけることを目標としています。今後履修する専門科目の受講に先立って、幅広く生命・生体についての理解を深めるガイダンス的な講義です。

《成績評価の方法》

アチーブメントテストの成績を主とし、この他に授業中に行う小テスト及び平常点を加味して総合的に評価します。（アチーブメントテスト70%、平常点30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞の構造と機能 細胞膜の性質	細胞は生物の基本単位。 細胞膜は半透膜・・・半透膜はどんな膜？
2	細胞をつくる物質	主役はタンパク質。 生体元素と生体を構成する化合物
3	酵素の機能と性質 体細胞分裂	酵素は働き者。生命現象と化学反応。 遺伝情報の分配。
4	小テスト 呼吸と光合成	生きるにはエネルギーがいる。 細胞がエネルギーを得る仕組み。
5	多様な生殖法 減数分裂	生物は寿命があるが、子孫を残す。生物はどのように増えるのか？ 染色体と遺伝子。遺伝的なバラエティーはどのようにして生まれるか？
6	発生	たった一つの細胞から、複雑な生物体ができるまで。
7	遺伝Ⅰ メンデルの遺伝の法則	遺伝の基本的なしくみ。
8	遺伝Ⅱ 様々な遺伝・ヒトの遺伝	親の形質の伝わり方。 あなたの耳あかは乾いていますか、湿っていますか？
9	小テスト 核酸の構造と複製	遺伝情報の複製のしくみ。
10	タンパク質の合成	遺伝子からタンパク質へ。転写と翻訳。
11	神経細胞と伝導・伝達のしくみ	体の中の情報ネットワーク。
12	小テスト 血液・肝臓・腎臓の働き	体内の物質の移動・循環。 ものを作り、貯え、分解する化学工場（肝臓）、そして排出する浄化装置（腎臓）。
13	自律神経系と内分泌系	自律神経系はアクセルとブレーキ。内分泌系で持続的な調節。 自律神経とホルモンの連携で体内環境を調節。
14	免疫系	体を外敵から守るしくみ。
15	アチーブメントテスト	学習の総括。評価。

《テキスト》

「新課程版 フォトサイエンス生物図録」
数研出版編集部編（数研出版）

《参考図書》

「タンパク質の一生——生命活動の舞台裏」
永田和宏（岩波新書）
「細胞のはたらきがわかる本」伊藤明夫（岩波ジュニア新書）
「DNAがわかる本」中内光昭（岩波ジュニア新書）
「カラー図説アメリカ版大学生物の教科書」全5巻
グレイグ・H・ヘラー他著（ブルーバックス）

《授業時間外学習》

授業中に指摘したポイントをしっかり復習し、3回行う小テストで満点を目指してください。

《備考》

生物だからこそ必要な栄養と健康。今後履修する栄養や健康の専門分野に関連する生物学上の話題を取り入れながら、広く生物全般にわたる基礎的な知識を習得します。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミ I	科目ナンバリング	NIaX11001
担当者氏名	細川 敬三、中井 玲子、真鍋 祐之、富永 しのぶ、増村 美佐子、嶋津 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。そこで、この基礎ゼミ I では学ぶための基礎力養成を目指す。授業はチュータークラスごとの実施を中心として進行する。一般的なテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって若干異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミ I ではその中でも特に2つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、ノートテイキングを中心とした専門用語を駆使した情報の整理、活用法を学ぶことである。また、もう一つはデータ情報の整理、活用法を学ぶことである。専門家として必要な情報を自ら取り入れるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

課題評価（60%）、および毎回の授業態度（40%）で評価する。

《テキスト》

随時、指定する。

《参考図書》

随時、指定する。

《授業時間外学習》

- ・配布する資料プリントを読んで、理解してこること。
- ・適宜課題を出すので、その課題をやってくるここと。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。

《備考》

授業初回到にルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。当初の計画から若干変更する可能性がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	科目の位置づけ・スケジュール等について理解する。（全体説明）
2	解説：授業への挑み方	大学における授業の受け方のコツ（授業の聴き取り方、ノートテイキング、情報のまとめ方）について理解する。（全体説明）
3	演習：授業への挑み方①	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
4	演習：授業への挑み方②	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。自習（調べ物）の仕方についても学習する。（チュータークラス別）
5	演習：授業への挑み方③	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
6	演習：授業への挑み方④	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
7	演習：授業への挑み方⑤	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。合同報告会（中間）の準備をする。（チュータークラス別）
8	合同報告会（中間）	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。各チュータークラスの進捗状況の発表を聴講する。（全体集合）
9	合同報告会のふりかえり	合同報告会の内容を再確認し、目標を新たに立てる。（チュータークラス別）
10	演習：授業への挑み方⑥	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
11	解説：プレゼンテーションのコツ	効果的なプレゼンテーション法について理解する。（全体説明）
12	演習：プレゼンテーションのコツ①	合同報告会（期末）のプレゼンテーション資料を作成し、発表の準備を行う。
13	演習：プレゼンテーションのコツ②	合同報告会（期末）のプレゼンテーション資料を作成し、発表の準備を行う。
14	合同報告会（期末）	ノートテイキングを中心とした学習内容の復習、確認を行う。各チュータークラスの進捗状況の発表を聴講する。（全体集合）
15	まとめ	授業のふりかえり等を行う。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	基礎ゼミⅡ	科目ナンバリング	NIaX11003
担当者氏名	細川 敬三、中井 玲子、真鍋 祐之、富永 しのぶ、増村 美佐子、嶋津 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

大学では自ら学ぶ姿勢が必須である。しかし、自ら学ぶには必要な情報を探して取り入れ、思考・分析し、適切に表現する必要があり、これらを達成するためには様々な能力を必要とする。そこで、この基礎ゼミⅡでは基礎ゼミⅠに引き続き学ぶための基礎力養成を目指す。授業はチュータークラスごとの実施を中心として進行する。全般的なテーマは共通であるが、対象や方法は担当者によって若干異なることもある。

《授業の到達目標》

上記のようなねらいのもと、この基礎ゼミⅡではその中でも特に2つの点に重点を置いて授業を行う。ひとつは、ノートテイキングを中心とした専門用語を駆使した情報の整理、活用法を学ぶことである。また、もう一つはデータ情報の整理、活用法を学ぶことである。専門家として必要な情報を自ら取り入れるために必要な基礎能力育成を目標とする。

《成績評価の方法》

課題評価（60%）、および毎回の授業態度（40%）で評価する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション①	科目の位置づけ・スケジュール等について理解する。（全体説明）
2	オリエンテーション②	学修前の実力把握
3	解説：管理栄養士に求められる計算力、シーン①	各専門領域の担当者によるポイント解説を聴講し、演習に臨む。（全体説明）
4	演習：管理栄養士に求められる計算力、シーン①	学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
5	解説：管理栄養士に求められる計算力、シーン②	各専門領域の担当者によるポイント解説を聴講し、演習に臨む。（全体説明）
6	演習：管理栄養士に求められる計算力、シーン②	学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
7	解説：管理栄養士に求められる計算力、シーン③	各専門領域の担当者によるポイント解説を聴講し、演習に臨む。（全体説明）
8	演習：管理栄養士に求められる計算力、シーン③	学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
9	情報交換会①	前半の学習内容に関するテーマで情報交換を行う。学生間の交流と情報共有化を促進する。
10	情報交換会②	情報交換を通して発見された弱点とその解決に向けて情報の共有化を図る。
11	解説：管理栄養士に求められる計算力、シーン④	各専門領域の担当者によるポイント解説を聴講し、演習に臨む。（全体説明）
12	演習：管理栄養士に求められる計算力、シーン④	学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
13	解説：管理栄養士に求められる計算力、シーン⑤	各専門領域の担当者によるポイント解説を聴講し、演習に臨む。（全体説明）
14	演習：管理栄養士に求められる計算力、シーン⑤	学習内容の復習、確認を行う。（チュータークラス別）
15	解説：管理栄養士に求められる計算力、総復習	学習内容のふりかえりを行う。（全体説明）

《テキスト》

随時、指定する。

《参考図書》

随時、指定する。

《授業時間外学習》

- ・配布する資料プリントを読んで、理解してこること。
- ・適宜課題を出すので、その課題をやってくるここと。
- ・授業内容を復習し、不明な点は質問したり自分で調べたりすること。

《備考》

授業初回にルール（規則、注意事項）について説明する。そのルールが守られない場合は成績評価を行わないことがあるので注意すること。当初の計画から若干変更する可能性がある。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	基礎生化学	科目ナンバリング	NIbX11002		
担当者氏名	本澤 真弓				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

個体における種々の生命現象を理解するうえで基盤となるそれらに関わる生体成分の化学構造および特性、身体の基本単位である細胞およびオルガネラの構造と働きについての基本的事項を学習する。

《テキスト》

『化学・生化学—人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ） 大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2014）

《参考図書》

特に指定しない。（授業時に適宜指示する）

《授業の到達目標》

生体における複雑な生命現象の理解の基礎となる人体の構造と機能について、細胞レベルや物質・分子レベルで理解できるよう、細胞に関する基礎知識および生体成分の化学構造に関する基礎知識を身につける。（1）細胞の構造とオルガネラの機能、（2）生体成分の糖質、脂質、タンパク質、核酸などの有機化合物の基本構造と特徴が説明できる。

《授業時間外学習》

各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認し、授業内容の整理と知識の定着をこころがけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。

《備考》

授業進行の妨げになるので、私語は厳禁です。授業には積極性と集中力をもって望んで下さい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	細胞（1）	細胞を基本単位とする生体の階層性（組織、器官、系、個体にいたる階層性）について理解する。
2	細胞（2）	細胞小器官（オルガネラ）の構造とその役割について理解する。
3	細胞（3）	生体膜（細胞膜）の構造と膜タンパク質の役割について理解する。
4	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（1）	各栄養成分の生理的意義、栄養素の分類（生理的役割に基づく分類、化学構造に基づく分類）について理解する。
5	栄養素、生体成分等の有機化合物の基本（2）	有機化合物の基本となる炭素骨格、共有結合などの有機化学の基礎知識をふまえ、栄養素や生体成分の化学構造式について理解する。
6	糖質の化学（1）	糖質の分類、単糖類の基本構造、異性体、各種誘導体の化学構造について理解する。
7	糖質の化学（2）	二糖類とその結合様式およびホモ多糖とヘテロ多糖（グリコサミノグリカンなど）について理解する。
8	脂質の化学（1）	脂質の分類、脂肪酸の基本構造、飽和脂肪酸と不飽和脂肪酸の化学構造について理解する。
9	脂質の化学（2）	トリアシルグリセロール（TG）、リン脂質、糖脂質の化学構造について理解する。
10	タンパク質の化学（1）	アミノ酸の基本構造とその結合様式、アミノ酸の分類について理解する。
11	タンパク質の化学（2）	タンパク質の構造と1次、2次、3次、4次構造の特徴について理解する。
12	タンパク質の化学（3）	タンパク質の分類（成分による分類、機能による分類など）について理解する。
13	核酸の化学（1）	核酸の基本単位であるヌクレオチドの基本構造、ヌクレオシド、五炭糖および塩基の種類などについて理解する。
14	核酸の化学（2）	DNA、RNAの構造と機能の特徴、高エネルギーリン酸化合物、情報伝達におけるセカンドメッセンジャーなどの核酸成分の構造と機能の特徴を理解する。
15	ビタミンおよび総括	水溶性ビタミンおよび脂溶性ビタミンの化学構造および機能の特徴について理解する。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	調理基礎実習	科目ナンバリング	NIbX11004
担当者氏名	富永 しのぶ		
授業方法	実習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

調理に必要な技術と食品の特徴を理解する。調理は食品を好ましい形に変え整える。料理は水と熱、そして道具を使い限られた時間の中で、自己の心と技と感性で作られる。料理を作るためには、さまざまな調理技術が必要となる。最も基本となる技術は包丁を使いこなすこと、調理操作を理解することである。授業を通して調理法と食品に対応できる、知識と技術を体得できるよう繰り返し演習を行う。

《授業の到達目標》

食品を料理に適した切り方ができるようになるため、切り方を覚える。包丁を使いこなす技術として、目的に応じた切り方を判断して、速く、きれいにそろった切り方ができるようになる。料理ごとの基本調味を理解して正しく調味ができるようになる。

《成績評価の方法》

・実技試験40%、筆記試験60%

《テキスト》

『調理学実習 基礎から応用』高橋敦子他 編（女子栄養大学出版部）

《参考図書》

NEW 調理と理論、山崎清子他 著（同文書院）
新・桜井 総合食品事典 荒井綜一他 編（同文書院）

《授業時間外学習》

調理技術、調理操作は授業で習ったら習得できるものではなく、経験を重ねて身に付くものであることから、日常生活の中で日々調理の機会をつくること、一番の近道である。そこで、技術上達のため調理する機会を毎日つくり、授業で行った調理操作を練習すること。

《備考》

実習着は清潔でアイロンをあてたものを着用すること。頭髪は帽子から出ないようにし、爪は短く整えること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 調理の基礎	調理基礎演習の授業内についての説明、実習室の使い方。授業評価の方法 調理における衛生管理について学ぶ
2	調理の基礎 I	調理の基礎確認テスト 食品の重量について 概量と正味重量および廃棄率について学ぶ
3	調理の基礎 II 基本の切り方 I	調味、調味パーセントの算出について学ぶ 切り方1 切り方の名称、包丁の持ち方と扱い方、切り方について学ぶ
4	調理の基礎 II 基本の切り方 II	調味、調味パーセントの算出について学ぶ 切り方2 切り方の名称、包丁の持ち方と扱い方、切り方について学ぶ
5	プロの調理技術に学ぶ	プロの料理人による講演とデモンストレーションの見学 調理技術と作業手順を学ぶ
6	米の調理 基本の切り方 III	米の特徴 炊飯について学ぶ 切り方3 切り方の名称、包丁の持ち方と扱い方、切り方について学ぶ
7	汁物、調味の基本 I 基本の切り方 IV	汁物の特徴、和風だしのとり方について学ぶ 切り方4 計量（調味料の容量と重量）1を理解する
8	煮物、調味の基本 II 基本の切り方 V	煮物の特徴、調味時期とその食味について学ぶ 切り方5 計量（調味料の容量と重量）2を理解する
9	乾物の調理、調味の基本 III、基本の切り方 VI	乾物の戻し方について学ぶ 切り方6 計量（調味料の容量と重量）3を理解する
10	和え物・酢の物、調味の基本 IV、基本の切り方 VII	野菜の扱い方について学ぶ 切り方7 計量（調味料の容量と重量）4、廃棄率を理解する
11	焼き物（魚）調味の基本 V、基本の切り方 VIII	焼き物について学ぶ 切り方8 計量（調味料の容量と重量）5、廃棄率を理解する
12	蒸し物、卵の調理、基本の切り方 IX、基本調味 VI	卵の調理特性について学ぶ 切り方9 計量（調味料の容量と重量）6、廃棄率を理解する
13	砂糖の加熱調理、基本の切り方 X、基本調味 VII	砂糖の調理特性（加熱）について学ぶ 切り方10 計量（調味料の容量と重量）7、調理の基礎について確認する
14	まとめ	要点について確認する 調理の基礎知識を試験により確認する
15	確認テスト	確認のため、実技試験を行う 切り方、基本調味について確認する

《専門教育科目 専門基礎科目》

科目名	コミュニケーション論	科目ナンバリング	NIbX11005
担当者氏名	柏木 登起		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 文化・社会・自然など人間を取り巻く環境を理解できる（知識・理解） ◎ 2-4 人の置かれている状況や生活を理解し問題を発見することができる（共感力、観察力、問題発見力） ○ 2-5 地域や人の問題を批判的に考察し望ましい方向に共に行動できる（人に働きかける力） ○ 3-1 人の尊厳を理解し、社会正義に基づいて、知識や技能を運用し、行動できる（倫理性）		

《授業の概要》

福祉分野に携わる上で、他者との円滑なコミュニケーションスキルは不可欠です。前半はコミュニケーションとは何か、福祉分野におけるコミュニケーションについて理論を学ぶと同時に、実践を通じて、具体的なコミュニケーションスキルを高めます。後半は、福祉レクリエーション支援を行うための介入技術を、グループ演習やロールプレイといった実践を通じて、習得します。

《授業の到達目標》

1. コミュニケーションの基本的な心構えを理解する。
2. 福祉分野におけるコミュニケーションの特徴を理解する。
3. 円滑なコミュニケーション行うスキルを身につける。
4. 福祉分野における集団行動やチームワークについて理解する。
5. 福祉分野におけるレクリエーションスキルを身につける。

《成績評価の方法》

定期試験（50%）
 授業時の課題・実践による評価（50%）

《テキスト》

指定しません。適時資料を配布します。

《参考図書》

『楽しさの追求を支えるための介入技術』公益財団法人日本レクリエーション協会、2013他。

《授業時間外学習》

必要の際、適時説明します。

《備考》

授業のテーマ上、他者とコミュニケーションを積極的に取ることを求めます。以下の授業計画は、習熟度に合わせて順序を入れ替えるなど変更となる場合があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義内容と授業の運営方法について知る
2	コミュニケーションとは何か①	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション①について学ぶ キーワード：情報伝達/意思表示
3	コミュニケーションとは何か②	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション②について学ぶ キーワード：受容/共感/協調/対人援助/相談援助
4	福祉分野におけるコミュニケーションの特徴	福祉分野におけるコミュニケーションとは何かを考える キーワード：子ども/高齢者/視覚障害/聴覚障害者
5	コミュニケーションスキルを高める①	信頼関係構築のためのコミュニケーションスキルを高める キーワード：自己開示/ラポール
6	コミュニケーションスキルを高める②	「傾聴」「承認」「質問」スキルを高める キーワード：傾聴/同調/復唱/オープンクエスチョン/クローズドクエスチョン
7	福祉レクリエーションとは何か	福祉分野におけるレクリエーションの重要性について考える キーワード：アイスブレイク/アクティビティ/グループワーク
8	福祉レクリエーションの計画	福祉レクリエーションのプログラムの立て方を学ぶ キーワード：プログラムデザイン
9	福祉レクリエーション計画策定の実践	福祉レクリエーションのプログラムを立てる
10	福祉レクリエーションの実践①	福祉レクリエーションを実践する①
11	福祉レクリエーションの実践②	福祉レクリエーションを実践する②
12	福祉レクリエーションの実践③	福祉レクリエーションを実践する③
13	福祉レクリエーションの応用	対象者と現場に合わせたレクリエーションのアレンジについて学ぶ
14	福祉分野におけるチームワークとは	福祉分野におけるチームワークを考える キーワード：チームビルディング/情報共有
15	まとめ	コミュニケーション論のまとめ（これまで学んできたことを振り返る）

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	健康科学	科目ナンバリング	NIaX21007
担当者氏名	松村 末夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

健康とは何かに始まり、食生活、運動、睡眠、こころ、年齢、環境など、健康状態に影響を与える諸条件・因子がどうあるべきかを理解する。

《テキスト》

『改訂 ライフスキルのための健康科学 改訂第2版』成和子 編著 宮本慶子・城川美佳共著（建帛社）2010

《参考図書》

適宜紹介する。

《授業の到達目標》

健康とは何かを理解し、何をどうすれば、健康の維持・増進に役立ち、あるいは、健康をそこなうことになるのかを理解する。

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果によって評価する。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康について	健康の定義、ライフサイクルにおける健康上の課題について理解する。
2	健康について	保健福祉サービス、生活習慣病について理解する。
3	日常生活と健康	食生活—健康な食生活について理解する。
4	日常生活と健康	食生活—わが国の食生活の現状、健康志向と健康食品、食行動における選択について理解する。
5	日常生活と健康	日常生活活動—エネルギー必要量の算定、運動習慣の必要性、適正体重の維持について理解する。
6	日常生活と健康	睡眠—睡眠および睡眠障害について理解する。
7	日常生活と健康	喫煙、飲酒、薬物乱用等の健康関連行動について理解する。
8	日常生活と健康	こころの健康—ストレス、心身症、うつ病等について理解する。
9	ライフステージと健康	家族計画、思春期・青年期の健康問題について理解する。
10	ライフステージと健康	壮年期、高齢期の健康問題について理解する。
11	環境と健康	感染症、食中毒について理解する。
12	環境と健康	地球環境問題、ノーマライゼーションについて理解する。
13	トピックス	救急蘇生法、臓器移植、海外渡航に関わる問題、安楽死について理解する。
14	トピックス	ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、内分泌攪乱化学物質について理解する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

科目名	健康情報処理演習	科目ナンバリング	NIbX11008
担当者氏名	湯瀬 品文		
授業方法	演習	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー）		

《授業の概要》

「情報社会」等という言葉をよく耳にするが、こうした言葉に踊らされることなく、かつ正確に対応するためには道具（コンピュータ全般）について慣れ親しむことも不可欠である。

授業では、コンピュータでどのような作業ができるのか、どういった場面でも有用であるかを判断して利用できるようになることをめざし、複数のアプリケーションを用いた演習を行う。なお、内容は講義の進捗状況等により多少変更することもある

《授業の到達目標》

この演習では、マニュアルなどを利用しながらコンピュータを利用して自力で問題を解決する能力の涵養を基本に考える。そして、この道具としてのコンピュータという観点からコンピュータを動作させるための手順の総体としてのソフトウェアを中心にして計算機そのものであるハードウェアも含めたコンピュータの知識（コンピュータリテラシー）の初歩的な部分の習得を目標とする。

《成績評価の方法》

初回授業時に確定するため、履修希望者は出席すること。毎回の課題への取り組みおよびレポートを主として評価する（100%）が、上記のとおり詳細は初回授業時に決定する。なお、私語や携帯機器の利用など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の目的や概要の説明（大切なので履修希望者は必ず出席のこと） 課題などと成績に関する説明、履修者の意見の確認
2	電子メールと情報検索	本学の電子メールシステムならびに情報検索の復習 情報源とその特性
3	コンピュータのハードウェア	コンピュータの基本要素とハードウェア
4	コンピュータのソフトウェア	n進数と情報表現 情報量と文字コード
5	ワープロソフト	ワープロソフトにおけるアプリケーションの連携 伝えたい情報を限られた範囲でまとめる
6	プレゼンテーションソフト（1）	テーマに沿って伝えたい内容を考え、基礎情報を集める ワープロソフトとの違いを確認しプレゼンテーションソフトに載せる準備をする
7	プレゼンテーションソフト（2）	より詳細な情報を収集し、プレゼンテーションソフトに向けてまとめる
8	表計算ソフト（1）	数式や関数についての基本を知る 検索関数を用いたデータの検索（1）
9	表計算ソフト（2）	より高度な関数の利用 検索関数を用いたデータの検索（2）
10	表計算ソフト（3）	関数を用いた栄養価計算の方法を知る
11	表計算ソフト（4）	食事摂取基準の調査を行う 栄養価の計算結果をよりわかりやすく表示する
12	表計算ソフト（5）	表計算ソフトにおけるグラフの使い分けについて知る
13	総合演習（1）	栄養価計算の結果をプレゼンテーションソフトで表現する
14	総合演習（2）	プレゼンテーションを行う
15	総合演習（3）	データの安全性、セキュリティ これまでのまとめ

《テキスト》

特に指定しない（必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う）。

《参考図書》

『体系的に学び直す パソコンのしくみ』 日経BP社
 『コンピュータの仕組み』 尾内理紀夫著 朝倉書店
 『コンピュータはなぜ動くのか』 矢沢久雄著 日経BP社
 『コンピュータ概説』 宮崎他著 共立出版
 「統計学」、「コンピュータリテラシ」、「オフィスソフト」についての各種解説書

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。

授業は毎回出席し前回までの課題を完成させていることを前提に行われる。そのため、万一授業を欠席する場合は、次回の授業までに授業内容を確認し、課題を完成させておくこと。

またコンピュータ演習の内容を復習しておくこと。

《備考》

コンピュータはとにかく触ってみることが大切です。適切な情報を仕入れて自らの頭で考えながらコンピュータと向かい合えば、1年ほどでスペシャリストになることも可能です。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	管理栄養士概論		科目ナンバリング	NBcD11011	
担当者氏名	小林 麻貴				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）			

《授業の概要》

管理栄養士を目指すために必要な基礎知識を学び、栄養士・管理栄養士必須の授業の必要性を認識する。また管理栄養士の成り立ちについて、管理栄養士の仕事と密接に関わる食糧問題や生活習慣病、生命倫理についても理解し、将来どのような職場で活躍する管理栄養士になりたいか目標を定める。

《テキスト》

めざせ！栄養士・管理栄養士まずはここからナビゲーション
 小野 章史編著、(株)第一出版
 必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

管理栄養士養成過程におけるモデルコアカリキュラム準拠「導入教育 信頼される専門職となるために」伊達ちぐさ、徳留裕子、岡 純編著、(株)医歯薬出版

《授業の到達目標》

- ①管理栄養士として必要な知識と技術について説明できる。
- ②栄養士・管理栄養士の成り立ちについて説明できる。
- ③食糧問題、生活習慣病、生命倫理について説明できる。
- ④どのような管理栄養士になりたいか目標を定める。

《授業時間外学習》

教科書を読んで、授業内容を把握しておくこと。
 講義の内容はノートにまとめておくこと。

《成績評価の方法》

授業への積極的参加度30%、定期試験70%で成績評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養士・管理栄養士について	栄養士と管理栄養士の違いについて理解する。
2	栄養士・管理栄養士になるための基礎知識	授業に必要な基礎知識を学ぶ。
3	栄養の基礎知識①	栄養士・管理栄養士になるために必要な栄養の基礎知識を学ぶ。
4	栄養の基礎知識②	栄養士・管理栄養士になるために必要な栄養の基礎知識を学ぶ。
5	体の基礎知識	栄養士・管理栄養士になるために必要な体の基礎知識を学ぶ。
6	栄養学の歴史	栄養学の成り立ちを学ぶ。
7	栄養士・管理栄養士の成り立ち①	栄養士・管理栄養士の成り立ちを学ぶ。
8	栄養士・管理栄養士の成り立ち②	栄養士・管理栄養士の成り立ちを学ぶ。
9	諸外国の栄養士・管理栄養士制度	諸外国の栄養士・管理栄養士制度と、日本の制度がどのように違うのかを学ぶ。
10	地球レベルでの栄養の課題と取り組み	世界の食糧問題、人口問題が栄養問題と密接に関わることを学ぶ。
11	現代医学と生活習慣病	現在問題となっている生活習慣病について学ぶ。
12	生命の尊厳と生命倫理	管理栄養士に求められる生命倫理について学ぶ。
13	管理栄養士の役割①	管理栄養士の活躍する職場について理解を深める。
14	管理栄養士の役割②	管理栄養士の活躍する職場について理解を深める。
15	授業のまとめ	これまで学習してきた内容の総括を行い、理解を深める。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学 I	科目ナンバリング	NBcD11012
担当者氏名	多田 章夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）		

《授業の概要》

公衆衛生学は、人々が生活する環境において健康の障害となる要因を明らかにし、社会の組織的な活動により集団の疾病予防と健康の保持・増進を目指す学問である。衛生統計や疫学手法など、宿主・病因・環境の相互関係から健康を理解し、集団の健康を維持するための基本的知識とその方法論を学ぶことが求められる。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2016」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（厚生統計協会）
各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 公衆衛生学の概念と意義について説明できる
- 2 疫学的思考と方法について説明できる
- 3 現代社会の環境問題及びその対策について説明できる
- 4 主な保健統計指標について説明できる

《授業時間外学習》

- 1 次回の授業範囲を予習し、概要を把握すること
- 2 毎回授業後、ノートを整理し、重要なポイントを理解すること
- 3 健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること

《成績評価の方法》

定期試験65%、小テスト35%の割合で評価する
私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は出席取り消しもしくは減点とする

《備考》

この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	健康の概念、公衆衛生の概念と歴史	健康や公衆衛生が持つ意味合い、そして公衆衛生学カバーする領域、公衆衛生学が発達してきた歴史的な経緯について学ぶ。
2	環境と健康（1）生態系の中の人間生活	温熱を評価する因子（温度、湿度、気流、輻射熱）及び温熱による健康影響、放射線（電離・非電離放射線）による健康影響（確率的影響、確定的影響）等。
3	環境と健康（2）生態系の中の人間生活	化学的因子による健康影響の評価（量-影響関係、量-反応関係、ED50、LD50等）および生物学的因子による健康影響について学ぶ。
4	環境と健康（3）環境汚染（大気、水質等）	大気汚染を引き起こす成分とその健康被害、上水道・下水道・環境中の水質基準と水質汚染、廃棄物処理とリサイクルについて学ぶ。
5	環境と健康（4）食品衛生	食中毒、食品安全関連法律、食品安全性確保のための政策（ポジティブリスト、HACCP、食品安全委員会等）について学ぶ。
6	環境と健康（5）公害、地球環境	日本で過去に発生した代表的な公害（水俣病等）、現在、地球規模で問題となっている環境問題（地球温暖化等）についてそれぞれの原因や健康問題について学ぶ。
7	環境と健康（6）環境管理	モニタリングとサーベイランスの相違、リスク評価、リスク管理、リスクコミュニケーションについて学ぶ。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	保健統計・人口統計	国勢調査、人口動態調査、患者調査、国民生活基礎調査、国民健康・栄養調査等の保健統計について、調査実施方法、法的根拠、調査内容について学ぶ。
10	保健統計・保健統計指標	保健統計の意義を理解するとともに、出生率、合計特殊出生率、老年化率、老年化指数等の保健統計指標について学ぶ。
11	保健統計指標	罹患率と有病者率との相違、死亡率、年齢調整死亡率、平均寿命、平均余命等の保健統計指標について学ぶ。
12	疫学概念・バイアス・交絡因子	疫学概念、疫学における因果関係、バイアスと交絡因子、研究デザインにおける交絡因子のコントロールについて学ぶ。
13	疫学の方法・疫学の指標	記述疫学、生態学的研究、コホート調査の手法、特徴、利点欠点を説明でき、相対危険度について学ぶ。
14	疫学の方法・疫学の指標	症例対照研究の手法、利点欠点、オッズ比の計算、介入研究等の手法、特徴について学ぶ。
15	エビデンスに基づいた保健活動、疫学研究の倫理	エビデンスレベル、系統的レビューとメタアナリシス、ハイリスク戦略とポピュレーション戦略、インフォームドコンセントについて学ぶ。

科目名	生化学 I	科目ナンバリング	NBdD11016
担当者氏名	本澤 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）		

《授業の概要》

生化学とは広範で複雑、多岐にわたる種々の生命現象を、細胞レベル、物質・分子レベルで解明する学問である。本講義では、栄養を理解する上で特に必須となる生化学の諸分野に重点をおき、各栄養素の細胞内での代謝反応を中心課題とする。これによって、生体の基本単位である細胞、酵素および主要生体成分の合成・分解反応とそれらの調節機構について理解する。栄養素の生体内での種々の代謝過程とその意義を理解する。

《授業の到達目標》

種々の生命現象のうち、栄養素摂取にともなう生体反応である各栄養素の細胞内での代謝過程についての専門知識を身につける。これにより、酵素の触媒作用による糖質・脂質・タンパク質の代謝過程（合成反応および分解反応）とその意義、さらに相互の関係性を理解し、細胞レベルおよび物質レベルで把握できる。

《成績評価の方法》

授業展開に応じて複数回実施する筆記試験（70%）および定期試験期間中の筆記試験（30%）の合計評価点により成績評価を行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	酵素の構造と特性 (1)	生体における化学反応に必要な活性化エネルギーと酵素の触媒作用、酵素の構造上の特徴、酵素反応の補助因子等について理解する。
2	酵素の構造と特性 (2)	酵素の基質特異性（作用特異性）や、酵素活性に影響を及ぼす種々の因子とその効果について理解する。
3	酵素の構造と特性 (3)	生体の多様な化学反応に対応した酵素作用の分類およびその働き、酵素反応の調節の仕組みについて理解する。
4	生体エネルギー学と代謝の概要 (1)	自由エネルギー、異化反応・同化反応の解説を通してATPの役割を理解し、高エネルギーリン酸化合物の特徴を学習する。
5	生体エネルギー学と代謝の概要 (2)	糖質、脂質、タンパク質の生体におけるエネルギー代謝の全体像を理解する。
6	糖質の代謝 (1)	グルコース代謝の概要、解糖系および基質レベルのリン酸化によるATPの生成について理解する。
7	糖質の代謝 (2)	グルコースの嫌氣的代謝およびクエン酸回路—電子伝達系を含む好氣的代謝を比較し、その特徴を理解する。
8	糖質の代謝 (3)	糖新生過程およびグリコーゲン代謝を理解する。
9	糖質の代謝 (4)	五炭糖リン酸経路およびコリ回路などについて理解する。
10	脂質の代謝 (1)	脂質代謝の概要、脂肪酸の合成およびエイコサノイドの合成、脂肪酸の分解（β-酸化系）について理解する。
11	脂質の代謝 (2)	トリアシルグリセロールおよびリン脂質の合成・分解について理解する。
12	脂質の代謝 (3)	コレステロールの合成およびケトン体の生成機序について理解する。
13	アミノ酸の代謝 (1)	アミノ酸プールを中心とするアミノ酸代謝から、アミノ基転移反応、酸化的脱アミノ反応、尿素回路について学習し、アミノ酸の異化過程を理解する。
14	アミノ酸の代謝 (2)	体内合成可能な可欠アミノ酸の合成過程およびアミノ酸から生成される種々の含窒素化合物について理解する。
15	アミノ酸の代謝 (3) まとめ	アミノ酸の炭素骨格の利用（糖原性アミノ酸とケト原性アミノ酸）についての学習を通して、糖質および脂質代謝との相互関係を理解する。

《テキスト》

『化学・生化学—人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ） 大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2014

《参考図書》

特に指定しない（生化学および栄養生化学に関係する書籍を学生各自が参考にすること）

《授業時間外学習》

1年1期開講科目「基礎生化学」の学習内容を基礎とするので、各週の授業で扱う有機化合物について、事前に学習して下さい。また、各回の授業毎に復習し、学習内容を再確認して、内容の整理と知識の定着を心がけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。

《備考》

授業進行の妨げになるので私語は厳禁です。授業には、積極性と集中力をもって望んで下さい。各回授業の復習は理解度の向上に効果的です。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	解剖生理学 I		科目ナンバリング	NBdD11020	
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）				

《授業の概要》

解剖生理学は、生命現象を考える上で基本となる学問領域の一つであり、栄養と健康の専門家として社会に貢献するためには、その内容を十分に理解しておくことが不可欠である。人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて解説する。また、知識を深めるため、質問時間を設けるとともに試問を行う。

《テキスト》

栄養科学シリーズNEXT 解剖生理学 人体の構造と機能 第2版（河田光博、三木健寿編、講談社サイエンティフィク）

《参考図書》

標準組織学総論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
 標準組織学各論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
 やさしい生理学 改訂第6版（彼末一之、能勢博編、南江堂）

《授業の到達目標》

- ・人体の構造と機能を総合的に理解する。
- ・管理栄養士国家試験出題基準の内容を確実に習得する。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）、筆記レポート（20%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人体の構成原理	体の構成原理とダイナミクスについて学ぶ。
2	遺伝子と細胞・組織	細胞とゲノム、組織の種類について学ぶ。
3	消化器系①	消化器系の構造について学ぶ。
4	消化器系②	消化吸収のしくみ：口腔、胃について学ぶ。
5	消化器系③	消化吸収のしくみ：小腸、大腸、肝臓について学ぶ。
6	呼吸器系①	呼吸器系の構造：気道、肺について学ぶ。
7	呼吸器系②	呼吸のしくみ：呼吸とエネルギー、呼吸のダイナミクス、肺機能の測定、肺胞換気と死腔、体内のガス組成について学ぶ。
8	呼吸器系③	呼吸のしくみ：血液による酸素および二酸化炭素の運搬、呼吸調節について学ぶ。
9	循環系①	心臓の構造について学ぶ。
10	循環系②	血管の構造および循環のしくみ：心臓の働きについて学ぶ。
11	循環系③	循環のしくみ：血管の働きについて学ぶ。
12	血液と体液	体液区分と組成、血液の成分とその働き、血液型について学ぶ。
13	泌尿器系と腎機能①	泌尿器系の構造について学ぶ。
14	泌尿器系と腎機能②	尿と腎機能のしくみ：尿の生成について学ぶ。
15	泌尿器系と腎機能③	尿と腎機能のしくみ：水と電解質の排泄、排尿のしくみについて学ぶ。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	解剖生理学Ⅱ		科目ナンバリング	NBdD11021	
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

解剖生理学は、生命現象を考える上で基本となる学問領域の一つであり、栄養と健康の専門家として社会に貢献するためには、その内容を十分に理解しておくことが不可欠である。人体の細胞、組織、器官の形態とその働きについて解説する。また、知識を深めるため、質問時間を設けるとともに試問を行う。

《テキスト》

栄養科学シリーズNEXT 解剖生理学 人体の構造と機能 第2版（河田光博、三木健寿編、講談社サイエンティフィク）

《参考図書》

標準組織学総論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
 標準組織学各論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
 やさしい生理学 改訂第6版（彼末一之、能勢博編、南江堂）

《授業の到達目標》

- ・人体の構造と機能を総合的に理解する。
- ・管理栄養士国家試験出題基準の内容を確実に習得する。

《授業時間外学習》

教科書をよく読んで、授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）、筆記レポート（20%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生殖と発生①	生殖器の構造について学ぶ。
2	生殖と発生②	発生のしくみについて学ぶ。
3	エネルギー代謝と体温調節	エネルギー代謝、体温の調節について学ぶ。
4	内分泌系①	内分泌系の構造：視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体（副甲状腺）について学ぶ。
5	内分泌系②	内分泌系の構造：副腎、胃腸膵内分泌系、性腺、松果体について学ぶ。
6	内分泌系③	ホルモン調節のしくみについて学ぶ。
7	免疫系①	抗体、免疫をつかさどる組織について学ぶ。
8	免疫系②	防御反応のしくみ、疾患と免疫について学ぶ。
9	神経系①	神経による制御のしくみについて学ぶ。
10	神経系②	神経系の構造について学ぶ。
11	感覚器①	感覚器の構造について学ぶ。
12	感覚器②	感覚のしくみについて学ぶ。
13	運動器系①	骨・関節系について学ぶ。
14	運動器系②	筋系の構造、骨と筋運動のしくみについて学ぶ。
15	皮膚	皮膚、毛、爪、腺、皮膚感覚について学ぶ。

科目名	臨床病態学 I	科目ナンバリング	NBdD12024
担当者氏名	内田 亨		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識）		

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものである。基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養う。また、生化学・生理学の基礎知識を臨床栄養学に発展させ、総合的理解力を高めることを目的とする。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

人体の構造と機能および疾病の成り立ち I （第一出版）
 人体の構造と機能および疾病の成り立ち II （第一出版）

《授業の到達目標》

- 細胞から臓器・個体まで、その正常の構造・機能を理解できる。
- これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。
- 様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《成績評価の方法》

- (1) 小テスト 15%
 - (2) 定期試験 85%
- の割合で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ミトコンドリア	エネルギー産生の場合ミトコンドリアでどのようにATPが合成されていくかを理解する。
2	染色体	染色体中の遺伝情報がどのように利用されているかを理解する。また遺伝性疾患の遺伝様式についても理解する。
3	酸化ストレスと加齢・死	生物学的な死をどう評価するか、またその前段階である老いのしくみについて理解する。
4	神経系	神経系で活動電位の発生とその伝達のしくみを理解する。パーキンソン病など神経系疾患についても理解する。
5	コルチゾル	ストレスに対抗するホルモンである。その作用を基にクッシング病・アジソン病などの疾病について理解する。
6	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系	血圧のコントロールのしくみについて理解する。
7	インスリン	栄養学において最も重要なホルモンの一つである。その生理的作用機序からインスリン抵抗性の発生機序まで説明する。
8	ウイルス	インフルエンザ、ヒト免疫不全ウイルスを例にして、ウイルスとは何なのか、どのように感染していくのかを理解する。
9	自然免疫と獲得免疫	免疫システムについて理解する。またこれによる炎症の発症機序についても説明する。
10	免疫異常・アレルギー	免疫異常による疾病について理解する。
11	脂質代謝と動脈硬化	生体内での脂質代謝について理解し、脂質異常症、アテローム性動脈硬化にいたる機序を理解する。
12	脂質・糖質代謝異常	体内での脂質・糖代謝について理解し、脂質異常症、糖原病の症状および治療法を理解する。
13	アルコール・薬物中毒	依存症の発症機序を理解し、そうならないためにどうすればよいか、そうなったらどうすればよいか、を理解する。
14	まとめ 1	これまでの学習内容を再確認する。
15	まとめ 2	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学 I	科目ナンバリング	NBeD11027
担当者氏名	中井 玲子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的な好奇心・探究心）		

《授業の概要》

食を扱う者の基礎知識である食品「成分」の特徴を中心に学ぶ。食生活の歴史の変遷、現在の食生活とその問題点の概略から学習をスタートし、食品に含まれる成分の科学つまり栄養上の役割やおいしさに関わる成分、その他の生体調節機能物質や有害成分についても学ぶ。また保存、調理や加工時の変色など様々な変化の原因となる食品成分の変化についてそのしくみや「食感」に関係の深い食品の物性についても学習する。

《授業の到達目標》

- 「食品成分の特徴」を説明できるようになる。
- 「食品と身体の関係」概要を説明できるようになる。
- 「調理、加工時に伴う食品成分の変化」について説明できるようになる。
- 「食品の物性」について説明できるようになる。

《成績評価の方法》

試験評価60%＋課題評価40%で判定する。

《テキスト》

『食品学 I』菅原龍幸／福澤美喜男・編著（建帛社）
『最新日本食品成分表』医歯薬出版編（医歯薬出版）

《参考図書》

『食品学総論、食べ物と健康、第2版、栄養科学シリーズNEXT』辻英明／海老原清・編（講談社）

《授業時間外学習》

- 予習の方法:教科書の指定の箇所を読んでおくこと。
- 復習の方法:毎回講義終了後にノート整理をするなど内容の再確認を行うこと。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして「ほったらかし」にならないように。

《備考》

本科目は、高校までの化学知識をベースとして話が展開する。特に食品成分の多くは有機化合物であるため、有機化学の基礎を十分に学習しておく必要がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス人間と食品	コース概略と受講上の注意などを理解する。「人間と食品」の領域について理解する。
2	食品成分の化学（一次機能）①	食品中の「水分」について理解する。
3	食品成分の化学（一次機能）②	食品中の「炭水化物」について理解する。
4	食品成分の化学（一次機能）③	脂質（1）食品中の「脂質」の基本について理解する。
5	食品成分の化学（一次機能）③	脂質（2）食品中の「脂質」の周辺知識について理解する。
6	食品成分の化学（一次機能）④	食品中の「タンパク質」について理解する。
7	食品成分の化学（一次機能）⑤	食品中の「無機質とビタミン」について理解する。
8	食品成分表	「食品成分表」について理解する。
9	前半の振り返り	前半の内容について理解度を確認し、補足解説により理解を深める。
10	嗜好成分の化学（二次機能）	食品中の「色、香り、味」に関する物質について理解する。
11	食品中の機能性成分（三次機能）と有毒成分	食品中の「機能性成分（三次機能）」と「有毒成分」について理解する。
12	食品成分の変化①	食品中の調理、加工、保存時における「炭水化物」と「脂質」の変化について理解する。
13	食品成分の変化②	食品中の調理、加工、保存時における「褐変、光酸化、酵素反応」について理解する。
14	食品の物性	食品の「コロイド、レオロジー」について理解する。
15	食品の評価	食品の「官能検査」と「表示、規格基準」について理解する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品学Ⅱ	科目ナンバリング	NBeD11028
担当者氏名	細川 敬三		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

- (1) 食品の変質を制御するための保存方法の原理を変質と関連づけながら学ぶ。
 (2) 「食品学Ⅰ」で学んだ食品の栄養成分・成分の反応性・物性などの知識を基にし、個々の食品素材とこれらを原料とする加工食品について理解する。

《授業の到達目標》

- (1) 食品の保存方法の原理と実際について学ぶ。
 (2) いろいろな食品素材の生物学的分類・栄養学的特徴・理化学的性状・用途について学ぶ。
 (3) 加工食品の製造方法の原理と実際について学ぶ。
 (4) 以上の内容を学び、食品素材と加工食品の生産から消費にいたる過程を正しく認識・理解することにより、食品をよりよく利用できるようになる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)により評価を行う。

《テキスト》

講義で使用するテキストを教員フォルダ(khosokaw)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

食品学Ⅰ,菅原龍幸ら編(建帛社)、食品学Ⅱ,菅原龍幸ら編(建帛社)、食品学各論,高野克己編(樹村房)、食品学加工学及び実習,筒井知巳編(樹村房)、食べ物と健康Ⅰ,管理栄養士国家試験教科研究会編(第一出版)、食品学—食品成分と機能性-,久保田紀久枝ら編(化学同人)、食べ物と健康 食品学・食品機能学・食品加工学,長澤治子編著(化学同人)

《授業時間外学習》

講義終了後、その日の内に復習し、ノートの整理をして疑問点を残さないようにして下さい。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	講義の概要と食品の現状 食品の加工と保蔵の意義	食品学Ⅱで学習する内容と食品・加工食品の現況およびその保蔵の意義について学ぶ。
2	食品の変質	食品の変質にともなう劣化の要因について学ぶ。
3	食品保存の原理(1) : 水分の除去と浸透圧	食品保存のための具体的方法である「水分の除去と浸透圧」について、原理と実際の例について学ぶ。
4	食品保存の原理(2) : pHの調節・低温貯蔵	食品保存のための具体的方法である「pHの調節・低温貯蔵」について、原理と実際の例について学ぶ。
5	食品保存の原理(3) : 殺菌方法など	食品保存のための具体的方法である「殺菌方法」などについて、原理と実際の例について学ぶ。
6	農産食品(1) : 穀類・いも類	穀類・いも類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
7	農産食品(2) : 豆類・野菜類	豆類・野菜に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
8	農産食品(3) : 果実類・種実類など	果実類・種実類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
9	水産食品(1) : 魚類	魚類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
10	水産食品(2) : 藻類・貝類など	藻類・貝類などに含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
11	畜産食品(1) : 鳥獣肉類	鳥獣肉類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
12	畜産食品(2) : 乳類・卵類	乳類・卵類に含まれる栄養成分と特徴的な成分について学ぶとともに、代表的な加工食品の製造方法の原理について学ぶ。
13	油脂類・発酵食品	食用油脂原料の特徴と油脂の製造・特性について学ぶ。発酵食品の製造方法について学ぶ。
14	嗜好品・甘味料類	嗜好品・甘味料類の種類と製造方法について学ぶ。
15	インスタント食品・調理済食品・コピー食品	現在利用されているインスタント食品・調理済食品・コピー食品の種類と製造方法について学ぶ。

科目名	食品学実験 I	科目ナンバリング	NBdD11029
担当者氏名	中井 玲子		
授業方法	実験	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

本科目において受講者は、講義「食品学 I」で学んだ内容のうち、特に食品成分表を主要な題材として取り上げ、食品成分表に記載されている一般成分および微量成分の分析値はどのようにして測定されるのか、各成分の化学的性質はどのようなものなのかということについて実験を通して理解を深めることをめざす。

《授業の到達目標》

- 「食品成分表」に掲載されている一般成分の分析方法を説明できるようになる。
- 「一般成分の特徴」について説明でき、その検出方法を習得する。

《成績評価の方法》

課題評価80% + 試験評価20%で評価する。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配付する。

《参考図書》

- 『最新日本食品成分表』医歯薬出版（編）、医歯薬出版
- 『新版食品学 I』菅原龍幸ら（編著）、建帛社
- 『5訂日本標準食品成分表 分析マニュアルの解説』日本食品分析センター（編）、中央法規出版
- 『基礎からの食品・栄養学実験』村上俊男（編著）、建帛社
- 『食品学実験書』藤田修三・山田和彦（編著）、医歯薬出版

《授業時間外学習》

- 予習の方法: 指示に従って課題をやってくること。
- 復習の方法: 毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

実験の都合上、所定の時間割コマ数を超えて実験を行うこともある。ただし次の授業が続いて開講されている場合には配慮する。当初の計画から若干変更する可能性がある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス、実験の基礎①	コース概略と受講上の注意（化学実験上の諸注意および安全対策など）を理解する。
2	実験の基礎②	汎用実験器具、試薬等の特徴や使用上の注意点などを理解する。
3	実験の基礎③	汎用実験器具、試薬等の特徴や使用上の注意点などを理解する（継続）。（※4週以降も必要に応じて実験の基礎的内容を学習する。）
4	水分①	水分の定量実験（1）測定1回目：水分の定量法について理解を深める。
5	水分②	水分の定量実験（2）測定2回目：水分の定量法について理解を深める（継続）。
6	灰分①	灰分の定量実験（1）灰化：灰分の定量法について理解を深める。 脂質の定性実験：脂質について定性実験を通して理解を深める。
7	灰分②	灰分の定量実験（2）測定：灰分の定量について理解を深める（継続）。
8	炭水化物	炭水化物の定性実験：炭水化物について定性実験を通して理解を深める。
9	脂質①	脂質の定量実験（1）脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について理解を深める。
10	脂質②、タンパク質①	脂質の定量実験（2）脂質の定量法「ソックスレー抽出法」について継続。 タンパク質の定性実験：タンパク質について定性実験を通して理解を深める。
11	タンパク質②	タンパク質の定量実験（1）タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める。
12	タンパク質③	タンパク質の定量実験（2）タンパク質の定量法「ケルダール法」について理解を深める（継続）。
13	エネルギー値算出、定性実験の復習実験	エネルギー値算出法について理解を深める。 炭水化物、タンパク質、脂質について定性実験のポイントを復習し理解を深める。
14	微量成分の定量	微量成分の定量実験：飲料中のカフェイン等の定量法について理解を深める。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学	科目ナンバリング	NBdD11033
担当者氏名	富永 しのぶ		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

調理の過程を経ることによって、食品材料は安全になり、消化しやすく、栄養効果に優れ、おいしい食べ物になる。調理過程によって生じる現象の化学的・物理的变化、食べ物の嗜好性を評価する方法、食事計画等に関する知識を理解するとともに、調理のもつ文化的側面を把握し、健康と生活文化の向上に資する基本的知識について学ぶ。

《授業の到達目標》

- ・他教科で得た栄養、食品に関する基礎知識を踏まえ、調理過程、特に加熱に関する基礎知識と加熱により起こる食品材料の栄養素・呈味成分・物性の変化等に関する知識を習得することを目指す。
- ・調理に際し、食品の調理性を活用できるようになることを指す。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、必要に応じて行う確認試験、課題レポート 30%。

《テキスト》

『ブックス 調理学』 川端晶子他 著（健帛社）

《参考図書》

- 『スタンダード栄養・食物シリーズ 6 調理学』 畑江敬子 編（東京化学同人）
- 『新・櫻井 総合食品事典』 荒井綜一 他 編（同文書院）
- 『簡明食辞林』 小原哲二郎、細谷憲政監修（樹村房）
- 『新ビジュアル 食品成分表 2010』（大修館書店）

《授業時間外学習》

テキストをよく読み、重要な箇所は蛍光ペン等で印を付ける。また、その箇所をノートに転記する。キーワードとなる語句や食品について事典や関連科目の教科書を調べて転記する習慣をつける。

《備考》

食品、調理について知りたいという、前向きな態度で意欲、好奇心を持って授業に臨んでください。そのためには日常の食べ物にまず興味関心を持ってください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理学の概要（調理と調理学、調理文化）	調理学は、どういう学問なのかについての基本的な考え方を理解し、「どのような食べ方をしたらよいか」を理解する。
2	調理学の概要（食事計画）	食事の意義、食事構成の基礎知識を理解し、健康な生活のための食事計画を理解する。
3	おいしさの科学（おいしさのとは何か）	食事がおいしいということは健康状態が良好の証しといわれる。食べ物のおいしさが形成される要素とその評価方法について理解する。
4	食品の調理機能 植物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、穀類、イモ類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
5	食品の調理機能 植物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、豆類、野菜類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
6	食品の調理機能 植物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
7	食品の調理機能 植物性食品(4)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、きのこ類、海藻類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
8	食品の調理機能 動物性食品(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
9	食品の調理機能 動物性食品(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、肉類、魚類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
10	食品の調理機能 動物性食品(3)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、卵類、乳類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
11	食品の調理機能 抽出食品素材(1)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、でん粉類、油脂類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
12	食品の調理機能 抽出食品素材(2)	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、ゲル化素材（寒天、ゼラチン等）の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
13	食品の調理機能 調味料等	個々の食品の調理機能、栄養特性を把握し、調味料、野菜類、果実類の調理操作による変化に関する基礎知識を理解する。
14	調理操作と調理機器(1)	調理の過程で行われる操作は種々あるが、食品材料と目的とする料理に最も適応した調理操作が必要であることを理解する。
15	調理操作と調理機器(2)	調理の意義を踏まえ、各種の調理操作や多様な調理器具類についての基礎知識を理解する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実習 I		科目ナンバリング	NBdD11034	
担当者氏名	富永 しのぶ				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	1年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） ◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）				

《授業の概要》

調理とは食品を栄養的、衛生的かつ嗜好に合うように処理し、食べ物を作る操作である。調理学の理論を基礎に食品の特性、栄養価を知り調理の基礎的技術を習得する。実習を通して献立構成、食品の目安量、調味割合を理解し、調理操作、料理の特性を理解しながら調理技術と献立作成に必要な知識と技術を養う。

《授業の到達目標》

実習を通して調理の理論と実習を関連づけ、食品の調理生、調理操作の向上を図る。食品の概量と常用量を把握し、料理毎に調味料割合を理解し適正な調味ができる。料理の組み合わせを理解し、献立作成ができる。調理作業手順を考え高率のよい作業、行動ができるようになる。

《成績評価の方法》

筆記試験50%、実技試験20%、レポート30%

《テキスト》

『たのしい調理—基礎と実習』
 『食品成分表』※I期購入済み
 その他プリント配布

《参考図書》

『調理と理論』山崎清子他（同文書院）
 『コトと科学の調理事典』河野友美他（医歯薬出版）
 『新・櫻井 総合食品事典』荒井綜一他（同文書院）

《授業時間外学習》

調理操作、技術の修得は実習時間だけで身に付くものではないため、各自自宅で調理する機会を積極的に持つことが必要である。実習前には、料理の材料、手順を理解して作業効率を考えて実習できるよう予習を必ず行うこと。

《備考》

食品衛生、公衆衛生の立場から手指・服装・頭髮などの身支度に留意する。食品、調理器具、食器は丁寧に扱うこと。安全に実習ができるよう、周りの動きに注意と配慮すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習 I の概要 基礎知識の確認 I	授業内容の説明、成績評価の方法、提出レポートについて理解する 確認テスト、寒天とゼラチンの扱い方を学ぶ
2	日本料理 I	日本料理の基本である、飯と汁について理解する 炊飯、だしの取り方、青菜の扱い方を学ぶ
3	日本料理 II	一汁三菜の基本献立を理解する 季節料理（秋の食材を使って）
4	西洋料理 I	包丁の扱い方、基本の切り方を理解する
5	中華料理 I	鉄鍋の扱い方、炒め料理について理解する
6	日本料理 III	乾物の戻し方、乾物料理について理解する
7	西洋料理 II	魚の下ろし方（魚の三枚おろし）、小麦粉の調理（ムニエル）、ピネグレットソースの基本について理解する
8	日本料理 IV	日本料理の基本献立を理解する 美味しさを極める（特別授業：外部講師予定）
9	日本料理 V	日本料理の基本献立 II（ハレの日献立） もち米の扱い方、揚げ物料理について理解する
10	西洋料理 III	コンソメの取り方（洋風だし）、肉類の調理特性について理解する
11	中華料理 II	湯の取り方（中華だし）について理解する 中国料理の献立構成について理解する
12	西洋料理 IV	行事食（クリスマス料理）について理解する 小麦粉の調理（ルウ）、肉類の調理（煮込み料理）、卵の調理（起泡性）を理解する
13	日本料理 VI	行事食（正月料理）について理解する
14	基礎知識の確認 II	切り方、計量と調味割合、献立構成、調理の基礎知識について振り返り確認する まとめ
15	確認テスト	調理技術と知識に関する実習（実技）を行い、知識と技術の統合を図る

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学 I		科目ナンバリング	NAFD11036	
担当者氏名	松村 末夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的な好奇心・探究心）				

《授業の概要》

私たち、生物（動物）は、食物を摂取しなければ生きていけない。食物には私たちが生きていくために必要なさまざまな栄養素が含まれている。私たちが摂取した食物中の栄養素が、体内でどのように加工され、利用されているのかを学習し、理解する。

《授業の到達目標》

下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果により評価する。

《テキスト》

『Nブックス 三訂 基礎栄養学』林淳三監修（建帛社）2015

《参考図書》

『サクセス管理栄養士受験講座 6 基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）／『系統看護学講座 専門基礎分野生化学人体の構造と機能2』三輪、中恵著（医学書院）／『統看護学講座 専門基礎解剖生理学人体の構造と機能1』坂井、岡田著（医学書院）2010／『最新栄養学第9版 専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修／建帛社

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に相当する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養の概念とその歴史	栄養の意味と意義、生体の成り立ち（細胞と生体成分）とその機能を理解する。
2	栄養の概念とその歴史	栄養学の歴史（栄養素と消化酵素の発見、体内酵素と代謝作用の発見）を理解する。
3	摂食行動	食欲がどのようにして生じるのか、食欲と摂食行動のサーカディアンリズムを理解する。
4	摂食行動／栄養と生体防御	栄養と病気の関係を理解する。
5	消化・吸収と栄養素	消化器系の構造と機能、消化液、消化酵素の種類と栄養素を理解する。
6	消化・吸収と栄養素	消化の調節と吸収機構、栄養素の体内動態、栄養素の生物学的利用度について理解する。
7	糖質の栄養	糖質の構造と働き、糖質の消化・吸収、血糖とその調節について理解する。
8	糖質の栄養	糖質の代謝経路を理解する。
9	糖質の栄養	糖質がどのようにしてエネルギー源として利用されるのか、糖質と他の栄養素との関係を理解する。
10	脂質の栄養	脂質の構造と性質、脂質の消化と吸収の過程を理解する。
11	脂質の栄養	脂質の代謝と移動・輸送の過程、脂肪酸および脂質の栄養機能を理解する。
12	脂質の栄養	脂質と肥満の関係、インスリン抵抗性にかかわる因子と臓器、食事摂取基準と栄養摂取状況を理解する。
13	タンパク質の栄養	タンパク質とアミノ酸の構造と働きを理解する。
14	タンパク質の栄養	タンパク質の消化と吸収の過程、タンパク質の代謝経路を理解する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学Ⅱ	科目ナンバリング	NAFD11037
担当者氏名	松村 末夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

基礎栄養学の後半部分であり、授業のねらい及び概要は基礎栄養学Ⅰと同じ。

《テキスト》

『Nブックス 三訂 基礎栄養学』林淳三監修（建帛社）2015

《授業の到達目標》

下の授業計画中に記載した栄養学に関係した諸項目・事項の内容を理解し、それぞれの項目・事項の要点が説明できるようにする。

《参考図書》

『サクセス管理栄養士受験講座6 基礎栄養学』全国栄養士養成施設協会・日本栄養士会監修（第一出版）／『系統看護学講座 専門基礎分野生化学人体の構造と機能2』三輪、中恵著（医学書院）／『統看護学講座 専門基礎解剖生理学人体構造と機能1』坂井、岡田著（医学書院）2010／『最新栄養学第9版 専門領域の最新情報』木村・小林翻訳監修（建帛社）

《授業時間外学習》

あらかじめ、テキスト中の各週の授業内容に対応する部分を読んでおくこと。その日、何についてどのような説明があったのかを理解し、記憶すること。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)の結果により評価する。

《備考》

分からないことがあれば質問すること。授業時間外の質問も受け付けます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の栄養	タンパク質の栄養価、タンパク質と他の栄養素との関係、タンパク質の食事摂取基準、タンパク質の不足と過剰について理解する。
2	ビタミンの栄養	ビタミンの種類と構造について理解する。
3	ビタミンの栄養	ビタミンの代謝と栄養学的機能、ビタミンと他の栄養素との関係について理解する。
4	無機質（ミネラル）の栄養	無機質の一般的機能、カルシウム、リン、マグネシウムの機能、摂取基準について理解する。
5	無機質（ミネラル）の栄養	カリウム、ナトリウム、他の微量元素の機能、摂取基準について理解する。
6	水、電解質	水の機能、電解質の代謝、酸塩基平衡の調節について理解する。
7	エネルギー代謝	エネルギーの変換、エネルギーの必要量と消費量、エネルギー代謝の測定について理解する。
8	エネルギー代謝	基礎代謝、活動時エネルギー量、食品のエネルギー量について理解する。
9	栄養と遺伝子	遺伝病、栄養と遺伝子、遺伝子多型について理解する。
10	栄養と遺伝子	倫約遺伝子、栄養と癌、酸化ストレスと栄養素について理解する。
11	生理機能をもつ非栄養素	食物繊維、難消化性オリゴ糖について理解する。
12	生理機能をもつ非栄養素	糖アルコール、アルコール、その他の非栄養素について理解する。
13	栄養と健康	わが国の栄養と健康状況の推移、栄養評価について理解する。
14	栄養と健康	栄養摂取適量、健康日本21について理解する。
15	学習のまとめ	上記、各テーマの要点を復習する。

《教職に関する科目》

科目名	教職概論	科目ナンバリング	NTAL41001
担当者氏名	砂子 滋美		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教員になりたい人、教職課程を歩むことを考えている人、教員になることを迷っている人にとって、最終的に教員になることを決意するための動機づけがこの授業である。その時々教育という営みがいかに大きな影響力を子どもたちに与えているか考える必要がある。教員になるための基礎的なものを身につける。また、教職課程履修の意思を再確認し、教師以外の進路についても考察する。

《授業の到達目標》

教員に必要な資質、知識、能力を身につけ、教師としてそれらを幅広く活用する人間を育成する。また、あわせて教師以外の職種に関する進路選択についても、受講生各自の資質との関係で考える機会を提供する。

《成績評価の方法》

積極的な授業参加40%、定期試験50%、課題10%、これらの評価を総合して評価する。

《テキスト》

広岡義之編著 『はじめて学ぶ教職論』
ミネルヴァ書房 2016年

《参考図書》

『小・中・高等学校学習指導要領』（文部科学省）
『解説教育六法』（三省堂）
『教職論』（宮崎和夫編著）ミネルヴァ書房
『現代教職論』（土屋基規編著）学文社
『教育基礎論・教職論』（唐澤勇編著）学事出版

《授業時間外学習》

多くの質的体験をすることを心がける必要がある。具体的には、教育関係のボランティア活動を遂行するよう常日頃から心がけておく必要がある。

《備考》

積極的な授業参加に加えて、講義内容に関心を寄せ、十分に理解することができる状況をつくる努力を怠らないようにすることが必要である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教職概論オリエンテーション	本講義の概要や目標を示し、授業の進め方について理解する。
2	教職観と理想の教師像	さまざまな観点から理想の教師像を探っていく。
3	教職の意義と教員の役割	教職の意義、教員の適性と社会的使命について考察し、教師の使命を理解する。
4	教員の資質・能力	教員として求められる基本的な資質・能力について理解するとともに、教員を希望する自己の適性について考察する。
5	進路指導の意義と課題	進路指導の概念と意味、キャリア教育と進路指導、教師の役割としての進路指導について理解する。
6	教員養成と免許制度	大学での教員養成、教員免許制度の概要、教員採用試験について理解する。
7	教育職員の服務	教育職員の服務の根本基準、職務上の義務、身分上の義務、身分保障と分限、懲戒等について理解する。
8	教師の仕事と役割Ⅰ	教員の種類と階層、カリキュラムと教師の役割、学習指導について考察する。
9	教師の仕事と役割Ⅱ	生徒指導と生活指導、教育相談、カウンセリング、学校・学級経営について考察する。
10	初等・中等教育と教員	初等教育と中等教育の連続一貫性が強調される時代・社会の特徴を十分に理解して、それぞれの教員の役割分担を明確にする。
11	管理職・主任の役割	学校組織の改革後多くの種類の教員が設けられた。それらの役割について理解する。
12	教員の採用と研修について	教員採用に至るまでの就職活動と教員採用試験の制度について探究するとともに教員研修にはどのようなものがあるのか理解する。
13	現代の教員養成の課題と今後の発展について	教員の資質・能力の向上が常に望まれる現在、今後取り組むべき課題について考える。
14	教育の今日的課題	道徳教育、家庭、地域との連携、幼・小・中間の接続等を考察する。
15	講義全体のまとめをする	教師に求められる適性と資質について再度考察すると共に、自己の教職への意欲と適性について確認し、講義全体のまとめをする。

《教職に関する科目》

科目名	教育原理	科目ナンバリング	NTAL41002
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

広い視野をもって教育を俯瞰する授業である。ポイントは、(1)人間とは何かを考える、(2)世界教育史に学ぶ、(3)日本の教育の流れを押さえ、これから教師になる者の歴史的位置づけを考える、(4)人権教育の概略を知る、(5)「総合的な学習」を検討しつつ、未来の教育の展望を探る、の諸点である。

《テキスト》

とくには定めず、授業中にプリントを配布する。

《参考図書》

授業中に紹介する。

《授業の到達目標》

教育の基礎・基本である原理的内容の理解が、この授業の目標である。つまり、教育の概念や教育観を学ぶことを通じて、今日の学校教育の課題や問題について考え、分析できることを目指す。

《授業時間外学習》

本授業の理解を深めるのに有効であると判断される場合には、休日に、教育に関する学外の催し等に参加し、それを本授業に振り替えることがある。

《成績評価の方法》

授業への参加度40%、レポート60%。ただし教育学のイロハであるが、受講生の様子等によりこれを変更することがある。下記授業計画も同じである。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	教育に関する問題意識の出し合い
2	人間とは何かを考える(1)	視聴覚教材鑑賞(前半)
3	人間とは何かを考える(2)	視聴覚教材鑑賞(後半)
4	人間とは何かを考える(3)	ディスカッション
5	世界教育史に学ぶ(1)	筋が通った教育者とは—ペスタロッチが問いかけるもの—
6	世界教育史に学ぶ(2)	教育は時代を反映するもの—モントリオール・システムを考える—
7	特別授業	教育についての集団討論
8	日本教育史に学ぶ(1)	イロハから帝王学まで—手習塾(寺子屋)は近世のフリースクールだった—
9	日本教育史に学ぶ(2)	水道方式—「下から」の教育内容現代化—
10	日本教育史に学ぶ(3)	ゆがんだ能力主義—「上から」の教育内容現代化—
11	日本教育史に学ぶ(4)	ゆれ動く学校教育—経済審議会答申から現在まで—
12	人権教育を考える(1)	差別・被差別からの解放をめざす教育
13	人権教育を考える(2)	同和教育から人権教育へ
14	未来の教育への展望	「総合的な学習」が問いかける、「自分で考える人間」づくり
15	本授業の総括	教育とは明日の日本・世界をつくる営み

《教職に関する科目》

科目名	教育制度論	科目ナンバリング	NTAL42005		
担当者氏名	古田 薫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、キーワードについての理解を深め、教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得することを目的とする。教育制度の意義や概要を学習するとともに、最近の教育問題や教育改革の動向を、学校制度・学校経営の視点から考察する。

《授業の到達目標》

○教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。○教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。○教育行政の仕組みや学校制度について理解している。○学校運営について理解している。○今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べるができる。

《成績評価の方法》

- ①受講態度（ディスカッションへの参加度、発表回数等）20%
 ②課題の提出と完成度 20%
 ③定期試験 60%（持ち込み不可）

《テキスト》

授業中に指示します。

《参考図書》

- 1) 『解説教育六法 2016年度版』三省堂。
 2) 坂田 仰、黒川 雅子、河内 祥子、山田 知代『図解・表解教育法規-“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト』教育開発研究所、2014年。
 3) 高見茂・宮村裕子・開沼太郎（編）『教育法規スタートアップ 教育行政・政策入門 ver.3』昭和堂、2015年。

《授業時間外学習》

授業で配布したプリントに基づいてまとめノートを作り復習すること。授業でわからなかった点について調べたり、質問を用意したりすること。

《備考》

授業中の私語や携帯電話の使用を禁止します。ルール違反に対しては厳格に対処します。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育行政と教育制度	・本講義の進め方について理解し、主体的に学習に取り組む意欲を持つ。 ・教育行政の基本原理
2	法体系と教育関係法規の概要	・法規の体系 ・教育制度の中心的な法規とその内容
3	憲法教育基本法制：憲法、教育基本法①	・憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤 ・教育基本法の性質
4	憲法教育基本法制：教育基本法②	・教育基本法改正のポイント ・教育基本法の意義と内容
5	学校制度①：学校に関する法規	・法規上の学校の定義 ・日本と諸外国の学校体系の特徴
6	学校制度②：学校の設置と管理	・学校とその公共性 ・学校の設置と管理に関する原則
7	教育行政の仕組み①：文部科学省	・文部科学省と地方の教育委員会の関係と役割分担 ・中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響
8	教育行政の仕組み②：教育委員会制度	・教育委員会制度の歴史 ・教育委員会制度の概要
9	教育を受ける権利の保障①：義務教育1	・教育を受ける権利、教育を受けさせる義務と義務教育制度 ・義務教育の意義と義務の内容
10	教育を受ける権利の保障②：義務教育2	・教育を受ける権利を保障するための制度 ・就学援助、教育扶助の概要
11	教育を受ける権利の保障③：特別支援教育1	・特別支援教育の理念および特殊教育との違い ・特殊教育から特別支援教育に移行した背景
12	教育を受ける権利の保障④：特別支援教育2	・特別支援教育に関する諸制度
13	学校運営①：開かれた学校	・開かれた学校の意義 ・地域との連携とコミュニティ・スクール制度
14	学校運営②：アカウンタビリティと学校評価	・学校アカウンタビリティとマネジメント・サイクル ・学校評価の意義と評価の形態
15	学習のまとめと振り返り	・学習マップの完成と発表による学習のまとめと振り返り

《教職に関する科目》

科目名	教育相談（カウンセリングを含む。）	科目ナンバリング	NTAL41009
担当者氏名	原 志津		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	1年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

近年の学校教育の重大問題として学力低下とこころの教育をめぐり問題があげられる。このような状況に対して日常的に子どもたちと接する教師にできることは何だろう。しっかり見て、耳を傾けて子どもたちの声を聴き、子どもたちの気持ちを汲み取り、短い言葉で要約して返すというやりとり、すなわちカウンセリングの技術を学ぶことは、現在の教育現場においても、古くて新しい意味があるように思われる。

《授業の到達目標》

- ・カウンセリングの基本技術を学ぶ
- ・自分自身のこころに焦点を当てる方法を学ぶ
- ・子どもたちのサインに気づく
- ・こころの成長・変化のプロセスを知る

《成績評価の方法》

授業への取り組み30% レポート・確認テスト20%
授業内容の理解 50%

《テキスト》

指定しない。必要な資料は毎回配布する。

《参考図書》

『スクールカウンセラーがすすめる112冊の本』 滝口俊子・田中慶江編 創元社

《授業時間外学習》

こころについて学ぶための本のリストを配布するので、できるだけ多くの本を手にとって読んでほしい。自分の最も興味ある一冊を選んで、用紙は問わないが、手書きで5枚の感想文を最終授業日まで提出すること。

《備考》

教職をとらない学生も受講可能である。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	15回の授業のオリエンテーション	「人の話しをきく」ということについて考える
2	カウンセリングの基礎	カール・ロジャーズのクライエント中心療法について知る
3	カウンセリングの実習	カウンセリングの実習（ロールプレイ）を行う
4	カウンセリングのプロセスについて	カウンセリングのプロセスについて、カール・ロジャーズの理論から学ぶ
5	フォーカシングについて	カウンセリングの「体験過程」から、自分の内面に焦点化することを学ぶ フォーカシングの実習も含む
6	自分自身のテーマを知る	心理テストを体験する
7	こころと身体	身体に異常がないのに起こる症状について学ぶ
8	精神的な問題の分類と概説	精神的な問題の全体像を把握し、病態水準や自我の強さについて学ぶ
9	こころの発達理論	思春期以降の生徒のこころの問題を理解するために、関係性について学ぶ
10	子どもたちの育つ環境の問題	大人が子どもたちの発達を妨げている事例について学ぶ
11	箱庭療法について	箱庭療法が生まれた背景との理論について学ぶ
12	こころの治癒過程を知る	箱庭療法のDVDから、こころの治癒過程についての理解を深める
13	専門機関との連携	教師に、できることと・できないことは何かを知り、専門機関と連携する上でたいせつなことを知る
14	様々な事例	学校現場での事例を聴いて自分なりの対処の仕方を考える
15	まとめ	授業での学びをふり返り、今後活かすべきことは何かを考える

平成 27（2015）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
I群 (領域に関する科目)	基礎ゼミ I	NIaX11001	演習	2						2									
	基礎ゼミ II	NIaX11003	演習	2						2									
	基礎生化学	NIbX11002	講義	2					B	2									
	調理基礎実習	NIbX11004	実習	1						3									
	コミュニケーション論	NIbX11005	講義	2						2									
	食料経済	NIbX24006	講義	2											2				
	健康科学	NIaX21007	講義	2						2									
	健康情報処理演習	NIbX11008	演習	2						2									
	フードスペシャリスト論	NIbX24009	講義	2											2				
	フードコーディネート論	NIbX24010	講義	2											2				
専門教育科目 II群 (専門基礎に関する科目)	管理栄養士概論	NBcD11011	講義	2		◇	○	△		2									
	公衆衛生学 I	NBcD11012	講義	2		◇	○	△	D	2									
	公衆衛生学 II	NBcD22013	講義	2			○	△			2						(多田 章夫)	133	
	社会保障制度論	NBcD12014	講義	2		◇	○	△			2						(竹内 一夫)	134	
	保健統計学実習	NBcD23015	実習	1			○	△					3						
	生化学 I	NBdD11016	講義	2		◇	○	△	B	2									
	生化学 II	NBdD22017	講義	2			○	△	B		2						本澤 真弓	135	
	生化学実験 I	NBdD12018	実験	1		◇	○	△	B		3						小林 麻貴	136	
	生化学実験 II	NBdD22019	実験	1			○	△	B				3				小林 麻貴	137	
	解剖生理学 I	NBdD11020	講義	2		◇	○	△	B	2									
	解剖生理学 II	NBdD11021	講義	2		◇	○	△	B	2									
	解剖生理学実験 I	NBdD12022	実験	1		◇	○	△					3				内田 亨	138	
	解剖生理学実験 II	NBdD22023	実験	1			○	△					3				佐藤 隆	139	
	臨床病態学 I	NBdD12024	講義	2		◇	○	△	E	2							内田 亨	140	
	臨床病態学 II	NBdD22025	講義	2			○	△	E		2								
	生体防御論	NBdD23026	講義	2			○	△	C				2						
	食品学 I	NBeD11027	講義	2		◇	○	△	B	2									
	食品学 II	NBeD11028	講義	2		◇	○	△	C	2									
	食品学実験 I	NBdD11029	実験	1		◇	○	△	B	3									
	食品学実験 II	NBdD12030	実験	1		◇	○	△	B		3						細川 敬三	141	
	食品衛生学	NBdD12031	講義	2		◇	○	△	D				2				[土井 裕司]	142	
	食品衛生学実験	NBdD23032	実験	1			○	△	D					3					
	調理学	NBdD11033	講義	2		◇	○	△		2									
調理学実習 I	NBdD11034	実習	1		◇	○	△			3									
調理学実習 II	NBdD12035	実習	1		◇	○	△					3				富永しのぶ	143		

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成27年度（2015年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養教諭一種免許取得に関する科目 教職に関する科目	教職概論	NTAL41001	講義		2			△		2									
	教育原理	NTAL41002	講義		2			△		2									
	教育史	NTAL53003	講義		2			▲						2					
	教育心理学	NTAL42004	講義		2			△				2						(大平 曜子)	154
	教育制度論	NTAL42005	講義		2			△		2									
	教育課程論 (道徳・特別活動を含む)	NTAL42006	講義		2			△				2						[新井野 久男]	155
	教育方法・技術論	NTAL42007	講義		2			△				2						[吉永 潤]	156
	生徒指導論	NTAL41008	講義		2			△			2							[新井野 久男]	157
	教育相談(カウンセリングを含む)	NTAL41009	講義		2			△		2									
	事前事後指導	NTEI43003	演習		1			△						1					
	栄養教育実習	NTEI44004	実習		1			△							3				
	教職実践演習 (栄養教諭)	NTEI44005	演習		2			△								2			

〔栄養に係る教育に関する科目〕

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養に係る教育に関する科目 実習に関する科目	学校栄養教育論 I	NTEI43001	講義		2			△						2					
	学校栄養教育論 II	NTEI43002	講義		2			△						2					

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 栄養教諭免許を取得するためには、上記「栄養に係る教育に関する科目」を修得しなければならない。

ただし、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	公衆衛生学Ⅱ		科目ナンバリング	NBcD22013	
担当者氏名	多田 章夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）				

《授業の概要》

公衆衛生学Ⅱ（健康管理）においては、地域で生活する人々の疾病予防や健康の保持増進のために、個人や個人をとりまく社会が何をすべきかを学ぶことが授業の狙いである。具体的には、生活習慣の実態と問題、疾患予防の疫学と予防、社会環境（保健・医療・福祉）の実態について学習する。

《テキスト》

「シンプル衛生・公衆衛生学2016」 鈴木庄亮・久道茂

《参考図書》

国民衛生の動向：厚生統計協会編（校正統計協会）
各単元毎に必要なに応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1 生活習慣の現状と課題について説明できる
- 2 主要な疾患の疫学について説明できる
- 3 健康維持に関する行政や地域保健のしくみについて説明できる
- 4 社会保障制度や医療保健に関連する法規や役割などに関する基礎的知識を習得する

《授業時間外学習》

健康に関するトピックス・ニュースの情報収集に努めること
 次回の授業範囲を予習し
 毎回授業後、ノートを整理し内容を把握すること

《成績評価の方法》

定期試験65%、小テスト35%の割合で評価する
 私語、講義中に他の科目の課題を行う等、他人の迷惑になる行為や授業の風紀を損なう行為を行った者は出席取り消しもしくは減点とする

《備考》

この講義は管理栄養士を目指す学生にとって重要な科目であり、授業の障害となったり、風紀を乱すことのない学生が履修登録することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	感染症（1）	感染症発生の必要要件（感染源、感染経路、感受性のある宿主）、アウトブレイクの種類、疫学的調査、感染症予防対策として予防接種ワクチンの種類や予防接種法について学ぶ。
2	感染症（2）	感染症予防対策における感染症拡大防止対策として、新感染症法、学校安全衛生法検査法に基づく感染者対策について学ぶ。
3	疾病の予防、スクリーニング	疾病予防の段階（一次予防、二次予防、三次予防）、集団検診におけるスクリーニングの精度を示す指標（感度、特異度、カットオフ値）について学ぶ。
4	健康づくりと健康日本21	健康づくりの変遷（ラウンド報告、ヘルシーピープル、ヘルシーシティ）及び健康日本21、健康増進法について学ぶ。
5	生活習慣の現状と対策（喫煙・飲酒）	健康日本21における喫煙、飲酒分野における健康指標及びその達成状況、喫煙や過剰飲酒の有害作用及び対策について学ぶ。
6	生活習慣の現状と対策（歯科保健）	健康日本21における歯の健康分野における健康指標及びその達成状況、歯科疾患の疫学及び8020運動について学ぶ。
7	地域保健	地域保健の変遷及び地域保健法施行後の保健所と保健センターの業務の相違について学ぶ。
8	小テスト	第1週～第7週までの内容の範囲から試験を行う。
9	母子保健・老人保健	母子保健の目的、水準、母子保健施策、子育て支援、老人保健法から高齢者の医療の確保に関する法律への変遷について学ぶ。
10	主要疾患の疫学と予防対策（悪性新生物）	がん死亡と罹患状況、主要な悪性腫瘍（胃がん、肺がん、子宮がん、乳がん、大腸がん等）の疫学、リスク要因、一次予防、二次予防について学ぶ。
11	主要疾患の疫学と予防対策（循環器疾患）	循環器疾患による死亡や罹患状況、主要な循環器疾患（高血圧、虚血性心疾患、脳血管疾患）についてリスク要因や予防法について学ぶ。
12	主要疾患の疫学と予防対策（糖尿病）	代謝性疾患による死亡や罹患状況、主要な代謝性疾患（糖尿病、高脂血症、痛風）についてリスク要因や予防法について学ぶ。
13	メタボリックシンドロームの疫学と予防対策	メタボリックシンドロームの定義、基準、発症機序（インスリン抵抗性による疾患多発）、特定健診・特定保健指導について学ぶ。
14	精神疾患と精神保健	精神障害の定義、主な精神疾患、精神保健福祉活動、精神医療、精神保健福祉法成立経緯について学ぶ。
15	保健・医療・福祉	医療制度の仕組み、医療法、医療圏、医療計画、医療提供施設、医療従事者、病院機能評価について学ぶ。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	社会保障制度論		科目ナンバリング	NBcD12014	
担当者氏名	竹内 一夫				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

我が国において、社会福祉は、その人がいかなる状況にあろうとも、その人の個性に応じた、より良き生活（well-being: 福利）を手に入れる支援の一つとして位置づけられている。本講ではまず、社会福祉の理論と実践の方法を学び、次に人々の生活がさまざまな法律によって、どのように保護されているのかを学んでいく。さらに、対人援助専門職として必要な、人々の生活に関する幅広い視野と深い洞察力の涵養を目指す。

《授業の到達目標》

- 人々の生活の在り様が理解でき、食と健康にかかわる専門職として、個々人の全人的な理解（精神的、身体的、社会的）に取り組めるようになる。
- 対人援助専門職として、利用者の話を聴き取ることができるようになる。
- 「利用者の立場に立つ」ことの意味が理解できるようになる。

《成績評価の方法》

- ① 授業中の小テスト、課題レポートによる評価 20%
 - ② 授業への取り組み 30%
 - ③ 定期試験（持ち込みなし） 50%
- 以上の3点からの総合計で評価とする。②の授業への取り組みの内容には出席状況（遅刻、早退）も含まれる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	社会福祉と社会保障の関連性を学ぶ	憲法第25条に規定されている、国民の生存権を担保するための3要素として規定された社会福祉、社会保障、公衆衛生の関連性について検討する。
2	現代社会における人々の生活を理解する	少子超高齢社会の中における人々の生活の特徴、生活意識変化、抱える問題の本質について、人の発達段階に合わせて検討を加えていく。
3	社会福祉の目指すものについて理解する	illfareからwelfareへ、welfareからwell-beingへと変化してきた社会福祉の考え方を検証しながら、これからの社会福祉が目指すものについて検討を加える。
4	社会福祉の歴史をたどる：イギリスの足跡	社会福祉の原型をたどると、人類の歴史の始まり時点ということになるが、ここでは現代の社会福祉の原点といわれるイギリスの歴史から現代の福祉を俯瞰する。
5	社会福祉の歴史をたどる：我が国の足跡	我が国の社会福祉の歴史を、第2次世界大戦前と後に分けて、恩恵としての福祉から権利としての福祉へ、さらに現状の契約に基づく福祉への変化の過程を検証していく。
6	我が国における社会保障制度の現状を学ぶⅠ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは社会保険について学びを進める。
7	我が国における社会保障制度の現状を学ぶⅡ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは公的扶助と社会福祉の2要素について学びを進める。
8	我が国における社会保障制度の現状を学ぶⅢ	我が国の社会保障を構成する4つの要素のうち、ここでは公衆衛生及び医療について学びを進める。
9	社会福祉の法体系と関連制度を学ぶⅠ	社会福祉6法及び関連法規について、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法を中心に、分野別に検討するとともに、今後の課題について概観する。
10	社会福祉の法体系と関連制度を学ぶⅡ	社会福祉6法及び関連法規について、知的障害者福祉法、老人福祉法、母子及び寡婦福祉法、精神保健福祉法、母子保健法、障害者総合支援法を検討する。
11	介護保険の仕組みと栄養士による利用者支援	介護保険の概要、サービス提供における専門職間の連携の在り方、また、介護予防での健康維持に果たす栄養士の重要な役割についても学ぶ。
12	福祉行財政の組織と社会福祉援助の在り方を学ぶ	社会福祉援助を実施していくうえでの財政基盤とその運営組織について学ぶ。加えて公的な支援としての社会福祉援助の在り方についても検討する。
13	相談援助の方法Ⅰ	個人や家族を中心とした個別援助技術の展開の仕方、カウンセリングなどの支援技法について学ぶ。
14	相談援助の方法Ⅱ	患者会や家族会などのグループを支援するグループワーク、また、介護保険でのケアマネジメントによる支援について学ぶ。
15	地域の再構成と地域を基盤にした援助の在り方	21世紀の社会福祉の展開について検討するとともに、ますます弱体化する地域の福祉力を強化し、地域を基盤とする支援の展開に必要な施策の在り方について検討する。

《テキスト》

5訂「栄養士・管理栄養士を目指す人の社会福祉」岩崎珠美・三谷嘉明編（株）みらい 2015

《参考図書》

《授業時間外学習》

各種報道メディアの医療と福祉の情報には常に関心を払い、専門誌、雑誌等の記事にも目を注いでおくこと。また学生諸君の身近で展開されている人々の生活、地域社会の状況、通学途上で出会う子供たちや社会人の行動にも常に関心を払っておくこと。

《備考》

対人援助専門職は、熱意と誠意が常に要求される。自己管理をしっかり行い、欠席、遅刻がないように心がけてほしい。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学II	科目ナンバリング	NBdD22017
担当者氏名	本澤 真弓		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）		

《授業の概要》

生化学IIでは、生化学Iと連携して体タンパク質の代謝、核酸の代謝を通して、代謝の全体とその調節機構を理解する。また、生化学IIの新たな中心課題として、遺伝情報を司る情報高分子の働きおよび恒常性（ホメオスタシス）維持に関わる仕組みを学習し、生体の多様な調節機構の意義を理解する。

《テキスト》

『化学・生化学—人体の構造と機能』（栄養管理と生命科学シリーズ） 大村正史、山田一哉、本三保子共著、理工図書、2014

《参考図書》

特に指定しない（生化学および栄養生化学に関係する書籍を学生各自が参考にすること）

《授業の到達目標》

（生化学Iおよび）生化学IIを通して、各生体成分の固有の代謝過程や共通経路の学習をふまえ、代謝の全体像とその特徴が説明できる。また、遺伝情報の本体である核酸（DNA, RNA）の構造と働き、自己複製の仕組み、遺伝情報の発現メカニズムと多彩な因子／エレメントに関わる発現調節、多細胞生物における細胞間・細胞内の情報伝達機構と対応する伝達物質など、個体の恒常性維持に働く機構を分子レベルで理解・把握できる。

《授業時間外学習》

生化学IIの毎回の授業内容については復習し、学習内容を再確認して、内容の整理と知識の定着を心がけて下さい。質問や相談は授業終了後に、教室または研究室で受け付けます。1年II期開講科目「生化学I」の学習内容と連続性がありますので、各回の授業内容に関連性の高い項目などは、これらの既得科目の復習もあわせて行うと効果的です。

《成績評価の方法》

定期試験期間中の筆記試験（100%）の評価点により成績評価を行う。

《備考》

授業進行の妨げになるので私語は厳禁です。授業には、積極性と集中力をもって望んで下さい。各回授業の復習は理解度の向上に効果的です。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	タンパク質の代謝	体タンパク質の合成の概要と分解機構（リソソーム系およびユビキチン-プロテアソーム系）を学習し、体タンパク質代謝回転を理解する。
2	核酸の代謝(1)	核酸の構成単位であるヌクレオチドの基本構造、ポリヌクレオチドである核酸（DNAおよびRNA）の構造と特徴、機能について理解する
3	核酸の代謝(2)	プリン型ヌクレオチドの合成と分解、ピリミジン型ヌクレオチドの合成と分解について学習し、尿酸代謝とその異常（疾病）について理解する。
4	遺伝情報とその発現(1) —遺伝情報とは	遺伝情報とは？ その本体である核酸の構造と機能をふまえ、ゲノム、クロマチン、染色体、細胞周期、細胞増殖とテロメアなどの事項について学習する。
5	遺伝情報とその発現(2) —遺伝情報の複製	DNA鎖上の構造遺伝子と介在配列について学習し、遺伝情報の複製(DNAポリメラーゼによるDNA鎖のレプリコン単位の合成など)の過程について理解する。
6	遺伝情報とその発現(3) —遺伝情報の転写	遺伝子が転写される仕組み、その過程で働く基本転写装置と、シスエレメントや転写調節因子との相互作用、一次転写産物のプロセッシングなどについて理解する。
7	遺伝情報とその発現(4) —遺伝情報の翻訳	DNAから転写されたメッセンジャーRNA(mRNA)の塩基配列(遺伝暗号)をもとにタンパク質が生合成される翻訳過程とそれに関わる他のRNA分子の役割について理解する。
8	遺伝情報とその発現(5) —DNAの損傷と修復	翻訳後のプロセッシングとタンパク質の細胞内移行過程を学習し、生合成したタンパク質の異常につながるDNAの損傷と修復について理解する。
9	恒常性とその調節(1) —細胞間情報伝達	多細胞生物にとって細胞間の情報（刺激、変化など）伝達とそれへの適切な対応は不可欠である。その目的のための内分泌系や神経系、免疫系の特性について理解する。
10	恒常性とその調節(2) —細胞間情報伝達	内分泌系とその伝達に関わる分子(ホルモン)、神経系とその伝達に関わる分子(ニューロトランスミッター)について、その伝達メカニズムを分子レベルで理解する。
11	恒常性とその調節(3) —細胞内情報伝達	細胞膜に存在する受容体を介した細胞内への情報伝達メカニズムについて、Gタンパク質、エフェクター分子、セカンドメッセンジャーの概念とあわせて理解する。
12	恒常性とその調節(4) —細胞内情報伝達	細胞内～核内に受容体が存在するステロイドホルモンなどの脂溶性リガンドについて、受容体との複合体とDNAのホルモン応答配列との結合、転写調節について理解する。
13	恒常性とその調節(5)	神経系;シナプスにおける神経伝達物質の放出と興奮の伝導の仕組みについて理解する。免疫系;自然免疫および獲得免疫におけるB細胞と各種T細胞の働きについて理解する。
14	生体の調節機構(1)	糖質・脂質代謝とホルモンによる調節事例について理解する。
15	生体の調節機構(2)	空腹期および摂食期の代謝、臓器別の代謝の特徴とその調節などについて理解する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学実験 I	科目ナンバリング	NBdD12018
担当者氏名	小林 麻貴		
授業方法	実験	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）		

《授業の概要》

三大栄養素（糖質、脂質、たんぱく質）の定性・定量実験を行ない、その性質を調べることで生化学および関連科目で修得した知識の理解を深める。また三大栄養素の抽出・分離方法を学び、基礎的な実験手法を身につける。さらに消化酵素の働きをin vitroで確認する。

《テキスト》

『生化学実験』田代 操編著、(株)化学同人
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

生化学、基礎栄養学の講義で使用したテキスト

《授業の到達目標》

- ・ 三大栄養素の定性・定量実験を通して、栄養素の性質を理解し説明できる
- ・ 実験上の注意点や実験手法を身につけることができる
- ・ レポートは簡潔にまとめて期限内に提出できる

《授業時間外学習》

教科書を読んで、実験の内容を把握してくること。
実験結果についてはデータを整理・分析し、期限内にレポートを作成すること。

《成績評価の方法》

課題および実験のレポート：50%、平常点：20%、筆記試験：30%の割合で成績評価を行なう。

《備考》

A4グラフ用紙、A4レポート用紙、B5ノートを持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生化学実験 I の概要	実験の概要、実験の心得、実験の基礎知識、器具の使い方を理解する。また、試薬の作製方法について学ぶ。
2	基本操作に関する実験	pHメーターの使用法、分光光度計の使用法（比色定量）について学ぶ。
3	糖質の定性実験	糖質の呈色反応について学ぶ。
4	糖質の定量実験	血糖値の測定について学ぶ。
5	グリコーゲンの実験	グリコーゲンの分離・定量について学ぶ。
6	脂質の定性・定量実験①	脂質の溶解性、脂質の抽出方法について学ぶ。
7	脂質の定性・定量実験②	コレステロールの定性反応、コレステロール濃度の定量について学ぶ。
8	たんぱく質の定性実験	アミノ酸・たんぱく質の呈色反応について学ぶ。
9	たんぱく質の定量実験	ローリー法について学ぶ。
10	たんぱく質の分離実験①	ゲルろ過クロマトグラフィーについて学ぶ。
11	たんぱく質の分離実験②	イオン交換クロマトグラフィーについて学ぶ。
12	糖質・たんぱく質の実験まとめ	糖質、たんぱく質の呈色反応を用いた未知試料の同定について学ぶ。
13	in vitroの消化実験①	パンクレアチンによるデンプン、脂肪、たんぱく質の消化実験について学ぶ。
14	in vitroの消化実験②	ヨウ素デンプン反応による唾液アミラーゼの活性度測定について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容を再確認する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	生化学実験Ⅱ	科目ナンバリング	NBdD22019
担当者氏名	小林 麻貴		
授業方法	実験	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

生体組織（肝臓、血液、尿）を実験材料として細胞分画、生体成分の分離・分析、酵素活性の測定、タンパク質の分離を行い、生体内における細胞小器官の特徴、生体物質の挙動、代謝酵素の酵素化学的性質、タンパク質分離状態を調べる。また生化学でよく使用する分析方法についても学ぶ。

《テキスト》

『生化学実験』田代 操編著、(株)化学同人
必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

生化学、基礎栄養学の講義で使用したテキスト

《授業の到達目標》

- ・生体成分の分離・分析方法や酵素活性の測定方法を説明できる。
- ・生化学でよく使用する分析方法について説明できる。
- ・実験によって得られたデータからどのようなことが考えられるかを考察できる。

《授業時間外学習》

教科書を読んで、実験の内容を把握してこよう。実験結果についてはデータを整理・分析し、期限内にレポートを作成すること。

《成績評価の方法》

課題および実験のレポート：50%、平常点：20%、筆記試験：30%の割合で成績評価を行なう。

《備考》

A4グラフ用紙、A4レポート用紙、B5ノートを持参する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生化学実験Ⅱの概要	実験の概要説明、試薬の作製を行う。
2	尿の実験①	ミネラルの定性実験について学ぶ。
3	尿の実験②	尿中クレアチニンの定量、尿検査試験紙による簡易検査について学ぶ。
4	尿の実験③	尿中アスコルビン酸の定量について学ぶ。
5	尿の実験④	尿中尿素窒素の定量について学ぶ。
6	血液成分の実験①	電気泳動による血液タンパク質の分離について学ぶ。
7	血液成分の実験②	溶解性による血液タンパク質の分離について学ぶ。
8	酵素の実験①	肝臓酵素の抽出方法、アミノ基転移酵素の測定について学ぶ。
9	酵素の実験②	酸性フォスファターゼの抽出と酵素の特性について学ぶ。
10	酵素の実験③	酸性フォスファターゼの抽出と酵素の特性について学ぶ。
11	酵素の実験④	細胞分画とミトコンドリアマーカ酵素の測定について学ぶ。
12	核酸の実験①	DNAの抽出と純度検定について学ぶ。
13	核酸の実験②	アガロース電気泳動とPolymerase Chain Reaction (PCR)法について学ぶ。
14	免疫の実験	抗原抗体反応について学ぶ。
15	学習のまとめ	学習内容の再確認を行う。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	解剖生理学実験 I	科目ナンバリング	NBdD12022
担当者氏名	内田 亨		
授業方法	実験	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）		

《授業の概要》

身体測定や生理検査(血圧測定・心電図・呼吸機能検査・視覚検査)などの基本的な手技を学ぶとともに、様々な負荷がどのように影響するかを実験し確認する。またホルモンの作用などを動物を用いて確認する。これらの実験結果を考察し、理解を深めていくことを目的とする。

《授業の到達目標》

- 身体のような部位の計測や機能測定の意義と原理を理解できる。
- 正常の人体機能と、その調整機構を理解できる。

《成績評価の方法》

レポート 55%
定期試験 45%
の割合で評価する。

《テキスト》

実験プリント（適宜配布）

《参考図書》

メディカルノート 検査の基本（下条文武 編、西村書店）
解剖生理学 人体の構造と機能 第2版（河田光弘・三木健寿著、講談社サイエンティフィック）
図説組織学（溝口史郎 著、金原出版）

《授業時間外学習》

レポートの作成が必須である。感想文や結果だけのレポートにならないように注意すること。実験で得られた結果を基に、そこから発生した疑問について自分なりに調べて考察すること。

《備考》

実験用白衣を必ず着用し、A4版レポート用紙・筆記用具・色鉛筆・電卓等を持参すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	身体計測に関する実験	身長・体重・皮下脂肪厚等の測定による栄養状態の推定法について理解する。
2	バイタルサインの測定	血圧、脈拍、体温、呼吸数の測定による健康状態の推定法について理解する。
3	循環器系に関する実験	心電図の測定、心音の聴取および評価について理解する。
4	呼吸器系に対する実験	肺機能検査、肺活量の測定を通じて肺疾患について理解する。
5	エネルギー代謝に関する実験	安静時代謝量の測定結果より必要エネルギーの推定を行う。また、InBodyを用いた体成分分析について理解する。
6	神経に関する実験	神経に関する実験（視野、反射、自律神経）
7	ホルモンの実験	マウスにインスリン・グルカゴン・アドレナリンなどのホルモンを投与し、血糖値に対する作用、低血糖症状を理解する。
8	血液の実験	マウスの血液を染色し、赤血球・白血球・血小板など様々な血球成分について理解する。
9	脳の実験	マウスの脳を解剖し、その構造について理解する。
10	レントゲン検査に関する実験	実際のレントゲン写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
11	腹部エコー検査に関する実験	腹部エコー写真と腹部CT写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
12	皮膚の神経系に関する実験	2点識別能などで知覚神経に関する実験を行う。また、自律神経の調節のしくみを発汗を評価することで理解する。
13	内視鏡検査に関する実験	内視鏡写真を読影し、検査の意義と診断について理解する。
14	まとめ 1	これまでの学習内容を再確認する。
15	まとめ 2	これまでの学習内容を再確認する。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	解剖生理学実験Ⅱ		科目ナンバリング	NBdD22023	
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	実験	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力）				

《授業の概要》

解剖生理学は、生命現象を考える上で基本となる学問領域の一つであり、栄養と健康の専門家として社会に貢献するためには、その内容を十分に理解しておくことが不可欠である。細胞・組織・器官の構造と機能についての解説後、顕微鏡下で標本の観察とスケッチを行う。また、ラットの解剖を行う。

《テキスト》

適宜プリントを配布する。

《参考図書》

標準組織学総論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
標準組織学各論 第4版（藤田尚男、藤田恒夫、医学書院）
入門組織学 第2版（牛木辰男、南江堂）

《授業の到達目標》

- ・人体の構造と機能を総合的に理解する。
- ・管理栄養士国家試験出題基準の内容を確実に習得する。

《授業時間外学習》

解剖生理学I、IIのノートやプリントを用いて授業内容の予習を行うとともにノートの整理や授業プリントを見直すことで復習すること。

《成績評価の方法》

実験態度（50%）、レポート（30%）、定期試験（20%）により評価する。

《備考》

実験用白衣、筆記用具（色鉛筆等）を準備しておくこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	人体模型の観察とスケッチ	器官の形態およびその位置について理解する。
2	標本の観察とスケッチ①	上皮組織について理解する。
3	標本の観察とスケッチ②	筋組織（骨格筋、心筋、血管）、結合組織（血球）について理解する。
4	標本の観察とスケッチ③	消化器系（1）（唾液腺、食道）について理解する。
5	標本の観察とスケッチ④	消化器系（2）（胃、十二指腸）について理解する。
6	標本の観察とスケッチ⑤	消化器系（3）（小腸、大腸）について理解する。
7	標本の観察とスケッチ⑥	消化器系（4）（肝臓）について理解する。
8	標本の観察とスケッチ⑦	消化器系（5）（膵臓）について理解する。
9	ラットの解剖とスケッチ①	腹腔、胸腔について理解する。
10	ラットの解剖とスケッチ②	消化器系、泌尿器系、生殖器系、呼吸器系、心臓について理解する。
11	標本の観察とスケッチ⑧	呼吸器系（気管支、肺）について理解する。
12	標本の観察とスケッチ⑨	泌尿器系（腎臓、膀胱）について理解する。
13	標本の観察とスケッチ⑩	生殖器系（精巣、精管、卵巣）について理解する。
14	標本の観察とスケッチ⑪	皮膚（表皮、真皮、皮下組織）、舌について理解する。
15	標本の観察とスケッチ⑫	腫瘍（食道がん、肝細胞がん、大腸がん）について理解する。

科目名	臨床病態学Ⅱ	科目ナンバリング	NBdD22025
担当者氏名	内田 亨		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

様々な疾患について、細胞レベルでの機能異常という観点から解説する。毎回のテーマは、それぞれは独立したものではなく、それぞれが密接に関連したものである。基礎的な理解を基に、自分で考えて発展させていく力を養う。生化学・生理学の基礎的知識を臨床栄養学に発展させていくことを目的とする。

《テキスト》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅠ（第一出版）
人体の構造と機能および疾病の成り立ちⅡ（第一出版）

《授業の到達目標》

- 細胞から臓器・個体まで、その正常の構造・機能を理解できる。
- これらの機能不全の評価・原因・症状・治療について理解し、考えることができる。
- 様々な病態において、どのような栄養管理が適切であるかを考えることができる。

《授業時間外学習》

講義で使用する資料を教員フォルダ(uchidat)で事前に配布する。各自でプリントし、予習・復習に使用すること。

《成績評価の方法》

- (1)小テスト 15%
 - (2)定期試験 85%
- の割合で評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	糖尿病の分類・診断・発症機序	糖尿病の分類と、それぞれの発症機序の違いを理解する。最近変更になった診断基準についても学ぶ。
2	糖尿病の合併症	糖尿病による急性期および慢性期合併症について理解する。
3	糖尿病治療	糖尿病の発症機序を理解した上で、様々な治療法・治療薬の作用を体系付けして理解する。
4	浸透圧調節とその異常	浸透圧の調節機構の破綻による疾患をまとめ理解する。
5	甲状腺ホルモン	甲状腺ホルモンの作用機序を基にその異常による疾病について理解する。
6	尿酸代謝とその異常	高尿酸血症の発症機序や合併症について理解する。
7	酸塩基平衡の基礎	酸塩基平衡の定義と、それを調節するシステムについて理解する。
8	酸塩基平衡の異常	酸塩基平衡の異常を来す疾患について理解する。
9	心肺蘇生法	心肺蘇生の方法とAED使用法について理解する。
10	食欲調節と神経性食思不振症	食欲の調節メカニズムと摂食障害について理解する。
11	性ホルモンと更年期障害	性周期の調節システムとその破綻による身体的影響について理解する。
12	骨代謝	骨再構築と血中カルシウムの調節機序について理解する。
13	貧血	様々な種類の貧血の分類と発症機序を理解する。
14	血液凝固	止血のシステムと、その異常による疾患について理解する。
15	まとめ	これまでの学習内容を再確認する。

科目名	食品学実験Ⅱ	科目ナンバリング	NBdD12030
担当者氏名	細川 敬三		
授業方法	実験	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

- (1) 加工食品の原料に含まれるどの成分の特性が加工食品の製造に利用されているかを考え、実際に製造する。
- (2) 食品の生産現場を知るため、農場実習と工場見学を予定している。
- (3) 調理に関する理論を実験によって検証し、その理解を高める。

《授業の到達目標》

- (1) 食品学Ⅱで学んだ中から代表的な加工食品の製造を体験し、加工食品の製造方法の理解を深めるとともに、原料となる食品素材の成分がどのように加工食品の製造に寄与しているかを理解する。
- (2) 食品の生産現場の理解を深める。
- (3) 調理の過程における食品組成や物性の変化について理解する。

《成績評価の方法》

実験のレポート(80%)・実験態度等(20%)で評価を行う。

《テキスト》

授業で使用するテキストを教員フォルダ(khosokaw)で配布するので、各自でプリントして持参すること。

《参考図書》

基礎からの食品・栄養学実験, 村上俊男編(建帛社)
 食品加工学の実習・実験, 茶珍和雄ら(化学同人)
 食品学加工学及び実習, 筒, 知巳編(樹村房)
 クッキングエクスペリメント, 四宮陽子(学建書院)

《授業時間外学習》

実験終了後、その日の内にノートの整理をしてレポートを作成して下さい。なお、レポートの提出は、各実験が終了後、1週間以内です。

《備考》

- (1) 実験材料の入荷状況で順番が変わることがあります。
- (2) 農場実習と工場見学は、時間割に示した日時以外に実施。
- (3) コックコート(上衣)を着用すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験概要説明と準備	食品学実験Ⅱで実験する内容を確認する。
2	リンゴジャムの製造とジャムの糖濃度の測定	リンゴを原料としてジャムを製造し、ペクチンのゲル化の要因を理解する。実習で製造したジャムの糖濃度を測定する。
3	うどんの製造	中力粉を原料としてうどんを製造し、小麦粉に含まれるグルテンの特性を理解する。
4	絹ごし豆腐の製造	大豆を原料として絹ごし豆腐を製造し、大豆タンパクとグルコノデルタラク톤の特性を理解する。
5	蒲鉾の製造	魚肉を原料として蒲鉾を製造し、魚肉タンパク質(アクトミオン)の特性を理解する。
6	ソーセージの製造	豚肉を原料としてソーセージを製造し、畜肉タンパク質(アクトミオン)の特性を理解する。
7	ナチュラルチーズ理解と利用	牛乳を原料としたナチュラルチーズの特性を理解する。
8	嗜好性について	官能評価に関わる基礎知識を理解し、識別・嗜好試験を通して食品の基本的な味を習得する。
9	米の調理過程における変化	洗米、浸漬、炊飯における熱の伝わり方、米の変化などの観察をし、米の調理過程を把握する。
10	卵の鮮度鑑別	外観からの鑑別・卵白卵黄卵殻比率からの鑑別・比重による鑑別・卵黄係数の測定・濃厚卵白率の測定を行い、鮮度の判定を行う。
11	調理と温度	各種食材の調理中の食品温度の変化を測定し、食材の違いによる熱の伝わり方の違いを理解する。
12	農場実習	農産物の生産を体験することにより食品生産の現場を理解する。
13	農場実習	畜産物の生産現場を体験することにより食品生産の現場を理解する。
14	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。
15	工場見学	加工食品の実際の生産現場を知るため工場見学を行ないその理解を深める。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品衛生学		科目ナンバリング	NBdD12031	
担当者氏名	土井 裕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心をもち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚） 				

《授業の概要》

食品衛生とは食品、添加物、器具、および容器包装を対象とする飲食に関する衛生（食品衛生法）であり、食品が健康障害をもたらさないようにするため、非衛生的な事態の発生を防ぐ努力・知恵・工夫である。そこで、食品衛生に関する法整備、食品の健康障害をもたらす原因（食品そのものの変化、食品中に有害物質・有害微生物が含まれているのかなど）、さらに食品包装・衛生管理を解説する。

《授業の到達目標》

食品が健康障害をもたらさないようにするための知恵と工夫を理解することを到達目標としている。そこで、食品衛生に関する法律を理解し、食品の変質・食中毒・食品による感染症・食品中の有害物質を理解し、包装など衛生管理を理解することを到達目標としている。

《成績評価の方法》

定期試験期間中に行う試験（75点）だけでなく、授業期間中間に小テスト（25点）をも実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品衛生とは	食品衛生の背景、食品衛生と周辺学問領域、食品の定義・分類、リスクアセスメント、リスクマネージメント、リスクコミュニケーション、食物連鎖
2	食品衛生と法規	食品衛生法、食品安全基本法、健康増進法、食品表示法
3	食品と微生物	生物界での微生物の位置、微生物の分類（細胞構造・カビ・公菌・細菌・ウイルス）、微生物の取り扱い方、微生物生育環境
4	食品の変質	食品変質の要因、腐敗と変敗、食品変質の機序、食品中の水、食品変質の判定法、食品の化学的変質（トランス脂肪酸・油脂の酸化）
5	食品変質の防止	冷蔵・冷凍法、脱水法、加熱法、電磁波による殺菌、くん煙法、真空包装法、浸透圧を利用する方法、pHを考慮した方法、油脂の酸化防止法
6	食中毒（1）	食中毒の定義、食中毒の発生状況、細菌性食中毒1
7	食中毒（2）	細菌性食中毒2
8	食中毒（3）	ウイルス性食中毒、自然毒食中毒、マイコトキシン中毒、化学性食中毒
9	中間でのまとめと小テスト	これまでのまとめと小テストの実施
10	食品による感染症・寄生虫症	経口感染症、人畜共通感染症、食品から感染する寄生虫症
11	食品中の有害物質	有害金属、動物用医薬品、飼料添加物、農薬、内分泌かく乱物質、放射性物質、調理時に生成される化合物、混入異物
12	食品添加物	食品添加物の概念、食品添加物の安全性評価、食品添加物の表示、食品添加物の種類と用途
13	食品衛生管理	食品衛生の一般的原則、HACCPの概念、国際標準化機構、一般家庭でできる食中毒予防対策
14	食品の器具と容器包装並びに新しい安全問題	器具と容器包装の概要、プラスチック、金属、ガラス、陶磁器、ほうろう、その他
15	総まとめ	まとめと質疑（これまでの授業内容の補足を含む）

《テキスト》

白石淳・小林秀光編 エキスパート管理栄養士養成シリーズ「食品衛生学」第3版 化学同人発行

《参考図書》

テキストに参考書が示されていますので、それらを参考にしてください。

《授業時間外学習》

周辺学問領域、たとえば、食品学、微生物学、食品加工学、医学・生物学などの理解が本科目の理解に有用です。それらの習得も怠りないようにしておいてください。

《備考》

授業ではPower Point を使用する。ただ、そこでの図表は配布しない予定である。ノートを執る癖をつけて学習を行い、管理栄養士国家試験合格を目指して下さい。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	調理学実習 II	科目ナンバリング	NBdD12035
担当者氏名	富永 しのぶ		
授業方法	実習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

食の管理を担う者として、実習を通して調理の理論、食品の特性、基礎知識、調理操作、食事環境等に関わる理解を高め、多様化する調理への応用力を学ぶ。

《テキスト》

『たのしい調理—基礎と実習』
 『食品成分表』※新しい成分表の購入が必要になる予定
 その他プリント配布

《参考図書》

『調理と理論』山崎清子他（同文書院）
 『コトと科学の調理事典』河野友美他（医歯薬出版）
 『新・櫻井 総合食品事典』荒井綜一他（同文書院）
 『日本食品大事典』杉田浩一他（医歯薬出版）

《授業の到達目標》

調理実習を通して材料、作業手順を把握し各グループのメンバーと連携をはかり、計画的に作業が効率よくできるようになる。主な日本料理、西洋料理、中国料理を実習する中で、食品の素材特性の理解と取扱い方、適切な料理の分量、調味割合を把握して献立作成、作り方、作業計画ができるようになる。

《授業時間外学習》

調理操作、技術の修得は実習時間だけで身に付くものではないため、各自自宅で調理する機会を積極的に持つこと。実習前には、料理の材料、手順を理解して作業効率を考えて実習できるよう予習を必ずすること。実習後は自宅で調理をして確認、復習をすること。

《成績評価の方法》

筆記試験50%、実技試験30%、レポート20%

《備考》

食品・公衆衛生の立場から手指・服装・頭髮などの身支度に留意する。食材、調理器具、食器の扱いは丁寧に行うこと。この授業は180分とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調理実習 II の概要 確認試験 I	授業内容の説明、成績評価の方法、提出レポートについて理解する テストを行い調理学、調理実習 I で行った知識の確認を行う
2	日本料理 I	筍の調理特性について理解する 米の調理（味付け飯）について理解する
3	中華料理 I	四川料理の特徴と中華料理の献立構成について理解する
4	西洋料理 I	乾麺の扱い方について学ぶ 焼き菓子の基本を理解する
5	日本料理 II	米の調理（すし飯の基本）について理解する
6	日本料理 III	米の調理（丼物の基本）について理解する 郷土料理について理解する
7	西洋料理 II	小麦粉の調理（ルウ・ベシヤメルソース）について理解する 油脂を使った米料理（バターライス）について理解する
8	中華料理 II	小麦粉の調理（イーストの調理）について理解する 豆の調理（小豆の調理特性）について理解する
9	西洋料理 III	いもの調理特性について理解する 揚げ物（フライの衣）について理解する
10	自主献立 I	献立作成 食品構成から献立作成、発注について理解する
11	中国料理 III 西洋料理 IV、飲み物	麺の調理、小麦粉の調理（比重）について理解する 紅茶、緑茶について理解する
12	自主献立 II	自主献立実習 作ってみよう自主献立について理解する
13	日本料理	日本料理の献立構成、様式、食文化を理解する
14	まとめ	調理実習で行った調理法、食品の調理特性、食文化について振り返る
15	実技試験 I 筆記試験 II	切り方、調味割合と計量、1品料理について説明する 調理に関する基礎テスト

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	基礎栄養学実験	科目ナンバリング	NAFD12038
担当者氏名	松村 末夫		
授業方法	実験	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）		

《授業の概要》

実験動物を、すべての栄養素を含む食餌及び限定した栄養素を含む食餌、または限定した量の食餌で飼育し、ラットの体重や体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、諸臓器等の変化を観察・測定し、観察・測定結果をもとに、各種栄養素のはたらきを理解する。また生体成分の分析・消化酵素の作用についての実験を行う。

《授業の到達目標》

各種栄養素の過不足により、どのような変化が生じ、なぜそのような変化が生じるのかを考えることができる。

《成績評価の方法》

実験態度（20%）、レポート（80%）により評価する

《テキスト》

なし。実験資料を配布予定。

《参考図書》

『Nブックス 実験シリーズ 基礎栄養学実験』木元幸一・鈴木和春編著（建帛社）2009
『小動物を用いる栄養実験』細谷憲政・印南敏・五島孜朗編著（第一出版）1980

《授業時間外学習》

実験の説明をよく聴き、実験内容をよく理解しておくこと。実験資料の内容を理解しておくこと。レポートを作成すること。ラットの飼育と観察。

《備考》

注意深く実験を行い、注意深く観察・測定を行い、観察・測定結果が何を意味するものであるのかをしっかりと考えてみましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	実験についての説明、討議する。
2	ラットの飼育	食餌の調製とラットの飼育の開始する。
3	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定を行う。
4	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定を行う。
5	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定を行う。
6	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果について討議する。異なった食餌の調製とラットの飼育の開始する。
7	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定を行う。
8	ラットの飼育・観察・測定	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定を行う。
9	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定。測定結果について討議する。ラット諸臓器ならびに食品の成分分析を行う。
10	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定、測定結果について討議する。ラット諸臓器ならびに食品の成分分析を行う。
11	ラットの飼育・観察・測定、生体成分の分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定結果について討議する。ラット諸臓器の成分分析を行う。
12	生体成分の分析、消化酵素の作用	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定を行う。ラット諸臓器の成分分析を行う。栄養素の消化酵素による消化と消化産物の分析を行う。
13	ラット諸臓器の成分分析	体重、体調、食餌摂取量、血液成分、尿成分、便の観察・測定観察・測定を行う。ラット諸臓器の成分分析を行う。栄養素の消化酵素による消化と消化産物の分析を行う。
14	実験のまとめ1	実験内容および実験結果について要点をまとめる。
15	実験のまとめ2	実験内容および実験結果について要点をまとめる。

科目名	応用栄養学 I		科目ナンバリング	NAGD12039	
担当者氏名	須見 登志子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

ライフステージ別特性から1人の一生を分類し、各ステージにおける身体状況や生理的特徴、生活環境などを学ぶ。即ち妊娠や発育、加齢などによる人体の構造や機能の変化について学び、それに伴う栄養のあり方とともに栄養に関連した疾患についても学修し、栄養状態の評価・判定についてふれ、応用栄養学Ⅱへとつなげることを目標とする。

《授業の到達目標》

- 1人の胎生期から高齢期に至る各ライフステージ毎の成長・発達、加齢に伴う生理的、形態的特性や環境の変化について
 - 各ライフステージにおける栄養に関連した疾患について
 - 身体と栄養素の関係や健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能について
- 以上の項目について理解する。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心とし、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。
配分は、定期試験80%、小テスト、レポート、受講態度など20%を原則とする。

《テキスト》

『健康・栄養科学シリーズ 応用栄養学 改定第5版』
渡邊令子、伊藤節子、瀧本秀美著 南江堂
『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

『新しい臨床栄養学』後藤昌義、瀧下修一著 南江堂
『社エス応用栄養学』江指隆年、中嶋洋子編著 同文書院
『からだの仕組みと働き』中野昭一 医歯薬出版
その他、必要に応じて示す

《授業時間外学習》

授業後の復習、次回の授業範囲の予習をしたり、専門用語の意味などを理解しておくこと。ノート整理。

《備考》

定期試験の出題範囲は知らせる。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	応用栄養学 I について	授業内容と受講時における決まりごとの説明 成長・発達・加齢変化と栄養について学ぶ。
2	成長期の栄養①	胎児期、新生児期、乳児期の特性について学ぶ。
3	成長期の栄養②	新生児期、乳児期の栄養補給について学ぶ。
4	成長期の栄養③	幼児期の特性について学ぶ。
5	成長期の栄養④	新生児期、乳児期、幼児期における栄養関連の疾患について学ぶ。
6	成長期の栄養⑤	学童・思春期の特性について学ぶ。
7	成長期の栄養⑥	学童・思春期における栄養関連の疾患について学ぶ。
8	成人期の栄養①	成人期の特性について学ぶ。
9	成人期の栄養②	成人期と生活習慣病について学ぶ。
10	母性栄養①	妊娠期の特性について学ぶ。
11	母性栄養②	妊娠期における栄養関連の疾患について学ぶ。
12	母性栄養③	授乳期の特性と栄養関連の疾患について学ぶ。
13	更年期の栄養	更年期の特性と栄養関連の疾患について学ぶ。
14	高齢期の栄養①	高齢期の特性について学ぶ。
15	高齢期の栄養②	高齢期における栄養関連の疾患について学ぶ。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	応用栄養学Ⅱ	科目ナンバリング	NAgD22040
担当者氏名	真鍋 祐之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） ◎ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）		

《授業の概要》

わが国では、国民の生涯にわたる健康づくりを目指しており、運動・栄養・休養が重要視されており、とくに栄養管理はその基本となる。人びとの栄養状況を正しく評価し、健康づくりを総合的に推進するため、ライフステージごとの基礎的知識を基にして、栄養上の特徴、栄養状態の評価・判定および適切な栄養管理の在り方を学修する。

《授業の到達目標》

- 健康の維持・増進に向けた栄養と身体状況の関係を知る。
- 「栄養管理」の基本的事項について理解する。
- 「応用栄養学Ⅰ」で学んだライフステージごとの基礎知識を基に、各ライフステージにおける栄養状態を総合的に評価・判定し、身体状況に応じた栄養管理の在り方を理解できる。

《成績評価の方法》

定期試験（100％）

《テキスト》

『栄養科学シリーズNEXT 応用栄養学 第5版』木戸康博・小倉嘉夫・真鍋祐之編 講談社（2016年夏発行予定）

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準2015年版』 第一出版
 『栄養ケア・マネジメント』木戸康博,小倉嘉夫,真鍋祐之編 医歯薬出版
 『栄養食事療法の実習 栄養アセスメントと栄養ケア』本田佳子編 医歯薬出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法:次回講義該当部分に目を通し、全体的学習内容を把握しておくこと。
- (2) 復習の方法:その日の講義内容に目を通し、ノート等で不十分な部分は教科書等を元に加筆するなど、内容を再確認すること。
- (3) 忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養管理学とは	栄養管理の概要について学ぶ。
2	栄養評価 ①	主観的栄養評価法と客観的栄養評価法の違いとそれぞれの内容を理解するとともに、実際に活用できるように知識を習得する。
3	栄養評価 ②	以後の栄養評価に活用できる情報を得るために、客観的栄養評価法によりどのような情報を得る必要があるかを知る。
4	栄養管理計画と評価	栄養管理計画における目標設定と計画立案において必要な知識と技術について学ぶ。
5	食事摂取基準①	総論：食事摂取基準の総論について学ぶ。
6	食事摂取基準②	総論：食事摂取基準の総論について学ぶ。
7	食事摂取基準③	各論：エネルギーの基準について学ぶ。
8	食事摂取基準④	各論：たんぱく質の基準について学ぶ。
9	食事摂取基準⑤	各論：脂質の基準について学ぶ。
10	食事摂取基準⑥	各論：ミネラルとビタミンの基準について学ぶ。
11	ライフステージ別栄養管理①	妊娠期・授乳期における栄養管理のポイントについて学ぶ。
12	ライフステージ別栄養管理②	新生児期・乳児期における栄養管理のポイントについて学ぶ。
13	ライフステージ別栄養管理③	発育期(幼児期・学童期・思春期)における栄養管理のポイントについて学ぶ。
14	ライフステージ別栄養管理④	成人期・更年期における栄養管理のポイントについて学ぶ。
15	ライフステージ別栄養管理⑤	高齢期における栄養管理のポイントについて学ぶ。

科目名	栄養教育論 I	科目ナンバリング	NAhD12043
担当者氏名	矢埜 みどり		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

国民栄養の現状と問題点を明確にし、栄養管理が疾病予防や健康増進に深く関わることを学び、栄養管理の重要性を理解する。さらに、食知識・食態度、実際の調理技術(スキル)や社会資源の活用、周囲の行動・態度、社会・生活環境の影響をうけて段階的に形成されることを理解し、食行動変容に必要な理論を学ぶ。また、適切な食行動形成と健康増進に必要な栄養教育の理論と方法論についても理解をすすめる。

《授業の到達目標》

- (1) 食行動が個人のみならず、環境の影響もうけて形成されることを理解し説明できる。
- (2) 行動変容実現に必要な①問題行動の要因分析と健康的食行動の実践を誘導する行動科学理論、②教育計画の企画・立案に必要な教育学、③個別教育に必要なカウンセリングスキル、に関する基礎知識を習得する。

《成績評価の方法》

定期試験の結果により成績評価を行う（100%）。なお、試験は教科書・ノート等の「持ち込み不可」として実施する。

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論 第3版』春木 敏編、医歯薬出版、2014

《参考図書》

『栄養指導のためのヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2003『実践ヘルスカウンセリング』宗像恒次編、医歯薬出版、2001『平成21年度国民健康・栄養調査報告書』厚生労働省、2011

《授業時間外学習》

- (1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。
- (2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。

《備考》

日常生活の中で食に関する「？」と考える瞬間を持つように心がけること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育の概念	栄養教育の目的、目標を理解し、ライフステージやスタイル、健康状態の違いから、どのように対象者を捉え、どのような教育の場を設定しなければならないかを把握する。
2	健康教育論を基礎とする栄養教育論	健康教育の歴史から、ヘルスプロモーションの意義を理解する。
3	行動科学理論と栄養教育 I	行動科学からみた食行動変容の機序を理解し、学習者の課題や状況に応じた適切な理論を選択できるようになる。（オペラント学習理論やヘルスビリーフモデルなど。）
4	行動科学理論と栄養教育 II	行動変容段階モデル、合理的行動理論が体重コントロール、高脂肪食の改善、適正飲酒や運動の影響など、種々の生活改善に応用できることを説明できる。
5	行動科学理論と栄養教育 III	社会的認知理論(社会的学習理論)が人の行動を通して、環境や行動が人との間で相互関係にあることを理解する。
6	行動科学理論と栄養教育 IV	ソーシャルネットワーク、ソーシャルサポート、コミュニティオーガニゼーションについて理解する。これまでのふりかえりを行う。
7	行動科学理論と栄養教育 V	行動療法のプロセスを理解し、問題行動の特定、行動分析、行動技法の選択と適用、結果の確認とフィードバックができるようになる。
8	栄養カウンセリング I	カウンセリングの基本的態度及び技術について理解する。
9	栄養カウンセリング II	栄養カウンセリングの実際を理解する。
10	食環境づくりと栄養教育	適切な食物提供、情報提供を行うことが出来る社会環境としての食環境づくりの重要性を理解し、具体的な食物へのアクセス、情報へのアクセスの提案が出来るようになる。
11	栄養教育マネジメント I	社会・疫学アセスメントの基となる対象の情報から、目標設定・課題の優先順位・実施方法の検討・計画設定、さらに各段階でのアセスメントを行う必要性を理解する。
12	栄養教育マネジメント II	情報収集の方法を理解し、得られた情報をプリシード・プロシードモデルにあてはめて問題点を明確にする方法を理解する
13	栄養教育マネジメント III	明らかになった問題点に対し、目標を設定し、カリキュラムの立案する方法を理解する。
14	栄養教育マネジメント IV	学習の方法や形態を理解し、今回の事例においてどの方法及び形態が良いか理解する。
15	栄養教育マネジメント V	栄養教育の評価の定義、評価デザイン、評価の種類と内容を理解する。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	栄養教育論Ⅱ	科目ナンバリング	NAhD12044
担当者氏名	藤田 裕子		
授業方法	講義	単位・必修	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

栄養教育の実践基礎知識を学ぶだけに留まらず、管理栄養士として自らの食生活管理および健康づくりの身体活動量の設定・実践を行う。そうすることで対象者側の気持ちを理解しつつ、説得力のある健康栄養教育の実践力を培う。

栄養教育の実際として、ライフステージ別の具体的な教育事例を様々な教材を使用して学んでいく。コーチング等を理解することで対象者の自発的な行動を促す支援方法を学ぶ。

《授業の到達目標》

- 食事バランスガイドを説明でき、適正量を理解した上で、食事バランスを整えることができる。
- 健康づくりのための身体活動量を理解し、現在の身体活動量についてのチェックができる。自らの身体活動量の目標達成のために、工夫して活動量を増やすことができる。
- ライフステージ別の栄養教育の実践に必要な知識と技術について理解できる。

《成績評価の方法》

- 定期試験（60%）
- 課題等の提出物・授業中に実施する小テスト・レポート（40%）

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論』 春木敏 編（医歯薬出版）
必要に応じてプリント・教材を配布

《参考図書》

「食事バランスガイド」を活用した栄養教育・食育実践マニュアル 日本栄養士会 第一出版
ニュートリションコーチング 柳澤厚生 医歯薬出版
ライフスキルを育む 食生活教育 JKYB研究会 東山書房
Dr. 坂根のやる気がわいてくる糖尿病ケア 坂根直樹 医歯薬出版

《授業時間外学習》

- (1) 予習方法：教科書の次回授業範囲を読んでおくこと。
- (2) 自らの食生活管理や、健康づくりのための身体活動量の目標設定と実践を行うこと。（課題としてセルフモニタリングを数回実施）

《備考》

この授業を通して、自分自身が適切な食事や運動を心掛けられるようになりましょう。健康栄養教育の基盤となります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教育に活用する基礎知識と教材①	栄養教育の基礎となる食品の分類（三色食品群・6つの基礎食品群）を楽しい教材とゲームで理解できる。
2	栄養教育に活用する基礎知識と教材②	健康づくりのための運動指針を理解できる。自身の活動量をモニタリングし、健康的な身体活動計画を立てることができる。
3	栄養教育に活用する基礎知識と教材③	わが国のフードガイド「食事バランスガイド」の理解によって、1日に何をどれだけ食べればよいかを理解でき、自分の食事バランスを評価することができる。
4	妊娠・授乳期の栄養教育	母親学級の栄養教育案を行うことにより、妊娠期の栄養教育の特徴と留意事項、指導の流れがわかる。
5	乳幼児期の栄養教育①	乳児栄養と離乳食の特徴と留意事項がわかる。離乳期の食事相談には、どのようなものがあり、どのように答えたらよいかわかる。
6	乳幼児期の栄養教育②	幼児期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。偏食、野菜嫌いなどの栄養教育プランニングを理解できる。
7	学童期の栄養教育	学童期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「おやつ選択」「食品表示を読む」をテーマにした授業案を体験し、児童目線で栄養教育を捉えることができる。
8	思春期の栄養教育	「中食や外食の上手な利用の仕方」というテーマの授業案を体験し、高校生への栄養教育を理解するとともに、自己管理能力を高められる。
9	成人期の栄養教育①	特定健診に伴う保健指導の特徴と流れがわかる。行動変容段階に応じた健康栄養教育の進め方を理解することができる。
10	成人期の栄養教育②	「肥満予防」のための栄養教育案の実施により、成人期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。
11	高齢期の栄養教育	高齢期の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。「お腹をすかしておいしく食べよう」という指導案を楽しく行うことで、指導展開を理解できる。
12	疾病者の栄養教育	疾病者の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。2型糖尿病患者の個別栄養教育の流れや内容が理解できる。
13	コーチングの栄養教育への適用	コーチングの概要と特徴がわかる。コーチングを栄養教育に適用した事例のロールプレイを行うことで対象者の気持ちの理解と、コーチングの効果を実感できる。
14	障害者の栄養教育	障害者の栄養教育の特徴と留意事項がわかる。ノーマライゼーションを理解し、視覚障害者を対象とする調理の栄養教育案を理解できる。
15	アスリートの栄養教育	アスリートの栄養教育の特徴と留意事項がわかる。アスリートの栄養教育プランニングを理解できる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学 I	科目ナンバリング	NAiD12048
担当者氏名	増村 美佐子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修 開講年次・開講期 2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

臨床栄養学の意義と目的、疾患と栄養、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養および内分泌・代謝疾患、消化器疾患の定義、病因・病態、診断、治療について学ぶ。傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適切な栄養管理と栄養教育ができる基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

- 臨床栄養学の基礎知識の説明が可能となる。
- 各疾患の定義、病因・病態、症状、診断、治療が理解できる。

《成績評価の方法》

- (1)小テスト30%。(2)定期試験70%
- (3)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療従事者としての心構え、医療・介護制度の基本、医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養についての基本を学ぶ。
2	医療と臨床栄養	治療における栄養マネジメントの意義、チーム医療、クリニカルパス、入院時食事療養制度と栄養食事指導料について学ぶ。
3	消化器疾患（口腔と食道の疾患）	口内炎、胃食道逆流症、食道がんの定義・原因・症状・治療について学ぶ。
4	消化器疾患（胃の疾患）	胃炎、胃・十二指腸潰瘍の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
5	消化器疾患（胃の疾患）	胃癌、胃切除後症候群の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
6	消化器疾患（大腸の疾患）	クローン病、潰瘍性大腸炎の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
7	消化器疾患（大腸の疾患）	下痢、便秘、過敏性腸症候群、大腸がんの定義・原因・症状・治療について学ぶ。
8	消化器疾患（膵臓疾患）	膵炎・膵臓がんの定義・原因・症状・治療について学ぶ。
9	代謝性疾患（肥満症）	肥満症・るいそうの定義・原因・症状・治療について学ぶ。
10	代謝性疾患（糖尿病）	糖代謝について学ぶ。
11	代謝性疾患（糖尿病）	糖尿病の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
12	代謝性疾患（脂質異常症）	脂質代謝について学ぶ。
13	代謝性疾患（脂質異常症）	脂質異常症の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
14	代謝性疾患（高尿酸血症・通風）	高尿酸血症・痛風の定義・原因・症状・治療について学ぶ。
15	まとめ	講義内容を総復習する。

《テキスト》

『新しい臨床栄養学』後藤昌義他編、南江堂
 『糖尿病食事療法のための食品交換表』日本糖尿病学会編

《参考図書》

『人体の構造と機能および疾病の成り立ち 疾病の成因・病態・診断・治療』竹中優編、医歯薬出版
 『人体の構造と機能および疾病の成り立ち 人体の構造と生理機能』原田玲子他編、医歯薬出版
 『病気がみえるシリーズ』メディックメディア

《授業時間外学習》

1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. 教科書や配布プリントを必ず復習しておくこと。

《備考》

講義中に小テストを行う。
 新聞やニュースなどから発信される医療や栄養情報に関心を持つこと。

科目名	臨床栄養学Ⅱ	科目ナンバリング	NAiD22049
担当者氏名	須見 登志子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

管理栄養士は、傷病者の栄養管理や栄養指導を業とする。そのため病気についての知識を必要とする。「臨床栄養学Ⅱ」では疾病の成り立ちを主とし、肝疾患、循環器疾患、腎疾患を中心に各種疾患の定義、病態、臨床検査など診断や栄養食事療法などの治療について学び、「臨床栄養管理学」「臨床栄養学実習」「臨床栄養学演習」へとつなげていくための基礎能力を身につける。

《授業の到達目標》

- 各疾患の定義、病因、病態、症状、診断、治療が理解できる。
- 臨床栄養学の基礎知識の説明が可能となる。

《成績評価の方法》

定期試験の結果を中心とし、小テスト、レポート、受講態度を総合的に評価する。配分は、定期試験80%、小テスト、レポート、受講態度など20%を原則とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	肝・胆道疾患	肝臓の形態と機能：正常と病的変化 肝臓障害の主要症状について学ぶ。
2	肝・胆道疾患	肝炎、肝硬変、脂肪肝、肝がんなど肝臓疾患の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
3	肝・胆道疾患	胆嚢疾患（胆石症、胆のう炎）の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
4	循環器疾患	動脈硬化症の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
5	循環器疾患	高血圧症の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
6	循環器疾患	心疾患、脳疾患の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
7	腎疾患	腎臓の形態と機能：正常と病的変化 腎臓障害の主要症状について学ぶ。
8	腎疾患	腎炎、ネフローゼ症候群、CKD、腎不全など個々の腎臓疾患の成り立ち、定義、病態、症状、透析などについて学ぶ。
9	腎疾患	腎臓病食事療法と腎臓病食品交換表について学ぶ。
10	呼吸器疾患	呼吸器の構造と呼吸器疾患（肺炎、気管支喘息、COPD、肺結核、肺がん）の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
11	筋・骨格疾患	骨粗鬆症、骨軟化症、嚥下障害、サルコミアなど筋・骨格疾患の成り立ち、定義、病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。
12	血液疾患	血液成分と機能について。貧血の種類と病態、症状、治療主として食事療法について学ぶ。その他の血液疾患（白血病、出血傾向凝固障害）について学ぶ。
13	免疫とアレルギー	免疫反応とアレルギー反応の基礎に触れ、アレルギー疾患、自己免疫疾患免疫不全症候群の成り立ち、定義、病態、症状、治療について学ぶ。
14	発熱・感染症	発熱・感染症の成り立ち、定義、病態、症状、治療について学ぶ。
15	がん	がんの成り立ち、定義、病態、症状、治療について学ぶ。

《テキスト》

『新しい臨床栄養学』後藤昌義, 瀧下修一著 南江堂
『腎臓病食品交換表』黒川清監修、中尾俊之他編 医歯薬出版
『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

『栄養食事療法の実習』本田佳子編 医歯薬出版
『病気の成り立ちとからだⅠ』『病気の成り立ちとからだⅡ』
中野昭一編 医歯薬出版
『臨床検査ハンドブック』奈良信雄 医歯薬出版
『目で見るからだのメカニズム』堺章 医学書院

《授業時間外学習》

授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。必要に応じて参考文献について授業中に示すので読んでおくこと。
医学や栄養の情報に関心を持ちましょう。

《備考》

定期試験の出題範囲は知らせる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学 I	科目ナンバリング	NAJD12053
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・必修
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）		

《授業の概要》

わが国および諸外国の健康栄養問題の現状、課題とそれらに対応した栄養政策について提示します。保健・医療・福祉・介護制度の中で、人々に適切な栄養関連サービスを提供するための基礎知識を学ぶとともにプログラムの実際を紹介し、また今後の公衆栄養の将来展望について学生同士で考える機会もあり理解を深めることができます。

《テキスト》

「サクセス 公衆栄養学」（社）日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

「2016年度版 管理栄養士・栄養士必携」（社）日本栄養士会編 第一出版
「国民衛生の動向2016/2017」 厚生労働統計協会

《授業の到達目標》

- 健康増進と疾病予防を目指す公衆栄養活動を理解し説明することができる。
- 地域・国・地球レベルでの健康増進と疾病予防を目指す栄養政策や活動について理解し説明することができる。

《授業時間外学習》

- 理解度の経過評価として「ふりかえりシート」を用いて授業内容の確認をするので復習をしておくこと。
- ニュース、新聞などにより、健康や栄養に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《成績評価の方法》

ふりかえりシート・課題提出物（20%）、定期試験（80%）

《備考》

- アクティブラーニング（AL）教室を使用することがある。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養学の概念 1	ガイダンス 公衆栄養学の定義、公衆栄養学理論と公衆栄養活動の概説ができる。
2	公衆栄養学の概念 2	社会及び自然環境と公衆栄養学について説明することができる。
3	公衆栄養活動を取り巻く社会環境、法律、制度 1	少子・高齢社会、健康状態の変化について具体的に捉えることができる。
4	公衆栄養活動を取り巻く社会環境、法律、制度 2	食生活の変化、食環境の変化（前半）について主体的に調べることができる。
5	公衆栄養活動を取り巻く社会環境、法律、制度 3	食生活の変化、食環境の変化（後半）について主体的に調べることができる。
6	健康づくり施策の推移と展開 1	公衆栄養活動の沿革について理解することができる。
7	健康づくり施策の推移と展開 2	栄養政策と法規（栄養士法、健康増進法、地域保健法、食育基本法）を学ぶ。
8	健康づくり施策の推移と展開 3	人材の養成と育成（管理栄養士・栄養士養成制度、その他関連職種制度）を学ぶ。
9	健康づくり施策の推移と展開 4	国民健康・栄養調査の概要、ならびに結果の評価と活用について概説できる。
10	健康づくり施策の推移と展開 5	健康日本21（第2次）と地方計画の関係について理解することができる。
11	健康づくり施策の推移と展開 6	健康づくり施策を担当する行政、関連する機関の役割と連携を学ぶ。
12	健康づくり施策の推移と展開 7	日本人のための食事摂取基準2015年版、食生活指針、食事バランスガイド、健康づくりのための身体活動指針、休養指針、睡眠指針について概説できる。
13	健康づくり施策の推移と展開 8	食品の表示制度（栄養表示基準制度、保健機能食品制度）、その他の政策について理解し身近な食品を使用し説明することができる。
14	国際栄養の理解 1	世界の人口及び食糧問題、諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を実感できる。
15	国際栄養の理解 2	諸外国の健康・栄養政策、21世紀地球規模の公衆栄養活動について主体的に捉えることができる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	給食経営管理論		科目ナンバリング	NAKD12056	
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	講義	単位・必選	2・必修	開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力）			

《授業の概要》

給食経営管理は、管理栄養士・栄養士の実務として重要な専門科目です。調理学や食品学、栄養学、食品衛生学等の知識をもとに給食経営管理分野へと応用展開していく最初の科目に位置付けられます。

《テキスト》

『エッセンシャル 給食経営管理論』医歯薬出版

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）
 『日本人の食事摂取基準（2015年版）の実践・運用』（第一出版）

《授業の到達目標》

- ・ 給食経営管理の業務の流れを理解する。
- ・ 特定給食施設の現場事例を交えて管理栄養士の実務を理解し内容を深める。

《授業時間外学習》

次週の予習を行い、意欲的に参加すること。

《成績評価の方法》

定期試験（80%）、課題および振り返り（20%）

《備考》

管理栄養士・栄養士の実務として最も重要な領域です。特定給食施設の特徴を理解して、給食の実習に自信を持ってつなげましょう。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	給食経営管理の概要	定義・関係法規について学ぶ。
2	各特定給食施設における給食管理の特徴	福祉施設（幼児・高齢者）・委託給食について学ぶ。
3	各特定給食施設における給食管理の特徴	事業所・学校・病院（院外給食）について学ぶ。
4	経営管理	マネジメント・組織について学ぶ。
5	経営管理	マーケティング・原価管理について学ぶ。
6	栄養管理	アセスメント・栄養計画について学ぶ。
7	栄養管理	給食計画・献立計画について学ぶ。
8	生産管理	食材購入計画について学ぶ。
9	生産管理	作業計画について学ぶ。
10	施設管理	厨房機器と機能について学ぶ。
11	施設管理	食環境・栄養教育について学ぶ。
12	衛生・安全管理	人・食・施設・設備について学ぶ。
13	衛生・安全管理	危機管理・HACCP・新調理システム・大量調理施設衛生管理マニュアルについて学ぶ。
14	給食管理の評価	評価の機能・方法について学ぶ。
15	特定給食施設	管理栄養士・栄養士の役割について学ぶ。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理実習 I	科目ナンバリング	NAKD12057
担当者氏名	福本 恭子		
授業方法	実習	単位・必選	1・必修 開講年次・開講期 2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ○ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力）		

《授業の概要》

給食経営管理論で学んだ知識を実践する科目である。給食業務を行うために必要な栄養・食事計画から食材料管理、作業管理、評価をとおり、PDCAサイクルにそった給食サービスの基本的な方法を学ぶ。また、大学食堂における朝食づくり実習を通して、給食現場を体験するという実践面も強化していく。

《授業の到達目標》

- ・給食業務の一連の流れを理解する。
- ・管理栄養士としての役割を理解する。
- ・大量調理の方法を理解する。

《成績評価の方法》

課題作成（40％）実習や課題に取り組む姿勢と態度（40％）理解度確認（20％）

《テキスト》

『イラストでみるはじめての大量調理』殿塚婦美子、山本五十六著、株式会社学建書院、『給食経営管理実習ワークブック第2版』藤原政嘉、田中俊治、赤尾正編、(株)みらい

《参考図書》

『エッセンシャル給食経営管理論』富岡和夫、富田教代編（医歯薬出版）、『調理のためのベーシックデータ』女子栄養大学出版部、『日本人の食事摂取基準2015年版』（第一出版）『日本人の食事摂取基準（2015年版）の実践・運用』食事摂取基準の実践・運用を考える会編（第一出版）、日本食品成分表（医歯薬出版）

《授業時間外学習》

円滑な実習運営のため、給食経営管理の理論を十分に理解しておくこと。

《備考》

大量調理を行いますので、個人のわずかな衛生上の不注意が大きな影響を及ぼす場合があります。食中毒予防の観点から個人の健康や衛生面に対し日常的に注意を払うことが望まれます。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	実習の概要、実習についての心構えについて学ぶ
2	計画①	栄養・食事計画①（給与目標量の設定、食品構成表の作成）について学ぶ
3	計画②	栄養・食事計画②（食品群別加重平均栄養成分値の算出、厨房内の機器説明、試運転①）について学ぶ
4	計画③	栄養・食事計画③（献立作成、試運転②）について学ぶ
5	計画④	食材料管理（購入計画、発注、納品、検収、在庫管理）について学ぶ
6	実施①	作業管理①（大量調理の品質管理①、厨房実習①）について学ぶ
7	実施②	作業管理②（大量調理の品質管理②、厨房実習②）について学ぶ
8	実施③	作業管理③（配食・配膳①、厨房実習③）について学ぶ
9	実施④	作業管理④（配食・配膳②、厨房実習④）について学ぶ
10	実施⑤	作業管理⑤（衛生管理①、厨房実習⑤）について学ぶ
11	実施⑥	作業管理⑥（衛生管理②、厨房実習⑥）について学ぶ
12	評価・改善①	栄養・食事計画、食材料管理の評価（帳票の整理）について学ぶ
13	評価・改善②	作業評価（品質管理・衛生管理・残食調査）について学ぶ
14	評価・改善②	評価に基づいた計画の修正について学ぶ
15	まとめ	課題の再提出と実習のまとめ

《教職に関する科目》

科目名	教育心理学	科目ナンバリング	NTAL42004
担当者氏名	大平 曜子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

教育科学の一分野であり、人間形成に関わる独自の理論と方法を提示する実践的な学問である。受講者は、教育における心理学的領域の理解をめざすとともに人間科学的な視点を養う。

授業では、「発達」と「学習」を中心に、パーソナリティと適応、測定と評価、そして学級集団や教師の心理などについて学び、教育実践に役立つ教育心理学の知識の習得とそれぞれの専門領域の教育に応用する方法を学習する。

《授業の到達目標》

○教育に関する心理学的事実や法則を説明できる。○自らの専門領域に教育心理学の基礎知識を役立てることができるか、考えをまとめることができる。○教育効果の検証（評価）ができる。○教育心理学の知識を基に、自らの学習態度や教職志望者としての態度形成にむけて考えをまとめることができる。○障害をもつ子どもの学習や発達を理解し、「学び」について考えをまとめることができる。

《成績評価の方法》

授業内課題等の提出物（30％）、定期試験（70％）

《テキスト》

テキストは使用しない。
必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『絶対役立つ教育心理学』藤田哲也編著 ミネルヴァ書房
その他、適宜紹介する。

《授業時間外学習》

プリントに基づいて授業内容を整理し、専門用語等の整理をする。
授業の中で提示された課題について、参考文献等に目を通し、期限内に作成して提出する。

《備考》

目的意識を持ち主体的に授業に臨むこと。プリントやノートに書き込みをし、自分のノートをつくること。「本時の振り返り」の記入提出で、参加状況を確認する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 教育心理学とは	授業の進め方を理解し、自らの学習方法を確認する。教職における教育心理学の位置づけを理解し、学習の意味を説明することができる。
2	教育心理学の課題	教育心理学の定義を理解する。現代的教育課題や教室における子どもの様子や学習課題を理解し、教育心理学の意義や役割、教育方法とのかかわりについて理解する。
3	発達の基礎理論（1）	発達原理、発達の学説について理解する。
4	発達の基礎理論（2）	発達の様相、成熟と発達
5	発達の基礎理論（3）	発達課題
6	学習の基礎理論（1）	学習の成立、学習の過程、知能と学力
7	学習の基礎理論（2）	学習の理論、学習の概念
8	教育評価（1）	教育評価の概念、意義と役割、評価方法の理解、課題の提示
9	学習の基礎理論（3）	記憶と学習
10	学習の基礎理論（4）	効果的な学習の理解、動機づけとやる気、意欲と学習活動
11	教育評価（2）	測定と評価の実際
12	教授過程	学習指導法、授業の最適化
13	パーソナリティ理論	パーソナリティと性格、パーソナリティの形成、養育態度とパーソナリティ
14	不適応行動 「障害」の理解	問題行動の現状、欲求と欲求不満、適応と適応障害 障害をもつ子どもの教育、学習（学び）の課程
15	教育における心理学の働き、まとめ	教育相談、集団の機能と構造、人間関係 これまでの学習と得られた知見を再確認し、具体的な成果を説明することができる。

《教職に関する科目》

科目名	教育課程論（道徳・特別活動を含む）		科目ナンバリング	NTAL42006	
担当者氏名	新井野 久男				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教育課程全般についての知識や学習指導要領に沿ってどのように教育内容を展開していくかを学ぶ。学習指導要領がどのように歴史の変遷を経て改訂されたかも学ぶ。各校種別の教育課程の内容や編成の手順、実際にどのように実施されているかについて学ぶ。また、特別活動、道徳教育の目標や意義について講義する。実際に学校現場での教育課程の具体的実施事例について提示する。

《授業の到達目標》

教育課程全般についての知識と幼小中高における教育課程の内容を理解し、教員として教育課程を編成、評価、改善していくための基礎を培うことを目標とする。また、教育課程を実施していく上での具体的事項を実際の事例をもとに研究するなかで、学校現場の実情を理解する。

《成績評価の方法》

筆記試験（40%）、レポート（40%）、その他（提出物、出席状況、授業への取り組む姿勢等）（20%）を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

- ・小学校学習指導要領解説 総則編 H20.8 文科省 東洋館出版
- ・中学校学習指導要領解説 総則編 H20.9 文科省 ぎょうせい

《参考図書》

自作した教材や教育課程に関する資料を提供する。「授業ノート」をこちらで用意する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席を確認する。また、この「授業のまとめ」が試験やレポートの資料になるのできちんとファイリングをしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す意志と意欲が、授業のなかで感じられる学生であること。受講態度については大学生として常識を持って臨むものとする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	養育課程について(1)	教育課程の目的、方針、評価等や教育課程の意義と今日的課題について学ぶ。
2	教育課程について(2)	教育課程に関する法律、学校教育の目的、目標について理解する。
3	教育課程の歴史の変遷	学習指導要領改訂の歴史並びに改訂の経緯や基本方針について理解する。
4	我が国の教育施策と教育課程	教育施策の具体例の提示から教育行政について知る。
5	教育課程編成の手順	教育課程編成の具体的手順について学び、指導計画の事例の研究をする。
6	小学校教育課程の編成と実施	小学校（幼稚園含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
7	中学校教育課程の編成と実施	中学校（高等学校含む）教育課程の目標と目的、特徴を理解し、編成の手順と具体例を知る。
8	総合的な時間の取り扱い	趣旨、ねらい、計画、具体的な学習活動について学び、学習活動展開上の配慮事項を理解する。
9	道徳教育について	道徳教育の意義、目標と内容について学ぶ。
10	特別活動について	特別活動の意義、目標と内容について学ぶ。
11	教育課程実施上の配慮事項	小学校配慮事項（12項目）、中学校配慮事項（14項目）について理解する。
12	教育課程実施上の具体例(1)	生徒指導の充実（いじめ問題の対応を事例研究する）
13	教育課程実施上の具体例(2)	生徒指導の充実（不登校の現状と課題を理解し、不登校生への対応について事例研究する）
14	教育課程実施上の具体例(3)	気になる児童生徒への対応について学校現場の実情を学ぶ。
15	新学習指導要領のポイント	学習指導要領の改訂の動向やポイントなどについて理解する。

《教職に関する科目》

科目名	教育方法・技術論	科目ナンバリング	NTAL42007
担当者氏名	吉永 潤		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

現代的な教育の方法や技術として、何かを教える方法をどのように計画し、そのための材料をどのように準備し、成功したかをどのように確かめるかを体験的に学習する。教育工学の知見から、システム的アプローチに基づく教材作成の方法を解説し、情報メディアを活用して教材を作成し、受講生が相互に教材をチェックすることで、「独学を支援する教材」を設計・作成・評価・改善ができることを目指す。

《授業の到達目標》

- 教材作成に関わる専門用語と手法について説明できるようになる。
- 授業設計のシステム的アプローチを、自分の専門となる領域での個別学習教材の自作に活用できる。
- 教材の自作体験を通して、情報メディアを活用した、他の形態の指導にもシステム的アプローチを応用できる。

《成績評価の方法》

- 自作した教材、および、教材企画書・作成報告書（50%）
- 小テストの結果（30%：3回実施予定）
- ワークシート作成等の作業、討論への参加態度（20%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業全体の説明／教材をイメージする／キャロルの学校学習モデル
2	教材作りをイメージする	システム的な教材設計・開発の手順／キャランドラのたとえ話
3	教材のアイデアを交換する	独学を支援する教材のアイディア交換／教材企画書の書き方
4	教材の責任範囲を明らかにする	小テスト①（第3、4章）／学習目標と3つのテスト／学習目標の明確化
5	テストを作成する	相対評価と絶対評価／学習課題の種類／教材企画書の作成
6	教材企画書を作成する	教材企画書の作成／教材企画書の相互チェック
7	教材の構造を見きわめる	小テスト②（第5～7章）／教材企画書の提出／課題分析の手法
8	独学を支援する作戦をたてる	ガニエの9教授事象と指導方略／視聴覚教材と教育メディアの活用
9	教材パッケージを作成する(1)	教材としての情報メディアの特性／形成的評価の7つ道具
10	教材パッケージを作成する(2)	情報機器の活用方法／形成的評価の7つ道具の相互チェック／ケラーのARCSモデル
11	教材パッケージを作成する(3)	情報機器の活用方法／7つ道具チェックリストの提出
12	形成的評価を実施する(1)	小テスト③（第8、9章）／形成的評価の方法／学習者検討の原則
13	形成的評価を実施する(2)	形成的評価の実施／教材作成報告書の書き方
14	教材を改善する	形成的評価の結果の解釈／教材の改善とその手順／教材作成報告書の作成
15	情報活用能力と独学を支援する教材／まとめ	情報活用能力と独学を支援する教材／教育の情報化／教材作成報告書の提出／学習のふり返り

《テキスト》

鈴木克明(2002)『教材設計マニュアル — 独学を支援するために』北大路書房。

《参考図書》

- 稲垣忠・鈴木克明編著(2015)『授業設計マニュアルVer. 2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房。
- 向後千春(2014)『教師のための「教える技術」』明治図書。
- 中学校・高等学校の学習指導要領等及び解説書
- その他の文献や資料は、適宜、授業中に紹介する。

《授業時間外学習》

予習として、教科書の次の回の授業範囲を読んで、教材の企画・作成・評価の手順と方法を把握しておくこと。復習としては、授業で学習した成果をもとに、教材および教材企画書・報告書の作成の作業を進めておく。また、小テストでは教材作成に関する専門知識や手法について出題するので、教科書を自学自習しておくこと。

《備考》

パソコンで教材および教材企画書・報告書を作成するので、ワープロなど各種ソフトや情報システムを日ごろから利用し、活用方法を習得しておくこと。

《教職に関する科目》

科目名	生徒指導論	科目ナンバリング	NTAL41008
担当者氏名	新井野 久男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	2年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

生徒指導は学習指導要領に以下のように定められている。一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるよう指導・援助するものである。生徒指導の意義と課題を確認した上で、学校における指導体制や問題行動の指導、生徒指導に関係する法的制度、家庭、地域、関係機関との連携など生徒指導全般について学ぶ。さらに生徒指導上の諸問題について具体的事例をもとに研究していく。

《授業の到達目標》

小学校から高等学校までの生徒指導の理論や考え方、実際の指導方法等について、学校現場で教職員が共通理解を図り、組織的な取り組みが実践できるための内容について知る。将来教員を目指す者として、生徒指導上、求められる資質や能力は何かを自分のものとする必要がある。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%), レポート(40%), その他(提出物、出席状況、授業への取り組み姿勢等)(20%)を基本に総合的に評価する。

《テキスト》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。

《参考図書》

「生徒指導提要」平成22年3月(文部科学省)。毎回、自作の「講義用テキスト」を提供しそれをもとに講義を進めていく。また、生徒指導に関する様々な情報資料をその都度提供する。

《授業時間外学習》

毎時間の最後に「授業のまとめ」として、簡単なレポートを課す。これを提出することで出席の確認とする。「授業のまとめ」は試験やレポートの資料となるのできちんとファイリングしておくこと。

《備考》

受講する要件として、教員免許を必ず取得し、教師を目指す強い意志と意欲が授業の中で感じられる学生であること。受講態度については大学生としての常識を持って臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	生徒指導の意義と課題	学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で充実したものなることを目指し、学校の教育目標を達成するための生徒指導の意義と課題について学ぶ。
2	教育課程における生徒指導の位置づけ	生徒指導は、教育課程のすべての領域において機能することが求められる。教育課程における生徒指導の位置づけについて詳しく学ぶ。
3	学校における生徒指導体制と組織	個々の児童生徒に対し、組織的な生徒指導を展開していくため、校内の生徒指導体制をどのように構築していくかなどを考察する。
4	生徒指導の方法と進め方	生徒指導を実際に進めていくためには、生徒指導の意義や課題、組織などの考え方を踏まえて学校などの実態に応じて、どのように進めるか学ぶ。
5	生徒指導と進路指導	生徒自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持ち、自らの意志と責任で進路を選択する能力を身につけさせるための指導・援助について学ぶ。
6	道徳教育における生徒指導	児童生徒の道徳性の育成を目的とする道徳教育と、生徒指導との関係について考えていく。
7	生徒指導に関する法規について	校則や懲戒、体罰、出席停止や非行少年の処遇など、生徒指導との関連について、法的にどのような制度になっているかについて学ぶ。
8	生徒指導と家庭・地域・関係機関との連携	生徒指導は、学校だけで実践するのではなく、常に家庭・地域との連携を欠かせない。学校としてどのように学校・家庭・地域と関わっていくか考える。
9	問題行動の指導について	様々な問題行動に対し、一人一人の児童生徒に応じた効果的な生徒指導とは何かについて考察する。
10	生徒指導上の諸問題(1)	「いじめ」についての実態や構造などを研究し、いじめ問題の対応などについて考察する。
11	生徒指導上の諸問題(2)	「不登校」の実態を学び、不登校生への対応など、関わりや対策などについて考察する。
12	生徒指導上の諸問題(3)	「規範意識」の醸成のために必要とされる指導などについて考察する。
13	生徒指導上の諸問題(4)	「保護者対応」学校と家庭が連携して児童生徒が健全に育成していくための方策などを考える。また、理不尽な要求など指導困難な保護者等への対応についても考える。
14	事例研究(1)	学校現場で起こった生徒指導上の具体的事例をもとに、実際にどのように指導し対応したかを学ぶ。
15	事例研究(2)	具体事例をもとに、生徒指導上の問題が起こったとき、どう対応するかなどを、小グループで事例研究をする。

平成 26（2014）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
I群 (領域に関する科目)	基礎ゼミ	NIaX11001	演習	2						2									
	基礎生化学	NIbX11002	講義	2					㊸	2									
	基礎演習	NIaX11003	演習	2						2									
	調理基礎実習	NIbX11004	実習	1						3									
	コミュニケーション論	NIbX11005	講義	2						2									
	食料経済	NIbX24006	講義	2											2				
	健康科学	NIaX21007	講義	2						2									
	健康情報処理演習	NIbX11008	演習	2						2									
	フードスペシャリスト論	NIbX24009	講義	2											2				
	フードコーディネート論	NIbX24010	講義	2											2				
II群 (専門基礎に関する科目)	管理栄養士概論	NBcD11011	講義	2		◇	○	△		2									
	公衆衛生学Ⅰ	NBcD11012	講義	2		◇	○	△	㊸	2									
	公衆衛生学Ⅱ	NBcD22013	講義	2			○	△			2								
	社会保障制度論	NBcD12014	講義	2		◇	○	△				2							
	保健統計学実習	NBcD23015	実習	1			○	△					3				(湯瀬 晶文)	163	
	生化学Ⅰ	NBdD11016	講義	2		◇	○	△	㊸	2									
	生化学Ⅱ	NBdD22017	講義	2			○	△	㊸		2								
	生化学実験Ⅰ	NBdD12018	実験	1		◇	○	△	㊸		3							☆	
	生化学実験Ⅱ	NBdD22019	実験	1			○	△	㊸			3						☆	
	解剖生理学Ⅰ	NBdD11020	講義	2		◇	○	△	㊸	2									
	解剖生理学Ⅱ	NBdD11021	講義	2		◇	○	△	㊸		2								
	解剖生理学実験Ⅰ	NBdD12022	実験	1		◇	○	△				3						☆	
	解剖生理学実験Ⅱ	NBdD22023	実験	1			○	△					3					☆	
	臨床病態学Ⅰ	NBdD12024	講義	2		◇	○	△	㊸	2									
	臨床病態学Ⅱ	NBdD22025	講義	2			○	△	㊸		2								
	生体防御論	NBdD23026	講義	2			○	△	㊸				2				[島田 邦夫]	164	
	食品学Ⅰ	NBeD11027	講義	2		◇	○	△	㊸	2									
	食品学Ⅱ	NBeD11028	講義	2		◇	○	△	㊸		2								
	食品学実験Ⅰ	NBdD11029	実験	1		◇	○	△	㊸		3							☆	
	食品学実験Ⅱ	NBdD12030	実験	1		◇	○	△	㊸			3						☆	
	食品衛生学	NBdD12031	講義	2		◇	○	△	㊸			2							
	食品衛生学実験	NBdD23032	実験	1			○	△	㊸				3				中井 玲子	165	
	調理学	NBdD11033	講義	2		◇	○	△		2									
	調理学実習Ⅰ	NBdD11034	実習	1		◇	○	△			3							☆	
	調理学実習Ⅱ	NBdD12035	実習	1		◇	○	△				3						☆	

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 （ ）は兼任、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ	
				必修	選択					1年		2年		3年		4年				
										I	II	I	II	I	II	I	II			
専門教育科目	基礎栄養学Ⅰ	NAfD11036	講義	2		◇	○	△	㊦	2										
	基礎栄養学Ⅱ	NAfD11037	講義	2		◇	○	△	㊦		2									
	基礎栄養学実験	NAfD12038	実験	1		◇	○	△	㊦			3								
	応用栄養学Ⅰ	NAgD12039	講義	2		◇	○	△	㊦			2								
	応用栄養学Ⅱ	NAgD22040	講義	2			○	△					2							
	応用栄養学Ⅲ	NAgD23041	講義	2			○	△	㊦					2				真鍋 祐之	166	
	応用栄養学実習	NAgD23042	実習	1			○	△							3			須見 登志子	167	
	栄養教育論Ⅰ	NAhD12043	講義	2		◇	○	△	㊦			2								
	栄養教育論Ⅱ	NAhD12044	講義	2		◇	○	△					2							
	栄養教育論演習	NAhD23045	演習	2			○	△						2				矢埜 みどり	168	
	栄養教育論実習Ⅰ	NAhD13046	実習	1		◇	○	△							3			前田 典子	169	
	栄養教育論実習Ⅱ	NAhD13047	実習	1		◇	○	△							3			矢埜 みどり	170	
	臨床栄養学Ⅰ	NAiD12048	講義	2		◇	○	△				2								
	臨床栄養学Ⅱ	NAiD22049	講義	2			○	△					2							
	臨床栄養学Ⅲ	NAiD23050	講義	2			○	△						2				増村 美佐子・[岩田 隆男]	171	
	臨床栄養学実習	NAiD13051	実習	1		◇	○	△							3			増村 美佐子	172	
	臨床栄養学演習	NAiD23052	演習	2			○	△							2			増村 美佐子	173	
	公衆栄養学Ⅰ	NAjD12053	講義	2		◇	○	△	㊦				2							
	公衆栄養学Ⅱ	NAjD23054	講義	2			○	△						2					嶋津 裕子	174
	公衆栄養学実習	NAjD13055	実習	1		◇	○	△							3				嶋津 裕子	175
	給食経営管理論	NAkD12056	講義	2		◇	○	△				2								
	給食管理実習Ⅰ	NAkD12057	実習	1		◇	○	△					3							
	給食管理実習Ⅱ	NAkD13058	実習	1		◇	○	△	㊦						3				前田 典子	176
	フードサービスマネジメント演習	NAkD23059	演習	2			○	△							2				福本 恭子	177
	総合演習Ⅰ	NAmD23060	演習	1			○	△						1					*1	178
	総合演習Ⅱ	NAmD23061	演習	1			○	△							1				*2	179
	総合演習Ⅲ	NAmD24062	演習	1			○	△								1				
	総合演習Ⅳ	NAmD24063	演習	1			○	△									1			
	給食管理臨地実習	NAnD13064	実習	1		◇	○	△							2				福本 恭子	180
	臨床栄養臨地実習	NAnD23065	実習	2			○	△							4				増村 美佐子	181
公衆栄養臨地実習	NAnD24066	実習	1			○	△							2						
卒業研究Ⅰ	NDpX23067	演習	3												3			*3	182～187	
卒業研究Ⅱ	NDpX24068	演習	3												3					

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄の㊦～㊧は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

㊦～㊩別表第14にかかげた科目・㊧は別表第15にかかげた科目

㊦化学関係（教養科目「化学」）修得のこと ㊧生物化学関係 ㊨微生物関係 ㊩公衆衛生学関係 ㊦その他関連科目

㊦～㊩群から1科目以上、最低修得単位数(㊦+㊧+㊨+㊩)22単位以上

最低修得単位数合計 (㊦+㊧+㊨+㊩+㊦) 40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 真鍋・増村・福本・嶋津

*2 細川・内田・本澤・矢埜・真鍋・須見・松村・富永・増村・中井・佐藤・嶋津・福本・前田・小林麻

*3 細川・矢埜・内田・増村・佐藤・嶋津

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成26年度（2014年度）入学者対象
 ()は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職概論	NTAL41001	講義	2				△		2									
	教育原理	NTAL41002	講義	2				△		2									
	教育史	NTAL53003	講義	2				▲						2					(岡本 洋之)
	教育心理学	NTAL42004	講義	2				△				2							
	教育制度論	NTAL42005	講義	2				△		2									
	教育課程論 (道徳・特別活動を含む)	NTAL42006	講義	2				△				2							
	教育方法・技術論	NTAL42007	講義	2				△				2							
	生徒指導論 (進路指導を含む)	NTAL42008	講義	2				△			2								
	教育相談 (カウンセリングを含む)	NTAL41009	講義	2				△		2									
	事前事後指導	NTEI43003	演習	1				△						1					前田 典子・小林 麻貴
	栄養教育実習	NTEI44004	実習	1				△							3				
	教職実践演習 (栄養教諭)	NTEI44005	演習	2				△								2			

〔栄養に係る教育に関する科目〕

授業科目区分	授業科目の名称	ナンバリング	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
				必修	選択					1年		2年		3年		4年			
										I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養に係る教育に関する科目	学校栄養教育論 I	NTEI43001	講義	2				△						2					[宮田 さとこ]
	学校栄養教育論 II	NTEI43002	講義	2				△						2					[宮田 さとこ]

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 栄養教諭免許を取得するためには、上記「栄養に係る教育に関する科目」を修得しなければならない。

ただし、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法 (2単位)、体育 (2単位)、外国語コミュニケーション (2単位)、情報機器の操作 (2単位) について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

科目名	保健統計学実習	科目ナンバリング	NBcD23015
担当者氏名	湯瀬 晶文		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 3-1 新たな可能性に向けて、必要な情報の収集・選択・活用ができる力（情報リテラシー） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ○ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力） 		

《授業の概要》

統計学あるいは統計的視点は、非常に広範な領域で不可欠のものとなっており、当然栄養分野もその例外ではない。

統計学は、大きく「記述統計学」と「推測統計学」の2つに分けることができる。この授業ではそれぞれのごく基礎の部分、とりわけ記述統計学の基礎に重点を置き、コンピュータを用いた実習を行う。なお、受講生の状態や他のクラスの進捗状況により、内容を多少変更することもある。

《授業の到達目標》

本授業は、保健分野におけるデータの基本的な分析で利用される初歩的な統計的手法や考え方について学ぶ。それにより、

(1) 記述統計学の基礎的な内容に基づき、データの特徴を要約統計量で記述できるようになる、

(2) 推測統計学の基礎的な内容に基づき、標本データから母集団全体の簡単な特徴を推測できるようになる、ことを目標とする。

《成績評価の方法》

毎回の課題への取り組みとレポート（70%）および筆記試験（30%）を主として評価する予定であるが、詳細はオリエンテーション（初回）における履修者の意見も交え決定する。

なお、私語や携帯機器の利用、授業に不必要な作業など、授業・他者へ悪影響を与える行為は特に厳しく評価を行う。

《テキスト》

後日指定する予定。

《参考図書》

必要に応じて、適宜指示する。

★注意事項★：教学システムの不備のために、予期しない表示や内容のずれが生じています。そのためこのシラバスも正しく表示されるかどうか分かりませんので、シラバスに関する疑問については初回授業時に直接確認してください。

《授業時間外学習》

毎回のように課題が出るので、時間をかけて取り組む必要がある。授業は前回までの内容を十分に理解し、課題を完成させていることを前提に行われる。

万一授業を欠席する場合は、次回授業までに授業内容を十分確認し、課題を完成させておくこと。

また、表計算ソフト（MS-Excel）の復習をしておくこと。

《備考》

ひとこと：統計もコンピュータもすぐに理解できなくても、粘り強く、せめて卒業するまで使い続けてください。そうするうちに慣れも手伝って次第に使えるようになってくるはずですよ。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	講義の進め方についての説明および評価方法の決定 統計学とは（大切なので履修希望者は必ず出席のこと）
2	表計算ソフトの基礎（1）	表計算ソフトの簡単な復習（1）を行う
3	表計算ソフトの基礎（2）	表計算ソフトの簡単な復習（2）を行う
4	統計データについて	統計データの種類と体系、統計データの見方について理解する
5	データの可視化（1）	データの分布の分析（度数分布表）を行う
6	データの可視化（2）	データの分布の分析（ヒストグラム、集中や不均衡）を行う
7	データの要約（1）	代表値とは代表値を用いて要約出来る様になる
8	データの要約（2）	いくつかの代表値とその特性（統計データの種類と代表値）について理解する
9	データの要約（3）	いくつかの散布度とその特性について理解する
10	確率と分布	確率とは確率分布とはについて理解する
11	正規分布（1）	正規分布の重要性と中心極限定理について理解する
12	正規分布（2）	正規分布を用いた推定について理解する
13	正規分布（3）	正規分布を用いた検定（2つの仮説と統計的検定）について理解する
14	2次元データ	データ間の関係を可視化と分析（2次元データの可視化）について理解する
15	まとめ	実際に用いられるいくつかの統計これまでの成果確認を行う

科目名	生体防御論	科目ナンバリング	NBdD23026
担当者氏名	島田 邦夫		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力）		

《授業の概要》

私達の体には、意思とは無関係に外敵や異物を排除し、病気にかからないで健康を保とうとする機構が備わっている。「免疫」という生体防御である。微生物による感染症とその防止対策について習得する。併せて保健医療サービス（臨床栄養）の担い手である管理栄養士が適切な栄養対策を立てるために知っておくべき専門的な知識の習得を目指す。日本で、デング熱が発生。エボラ出血熱やジカ熱も大きな社会問題となった。

《授業の到達目標》

- ① 生体防御の破綻によって起こる疾患を説明できる。
- ② 免疫システムの構成成分とその役割を理解・説明できる。
- ③ 栄養・運動・老化による生体防御への影響を説明できる。
- ④ 主要な病原体とその感染症の病態と特徴を理解・説明できる。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度・学習意欲 20%（小試験、レポートにより評価）
- (2) 定期試験 80%（試験は記述式が中心）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション、「生体防御」へのいざない	感染とは・・・？ 感染から身体を守るシステム（生体防御）：微生物の逆襲に備え、その戦略をねる！ 東京を中心にデング熱発生！ ジカ熱、エボラ出血熱とは・・・？
2	生体防御とは・・・？	プロジェクター(映像)を用い、生体防御論の全体像を把握・理解する。病原体を良く知る。
3	免疫と生体防御	健康を守る警備隊(免疫)が、たえずパトロールしながら体内を監視している。それが生体防御であることを理解する。
4	感染防御機構の破綻	体液性免疫・細胞性免疫！ 飛び道具（サイトカイン）を作製、外敵と戦う生体。生体防御機構が破綻すると何が起きるのかを学ぶ。
5	アレルギー疾患	食物アレルギー（特定原材料、花粉症と果実アレルギー）、自己免疫疾患について学ぶ。
6	老化と免疫	加齢に伴う免疫能の変化について学ぶ。
7	栄養と生体防御	体内脂質は傷害か防御か・・・？ 精神的ストレス・栄養不全と生体防御、マラスマスとクワシオールについて学ぶ。第1回小試験。
8	運動と生体防御、健康保持・増進と運動	運動性貧血はなぜ起きる・・・？ 免疫力回復、病魔に負けない強い体を作るには・・・？
9	感染症と法律	健康を護る社会のルール：感染症予防法、学校感染症、検疫感染症、予防接種法について学ぶ。
10	細菌感染症	細菌とは・・・？ 主要な細菌による感染症と検便の意義・検査法（遺伝子診断）について学ぶ。
11	ウイルス感染症	ウイルスとは・・・？ 主要なウイルスによる感染症と検査法（遺伝子診断）について学ぶ。
12	その他の感染症、消毒と滅菌	クラミジア・リケッチア感染症、真菌感染症、原虫感染症（寄生虫疾患）、消毒と滅菌の違いは・・・？
13	性行為感染症、院内感染症	性行為の多様化に伴う性感染症（STD）、医療現場における感染症について学ぶ。
14	新興感染症・再興感染症	地球環境開発に伴う感染症と有史以来の感染症、新興・再興とは・・・？ 第2回小試験。
15	人獣共通感染症、感染経路	動物から感染する感染症、感染症を引き起こす病原体の侵入門戸（経口・経皮・経気感染）について学ぶ。

《テキスト》

『管理栄養士講座：感染と生体防御』
 酒井 徹・森口 寛・山本 茂 編著（建帛社：最新版）

《参考図書》

- ① 『戸田新細菌学（第34版）』 吉田眞一・柳 雄介・吉開泰信 編（南山堂）
- ② 『一目でわかる微生物学と感染症』 S.H. Gillespie, K.B. Bamford 著、山本直樹、山岡昇司、堀内三吉 監訳（メディカル・サイエンス・インターナショナル）

《授業時間外学習》

- (1) 日本での感染症、世界での感染症を調べてみる。
- (2) 予習：次回授業内容を理解するために、教科書に目を通しておく、不明点は授業時に質問する。復習：授業内容を再確認する。不明な点は質問するなり自分で調べるなりして整理まとめる。Ask much, know much. 「聞く」は一時の恥、「聞かざる」は一生の恥！

《備考》

本科目履修にあたり生化学や病理学、臨床栄養学、公衆衛生学等関連科目を十分に学修しておくことが必要である。話題になる感染症について、日頃から関心を高めておく。

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品衛生学実験	科目ナンバリング	NBdD23032
担当者氏名	中井 玲子		
授業方法	実験	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

本科目において受講者は、食品衛生学の中でも特に重要な食中毒に関連した細菌類、食品添加物の検査を、実際に自分の手で行うことにより、基本操作を習得する。更に、自身の身体や食材に付着した細菌類の採取および検査を行い、日常生活における汚染状態の把握とその防止に対する理解を深め、市販の食材から食品添加物の検出を試みることで、市場における使用状況を実感として理解できるようになることを目指す。

《授業の到達目標》

- 「食中毒に関連した主要な細菌類」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。
- 「食中毒の実際とその予防」について説明、実行できるようになる。
- 「汎用されている食品添加物」の特徴とその検出方法が説明、実践できるようになる。

《成績評価の方法》

課題点60%+試験40%で評価する。

《テキスト》

前編として「微生物学編」、後編として「化学編」を詳しく、平易に記載した実験書（プリント）を配付する。

《参考図書》

- 『食品衛生実験』東京顕微鏡院（編）、三共出版
- 『食品衛生ハンドブック』藤原・栗飯（監修）、南江堂
- 『原色食品衛生図鑑』細貝他3.（編）、建帛社
- 『カラーアトラス環境微生物』山崎（編）、オーム社

《授業時間外学習》

- 予習の方法:配付した実験書（プリント）を読んでくこと。また、適宜課題を出すので、その課題をやってくること。
- 復習の方法:毎回行った実験の内容の再確認を行い、観察や測定結果、感じたこと、疑問等を詳細に実験ノートに記録すること。各自の実験記録を基にして極力詳しいレポートを作成すること。

《備考》

- 実験用の白衣（実験着。なるべく調理系実習等に併用しないもの）を必ず着用すること。
- 当初の計画から若干の変更がある可能性があります。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	コース・ガイダンス	コース概略と受講上の注意（微生物実験の諸注意および安全対策など）を理解する。
2	基本操作の確認（1）	標準菌の接種・培養の手法について理解する（接種・培養）。
3	基本操作の確認（2）（3） 応用実験（1）	標準菌の培養観察、単染色と顕微鏡観察の手法について理解する。 鼻腔常在細菌の培養検査の手法について理解する。
4	基本操作の確認（4） 応用実験（2）	グラム染色と顕微鏡観察の手法について理解する。 鼻腔常在細菌の培養観察の手法について理解する。
5	基本操作の確認（5）	標準菌を用いて生菌数測定の手法について理解する（接種・培養）。
6	基本操作の確認（6） 応用実験（3）（4）	標準菌を用いて生菌数測定の手法について理解する（培養観察）。 食肉および手指・手の平の雑菌検査の手法について理解する（接種・培養）。
7	応用実験（5）（6）	食肉および手指・手の平の雑菌検査の手法について理解する（培養観察）。
8	化学編のガイダンス 発色剤	化学編実験の諸注意を理解し、試薬調製など実験準備に取り組む。 発色剤（亜硝酸塩）の検出法について理解する。
9	漂白剤	漂白剤（亜硫酸塩、次亜塩素酸塩）の検出法について理解する。
10	着色料（1）	毛糸染色法：合成着色料の分離・同定法を理解する。
11	着色料（2） 保存料	薄層クロマトグラフィー：合成着色料の分離・同定法を理解する（継続）。 保存料（ソルビン酸）の検出法について理解する。
12	油脂の酸化とその防止 （1）	過酸化物質の検出法について理解する。
13	油脂の酸化とその防止 （2）	過酸化物質の検出法について理解する（継続）。
14	化学編のまとめ	化学編の実験データを整理し、内容を振り返り、総括考察を行う。
15	コースのまとめ	コースで学んだ内容を振り返り、総合考察を行う。

科目名	応用栄養学Ⅲ		科目ナンバリング	NAGD23041	
担当者氏名	真鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

身体活動やストレス、生活環境の変化により起こる生体内の反応には栄養が深く関わっており、その栄養ケア・マネジメントを正しく実践することが重要である。そこで本講義では、身体活動・運動時の生理的特徴、ストレスと生体防御、特殊環境下での代謝変化を理解し、さらにこれら条件下での栄養ケア・マネジメントに関する理論を深く理解し、実践的に対応できる能力を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1)身体活動・運動が生体に及ぼす影響を具体的に説明できる。(2)ストレスの定義とストレス時の生体反応について分かりやすく説明できる。(3)特殊環境下における種々の生理的变化と栄養学的対応法を具体的に説明できる。(4)運動時、ストレス時、特殊環境下での実践的栄養ケア・マネジメントプランを提案できる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)

《テキスト》

『応用栄養学—ライフステージ別、環境別—』木戸康博、真鍋祐之編、医歯薬出版
(2年次購入済み)

《参考図書》

『再改訂 動く、食べる、休むScience(健康づくりの生理学)』上田伸男編、アイ・ケイコーポレーション
『栄養科学シリーズNEXTスポーツ・運動栄養学』加藤秀夫、中坊幸弘編、講談社サイエンティフィク

《授業時間外学習》

(1)予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。(2)復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	運動にともない、その強度や時間により変化するエネルギー代謝や呼吸・循環機能の応答について説明できる。
2	体力と運動トレーニング	体力・トレーニングとは何かを理解し、運動トレーニングが体力に及ぼす影響について説明できる。
3	身体活動基準と指針	健康・体力の維持・増進における身体活動・運動の意義を学び、実施の基本となる身体活動基準・指針を理解する。
4	運動の健康への影響	運動にともなって糖質や脂質の代謝にどのような影響が出るか、また血圧や骨格にどのような影響が出るかを説明できる。
5	運動と糖質・たんぱく質の摂取	運動時の主たるエネルギー源となる糖質や身体構成に必要なたんぱく質の必要量の変化について理解する。
6	水分・電解質補給	運動、とくに激しい運動でみられる発汗にともなう水分及び電解質損失に対する適切な補給法を理解する。
7	運動と貧血	運動にともないみられる貧血の原因とその対応について説明できる。
8	食事内容と摂取タイミング	運動実施時に摂取すべき食事の内容とその摂取タイミングが吸収・利用に影響することを説明できる。
9	筋グリコーゲンの再補充	運動により減少した筋グリコーゲンをどのようにすればより多くすることができるかについて理解する。
10	運動時の食事摂取基準の活用	運動時には各栄養素の体内需要が増加するが、その需要増を満たすために食事摂取基準をどのように活用するかを理解する。
11	ウエイトコントロールと運動・栄養	ウエイトコントロールを行う場合の運動と栄養の相乗効果について説明できる。
12	栄養補助食品の利用	栄養補助食品とは何かを理解し、身体活動・運動時の栄養素摂取における栄養補助食品の利用方法について説明できる。
13	ストレスと栄養ケア・マネジメント	ストレスの定義やストレス時の生体反応を学び、ストレス条件下における栄養ケア・マネジメントのあり方について正しく理解する。
14	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(1)	高温・低温環境下で起こる生体の生理的变化を学び、高温環境でみられる熱中症が起こった場合の水分・電解質補給の重要性についても理解を深める。
15	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(2)	高圧・低圧、無重力下で起こる体内代謝の変化と、この変化に対する栄養ケア・マネジメントを理解する。

科目名	応用栄養学実習	科目ナンバリング	NAgD23042
担当者氏名	須見 登志子		
授業方法	実習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）		

《授業の概要》

講義「応用栄養学Ⅰ～Ⅲ」で学んだことを基に、対象者の身体状況、栄養状態、生活習慣を把握し、また身体計測、臨床検査値から健康状態を評価して栄養管理ができることを目標に、各ライフステージにおける個々人の適切な栄養補給や食事計画について、実習や献立作成を通じて学ぶ。その他ライフステージにおける栄養管理のための媒体や資料を作成するとともに、常に「食」への関心を持つように食に関する情報の収集を勧める。

《授業の到達目標》

- 食と健康への関心が高まる。
- 各ライフステージにおける対象者の特性を理解して栄養ケアとくに食事ケアができる。
- 栄養管理のための媒体や資料作成ができる。
- 設定された対象を把握し、栄養ケアプランを考え、伝えることができる。

《成績評価の方法》

レポートや試験結果を中心とし、実習時の服装や身だしなみ、受講態度など総合的に評価する。配分は、試験とレポートをあわせて80%、その他（服装、身だしなみ、受講態度など）20%を原則とする。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	応用栄養学実習のガイダンス	授業内容と進め方、実習時の決まりごとについて理解する。
2	乳児期の栄養①	人工栄養（調乳）と離乳食初期（生後5、6ヵ月ごろ）について学ぶ。
3	乳児期の栄養②	離乳食中期（生後7、8ヵ月ごろ）と後期（9～11ヵ月ごろ）について学ぶ。
4	乳児・幼児期の栄養③	離乳食完了期（生後12～18ヵ月ごろ）および幼児食について学ぶ。
5	幼児期の栄養①	幼児期食（保育所給食、横連絡式献立）について学ぶ。
6	幼児期の栄養②	幼児期食（食べ物アレルギー）と栄養ケアについて学ぶ。
7	幼児期の栄養③	学生献立実習を行う。
8	学童期の栄養	学童期食（学校給食を含む）について学ぶ。
9	思春期の栄養	貧血予防食と栄養・食事ケアについて学ぶ。
10	成人期の栄養①	生活習慣病予防食と栄養・食事ケアについて学ぶ。
11	成人期の栄養②	妊娠期の栄養・食事ケアについて学ぶ。
12	成人期の栄養③	妊娠・授乳期の栄養とくに妊娠高血圧症候群の栄養・食事ケアについて学ぶ。
13	高齢期の栄養①	高齢期食について学ぶ。
14	高齢期の栄養②	後期高齢期食（咀嚼困難、嚥下困難食）について学ぶ。
15	まとめ	実習内容のまとめと試験

《テキスト》

『栄養マネジメント演習・実習』竹中優、土江節子編 医歯薬出版
 『日本食品成分表』 医歯薬出版
 『管理栄養士・栄養士必携』日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

授業内で、要時紹介する。

《授業時間外学習》

授業後の復習や次回の授業範囲を予習したり、専門用語の意味などを理解しておくこと。栄養を含む食と健康に関するTV番組、新聞、雑誌の記事、本などを興味を持って見たり、読んだりしておく。

《備考》

レポートは、提出期日の厳守

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	栄養教育論演習	科目ナンバリング	NAhD23045
担当者氏名	矢埜 みどり		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）		

《授業の概要》

食生活改善のための媒体である食事バランスガイドや問題解決を必要としている人への援助を行うために欠かせないカウンセリングの基礎を学ぶ。そのうえでライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育の企画、実施、評価を行うことで、栄養マネジメント能力を高めることが出来る。

《授業の到達目標》

地域の食文化とライフステージの特徴を反映した食事バランスガイドを作成することで、バランスガイドの目的と策定の背景、ライフステージの特徴を理解することが出来る。カウンセラーの3条件を理解し、簡単な面接が出来るようになる。集団栄養教育を企画、実践できるようになる

《成績評価の方法》

授業態度(40%)，提出レポート(60%)で評価する。

《テキスト》

『食事バランスガイドーフードガイド（仮称）検討会報告書ー』第一出版編集部編（第一出版）『エッセンシャル 栄養教育論』春木敏著（医歯薬出版）（購入済み）

《参考図書》

『ニュートリションコーチング』柳澤厚生著 医歯薬出版
『行動変容のための面接レッスン』行動カウンセリングの実践 安達淑子著 医歯薬出版

《授業時間外学習》

予習の方法：基礎栄養教育論のテキストの該当範囲をよく読むこと。
復習の方法：作成した資料を再度読み直し、作成出来ていないところは、必ず完成させて授業に臨むこと。分からないところは第一回講義のときにメールアドレスを知らせるので、質問すること。

《備考》

演習科目であることから、積極的な授業参加が重要である。2限継続して実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個別の栄養教育Ⅰ（食事診断）	食事バランスガイドの目的、内容を理解し、その応用方法について学ぶ。
2	個別の栄養教育Ⅱ（個別指導）	食事バランスガイドを用いて自分の食生活を診断し、自己指導を行う。その後二人組になり、バランスガイドを用いた栄養教育のロールプレイを行う。
3	個別の栄養教育Ⅲ（カウンセリングⅠ）	カウンセリングの基礎知識を理解する。
4	個別の栄養教育Ⅳ（カウンセリングⅡ）	カウンセリングの基礎知識をもとに、基礎技術を身につける
5	個別の栄養教育Ⅴ（カウンセリングⅢ）	学習者の気持ちになって、気持ちをどのように受けとめたらよいかを事例を挙げて理解する。
6	個別の栄養教育Ⅵ（カウンセリングⅣ）	カウンセリングの口述録を用いて、カウンセリング技法を用いる場合と用いない場合について、学習者の気持ちの違いについて理解を深める。
7	個別の栄養教育Ⅶ（教材の種類と内容Ⅰ）	教育効果を上げるためにどのような教材があるか、種類と内容について理解する。
8	個別の栄養教育Ⅷ（教材の種類と内容Ⅱ）	教材の活用方法について理解を深める。
9	個別の栄養教育Ⅸ（行動科学Ⅰ）	行動科学の種類と内容の確認を行い、事例を挙げて、行動科学理論を持ちて分析を行うことで、行動科学への理解を深める。
10	個別の栄養教育Ⅹ（行動科学Ⅱ）	自分の食行動の問題点を行動科学理論を用いて分析し、自分自身に栄養指導を行う。その後2人組になり、相手の問題点を分析し、再度栄養教育を立案する。
11	個別の栄養教育ⅩⅠ（個別指導の実施）	カウンセリングや行動科学、教材を活用した個別指導の効果を、これらの技法を用いない場合の指導（第2回）と比較してそれらの技法の効果を理解する。
12	集団の栄養教育Ⅰ（学習形態の種類と内容）	集団教育の学習形態の種類と方法について確認する。
13	集団の栄養教育Ⅱ（学習形態別の教育Ⅰ）	グループ別に成人期の食の問題点から教育目標を設定し、異なる学習形態による手段指導をロールプレイする。
14	集団の栄養教育Ⅲ（学習形態別の教育Ⅱ）	グループ別に成人期の食の問題点から教育目標を設定し、異なる学習形態による手段指導をロールプレイする。
15	集団の栄養教育Ⅳ（栄養教育の評価）	教育により食行動や健康状態、QOLの変化を確認し、今回の教育効果の評価を行う。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	栄養教育論実習 I		科目ナンバリング	NAhD13046	
担当者氏名	前田 典子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-3 学習の計画を立て、ルールや時間を守って課題を提出する力（自己管理能力） ◎ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む）			

《授業の概要》

栄養教育論 I・II で学んだ栄養教育の理論をもとに対象者の問題点を抽出、計画の立案、行動変容のための指導手法を習得する。症例には自分自身も対象とし、対象者の気持ちを理解する。この実習で、栄養教育に必要な基礎能力を身につける。

《テキスト》

授業中に配布するプリント

《参考図書》

『日本人の食事摂取基準（2015年版）』（第一出版）
 『食品成分表』
 『エッセンシャル 栄養教育論』

《授業の到達目標》

健康の維持・増進のために必要な問題行動の抽出ができ、個別栄養教育に必要なカウンセリングスキルを習得する。栄養教育の専門家としてシミュレーションするなかで、自身の生活習慣病リスクを軽減する行動変容を達成する。

《授業時間外学習》

調査など時間外で行うものもあるが、次回の授業に必要な課題は必ず済ませて持参すること。

《成績評価の方法》

授業態度（30%） 教育内容（30%） レポート（40%）

《備考》

栄養量などの計算も行うので、電卓を準備すること。欠席すると対象者となる学生も授業が進まないで注意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の概要 栄養教育とは 栄養調査について学ぶ。
2	アセスメント手法	症例の問題点の抽出練習を行う。
3	アセスメント①	自分のアセスメントから問題点の抽出を行う。
4	栄養教育計画①	自分の食生活分析から指導媒体を作成する。
5	ワンポイント栄養指導	栄養教育の手法①を学ぶ。
6	栄養教育①	栄養教育のロールプレイを行う。
7	アセスメント②	症例2のアセスメントから問題点の抽出を行う。
8	栄養教育計画②	問題点から目標の設定及び指導媒体を作成する。
9	栄養教育②	栄養教育のロールプレイを行う。
10	アセスメント③	症例3のアセスメントから問題点の抽出を行う。
11	栄養教育計画③	問題点から目標の設定及び指導媒体の作成を行う。
12	栄養教育③	栄養教育のロールプレイを行う。
13	アセスメント④	症例4のアセスメントから問題点の抽出を行う。
14	栄養教育計画④	問題点から目標の設定及び指導媒体の作成を行う。
15	栄養教育④・評価	栄養教育・自分の目標達成度分析・評価・まとめを行う。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	栄養教育論実習Ⅱ	科目ナンバリング	NAhD13047
担当者氏名	矢埜 みどり		
授業方法	実習	単位・必修	1・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）		

《授業の概要》

本実習は、2年生履修の「栄養教育論」の知識をもとに、実際に栄養教育に取り組み科目です。個別及び集団栄養教育に必要な対象者のニーズアセスメント、指導計画の立案、教材作成を行い、実践力を養います。

《テキスト》

『エッセンシャル 栄養教育論:』春木敏 編（医歯薬出版）
（2年時に購入済み）

《参考図書》

『健康・栄養科学シリーズ 栄養教育論』丸山千鶴子、足達淑子 武見ゆかり 南江堂『医療・保健スタッフのための件行動理論の基礎 松本千明医歯薬出版

《授業の到達目標》

ニーズアセスメントから、計画、実施、評価を行うことで、マネジメントサイクルの流れを理解する。また本人の知識だけでなく、行動のスキル、周囲の人々の協力、環境などの要因の解決が必要な事を実感できる。

《授業時間外学習》

指示されたテキストの内容は必ず、理解して参加する事。また、ニーズアセスメントの方法、教育の立案、教材作成など時間外にも作成する必要があります。

《成績評価の方法》

個別・集団の栄養教育に必要なアセスメントの内容（10点）、教育計画面（10点）、教育内容（10点）、評価（10点）、最終レポート（60点）で採点する。

《備考》

知識の伝達だけでは、行動が変化しない難しさを実感し、行動変容に何が大切なのかを意識する事。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個別の栄養教育（カウンセリング）	カウンセリングの概要を理解し、ロールプレイによりカウンセリングスキルを身につける。
2	個別の栄養教育（カウンセリング）	SATカウンセリングにより、カウンセリングを体験する。
3	栄養教育におけるマネジメントサイクルの理解	栄養マネジメントの流れを確認する。A男の食事を例に対象者の食生活の問題点を考え、整理する。
4	個別の栄養教育（ニーズアセスメント）	整理した問題点を、プリシード・プロシードモデルにあてはめ、問題点の把握に必要な情報を考える。新しい情報を基に問題点を確認し、各要因ごとの教育目標を設定する。
5	個別の栄養教育（ニーズアセスメント）	個別の栄養教育を実施するために必要なアセスメント項目を整理し、問診票を作成する。作成した問診票をもとに情報を収集する。
6	個別の栄養教育（栄養教育計画）	食事調査及び問診の結果から、対象者のQOL、健康、問題行動、問題行動を引き起こす要因を分析し、教育の優先順位を決定する。
7	個別の栄養教育（栄養教育計画）	相手の行動段階を把握し、活用できる行動科学理論を選択する。1ヶ月の期間を決めて、長期、中期、短期、経過目標及び評価項目を作成する。
8	個別の栄養教育（栄養教育の教材）	市販されている教材やオリジナルの教材を各自1つ選択し、プレゼンテーションを行う
9	個別の栄養教育（栄養教育の教材作成）	2回の教育計画を作成し、前回の授業の教材を参考に教育に必要な教材を準備する。
10	個別の栄養教育（実施）	教育計画をもとに、第1回目の個別の栄養教育を実践する。指導は、6人一組で行い、他人の栄養教育を観察することで指導に必要な技術をつかむ。
11	個別の栄養教育（実施と評価）	1週間後の変化を問診し、栄養教育の経過評価を行なったのち、計画案を推敲し、第2回の栄養教育を実践する。
12	個別の栄養教育（評価と改善）	実施した個別の栄養教育を評価し、改善策を考える。
13	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	大学生の食生活の問題点をプレストを用いて整理する。整理した問題点を確認するためのアンケートを考える。
14	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	アンケートの分析方法を理解するため、アンケートを実施、分析を行い、問題点を整理する。
15	集団の栄養教育（ニーズアセスメント）	問題点の発表を行う。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学Ⅲ	科目ナンバリング	NAiD23050
担当者氏名	増村 美佐子、岩田 隆男		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

臨床栄養の専門職として、医療、保健、介護福祉などの施設において、他職種の専門職とともに協力し合い、チーム医療に参画できる知識や技術を習得する。傷病者の病態や栄養状態の特徴を学び、適切な栄養評価を行い、栄養計画、栄養教育などの栄養管理ができる能力を身につける。

《テキスト》

『三訂 臨床栄養管理』渡邊早苗他著、（建帛社）
必要に応じてプリントを配布

《参考図書》

『検査値に基づいた栄養指導』ポケット版、足立加代子著、チーム医療
『目で見る栄養栄養学 UPDATE』中村丁次他著、医歯薬出版

《授業の到達目標》

- 各疾患の病態、特徴を把握し理解できる。
- 臨床検査の種類や正常値を把握し、病態、病期が判定できる。
- 栄養評価を実施し、栄養計画、栄養教育が実施できる。
- 治療用特殊食品、病者用食品などの栄養価、特性についての知識を習得し、栄養マネジメントが実施できる。
- 栄養サポートチームなどの栄養医療に参画できる。

《授業時間外学習》

1. テキストの次回の授業範囲を事前に読んでおくこと。
2. 教科書や配布プリントを必ず復習しておくこと。

《成績評価の方法》

- (1)小テスト20% (2)定期試験80%
- (3)試験はテキスト等の「持ち込み不可」にて実施する。

《備考》

各疾患の栄養療法の基礎知識と、臨床検査値の読み方や考え方の復習が必要となる。疾患に関心を持ち、実際的な情報を得ながら学習する習慣を身につける。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨床栄養の概念	臨床栄養学の意義と目的、医療・介護保険制度、医療と臨床栄養学、福祉・介護と臨床栄養について学ぶ。
2	臨床栄養管理の基礎	栄養評価・栄養アセスメントの方法（臨床・内分泌・免疫機能などの検査値の読み方、考え方）について学ぶ。
3	臨床栄養管理の実施	日本人の食事摂取基準2015年版、栄養必要量の算定、栄養素の補給、栄養素材の機能、食物が医薬品に及ぼす影響などについて学ぶ。
4	内分泌・代謝性疾患 1	肥満症、脂質異常症、メタボリックシンドロームの病態と栄養管理について学ぶ。
5	内分泌・代謝性疾患 2	糖尿病の病態と分類、小児糖尿病の病態と栄養管理について学ぶ。
6	内分泌・代謝性疾患 3	糖尿病と糖尿病特有の3大合併症の病態と病期に適した栄養管理について学ぶ
7	内分泌・代謝性疾患 4	高尿酸血症、甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、先天性代謝異常症の病態と栄養管理について学ぶ。
8	循環器系疾患	動脈硬化症、高血圧症、心疾患、脳梗塞、認知症、パーキンソン病、慢性閉塞性肺疾患の病態と栄養管理について学ぶ。
9	腎臓疾患	急性・慢性腎臓病、腎不全の病態と栄養管理（人工透析療法）について学ぶ。
10	消化器疾患 1	口腔・食道疾患、胃・十二指腸潰瘍の病態と栄養管理について学ぶ。
11	消化器疾患 2	炎症性腸疾患、クローン病の病態と栄養管理について学ぶ。
12	消化器疾患 3	胃癌、胃手術前・後の病態と栄養管理について学ぶ。
13	消化器疾患 4	急性・慢性肝炎、肝硬変、肝不全、脂肪肝、胆嚢炎、膵臓疾患の病態と栄養管理について学ぶ。
14	嚥下障害の栄養法	嚥下障害の病態、濃厚流動食の選択などの栄養マネジメント、褥瘡対策の指針、食物アレルギーと除去食品、代替食品などについて学ぶ。
15	血液疾患、感染症、骨代謝疾患	神経性食欲不振症の病態、血液疾患の種類、感染症と熱性疾患、骨粗鬆症の病態について学ぶ。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学実習	科目ナンバリング	NAiD13051
担当者氏名	増村 美佐子		
授業方法	実習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ◎ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）		

《授業の概要》

食事は、命を繋ぐために不可欠であり、入院患者にとっては楽しみの一つである。病態に応じた適切な栄養管理は患者の治療効果を上げ、QOLを高める。各疾患の病態、栄養状態を踏まえた栄養ケアプランを作成し、栄養食事療法を実施する。

《テキスト》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア第9版』
 本田佳子編、医歯薬出版 『臨床調理 第5版』玉川和子著、
 医歯薬出版＊別紙確認のこと

《参考図書》

『臨床栄養』月刊、医歯薬出版
 『栄養食事療法シリーズ』渡辺早苗編、建帛社
 『改定 臨床栄養管理-栄養ケアとアセスメント』渡辺早苗
 他、建帛社

《授業の到達目標》

- 疾患別の栄養補給法の特徴を理解できる。
- 疾患別の栄養ケアプラン（食品構成・献立）を作成できる。

《授業時間外学習》

実習終了後はレポートを作成し、復習する。
 日常生活の中で、常に食と健康を意識し、得に献立作成・調理
 技術を磨く。

《成績評価の方法》

- (1) 受講態度・学習意欲20% (2) 課題提出30% (3) 定期試験50%

《備考》

提出物は期限を厳守する。
 電卓を毎回持参する。
 白衣・帽子を忘れた場合は実習に参加できない。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養ケアの概念と基礎	栄養補給法とその種類、栄養必要量の算出方法について学ぶ。 常食についての食品構成表を作成する。
2	栄養ケアの基礎実習	疾患の特徴（エネルギー・脂質・たんぱく質・食塩コントロール）の特徴について学び食品構成表を作成する。
3	摂食・嚥下障害の栄養ケア	摂食・嚥下困難症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
4	胃疾患の栄養ケア	胃切除症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
5	潰瘍性大腸炎・クローン病の栄養ケア	潰瘍性大腸炎・クローン病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
6	糖尿病の栄養ケア	糖尿病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
7	肝臓病の栄養ケア	肝臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
8	膵臓病の栄養ケア	膵臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
9	脂質異常症の栄養ケア	脂質異常症症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
10	高血圧・心疾患の栄養ケア	高血圧・心疾患症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
11	腎臓病の栄養ケア	腎臓病症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
12	鉄欠乏性貧血の栄養ケア	鉄欠乏性貧血症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
13	食物アレルギーの栄養ケア	食物アレルギー症例について、栄養アセスメント、栄養ケアプランの立て方を学び食品構成表に基づいた治療食を作成する。
14	各疾患についてのプレゼンテーション	学修してきた疾患について、各自の栄養ケアプランを発表する。
15	まとめ	疾患別栄養補給法についてまとめを行う。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養学演習	科目ナンバリング	NAiD23052
担当者氏名	増村 美佐子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）		

《授業の概要》

臨床栄養管理とは、病棟やベッドサイドにおいて一人ひとりの病態に応じた栄養状態を的確に評価・判定し、身体の状態に見合った栄養補給を行い、栄養状態を改善することで疾患を治癒し予防することであり、また、効果的な栄養教育を行い、患者自身の自己管理能力を育成することである。臨床栄養管理を実践する力を身に付けるため、栄養管理の手順にそったマネジメントを学ぶ。

《授業の到達目標》

- 病態の判定に必要な検査値が理解できる。
- 病態に応じた栄養アセスメントができる。
- 栄養管理計画書が作成できる。
- 傷病者に配慮したコミュニケーション力を身につける。

《成績評価の方法》

- (1)小テスト15% (2)課題提出15% (3)定期試験70%

《テキスト》

『改定 臨床栄養管理－栄養ケアとアセスメント』渡辺早苗 他、建帛社
 『臨床調理 第5版』玉川和子著、医歯薬出版

《参考図書》

『臨床栄養学 食事療法の実習 臨床アセスメントと栄養ケア 第9版』本田佳子編、医歯薬出版
 『栄養科学シリーズ 臨床栄養管理学実習』塚原丘美編、講談社サイエンティフィック

《授業時間外学習》

- (1)予習の方法：授業内に指示された項目について予習しておくこと。また、適宜課題を指示する。
 (2)復習の方法：授業内容を再確認し、不明な点は質問および自学すること。

《備考》

講義中に数回小テストを行う。
 電卓を毎回持参すること。
 提出物は時間厳守のこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養アセスメント	臨床診査、臨床検査、身体計測、栄養・食事調査についての復習。
2	栄養計画、栄養管理計画書の作成	栄養補給法についての復習。栄養管理計画書の作成を通じて栄養管理計画について理解する。
3	栄養ケアプランの作成	POSに基づくSOAPの書き方を学び理解する。
4	糖尿病患者の栄養管理	糖尿病症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
5	糖尿病患者の栄養管理	糖尿病症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
6	動脈硬化疾患患者の栄養管理	動脈硬化疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
7	動脈硬化疾患患者の栄養管理	動脈硬化疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
8	肝疾患患者の栄養管理	肝疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
9	肝疾患患者の栄養管理	肝疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
10	腎疾患患者の栄養管理	腎疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
11	腎疾患患者の栄養管理	腎疾患症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
12	高齢者低栄養患者の栄養管理	高齢者低栄養症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
13	高齢者低栄養患者の栄養管理	高齢者低栄養症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
14	高齢者低栄養患者の栄養管理	高齢者低栄養症例に対して、栄養ケアプラン（栄養必要量の設定、食品構成、献立）を作成し、具体的な栄養療法を理解する。
15	まとめ	栄養ケアの流れに従い、疾患に応じた栄養管理が説明できる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学Ⅱ	科目ナンバリング	NAJD23054
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

国・地域等集団の健康・栄養問題を把握し、適切な公衆栄養プログラムを提供するためには、PDCAサイクルの手法を活用することが有効です。本授業では、アセスメント・計画・実施・モニタリング・評価・フィードバックというマネジメント能力をたかめるために必要な基礎事項や理論を学びます。グループワークを取り入れ学生同士意見交換をすることで理解を深める機会も設けます。公衆栄養学実習の前提科目となります。

《授業の到達目標》

- 地域社会（コミュニティ）の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析ができる。
- 地域社会の関係者・関係機関の横断的な連携・協働を促進することを理解する。
- 健康・栄養施策のアセスメント、計画立案、実践、モニタリング・評価（判定）、フィードバックを行う公衆栄養管理（マネジメント）能力の基礎を修得することができる。

《成績評価の方法》

ふりかえりシート・課題提出物（20%）、定期試験（80%）

《テキスト》

「サクセス 公衆栄養学」（社）日本栄養士会編 第一出版

《参考図書》

「2016年度版 管理栄養士・栄養士必携」
（社）日本栄養士会編 第一出版
「国民衛生の動向2016/2017」 厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

- ふりかえりシートを使用し理解度を経過評価を行うので、授業内容の復習をしておくこと。
- ニュース、新聞などにより、健康や栄養に関する施策、制度変更や時事問題などに注目しておくこと。

《備考》

- 公衆栄養学実習を受講しようとするものは、栄養マネジメントの基礎修得のため公衆栄養学Ⅱの受講を推奨する。
- アクティブラーニング（AL）教室を使用することがある

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養学の概念の復習	ガイダンス 公衆栄養活動の復習（ふりかえりシート）をする。
2	栄養疫学1	栄養疫学について概説することができる。
3	栄養疫学2	食事摂取基準の集団への適用、食事調査法の種類と活用法を復習し整理する。
4	公衆栄養マネジメント1	栄養マネジメントの意義とサイクルについて理解する。
5	公衆栄養マネジメント2	栄養マネジメントの代表的モデルを学ぶ。
6	公衆栄養アセスメント1	栄養アセスメントの意義について捉えることができる。
7	公衆栄養アセスメント2	栄養アセスメントの手法について復習し、重要性を説明できる。
8	公衆栄養プログラム計画	プログラム計画策定、運営・政策面のアセスメントを仮想することができる。
9	公衆栄養プログラムの目標設定	目標設定の意義、短期・中期・長期目標設定、基準値・予測値・目標値の設定について理解する。
10	公衆栄養プログラムの実施1	社会資源（組織、人材）の活用について身近な例で考えることができる。
11	公衆栄養プログラムの実施2	わが国の公衆栄養プログラムについて主体的に調べることができる。
12	公衆栄養プログラムの実施3	わが国の公衆栄養プログラムについて概説できる。
13	公衆栄養プログラムの評価とフィードバック	モニタリング、評価の考え方と種類、フィードバック（改善）を学ぶ。
14	社会の健康と公衆栄養学の役割	保健・医療・福祉・介護制度と公衆栄養学のかかわりを捉えることができる。
15	公衆栄養プログラムと科学的根拠	疫学の公衆栄養プログラムへの応用について説明することができる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養学実習	科目ナンバリング	NAJD13055
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	実習	単位・必選	1・必修
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）		

《授業の概要》

本実習では、地域、職域における健康・栄養問題の分析と結果解釈の理解、分析結果を施策に結びつける公衆栄養プログラムの作成手法を学びます。具体的には、食の健康協力店を訪問したり、グループワークによるシミュレーション（ロールプレイ）を実施し、プログラムのマネジメント全体を理解します。とくにVTR録画を採用し自己評価に重点を置き情報発信の能力やプレゼンテーション能力を高めることをめざします。

《授業の到達目標》

- 地域社会（コミュニティ）の健康・栄養問題および関連要因の把握、課題分析ができる。
- 地域社会の関係者・関係機関の横断的な連携・協働を促進することを理解する。
- 健康・栄養施策の計画立案、実践、モニタリング・評価（判定）、フィードバックを行う公衆栄養管理（マネジメント）能力の基礎を統合することができる。

《成績評価の方法》

個人課題（50%）、グループ課題（40%）、ふりかえりシート（10%）

《テキスト》

「現場で役立つ公衆栄養学実習」 同文社書院
進行にあわせて適宜プリントを配布する。

《参考図書》

「国民衛生の動向2016/2017」 厚生労働統計協会
行政機関の広報誌やパンフレット、関連行政機関のHP等

《授業時間外学習》

- 国や地方公共団体が実施している実際の活動を学習しておくこと。
- グループでの健康教育の実践（ロールプレイング）時の媒体準備やリハーサル等を各グループで調整実施しておくこと。
- グループ活動では、メンバーとの連絡や情報交換を怠らないこと。

《備考》

- PCルームも使用するため学生証を携帯すること。
- アクティブラーニング（AL）教室を使用することがある。
- 公衆栄養臨床実習受講予定者は、本授業の受講を推奨する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	公衆栄養学の概念の復習	ガイダンス 公衆栄養活動の復習（ふりかえりシート）する。
2	公衆栄養プログラムの実際	乳幼児健康診査、特定健康診査・特定保健指導制度について説明できる。
3	公衆栄養プログラムの立案1	栄養疫学の地域の健康・栄養活動への活用（栄養疫学情報の収集・分析）を行う。
4	公衆栄養プログラムの立案2	個別データの扱い方と個人情報の保護について正しくに捉えることができる。
5	公衆栄養プログラムの立案3	仮想データ（地域の現状・健康診断・食事調査等）を教材とした集団対象のアセスメントを行う。
6	公衆栄養プログラムの立案4	地域診断（地域の栄養、健康問題の分析）を行う。
7	公衆栄養プログラムの立案5	ワークシート活用によるプログラムの立案をすることができる。
8	公衆栄養プログラムの企画評価	プログラムの企画評価ができる。
9	公衆栄養プログラムの実施1	作成プログラムのプレゼンテーション（前半）を行う。
10	公衆栄養プログラムの実施2	作成プログラムのプレゼンテーション（後半）を行う。
11	公衆栄養プログラムの評価	パブリックコメントの理解について説明できる。
12	公衆栄養プログラムの改善1	プログラムの評価を行う。
13	公衆栄養プログラムの改善2	プログラムの改善、実現可能性の検証を行い能力を高めることができる。
14	公衆栄養活動プログラムの展開	特定給食施設指導プログラム、ヘルシーメニュープログラム、食の健康協力店制度、危機管理プログラムについて説明できる。
15	まとめ	公衆栄養管理（マネジメント）能力の基礎を統合し、主体的に修得することができる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理実習Ⅱ		科目ナンバリング	NAKD13058	
担当者氏名	前田 典子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・Ⅰ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力） ◎ 2-4 他者への理解力と適切な自己表現力（コミュニケーション力） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） 			

《授業の概要》

2年次に学んだ給食経営管理論の知識と、給食管理実習Ⅰの体験を活かし、実際の特設給食施設を想定しながら「給食管理」「給食運営」の実践を行い、管理栄養士・栄養士として管理の機能、管理者の役割を理解し、技能を習得する。

《テキスト》

配布プリント

《参考図書》

エッセンシャル給食経営管理論（医歯薬出版）『イラストでみるはじめての大量調理』（株式会社学建書院）

《授業の到達目標》

集団を対象とした栄養管理・食事管理・サービスを効果的かつ安全に運営するためのシステムの構築、顧客管理の意義を理解し、マーケティングをより効果的に行うなかで、管理者としての役割を学び、技能を習得する。

《授業時間外学習》

栄養教育のための媒体作成や購入物資検収は、事前準備が必要となる。当日の作業が円滑に実践できるように管理者としての配慮は常に必要とされる。約束された食事提供時間に合わせた業務の開始は、授業時間外に設定することになる場合もある。実習後の反省会、実習室の清掃時間の延長も考えられる。

《成績評価の方法》

実践力と態度（30％）管理者としての役割や統制能力（30％）マーケティング戦略能力（20％）帳票作成（10％）理解度テスト（10％）

《備考》

実習は、グループでの取り組みとなる。コミュニケーション能力を発揮し、成果を高め、多くの達成感を得ることができるよう積極的に参加すること。食費負担必要

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	総合オリエンテーション ①、献立計画①	実習の概要 グループ編成後作業分担を考える。昨年度の実績から対象者の目標栄養量の設定、食品構成を作成し、給食管理実習Ⅰで作成した献立を見直す。
2	献立計画②	各グループでテーマを決定する。グループメンバーの献立の中から、最もテーマに沿っているものを選ぶ。
3	試作検討①	試作調理し、テーマ性、献立内容、作業工程、経費等を検討する。
4	栄養教育計画	栄養教育指導媒体案を作成する。
5	試作検討②	試作後再検討した献立を調理し、テーマ性、献立内容、作業工程、経費等を検討する。
6	事前準備①	予定献立の決定、各種給食実習準備及び各種帳票の作成を行う。
7	給食実習①	調理実習（実践活動）を行う。
8	事前準備②	予定献立の決定、各種給食実習準備及び各種帳票の作成を行う。
9	給食実習②	調理実習（実践活動）を行う。
10	事前準備③	予定献立の決定、各種給食実習準備及び各種帳票の作成を行う。
11	給食実習③	調理実習（実践活動）を行う。
12	事前準備④	予定献立の決定、各種給食実習準備及び各種帳票の作成を行う。
13	給食実習④	調理実習（実践活動）を行う。
14	報告会準備	各班評価報告、会計報告等まとめを行う。
15	総合オリエンテーション ②	全体報告会 まとめ

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	フードサービスマネジメント演習	科目ナンバリング	NAKD23059
担当者氏名	福本 恭子		
授業方法	演習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） ○ 2-3 与えられた課題において、作業効率を考えながら行動する力（計画・実行力）		

《授業の概要》

外食産業や中食産業の発展がめざましい中、給食市場においても競争が激化しており、経営感覚を持った管理栄養士が求められている。授業ではこのような社会のニーズをふまえ、管理栄養士として必要な給食分野における経営の基礎について演習を行い、給食と関連する食品業界の問題についてもふれる。

《テキスト》

『食品の消費と流通』日本フードスペシャリスト協会編、（建帛社）『エッセンシャル給食経営管理』富岡和夫、富田教代編（医歯薬出版*2年次給食経営管理論使用テキスト）

《参考図書》

『フードシステムの経済学』時子山ひろみら著、医歯薬出版

《授業の到達目標》

- ・管理栄養士として必要な経営学の基礎と応用を学ぶ。
- ・給食経営管理の視点から外食産業における給食の位置づけ、食品の流通、消費、環境、安全問題について学ぶ。

《授業時間外学習》

日本の経済動向や食品業界の問題について常に関心を払うこと。授業内容を復習し、理解を深めておくこと。

《成績評価の方法》

個人演習課題（40%）、定期試験（60%）

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション 食生活の変化①	演習の概要説明、食事形態の分類と位置づけ、外食の分類と市場規模について学ぶ
2	食生活の変化②	食の外部化をもたらした要因、付加価値について学ぶ
3	給食における経営管理①	経営管理、マネジメントサイクルについて学ぶ
4	給食における経営管理②	経営資源、人事管理（教育・訓練）について学ぶ
5	給食における経営管理③	原価管理①（原価の構成）について学ぶ
6	給食における経営管理④	原価管理②（原価の分析と評価①）について学ぶ
7	給食における経営管理⑤	原価管理③（原価の分析と評価②）について学ぶ
8	給食における経営管理⑥	給食のマーケティング①について学ぶ
9	給食における経営管理⑦	給食のマーケティング②について学ぶ
10	給食における経営管理⑧	外部講師による講演（管理栄養士として知っておくべき経済・経営の仕組み）について学ぶ
11	給食における経営管理⑨	外部講師によるワークショップ（管理栄養士として知っておくべき経済・経営の仕組み）について学ぶ
12	給食における食品の流通①	食品の流通①について学ぶ
13	給食における食品の流通②	食品の流通②について学ぶ
14	食品消費と環境問題	食品の消費や環境問題、安全性（廃棄物問題、輸入食品、HACCP、トレーサビリティ）について学ぶ
15	まとめ	これまでの演習内容を再確認する。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習 I	科目ナンバリング	NAmd23060
担当者氏名	真鍋 祐之、増村 美佐子、福本 恭子、嶋津 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） 		

《授業の概要》

臨地実習(3科目4単位)は実践的学修の場である。実習を通じて課題発見とその解決法を学び、的確な栄養評価・栄養診断に基づく栄養管理を行うための知識・技術を総合的に理解する。また、実習を通じて、実践活動の場において必要な対人力、表現力、伝達力等の社会的能力の基本についても修得する。さらに最終段階として、実習で経験し、修得した情報を整理し、報告会で発表する。

《テキスト》

「平成28年度臨地実習ノート」
必要な資料は随時配布する。

《参考図書》

「平成28年度臨地実習ノート」に参考図書として記載された教科書及び関連図書。

《授業の到達目標》

- ・実習施設ごとの特徴と管理栄養士の役割について理解する。
- ・実習時に給食管理分野の知識・技術を関連させて考える。
- ・給食業務、チーム医療における他職種との連携を理解する。
- ・対象者である個人・集団の栄養管理プロセスを理解する。
- ・事業所・福祉施設・病院で必要とされる情報(対象者の特性、疾患別栄養療法、等)を収集・要約する能力を修得する。

《授業時間外学習》

給食経営管理、臨床栄養学に関連する個々の教科で学修した大量調理マニュアル、各疾患の病態別特徴と検査値の関わり、献立作成等を振り返り、個人・集団の栄養管理に必要な知識・技能への理解を深め、各施設における積極的かつ有意義な実習が行えるように復習・予習をしておくこと。

《成績評価の方法》

- (1) 各実習施設の担当管理栄養士の評価(60%)
- (2) 実習課題・臨地実習ノート等の提出物(20%)
- (3) 実習報告会を含めた事前・事後指導に対する取組み(20%)

《備考》

平素から、学生(実習生)・社会人として備えるべき身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い等の社会的マナーを修得できるように日々努力すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習事前指導①	臨地実習に臨むに当たり、実習の位置づけ、実習を通じて何を学ぶのか、という具体的内容を理解する。
2	臨地実習事前指導②	各実習施設において、実習生として備えておくべき事項(身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い、気配り・目配り、礼状作成等)の必要性を理解する。
3	臨地実習事前指導③	各実習施設において、実習生として備えておくべき事項(身だしなみ、言葉遣い、立ち居振る舞い、気配り・目配り等)、をロールプレイングにより実践学習する。
4	臨地実習事前指導④	実習施設ごとの状況を想定して、具体的な状況設定に従い、それぞれの場面で適切な判断や対応ができるように実践力を身につける。
5	臨地実習事後指導①	事前学習した内容と実習期間中に実践的に学んだ事項とを比較検討し、実習によりどのような知識・技術が学べたかを整理する。
6	臨地実習事後指導②	各実習施設ごとにとりまとめた内容をもとにして、実習報告会での発表用資料を作成する。
7	臨地実習事後指導③	実習報告会では、各施設で経験した内容がどのようなものであったのかを発表するとともに、自ら学んだ事項を再確認する。
8	臨地実習事後指導④	実習施設ごとの発表内容を評価し合い、それぞれの報告内容から今後活用できる情報、注意すべき情報を抜き出して今後の学修に役立つよう整理する。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習Ⅱ		科目ナンバリング	NAmd23061	
担当者氏名	細川 敬三、内田 亨、本澤 真弓、矢埜 みどり、真鍋 祐之、須見 登志子、松村 末夫、富永 しのぶ、増村 美佐子、中井 玲子、佐藤 隆、嶋津 裕子、福本 恭子、前田 典子、小林 麻貴				
授業方法	演習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

これまで学んできた栄養士と管理栄養士に関する専門基礎科目と専門科目の知識を整理し、基礎を固めることを目標とする。

《テキスト》

必要に応じて授業内で指定する。
随時印刷物を配布する。

《参考図書》

必要に応じて紹介する。

《授業の到達目標》

- 1) 専門基礎科目と専門科目で学習した内容を明確に理解することができる。
- 2) 管理栄養士として必要な専門知識を習得し、資格者としての基礎を築く。

《授業時間外学習》

これまでに学んだ専門基礎科目と専門科目の授業内容の復習が中心である。従って、予習が必須である。また、知識の定着のため、復習が欠かせない。

《成績評価の方法》

試験と課題50%、学習態度50%

《備考》

栄養マネジメント学科教員全員が授業を担当する。
授業は、少人数ゼミ形式と講義形式を併用して実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習課題の実践 1	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
2	演習課題の実践 2	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
3	演習課題の実践 3	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
4	演習課題の実践 4	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
5	演習課題の実践 5	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
6	演習課題の実践 6	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
7	演習課題の実践 7	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
8	演習課題の実践 8	専門分野の各教育内容を包括する演習を行い、専門知識の復習に基づいた基礎固めを行う。
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	給食管理臨地実習		科目ナンバリング	NAnD13064	
担当者氏名	福本 恭子				
授業方法	実習	単位・必選	1・必修	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-1 主体性をもち、労を惜しまず物事に進んで取り組む力（フォローアップ力・共感力を含む） ◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）			

《授業の概要》

事業所・福祉施設などの特定給食施設における1週間の臨地実習をとおして管理栄養士・栄養士として具備すべき知識や技能を修得する。また、課題発見とその解決、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントに必要な専門的知識・技能の統合を図ることをめざす。

《テキスト》

「平成28年度臨地実習ノート」

《参考図書》

「平成28年度臨地実習ノート」に記載の参考図書

《授業の到達目標》

- ・事業所や福祉施設の管理栄養士の役割とその業務を理解する。
- ・給食経営管理分野の講義・実習で得た知識と技能を関連付けて考えることができる。

《授業時間外学習》

給食経営管理、給食管理実習等、学内での関連教科の理解を深め、習得したいことを見出し、そのことについて予習しておくことが実習施設への積極的な学習に繋がると考えます。

《成績評価の方法》

実習施設の評価表60%、臨地実習ノート等提出物20%、事前・事後指導（報告会を含む）への取組み20%

《備考》

平素から実習生、社会人としてのマナーを自覚し、健康管理に留意してください。心身に不安がある場合は、学内の健康管理センターで相談してください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
2	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
3	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
4	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
5	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
6	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
7	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
8	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
9	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
10	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
11	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
12	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
13	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
14	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習
15	臨地実習	事業所・福祉施設等の特定給食施設において臨地実習

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	臨床栄養臨地実習	科目ナンバリング	NAnD23065
担当者氏名	増村 美佐子		
授業方法	実習	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力）		

《授業の概要》

医療施設における臨地実習を通じて、現在までに習得してきた様々な知識や技術を統合し、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を担う管理栄養士としての素養を磨く。医療現場における管理栄養士の役割の理解、チーム医療、入院から退院までの栄養アセスメントなどを体験することで、今後備えるべき知識・技術の方向性や課題発見等を習得する。

《授業の到達目標》

- 医療現場での管理栄養士の役割と業務を理解する。
 - ・チーム医療・職種間の連携
 - ・栄養評価・判定法
 - ・疾患に応じた栄養アセスメント、ケアプランの作成
 - ・施設組織と栄養部門の位置づけ

《成績評価の方法》

- (1) 臨地実習先からの評価60%
- (2) 実習ノート等提出物20%
- (3) 事前・事後の取り組み20%

《テキスト》

「平成27年度臨地実習ノート」
必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

- 1、2、3年次使用テキスト
「2015年度版 管理栄養士・栄養士必携」（社）日本栄養士会編 第一出版
- 『NST完全ガイド 栄養療法の基礎と実践』東口高志編、照林社

《授業時間外学習》

各種疾患の特徴と関連検査値について復習しておくこと。
各種疾患の対応コントロール食を復習し、献立が作成できるようしておくこと。

《備考》

日々の言動が実習時に反映されるため、日頃からあいさつ、マナーに気をつけた生活を送ること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習	医療機関における臨地実習
2	臨地実習	医療機関における臨地実習
3	臨地実習	医療機関における臨地実習
4	臨地実習	医療機関における臨地実習
5	臨地実習	医療機関における臨地実習
6	臨地実習	医療機関における臨地実習
7	臨地実習	医療機関における臨地実習
8	臨地実習	医療機関における臨地実習
9	臨地実習	医療機関における臨地実習
10	臨地実習	医療機関における臨地実習
11	臨地実習	医療機関における臨地実習
12	臨地実習	医療機関における臨地実習
13	臨地実習	医療機関における臨地実習
14	臨地実習	医療機関における臨地実習
15	臨地実習	医療機関における臨地実習

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	細川 敬三		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

- (1) 研究テーマに沿って、「①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥中間報告」の順に行い、研究方法について学ぶ。
 (2) 研究の進捗状況を中間報告会にて発表する。

《テキスト》

必要に応じ資料を配付する。

《参考図書》

必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》

各自の研究テーマについて、①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものとするとともに新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》

実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》

実験態度(50%)・中間報告(50%)で評価を行う。

《備考》

1人1テーマを基本とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要の説明と研究テーマの決定	卒業研究で実施する内容を概説する。各自の研究テーマを選ぶ。
2	実験計画の立案	各自の研究テーマに基づき、1年間の実験計画のスケジュールを立てる。
3	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
4	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
12	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
13	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
14	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
15	中間報告	作成した図表を使って15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	矢埜 みどり		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

研究テーマにそって論文検索を行い、集めた論文は輪読会を行い、これまで研究がどのような方法でなされ、どこまで明らかになっているのか、何が問題なのかを理解する。問題点を踏まえ、今後の研究内容を計画し、研究をすすめる。得られたデータは、集計し、分析、考察を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《授業時間外学習》

検索及び配付された論文は、必ず何度も何度も読み返して下さい。得られた結果は、終了後ただちに整理して下さい。

《成績評価の方法》

平常の授業態度（50%）、発表及び報告書（50%）をあわせて評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要説明及びテーマ決定	卒業論文について、説明を行い、卒業論文のテーマを決定する
2	論文購読	自分の研究内容に近い内容の論文（各自1編）を検索し、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読）
3	論文購読	検索した論文について、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読を全員が、少なくとも1回担当するまで継続する）
4	研究計画	自分の研究テーマについて、さらに論文を読み、自分の研究テーマについてのこれまでの研究の歴史を理解する
5	研究計画	研究計画を立てる
6	研究・データ分析	計画に沿って研究に着手する
7	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
8	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
9	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
10	研究・データ分析	得られた結果を踏まえ、研究の方向性を検討する
11	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
12	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
13	研究・データ分析	結果を踏まえ、研究の方向性を確認する
14	途中経過のまとめ	これまで得ることのできたデータを整理する
15	中間報告	研究の進行度、方向性を確認し、4年I期の研究計画について再検討を行う

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	内田 亨		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

研究テーマを設定し、文献検索により既知の事実を整理し、計画を立てて実験を開始する。各々のデータを評価・解析し、方向性を探る。最終的に、研究成果を整理し、根拠に基づいた考察を行い、中間報告としてまとめ、発表する。

《テキスト》

必要に応じ配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

- 実験し新たなことを発見できる喜びを実感できる。
- 疑問点を抽出し、解決するために考えることができる。
- 理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》

論文の作成・報告書の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》

実験態度 50%、中間報告書 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマの設定	卒業研究のテーマの候補を示すので、興味持てる内容を選択する。
2	研究計画・材料調製	議論の上、テーマに沿っておおよその実験計画を立てていく。必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	研究計画・材料調製	議論の上、より具体的な実験計画を立てていく。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
11	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
12	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
13	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
14	結果のまとめ	実験結果を整理し、中間報告書の作成を開始する。
15	中間報告	中間報告書に沿って結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	増村 美佐子		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）		

《授業の概要》

研究テーマに沿った論文検索を行い、現在までに行なわれてきた研究について明らかにし、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、中間発表を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて指示する。

《授業の到達目標》

- 各自の研究テーマについて、論文検索、研究計画、研究、データ解析、データのまとめ方、卒業論文作成という一連の課程を通し、研究能力を身につける。
- 研究テーマに対する理解を深める。
- 研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
- 分析結果について自分の意見をまとめ、発表する能力を身につける。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

- (1) 研究態度50% (2) 中間報告50%

《備考》

卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。
データの取扱いには十分注意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマ設定	卒業研究の目的、研究とは何か、について説明し、各自の研究テーマを検討する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
6	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
7	研究・データ解析	予備調査を行い、得られたデータより研究の見通しを立て、計画を再検討する。
8	研究計画	研究方法を検討する。
9	研究計画	研究方法を検討する。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
12	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
13	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
14	結果のまとめ	得られたデータをまとめ、考察する。
15	中間報告	得られた結果をまとめ、発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	佐藤 隆		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

特定の研究テーマについての情報収集や文献調査を通じて、テーマの背景や問題点などを分析した後、スライドによる口頭発表、グループでの討議および中間報告書の作成を行う。

《テキスト》

プリントを配布する場合がある。

《参考図書》

《授業の到達目標》

調査・分析した内容について口頭発表や報告書を作成することにより、研究方法について理解する。

《授業時間外学習》

新聞、ニュース、雑誌などを通じて研究に関する情報を収集する。

《成績評価の方法》

研究態度（30%）、口頭発表（30%）、中間報告書（40%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション①	研究の方法と計画（1）の立て方を学ぶ。
2	イントロダクション②	研究の方法と計画（2）の立て方を学ぶ。
3	調査研究①	研究テーマを決定する。
4	調査研究②	論文輪読（1）を行う。
5	調査研究③	論文輪読（2）を行う。
6	調査研究④	論文輪読（3）を行う。
7	調査研究⑤	文献調査・分析・ディスカッション（1）を行う。
8	調査研究⑥	文献調査・分析・ディスカッション（2）を行う。
9	調査研究⑦	文献調査・分析・ディスカッション（3）を行う。
10	調査研究⑧	文献調査・分析・ディスカッション（4）を行う。
11	調査研究⑨	資料の作成および中間報告書を作成（1）する。
12	調査研究⑩	資料の作成および中間報告書を作成（2）する。
13	プレゼンテーション①	スライドによる口頭発表（1）を行う。
14	プレゼンテーション②	スライドによる口頭発表（2）を行う。
15	卒業研究中間報告	卒業研究中間報告書を完成し提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I	科目ナンバリング	NDpX23067
担当者氏名	嶋津 裕子		
授業方法	演習	単位・必選	3・選択
		開講年次・開講期	3年・II期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）		

《授業の概要》

これまでに学んだ食や健康に関する教育の基礎理論を基に、自分が関心を持つ健康や食に関する事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定します。テーマに沿った研究方法を学び、先行研究などの必要な文献や資料を収集し、計画的に自ら探求していく態度を養います。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜指示する。

《授業の到達目標》

- 研究に関する資料を作成し、研究計画を立てることができる
- 問題意識にもとづいて、明らかにしたいことを明確に表現できる。
- テーマに関する参考文献、先行研究、統計資料などから意味や問題を読み取ることができる。

《授業時間外学習》

- データ処理、まとめを授業時間外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

進捗状況表等提出物（50%）、中間発表（50%）

《備考》

- 研究の進捗状況表を作成し、毎授業日に提出すること。
- 卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方について理解する。
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究方法等を学ぶ。
3	データ収集の方法①	先行論文、文献等検索を主体的に行う。
4	研究テーマの検討	研究テーマ、研究方法の検討を行う。
5	研究テーマの決定	研究テーマ、研究方法の決定を主体的に行う。
6	研究計画の作成①	経過報告、検討を行う。
7	研究計画の作成②	経過報告、検討を行う。
8	データ収集の方法②	質問紙作成の実際を調べる。
9	データ収集の方法③	質問紙の検討、経過報告を行う。
10	データ収集の方法④	質問紙の検討、経過報告を行う。
11	データ処理方法①	データ処理について理解する。
12	データ処理方法②	データ処理について主体的に調べ行う。
13	中間報告書の作成①	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、検討を行う。
14	中間報告書の作成②	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、決定をする。
15	中間報告	中間報告会の実施に取り組む。

《教職に関する科目》

科目名	教育史	科目ナンバリング	NTAL53003
担当者氏名	岡本 洋之		
授業方法	講義	単位・必選	2・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

本授業では、「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえ、みなさんが日ごろ読んでいる本の中に教育史に関わる題材があふれていることをおさえる。

具体的には、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。

《授業の到達目標》

教育史は、文字通り教育の歴史である。しかし歴史というと、無味乾燥な暗記物というイメージが付きまとう。誤った歴史教育がそのようなイメージを生んでしまったのは残念である。

本授業では、みなさんに暗記してもらうことは一つもない。その代わりに教育史に関する文献を自分で見つけ、それについて発表することにより、教育史を身近に感じてもらうことが、本授業の目的である。

《成績評価の方法》

提出物(30%)と、発表への評価(70%)による。ただし、大学教育の基本である「個に応じた指導」の原則に基づき、変更することがある。

《テキスト》

とくに定めない。

《参考図書》

妹尾河童『少年H』，さくらももこ『まる子だった』，黒柳徹子『窓際のトットちゃん』，司馬遼太郎『竜馬がゆく』，ヘッセ『車輪の下』，サンテグジュペリ『星の王子さま』，童門冬二『上杉鷹山』，乙武洋匡『五体不満足』ほか。

《授業時間外学習》

自力で文献を読むことは言うまでもないが、その他は必要に応じて指示する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	発表文献選定のための個別指導(1)	文献リスト作り等
3	発表文献選定のための個別指導(2)	発表内容の詰め等
4	口頭発表(1)	文献例:妹尾河童『少年H』
5	口頭発表(2)	文献例:さくらももこ『まる子だった』
6	口頭発表(3)	文献例:黒柳徹子『窓際のトットちゃん』
7	口頭発表(4)	文献例:司馬遼太郎『竜馬がゆく』
8	口頭発表(5)	文献例:H・ヘッセ『車輪の下』
9	口頭発表(6)	文献例:A・サンテグジュペリ『星の王子さま』
10	口頭発表(7)	文献例:童門冬二『上杉鷹山』
11	口頭発表(8)	文献例:乙武洋匡『五体不満足』
12	口頭発表(9)	文献例:E・ケストナー『エーミールと探偵たち』
13	口頭発表(10)	文献例:東上高志『教育革命』
14	口頭発表(11)	文献例:三好京三『子育てごっこ』
15	口頭発表(12)	文献例:李潤福『ユンボギの日記』

《教職に関する科目》

科目名	事前事後指導	科目ナンバリング	NTEI43003
担当者氏名	前田 典子、小林 麻貴		
授業方法	演習	単位・必選	1・選択
		開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照		

《授業の概要》

栄養教育実習の概要を説明するとともに、学校教育における食に関する指導の重要性を確認する。栄養教諭としての専門性の向上及び児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置づけを確認する。事後指導においては、反省点を捉え直し、知識・技術定着のために課題や問題点を明確にする。

《授業の到達目標》

栄養教諭としての専門性の向上のみならず、児童・生徒の理解のための観点や心得、教育者としての資質や能力の育成、研究的視点と実習における各自の目標設定など、栄養教育実習の位置づけを確認する。事後指導においては、実習報告書を作成するとともに、受講生の前で発表することで、他の学生の経験を共有することができ、実習経験をより確実なものにする。

《成績評価の方法》

授業中の態度（40％） 報告会のプレゼンテーション（30％）
報告書（30％）

《テキスト》

栄養教諭実習ノートを作成し配布する

《参考図書》

『栄養教育論 理論と実際』金田雅代編著 建帛社

《授業時間外学習》

実習校への事前訪問、事後訪問も含まれる。事前訪問までに実習校の歴史、規模、教育方針等も調べておくこと。

《備考》

事後指導は4年時の教育実習後に行う。成績の最終評価は教育実習・事後指導後に行う。将来栄養教諭になりたいと強い希望を持つ学生以外の履修は不可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	3年Ⅱ期 事前指導① オリエンテーション	栄養教育に向けての心得や授業の内容を理解する
2	3年Ⅱ期 事前指導②	栄養教育実習要領を理解する。栄養教育実習に関する必要書類の確認を行い、実際に書類を作成する。
3	3年Ⅱ期 事前指導③	栄養教育実習校への事前訪問の仕方、実習ノート記載方法を理解する。
4	3年Ⅱ期 事前指導④	栄養教育実習手続きの方法を理解し、実習に必要な書類の作成を行う。
5	3年Ⅱ期 事前指導⑤	学校教育実習に関する注意事項を理解する。
6	4年Ⅰ期 事前指導⑥	学校教育実習に向けての心得や実習内容及び書類の再確認を行う。
7	4年Ⅰ期 事後指導①	学校教育実習報告書の作成方法の確認及び報告書の作成を行う。
8	4年Ⅰ期 事後指導②	栄養教育実習の内容をまとめ、各自発表する。発表内容に対し、意見交換を行い、実習内容などを理解する。
9	4年Ⅰ期 事後指導③	学校教育実習の事前・事後指導を振り返り、事前指導、実習、事後指導で身につけたことなどを理解する。
10	予備日	予備日
11	予備日	予備日
12	予備日	予備日
13	予備日	予備日
14	予備日	予備日
15	予備日	予備日

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論 I		科目ナンバリング	NTEI43001	
担当者氏名	宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）			

《授業の概要》

子どもの発達や栄養の特性及び食と健康に関する基礎知識、さらに、学校教育の中で、食にかかわる指導・管理の内容と位置づけ等を十分理解し、栄養教諭（管理栄養士・教育職員）として具備すべき教育力を培うことを目指している。

《テキスト》

『改訂三訂栄養教諭論』金田雅代編著 建帛社 2012

《参考図書》

『栄養教諭とはなにかー「食に関する指導」の実践』女子栄養大学教諭研究会編（女子栄養大学出版部）『子どもの栄養・食教育ガイド』坂本元子（医歯薬出版）『栄養教諭（季刊）』全国学校栄養士協議会編（日本文教出版）

《授業の到達目標》

食を取り巻く社会の変化に伴う学童の食生活・栄養摂取状態、肥満や痩身志向、アレルギー等について論理的に説明ができる。学校組織における栄養教諭の位置づけや職務と役割を学び、学校給食の管理運営、他教科ならびに家庭と地域とのかかわりの実際を理解することができる。

《授業時間外学習》

教育及び子どもの健康や食に関する動向に関心を持ち、問題点や課題を見出せるようにすることが望ましい。

《成績評価の方法》

定期試験 70%、課題レポート等の提出物30%

《備考》

わからないことは質問を。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	栄養教諭の制度と役割	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握したうえで、栄養教諭の職務及び内容を正しく理解し、果たすべき役割をしっかりと習得する。
2	栄養教諭の制度と役割	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握し、栄養教諭の職務及び内容、食育基本法（学校における食育）を正しく理解し、食の指導者としての役割をしっかりと習得する。
3	学校給食の教育的意義と役割	学校給食法、学校給食の教育的意義と役割、学校組織における栄養教諭の位置づけ等を十分理解し、それらを踏まえた教育、指導ができるようにする。
4	学校組織と栄養教諭の位置づけ	学校組織、学校給食の組織と栄養教諭の位置づけ等を理解し、栄養教諭の役割を踏まえた教育、指導ができるようにする。
5	学校給食と食文化の変遷	学校給食の歴史を十分に把握し、その変容を食文化の視点から考慮し、将来への展望を考へることは、現在の学校給食において必要であることを理解する。
6	学校給食と食料	家庭・地域との連携を考慮し、学校給食及び家庭食の食材について、地域の食文化・産物、食料自給率等の面を、十分に把握し、教育、指導ができるようにする。
7	子どもの発達と食生活	児童・生徒の発達、健康状態、栄養素摂取の状況、食生活の実態などについて、正しく説明ができる知識の習得が重要であることを理解する。
8	子どもの発達と食生活	栄養のあり方は社会の変化に伴って変わる。正確な栄養学を理解し、児童・生徒等に正しく説明できるようにする。
9	学校給食と栄養管理	給食の管理とともに栄養管理を踏まえ、子どもの健康にかかわる食の指導力を身につける。
10	食に関する指導（全体計画）	学校内外において食に関する指導を推進する際に、全体計画の作成に積極的に参加・参画し、食に対する専門家としての役割を果たすことが重要であることを理解する。
11	食に関する指導（全体計画・展開）	食に関する指導の全体計画を作成することの意義、作成手順・方法について理解する。
12	食に関する指導（カリキュラムと指導計画）	食に関する指導を行い、其の効果を上げるために子どもの実態に応じた指導、教科等との絡みを考慮したカリキュラムの作成、その成果と評価のあり方等を習得する。
13	給食の時間における食の指導と実際	給食の時間は、食に関する実践活動の時間である。献立を通して地域の食文化、産業や自然環境等に関する指導のため、献立作成には創意工夫が必要であることを理解する。
14	給食の時間における食の指導と実際	給食の時間で行う食の指導について十分理解した上で、その指導の実際を習得する。
15	食に関する指導と食生活学習教材	年齢別の学習能力とその特性を把握し、発達に応じた適切な教材や学習方法を習得するため、食生活学習教材の作成能力を培う。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	学校栄養教育論Ⅱ		科目ナンバリング	NTEI43002	
担当者氏名	宮田 さと子				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	3年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力		◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）			

《授業の概要》

学校栄養教諭は、食に関する指導に係る全体計画策定のための企画・立案をする能力が必要となる。ここでは、給食・各教科（家庭科、体育科、生活科など）における目標や内容を学修した上で、食に係る指導の充実のため、学校・家庭・地域との連携の中でどのような指導を行っていくとよいかを考えながら指導案を作成し、作成した媒体を用いた模擬授業を行う。

《授業の到達目標》

- 給食・各教科における目標や内容、学校・家庭・地域との連携が理解できる。
- 食に関する指導を通じて、教材研究や指導案の作成ができる。

《成績評価の方法》

- (1) レポート20% (2) 模擬授業20% (3) 筆記試験60%

《テキスト》

『栄養教諭論 理論と実際』金田雅代編著、建帛社、2012
 『小学校 学習指導要領』平成20年3月告示、文部科学省

《参考図書》

『栄養教諭のための 学校栄養教育論』笠原賀子、医歯薬出版
 『食育指導ガイドブック』中村丁次監修、丸善株式会社
 『季刊 栄養教諭』社団法人全国学校栄養士協議会編、日本文教出版
 『子どもの栄養と食育がわかる辞典』足立己幸、成美堂出版

《授業時間外学習》

各教科に対する指導案を各自で作成しますので、計画的に教材研究を進めておいて下さい。

《備考》

毎日、新聞やニュースに目を通し、子どもを取巻く現状や、栄養・健康・社会情勢についての情報を収集し、スクラップする習慣を身につけてください。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食に関する指導に係わる全体的な計画の作成	・食に関する年間指導計画の策定方法を学ぶ ・食に係わる指導の評価法を学ぶ
2	給食の時間における食に関する指導	・給食の時間における食に関する指導を学ぶ ・地場作物を活用した食に関する指導を学ぶ
3	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
4	体育、保健体育科における食に関する指導	・学習指導要領における関係教科の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
5	道徳、特別活動における食に関する指導	・学習指導要領における道徳、特別活動の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
6	生活の時間における食に関する指導	・学習指導要領における食生活の時間の目標および内容を学ぶ ・食に関する領域・内容における指導方法等を学ぶ
7	総合的な学習の時間における食に関する指導	・学習指導要領における総合的な学習の時間の目標および内容を学ぶ ・課題設定、指導計画、指導案づくり、指導方法等を学ぶ
8	個別栄養相談指導	・食物アレルギー食等に関する特別な指導を学ぶ ・児童・生徒、保護者に対する個別指導等を学ぶ
9	学校、家庭、地域が連携した食に関する指導	・家庭や地域との連携の必要性と取組み方を学ぶ ・連携する地域との関係機関・団体等を学ぶ
10	実践演習（1）	・食に関する指導の指導案の作成方法を学ぶ
11	実践演習（2）	・作成した指導案を発表し、相互評価する
12	実践演習（3）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
13	実践演習（4）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
14	実践演習（5）	・模擬授業を行い、指導効果を評価する
15	総括（まとめ）	・食に関する領域・内容における指導方法のまとめを行う

平成 25（2013）年度入学者

専門教育科目

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の担当者	ページ		
			必修	選択					1年		2年		3年		4年					
									I	II	I	II	I	II	I	II				
I群 (領域に関する科目)	基礎ゼミ I	演習	2						2											
	基礎ゼミ II	演習	2						2											
	栄養のための基礎生物化学	講義	2					B	2											
	実験基礎演習	演習	2						2											
	調理基礎演習 I	演習	2						2											
	調理基礎演習 II	演習		2					2											
	医学概論	講義	2					E	2											
	コミュニケーション論	講義		2					2											
	バイオテクノロジー	講義		2											2			不開講 (池本 廣希)	197	
	食料経済	講義		2											2					
	健康科学	講義	2						2											
II群 (専門基礎に関する科目)	健康情報処理演習	演習	2						2											
	情報処理と栄養統計 I	講義		2		○	△			2										
	情報処理と栄養統計 II	講義		2		○	△				2									
	公衆衛生学 I (公衆衛生)	講義	2		◇	○	△	D				2								
	公衆衛生学 II (健康管理)	講義	2			○	△						2							
	社会福祉概論	講義	2		◇	○	△						2							
	生化学 I	講義	2		◇	○	△	B	2											
	生化学 II	講義	2			○	△	B		2										
	生化学実験 I	実験		1		◇	○	△	B		3								☆	
	生化学実験 II	実験		1			○	△	B			3							☆	
	栄養解剖学・人体生理学 I	講義	2			◇	○	△	B	2										
	栄養解剖学・人体生理学 II	講義	2			◇	○	△	B		2									
	栄養解剖学実験	実験		1		◇	○	△			3									☆
	人体生理学実験	実験		1			○	△				3								☆
	臨床病態学 I	講義	2			◇	○	△	E		2									
	臨床病態学 II	講義	2				○	△	E			2								
	生体防御論	講義	2				○	△	C				2							
	食品学 I	講義	2			◇	○	△	B	2										
	食品学 II	講義	2			◇	○	△	C				2							
	食品学実験 I	実験		1		◇	○	△	B	3										☆
	食品学実験 II	実験		1		◇	○	△	B				3							☆
	食品衛生学	講義	2			◇	○	△	D			2								
	食品衛生学実験	実験		1			○	△	D				3							☆
食品機能論	講義	2				○	△						2						[土井 裕司]	198
調理学	講義	2			◇	○	△		2											
調理学実験	実験		1		◇	○	△			3										☆
調理学実習 I	実習		1		◇	○	△				3									☆
調理学実習 II	実習		1			○	△					3								☆

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学者対象
 （ ）は兼担、[]は兼任講師

授業 科目の 区分	授業科目の名称	授業 方法	単位数		栄養士	管理 栄養士	栄養 教諭 一種	食 品 衛 生 管 理 者 等	学年配当 (数字は週当り授業時間)								平成28年度の 担 当 者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
専 門 教 育 科 目 Ⅲ 群 （ 専 門 に 関 す る 科 目 ）	基礎栄養学Ⅰ(健康栄養)	講義	2	◇	○	△	E	2										
	基礎栄養学Ⅱ(基礎栄養)	講義	2	◇	○	△	E		2									
	栄養学実習	実習	1	◇	○	△	E			3							☆	
	応用栄養学Ⅰ(ライフステージ栄養)	講義	2	◇	○	△	E			2								
	応用栄養学Ⅱ(スポーツ・環境栄養)	講義	2		○	△							2		真鍋 祐之	199		
	栄養管理学	講義	2	◇	○	△	E			2								
	栄養管理学実習	実習	1		○	△					3						☆	
	基礎栄養教育論	講義	2	◇	○	△	E			2								
	健康栄養教育論	講義	2	◇	○	△				2								
	基礎栄養教育実習	実習	1	◇	○	△				3							☆	
	健康栄養教育実習	実習	1	◇	○	△				3							☆	
	実践栄養教育演習	演習	2		○	△							2		矢埜 みどり	200		
	臨床栄養学Ⅰ	講義	2	◇	○	△				2								
	臨床栄養学Ⅱ	講義	2		○	△					2							
	臨床栄養学実習	実習	1	◇	○	△						3					☆	
	臨床栄養管理学	講義	2		○	△					2							
	臨床栄養管理演習	演習	2		○	△						2						
	公衆栄養学Ⅰ	講義	2	◇	○	△	E			2								
	公衆栄養学Ⅱ	講義	2		○	△					2							
	公衆栄養活動実習	実習	1	◇	○	△						3					☆	
	給食経営管理論	講義	2	◇	○	△					2							
	メニュー管理実習	実習	1	◇	○	△					3						☆	
	給食管理実習	実習	1	◇	○	△	E				3						☆	
	フードサービスマネジメント演習	演習	2		○	△						2						
	総合演習	演習	2		○	△							2		*1	201		
	卒業演習Ⅰ	演習	2		○	△							2		*1	202		
	卒業演習Ⅱ	演習	2		○	△							2		*1	203		
	給食管理臨地実習(校外実習)	実習	1	◇	○	△					2						☆	
	臨床栄養臨地実習	実習	2		○	△						4					☆	
	公衆栄養臨地実習	実習	1		○	△							2		嶋津 裕子	204	☆	
学校栄養教育論Ⅰ	講義	2			△					2								
学校栄養教育論Ⅱ	講義	2			△						2							
卒業研究Ⅰ	演習	3										3		*2	205～210			
卒業研究Ⅱ	演習	3										3		*2	211～216			

◇は栄養士免許必修科目

○は管理栄養士国家資格必修科目

△は栄養教諭必修科目

※ 表中の科目以外にフードスペシャリスト養成科目として、4年Ⅰ期に「フードスペシャリスト論」「フードコーディネイト論」を開講する。

※ 食品衛生管理者等（食品衛生管理者・食品衛生監視員）欄の①～⑤は食品衛生法施行規則 第50条 別表第14及び第15に指定された科目である。

①～⑤別表第14にかかげた科目・⑥は別表第15にかかげた科目

①化学関係（教養科目「化学」）修得のこと ②生物化学関係 ③微生物関係 ④公衆衛生学関係 ⑤その他関連科目

①～⑤群から1科目以上、最低修得単位数(①+②+③+④)22単位以上

最低修得単位数合計(①+②+③+④+⑤)40単位以上

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

*1 内田・細川・本澤・矢埜・真鍋・須見・松村・富永・増村・中井・佐藤・嶋津・福本・前田・小林麻

*2 細川・矢埜・内田・増村・佐藤・嶋津

カリキュラム年次配当表

栄養マネジメント学科 平成25年度（2013年度）入学対象
（ ）は兼担、[]は兼任講師

授業科目区分	授業科目の名称	授業方法	単位数		栄養士	管理栄養士	栄養教諭一種	食品衛生管理者等	学年配当(数字は週当たり授業時間)								平成28年度の担当者	ページ
			必修	選択					1年		2年		3年		4年			
									I	II	I	II	I	II	I	II		
栄養教諭一種免許取得に関する科目	教職概論	講義		2			△		2									
	教育原理	講義		2			△		2									
	教育史	講義		2			▲						2					
	教育心理学	講義		2			△				2							
	教育制度論	講義		2			△		2									
	教育課程論（道徳・特別活動を含む）	講義		2			△				2							
	教育方法・技術論	講義		2			△				2							
	生徒指導論（進路指導を含む）	講義		2			△			2								
	教育相談（カウンセリングを含む）	講義		2			△		2									
	事前事後指導	講義		1			△						1					
	栄養教育実習	実習		1			△							3		前田・小林麻・[宮田]	217	
	教職実践演習（栄養教諭）	演習		2			△							2	矢野 みどり・[山本 啓子]	218		

△は栄養教諭必修科目、▲は栄養教諭選択科目

※ 教職に関する科目を修得しても、卒業要件単位には含まれない。

※ 教育職員免許状を取得するためには、上記科目のほか、教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目として、日本国憲法（2単位）、体育（2単位）、外国語コミュニケーション（2単位）、情報機器の操作（2単位）について、指定の科目を修得すること。

※ 欄外の☆印は、学則第21条第1項第2号の但書に規定する授業科目を表す。

《専門教育科目 I 群（領域に関する科目）》

科目名	食料経済				
担当者氏名	池本 廣希				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心） ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ○ 2-2 現象を幅広く深い視野から分析できる力（観察力と分析力） 				

《授業の概要》

世界人口の急増と食のグローバル化の中で、TPPの環太平洋自由貿易協定の大筋合意をにらみ、特に非関税障壁撤廃問題に焦点を絞り、「地産地消」「食育」「食と健康」「食の安全・安心」「フードコーディネーターの役割」等について学習する。また、今後の日本農業のあり方や各家庭の食卓のあり方、食糧と食料の違いや農産物価格形成の特性について学び、市場経済の有効性と市場の失敗について理解を深める。

《授業の到達目標》

「食べるということ」の意味を深く理解し、「食と健康」に関する問題を発見・分析・解決する力を鍛え、管理栄養士として現場で活躍できる実践力を身につける。

《テキスト》

なし

《参考図書》

池本廣希著『地産地消の経済学』 新泉社 2008年

《授業時間外学習》

新聞から食料問題に関する記事を集める。

《成績評価の方法》

授業中の課題提出 30% 試験 70%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	ガイダンス	「食べるということ」についてーいただきます・ごちそうさまーについて学ぶ
2	序章 はじめに	「食糧と食料」の違いについて学ぶ
3	第1章 今なぜ、地産地消か ①食とくらし	これでいいのかわが家の食卓（パワーポイント使用）について理解する
4	②「食の安全・安心」について	地域「食の安全・安心」のあり方について食のグローバル化と食のローカル化を対峙し考える
5	③食料と市場経済について	農業と工業の相違を理解し、食料と市場経済について考える
6	④食と環境	食の栄養循環と食環境について考えるーエントロピー論としての食環境論ー
7	⑤自然と土に触れる生活	水や土に触れることの大切さを食農教育として体験する意義について考える
8	第2章 日本の食料・農業政策と経済政策	①戦後復興と学校給食（1950年代～）について学ぶ
9	日本の食料・農業政策と経済政策	②高度経済成長と農業と食料（1960年代～）について学ぶ
10	日本の食料・農業政策と経済政策	③高度経済成長と都市と食卓（1960年代～）について学ぶ
11	日本の食料・農業政策と経済政策	④円高と食料自給率の急落（1980年代～）について学ぶ
12	日本の食料・農業政策と経済政策	⑤第3の関税と自由貿易の強化（1990年代～）について学ぶ
13	第3章 21世紀の食料問題	①遠産遠消と食のグローバル化ーTPP問題からー（2010年代～）について学ぶ
14	21世紀の食料問題	②地産地消とむらおこし・まちおこし（2010年代～）について学ぶ
15	まとめ	新たな課題提起について学ぶ

《専門教育科目 II 群（専門基礎に関する科目）》

科目名	食品機能論				
担当者氏名	土井 裕司				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-1 食と健康の専門家としての基礎知識と技術力（自己学習力・知識） ◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

同じアミノ酸組成でも形態の違いによりラットの生育が違った。そんな事実から食品機能学が生まれた。食品成分の持つ働きを知ることで健康に良かったり、おいしかったりする新しい食品が生み出されるでしょう。ここでは、食品に関する新しい発想のもとを知り、食品成分が食品中で、あるいは、生体内でどのような働きをしているかを解説する。さらに、食品成分の化学変化や食品成分間相互作用についても解説する。

《授業の到達目標》

食品成分の生体へのはたらきを具体的な例を挙げて解説するので、どのような影響をもたらしているかを理解すること。その結果、健康や嗜好にどのように利用されているか修得すること。さらに、食品成分の変化や相互作用について説明を加えるので、現実の食品ではそれがどのように観察され、利用されているのかを理解すること。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)により評価する。

《テキスト》

森田潤司・成田宏史編 新食品・栄養科学シリーズ 「食品学総論」 第3版 化学同人発行

《参考図書》

食品機能性の科学編集委員会編集「食品機能性の科学」産業技術サービスセンター発行、寺尾純二・山西倫太郎・高村仁知共著 改訂「食品機能学」光生館発行、食物と栄養科学シリーズ3「食品学・食品機能学」朝倉書店発行

《授業時間外学習》

幅の広い講義内容であり、覚えなければならないことも多い。基礎栄養学や生化学と関連する事柄も多い。それらの科目の理解を深めておくこと。予習をすることはもちろん、教科書やノートを読み返すことによって、理解を深めることができるので、必ず復習をすること。

《備考》

授業ではPower Point を使用するが、資料は配布しないのでノートを執る癖を付けること。管理栄養士国家試験によく出題される分野であるので、十分勉強すること。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	食品の分類と機能性、食品にかかわる制度	(1) 食品の分類 (2) 食品成分の特性から機能へ (3) 機能性食品の創製 (4) 保健機能食品 (5) 特定保健用食品
2	食品の機能と表示について	(1) 食品の機能性成分 ー生体調節機能の分類ー (2) 栄養表示基準制度
3	食品中の主要成分の機能 1	(1) 食品中の水の存在と食品の保存性 (2) タンパク質のはたらき (3) アミノ酸・ペプチドの機能
4	食品中の主要成分の機能 2	(4) 糖質の機能 (5) 食物繊維 (6) アミノ糖 (7) 脂質の機能 (8) ジアシलगリセロール (肥満抑制) (9) 植物ステロール (血清コレステロール低下)
5	食品中の微量成分の栄養素としての機能	(1) 無機質の食品中でのはたらき (2) 無機質の生体に及ぼす機能 (3) ビタミンのはたらき
6	食品中の嗜好成分 1	(1) 味の成分とそのはたらき (二次機能) (うま味物質の発見, 糖アルコール, 低エネルギー性甘味料, 辛味成分の肥満抑制など)
7	食品中の嗜好成分 2	(2) 香りの成分とそのはたらき (二次機能) (3) 色の成分とそのはたらき (二次機能)
8	食品中の有害物質の作用	(1) 植物由来の有害物質、それが及ぼす影響 (2) 動物由来の有害物質、それが及ぼす影響 (3) 微生物由来の有害物質、それが及ぼす影響
9	食品成分の化学変化 1	(1) 油脂の酸化 メカニズム (自動酸化・光増感酸化) と抗酸化物質 (カロテノイド・ポリフェノールなど)
10	食品成分の化学変化 2	(2) タンパク質の変化 たとえばアミノ酸の修飾、タンパク質の分解と変性 (3) 糖質の変化 たとえばデンプンの老化 (4) ビタミンの変化
11	食品成分の化学変化 3	(5) 褐変(酵素的褐変、非酵素的褐変)
12	酵素による成分変化と食品加工への応用	アミラーゼ、プロテアーゼ、リパーゼ、チオグルコシダーゼ、CS-リアーゼ、β-グルコシダーゼ、スクラーゼ、グルコースイソメラーゼなど
13	食品成分の生体調節機能 1	食品の機能性成分 (1) 消化管で作用する機能 (2) 循環器系に対する機能 (3) 内分泌系に対する機能 (5) 神経系に対する機能 (6) 骨系に対する機能
14	食品成分の生体調節機能 2	(1) 生体および食品中に含まれている機能性ペプチド (2) 共役脂肪酸・(有害な)トランス脂肪酸
15	食品の物性	(1) 食品の物性とおいしさとの関連 (2) コロイドの科学 (3) 粘性

科目名	応用栄養学Ⅱ（スポーツ・環境栄養）				
担当者氏名	真鍋 祐之				
授業方法	講義	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-2 食と健康に関心を持ち、問題点を探求しようとする態度（知的好奇心・探究心）				

《授業の概要》

身体活動やストレス、生活環境の変化により起こる生体内の反応には栄養が深く関わっており、その栄養ケア・マネジメントを正しく実践することが重要である。そこで本講義では、身体活動・運動時の生理的特徴、ストレスと生体防御、特殊環境下での代謝変化を理解し、さらにこれら条件下での栄養ケア・マネジメントに関する理論を深く理解し、実践的に対応できる能力を培うことを目的とする。

《授業の到達目標》

(1) 身体活動・運動が生体に及ぼす影響を具体的に説明できる。(2) ストレスの定義とストレス時の生体反応について分かりやすく説明できる。(3) 特殊環境下における種々の生理的变化と栄養学的対応法を具体的に説明できる。(4) 運動時、ストレス時、特殊環境下での実践的栄養ケア・マネジメントプランを提案できる。

《成績評価の方法》

定期試験(100%)

《テキスト》

『応用栄養学—ライフステージ別、環境別—』木戸康博、真鍋祐之編、医歯薬出版
(2年次購入済み)

《参考図書》

『再改訂 動く、食べる、休むScience(健康づくりの生理学)』上田伸男編、アイ・ケイコーポレーション
『栄養科学シリーズNEXTスポーツ・運動栄養学』加藤秀夫、中坊幸弘編、講談社サイエンティフィク

《授業時間外学習》

(1) 予習の方法：次回講義の該当部分に目を通し、全体的な学習内容の把握をしておくこと。(2) 復習の方法：その日の講義内容を見直し、ノートの不十分な箇所は教科書を参考に追記するなど、内容を再確認すること。忘れることを恐れず、一度は理解しておくことが重要です。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	運動時の生理的特徴とエネルギー代謝	運動にともない、その強度や時間により変化するエネルギー代謝や呼吸・循環機能の応答について説明できる。
2	体力と運動トレーニング	体力・トレーニングとは何かを理解し、運動トレーニングが体力に及ぼす影響について説明できる。
3	身体活動基準と指針	健康・体力の維持・増進における身体活動・運動の意義を学び、実施の基本となる身体活動基準・指針を理解する。
4	運動の健康への影響	運動にともなって糖質や脂質の代謝にどのような影響が出るか、また血圧や骨格にどのような影響が出るかを説明できる。
5	運動と糖質・たんぱく質の摂取	運動時の主たるエネルギー源となる糖質や身体構成に必要なたんぱく質の必要量の変化について理解する。
6	水分・電解質補給	運動、とくに激しい運動でみられる発汗にともなう水分及び電解質損失に対する適切な補給法を理解する。
7	運動と貧血	運動にともないみられる貧血の原因とその対応について説明できる。
8	食事内容と摂取タイミング	運動実施時に摂取すべき食事の内容とその摂取タイミングが吸収・利用に影響することを説明できる。
9	筋グリコーゲンの再補充	運動により減少した筋グリコーゲンをどのようにすればより多くすることができるかについて理解する。
10	運動時の食事摂取基準の活用	運動時には各栄養素の体内需要が増加するが、その需要増を満たすために食事摂取基準をどのように活用するかを理解する。
11	ウエイトコントロールと運動・栄養	ウエイトコントロールを行う場合の運動と栄養の相乗効果について説明できる。
12	栄養補助食品の利用	栄養補助食品とは何かを理解し、身体活動・運動時の栄養素摂取における栄養補助食品の利用方法について説明できる。
13	ストレスと栄養ケア・マネジメント	ストレスの定義やストレス時の生体反応を学び、ストレス条件下における栄養ケア・マネジメントのあり方について正しく理解する。
14	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(1)	高温・低温環境下で起こる生体の生理的变化を学び、高温環境でみられる熱中症が起こった場合の水分・電解質補給の重要性についても理解を深める。
15	特殊環境と栄養ケア・マネジメント(2)	高圧・低圧、無重力下で起こる体内代謝の変化と、この変化に対する栄養ケア・マネジメントを理解する。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	実践栄養教育演習				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力）				

《授業の概要》

食生活改善のための媒体である食事バランスガイドや問題解決を必要としている人への援助を行うために欠かせないカウンセリングの基礎を学ぶ。そのうえでライフステージ別の特徴を踏まえた栄養教育の企画、実施、評価を行うことで、栄養マネジメント能力を高めることが出来る。

《授業の到達目標》

地域の食文化とライフステージの特徴を反映した食事バランスガイドを作成することで、バランスガイドの目的と策定の背景、ライフステージの特徴を理解することが出来る。カウンセラーの3条件を理解し、簡単な面接が出来るようになる。集団栄養教育を企画、実践できるようになる

《成績評価の方法》

授業態度(40%)，提出レポート(60%)で評価する。

《テキスト》

『食事バランスガイドーフードガイド（仮称）検討会報告書ー』第一出版編集部編（第一出版）『エッセンシャル 栄養教育論』春木敏著（医歯薬出版）（購入済み）

《参考図書》

『ニュートリションコーチング』柳澤厚生著 医歯薬出版
『行動変容のための面接レッスン』行動カウンセリングの実践 安達淑子著 医歯薬出版

《授業時間外学習》

予習の方法：基礎栄養教育論のテキストの該当範囲をよく読むこと。
復習の方法：作成した資料を再度読み直し、作成出来ていないところは、必ず完成させて授業に臨むこと。分からないところは第一回講義のときにメールアドレスを知らせるので、質問すること。

《備考》

演習科目であることから、積極的な授業参加が重要である。2限連続して実施する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	個別の栄養教育Ⅰ	食事バランスガイドの目的、内容について整理し、その応用方法について学ぶ。
2	個別の栄養教育Ⅱ	食事バランスガイドを用いて自分の食生活を診断し、自己指導を行う。その後二人組になり、バランスガイドを用いた栄養教育の計画を立てる。
3	個別の栄養教育Ⅲ（栄養教育の実施）	3人組になり計画した健康教育のロールプレイを行い、自分の栄養教育の実践能力を確認する。
4	個別の栄養教育Ⅳ（評価と改善）	自己指導と他者指導を比較し、行動変容に必要な情報の収集、指導内容について評価、改善方法を考える。その他、地域別・ライフステージ別バランスガイドを理解する。
5	集団の栄養教育Ⅰ（年代別の生理的特徴の理解）	プランニングの方法について復習したのち、グループごとに対象とするライフステージを決定し、各ライフステージの特徴及び社会的背景を踏まえた問題点を整理する。
6	集団の栄養教育Ⅱ（ニーズアセスメント）	教育対象者のニーズを明確にするため、整理した問題点をもとに、QOL、健康、ライフスタイル等の問題を仮定し、仮定を確認するためのアンケートをグループで作成する。
7	集団の栄養教育Ⅲ（アンケート分析）	アンケートの実施、入力、統計処理の方法を理解する。
8	集団の栄養教育Ⅳ（アンケート分析）	統計処理を行い、教育対象者が抱えている問題点が把握できる。
9	集団の栄養教育Ⅴ（プレゼン準備）	教育対象者が抱えている問題点を図や表を用いて表現できるようになる。
10	集団の栄養教育Ⅵ（プレゼン準備）	説明内容に応じたプレゼンテーションが出来るようになる。
11	集団の栄養教育Ⅶ	ライフステージの生理的特徴や疾病を踏まえたうえで、対象者の問題点を説明することが出来る。対象者の問題に応じた栄養教育を企画、準備することが出来るようになる。
12	集団の栄養教育Ⅷ（栄養教育の実施）	ライフステージの特徴をとらえた、栄養教育を実践、評価できるようになる。
13	集団の栄養教育Ⅸ（栄養教育の実施）	ライフステージの特徴をとらえた、栄養教育を実践、評価できるようになる。
14	集団の栄養教育Ⅹ（栄養教育の実施）	ライフステージの特徴をとらえた、栄養教育を実践、評価できるようになる。
15	集団の栄養教育ⅩⅠ（栄養教育の評価）	模擬授業について、企画、経過、影響、結果、経済、総合評価についてアンケート等を用いて評価し、改善方法が考えられるようになる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	総合演習				
担当者氏名	内田 亨、細川 敬三、本澤 真弓、矢埜 みどり、真鍋 祐之、須見 登志子、松村 末夫、富永 しのぶ、増村 美佐子、中井 玲子、佐藤 隆、嶋津 裕子、福本 恭子、前田 典子、小林 麻貴				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

これまで学習してきた管理栄養士として必要な知識を整理し、さらに実用可能なレベルにまで発展していくことを目標とする。

《テキスト》

必要に応じ授業内で指定する。
随時印刷物を配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

これまで別々に学習してきた各科目の内容を総合的に捉えることができる。
専門職として社会に貢献できるレベルまで知識の質を向上させる。

《授業時間外学習》

3年間の授業内容の復習が中心となる。
これを確実に身につけていくことが、専門職として働くために必要となるので、必ず授業の復習をし、知識の定着を目指していくこと。

《成績評価の方法》

試験100%

《備考》

栄養マネジメント学科教員全員が授業を担当する。
授業は講義形式で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
2	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
3	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
4	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
5	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
6	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
7	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
8	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
9	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
10	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
11	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
12	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
13	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
14	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。
15	管理栄養士への道	これまでの学習内容の振り返り 専門職として必要な知識を整理し発展させる。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習 I				
担当者氏名	内田 亨、細川 敬三、本澤 真弓、矢埜 みどり、真鍋 祐之、須見 登志子、松村 末夫、富永 しのぶ、増村 美佐子、中井 玲子、佐藤 隆、嶋津 裕子、福本 恭子、前田 典子、小林 麻貴				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力）				

《授業の概要》

総合演習と連携しながら知識の定着と充実を目指す。管理栄養士に必要な知識を整理し、さらに発展させていくことを目標とする。

《テキスト》

必要に応じ授業内で指定する。
随時印刷物を配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

- 1) 専門基礎科目及び専門科目で学習した内容を関連付けて考えることが出来る。
- 2) 管理栄養士として必要な専門知識を修得し、資格者としての質を向上させる。
- 3) グループ学習を通してコミュニケーション力・リーダーシップ力を身につける

《授業時間外学習》

3年間の授業内容の復習が中心となる。
これを確実に身につけていくことが、専門職として働くために必要となるので、必ず授業の復習をし、知識の定着を目指していくこと。

《成績評価の方法》

学習態度 60%、課題 40%

《備考》

栄養マネジメント学科教員全員が授業を担当する。
授業は少人数ゼミ形式で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	演習課題の実践 1	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
2	演習課題の実践 2	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
3	演習課題の実践 3	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
4	演習課題の実践 4	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
5	演習課題の実践 5	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
6	演習課題の実践 6	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
7	演習課題の実践 7	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
8	演習課題の実践 8	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
9	演習課題の実践 9	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
10	演習課題の実践 1 0	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
11	演習課題の実践 1 1	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
12	演習課題の実践 1 2	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
13	演習課題の実践 1 3	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
14	演習課題の実践 1 4	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。
15	演習課題の実践 1 5	専門分野の各教育内容を包含する演習を行い、総合的な力を身につける。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	卒業演習Ⅱ				
担当者氏名	内田 亨、細川 敬三、本澤 真弓、矢野 みどり、真鍋 祐之、須見 登志子、松村 末夫、富永 しのぶ、増村 美佐子、中井 玲子、佐藤 隆、嶋津 裕子、福本 恭子、前田 典子、小林 麻貴				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-5 食と健康の重要性を認識し、学んだことを継続的に社会に発信、還元する力（社会的責任の自覚）				

《授業の概要》

これまで学習してきた管理栄養士として必要な知識を整理し、さらに実用可能なレベルにまで発展していくことを目標とする。

《テキスト》

必要に応じ授業内で指定する。
随時印刷物を配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

これまで別々に学習してきた各科目の内容を総合的に捉えることができる。
専門職として社会に貢献できるレベルまで知識の質を向上させる。

《授業時間外学習》

3年間の授業内容の復習が中心となる。
これを確実に身につけていくことが、専門職として働くために必要となるので、必ず授業の復習をし、知識の定着を目指していくこと。

《成績評価の方法》

試験100%

《備考》

栄養マネジメント学科教員全員が授業を担当する。
授業は講義形式で行う。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
2	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
3	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
4	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
5	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
6	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
7	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
8	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
9	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
10	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
11	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
12	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
13	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
14	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。
15	管理栄養士への道	基礎的知識を応用して、管理栄養士としてより高いレベルへの成長を目指す。

《専門教育科目 III群（専門に関する科目）》

科目名	公衆栄養臨地実習				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1-4 洞察力を持ち、課題を発見する力（課題発見力） ○ 2-5 他者と協調、協同の中でリーダーとしての自覚を持ち行動できる能力（リーダーシップ力） ○ 3-2 科学的根拠に基づいた情報を用いて適切にプレゼンテーションする力（情報発信力） ◎ 3-4 常に新しい知識を得るために、ネットワークを広げ情報を得る態度（自己啓発力） 				

《授業の概要》

本実習は、これまでに学内の講義、実験・実習・演習等で学んできた成果を、今後社会で活かす実践トレーニングの第一歩です。保健所や保健センター等の現場における地域住民が抱える健康・栄養・食生活上の諸問題に対し、情報・分析、それらを総合的に評価判定する機能や、それらに携わる管理栄養士等の専門職の業務に接し、総合的なマネジメントの実際を体感することが出来ます。

《授業の到達目標》

- 保健所および保健センター、それぞれの果たす役割・業務の概要と両者の関係を説明し、その活動の実際ならびに栄養行政の概要を把握・体感することができる。
- それらを報告書や論文に取りまとめることができる能力を修得することができる。
- 行政栄養士の業務を理解し、関連専門職と協働関係を構築することの重要性を理解することができる。

《成績評価の方法》

各臨地実習先指導管理栄養士の評価（50％）、各臨地実習先の管理栄養士が指示する課題および臨地実習ノート等提出物（50％）
 ●本実習は事前に行うガイダンス、オリエンテーション、事後の報告会への出席が必須となる。

《テキスト》

臨地実習先（保健所等）からの指示により、適宜資料・プリントを配布する。
 「現場で役立つ公衆栄養学実習」 同文書院

《参考図書》

「2016年度版 管理栄養士・栄養士必携」
 (社) 日本栄養士会編 第一出版
 「国民衛生の動向2016/2017」 厚生労働統計協会

《授業時間外学習》

- 都道府県、市町村行政の違い、行政栄養士の業務について復習しておくこと。
- 各臨地実習先を管轄する地域の特徴、健康関連施策や公衆栄養プログラムの内容について予習しておくこと。

《備考》

- 実習先施設の都合で、授業計画は変更されることもある。
- 身だしなみ、言葉遣いに注意し、管理栄養士への総仕上げのための実践の場として実習に臨むこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	臨地実習（実習先でのガイダンス）	地域住民に対して専門性の高い対人対物サービスを担当する栄養行政について理解する。
2	臨地実習（実習先からの事前課題）1	地区現状の把握を主体的に調べ捉えることができる。
3	臨地実習（実習先からの事前課題）2	保健所、保健センターの機能と役割を概説し文章にまとめることができる。
4	臨地実習（保健所企画のプログラム）1	保健所、保健センターの機構および業務について理解する。
5	臨地実習（保健所企画のプログラム）2	管理栄養士業務の概要と栄養関係法規について理解する。
6	臨地実習（保健所企画のプログラム）3	地域保健における栄養体制の整備について理解する。
7	臨地実習（保健所企画のプログラム）4	地域における実態把握と分析について理解し体感する。
8	臨地実習（保健所企画のプログラム）5	政策の計画・実施・評価について理解し体感する。
9	臨地実習（保健所企画のプログラム）6	専門的な栄養指導・食生活支援について理解し体感する。
10	臨地実習（保健所企画のプログラム）7	住民に対する健康教育・栄養相談について理解し体感する。
11	臨地実習（保健所企画のプログラム）8	健康な地域づくりと地区組織の育成について理解し体感する。
12	臨地実習（保健所企画のプログラム）9	食に関する情報の整備・外食・栄養成分表示の推進について理解し体感する。
13	臨地実習（保健所企画のプログラム）10	市町村に対する指導について理解し体感する。
14	臨地実習（保健所企画のプログラム）11	保健所または市町村保健センターで体験した管理栄養士の職務に基づいて、改善点や理想とする姿を文書で提案することができる。
15	臨地実習（報告会）	臨地実習で体験した管理栄養士の職務について、社会的な役割および責任に関して報告書を作成し説明できる。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

- (1) 研究テーマに沿って、「①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥中間報告」の順に行い、研究方法について学ぶ。
 (2) 研究の進捗状況を中間報告会にて発表する。

《テキスト》

必要に応じ資料を配付する。

《参考図書》

必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》

各自の研究テーマについて、①論文調査・②実験計画・③実験・④データ解析・⑤データのまとめ・⑥卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものとするとともに新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》

実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》

実験態度(50%)・中間報告(50%)で評価を行う。

《備考》

1人1テーマを基本とします。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要の説明と研究テーマの決定	卒業研究で実施する内容を概説する。各自の研究テーマを選ぶ。
2	実験計画の立案	各自の研究テーマに基づき、1年間の実験計画のスケジュールを立てる。
3	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
4	実験手法のトレーニング	実験に必要なテクニックを身につける。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
12	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
13	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
14	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
15	中間報告	作成した図表を使って15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマにそって論文検索を行い、集めた論文は輪読会を行い、これまで研究がどのような方法でなされ、どこまで明らかになっているのか、何が問題なのかを理解する。問題点を踏まえ、今後の研究内容を計画し、研究をすすめる。得られたデータは、集計し、分析、考察を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて提示する。

《授業の到達目標》

論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《授業時間外学習》

検索及び配付された論文は、必ず何度も何度も読み返して下さい。得られた結果は、終了後ただちに整理して下さい。

《成績評価の方法》

平常の授業態度（50%）、発表及び報告書（50%）をあわせて評価する

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	卒業研究の概要説明及びテーマ決定	卒業論文について、説明を行い、卒業論文のテーマを決定する
2	論文購読	自分の研究内容に近い内容の論文（各自1編）を検索し、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読）
3	論文購読	検索した論文について、目的、方法、結果について説明を行い、質疑応答を行う（論文輪読を全員が、少なくとも1回担当するまで継続する）
4	研究計画	自分の研究テーマについて、さらに論文を読み、自分の研究テーマについてのこれまでの研究の歴史を理解する
5	研究計画	研究計画を立てる
6	研究・データ分析	計画に沿って研究に着手する
7	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
8	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
9	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
10	研究・データ分析	得られた結果を踏まえ、研究の方向性を検討する
11	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
12	研究・データ分析	研究を遂行するとともに、適宜報告する
13	研究・データ分析	結果を踏まえ、研究の方向性を確認する
14	途中経過のまとめ	これまで得ることのできたデータを整理する
15	中間報告	研究の進行度、方向性を確認し、II期の研究計画について再検討を行う

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

研究テーマを設定し、文献検索により既知の事実を整理し、計画を立てて実験を開始する。各々のデータを評価・解析し、方向性を探る。最終的に、研究成果を整理し、根拠に基づいた考察を行い、中間報告としてまとめ、発表する。

《テキスト》

必要に応じ配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

- 実験し新たなことを発見できる喜びを実感できる。
- 疑問点を抽出し、解決するために考えることができる。
- 理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》

論文の作成・報告書の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》

実験態度 50%、中間報告書 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究テーマの設定	卒業研究のテーマの候補を示すので、興味持てる内容を選択する。
2	研究計画・材料調製	議論の上、テーマに沿っておおよその実験計画を立てていく。必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	研究計画・材料調製	議論の上、より具体的な実験計画を立てていく。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
11	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
12	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
13	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
14	結果のまとめ	実験結果を整理し、中間報告書の作成を開始する。
15	中間報告	中間報告書に沿って結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究 I で得た成果を元に、研究テーマに沿った研究を継続して実施する。不足している事項を明らかにするために、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、発表を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて指示する。

《授業の到達目標》

- 研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
- 得られた情報を客観的に評価する能力を身につける。
- 分析結果について自分の意見をまとめ、発表する能力を身につける。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

- (1) 研究態度50% (2) 卒業論文50%

《備考》

卒業研究 I に引き続いて履修することが望ましい。データの取扱いには十分注意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマの設定	卒業研究 I で得られたデータから、再度研究テーマを設定する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
6	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
7	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
8	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
9	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	結果のまとめ	得られたデータをまとめる。
12	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
13	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
14	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
15	発表	各自のテーマから得られた結果について発表し、評価を得る。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

特定の研究テーマについての情報収集や文献調査を通じて、テーマの背景や問題点などを分析した後、スライドによる口頭発表、グループでの討議および中間報告書の作成を行う。

《テキスト》

プリントを配布する場合がある。

《参考図書》

《授業の到達目標》

調査・分析した内容について口頭発表や報告書を作成することにより、研究方法について理解する。

《授業時間外学習》

新聞、ニュース、雑誌などを通じて研究に関する情報を収集する。

《成績評価の方法》

研究態度（30%）、口頭発表（30%）、中間報告書（40%）により評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション①	研究の方法と計画（1）の立て方を学ぶ。
2	イントロダクション②	研究の方法と計画（2）の立て方を学ぶ。
3	調査研究①	研究テーマの決定を行う。
4	調査研究②	論文輪読（1）を行う。
5	調査研究③	論文輪読（2）を行う。
6	調査研究④	論文輪読（3）を行う。
7	調査研究⑤	文献調査・分析・ディスカッション（1）を行う。
8	調査研究⑥	文献調査・分析・ディスカッション（2）を行う。
9	調査研究⑦	文献調査・分析・ディスカッション（3）を行う。
10	調査研究⑧	文献調査・分析・ディスカッション（4）を行う。
11	調査研究⑨	資料の作成および中間報告書を作成（1）する。
12	調査研究⑩	資料の作成および中間報告書を作成（2）する。
13	プレゼンテーション①	スライドによる口頭発表（1）を行う。
14	プレゼンテーション②	スライドによる口頭発表（2）を行う。
15	卒業研究中間報告	卒業研究中間報告書を完成し提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究 I				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力）				

《授業の概要》

これまでに学んだ食や健康に関する教育の基礎理論を基に、自分が関心を持つ健康や食に関する事象に目を向け、研究テーマや研究課題を設定します。テーマに沿った研究方法を学び、先行研究などの必要な文献や資料を収集し、計画的に自ら探求していく態度を養います。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

適宜指示する。

《授業の到達目標》

- 研究に関する資料を作成し、研究計画を立てることができる
- 問題意識にもとづいて、明らかにしたいことを明確に表現できる。
- テーマに関する参考文献、先行研究、統計資料などから意味や問題を読み取ることができる。

《授業時間外学習》

- データ処理、まとめを授業時間外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

進捗状況表等提出物（50%）、中間発表（50%）

《備考》

- 研究の進捗状況表を作成し、毎授業日に提出すること。
- 卒業研究Ⅱも履修することが望ましい。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究の進め方について理解する。
2	研究の理解	研究の基本的知識、研究方法等を学ぶ。
3	データ収集の方法①	先行論文、文献等検索を主体的に行う。
4	研究テーマの検討	研究テーマ、研究方法の検討を行う。
5	研究テーマの決定	研究テーマ、研究方法の決定を主体的に行う。
6	研究計画の作成①	経過報告、検討を行う。
7	研究計画の作成②	経過報告、検討を行う。
8	データ収集の方法②	質問紙作成の実際を調べる。
9	データ収集の方法③	質問紙の検討、経過報告を行う。
10	データ収集の方法④	質問紙の検討、経過報告を行う。
11	データ処理方法①	データ処理について理解する。
12	データ処理方法②	データ処理について主体的に調べ行う。
13	中間報告書の作成①	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、検討を行う。
14	中間報告書の作成②	研究目的、研究概要、研究計画、先行研究論文等の経過報告、決定をする。
15	中間報告	中間報告会の実施に取り組む。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	細川 敬三				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

- (1) 卒業研究Ⅰの続きとして「①実験・②データ解析・③データのまとめ・④卒業論文の作成」の順に行う。
 (2) 1年間の実験結果を卒業論文にまとめる。

《テキスト》

必要に応じ資料を配付する。

《参考図書》

必要の応じ提示する。

《授業の到達目標》

卒業研究Ⅰの続きとして、実験・データ解析・卒業論文の作成という流れに沿って卒業研究を行う。このことにより、研究の流れを理解するとともに論理的思考方法について学ぶ。また、基本的実験操作などについても復習し、基本操作を確実なものにするとともに、新たな実験手法を身につける。

《授業時間外学習》

実験結果は、実験終了後直ちにデータを整理して下さい。

《成績評価の方法》

実験態度(50%)・卒業論文(50%)で評価を行う。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
2	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
3	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
4	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
5	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
6	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
7	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
8	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
9	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
10	実験とデータ解析	実験計画に従って実験を行い、その結果の解析を行う。
11	研究結果のまとめ	実験方法と結果を図や表としてまとめる。
12	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
13	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
14	卒業論文の作成	「序論・実験方法・結果・考察」の各項目ごとにまとめ、卒業論文を作成する。
15	報告会	作成した卒業論文をもとにして、15分間で口頭発表を行う。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	矢埜 みどり				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究Ⅰで取り組んだ内容を中心にデータの処理方法や論文の書き方を学習します。

《テキスト》

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて提示する

《授業の到達目標》

論文の検索の仕方、情報の収集、解析の方法、論文の書き方を習得するとともに、研究の流れを体験できる。

《授業時間外学習》

論文購読、データ処理は、授業時間外にも行う必要があります。

《成績評価の方法》

平常時の授業態度（50%）と発表及び卒業論文（50%）を合わせて評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究および分析	統計処理の方法及び統計用ソフトの使用方法について説明を行う
2	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
3	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
4	研究・データ分析	得られた結果を元に、分析を進める
5	研究・データ分析	分析結果を元に、論文の流れについて打ち合わせを行う
6	研究・データ分析	論文用の図・表の作成する
7	研究・データ分析	論文用の図・表の訂正および不足分の分析を行う
8	研究・データ分析	論文用の図・表の完成する
9	研究・データ分析	再度論文の形式を確認し、得られた結果をもとに論文を作成する
10	論文作成	論文内容を推敲する
11	論文作成	指摘された部分を再度分析し、論文の完成度を上げる
12	論文作成	論文の表現について、再度推敲する
13	論文作成	報告会用のプレゼン資料を作成する
14	報告会	自分の卒業論文について発表会を行う
15	論文提出	論文原稿を最終確認し、提出する

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	内田 亨				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究Ⅰの続きとして、計画を立てて実験を開始する。最終的に、研究成果を整理し、根拠に基づいた考察を行い、卒業研究としてまとめ、発表する。

《テキスト》

必要に応じ配布する。

《参考図書》

必要に応じ紹介する。

《授業の到達目標》

- 研究の流れを理解できる。
- 自分で新たな実験方法の考案ができる。
- 理論的に考えることができる。

《授業時間外学習》

卒業論文の作成などを自主的に行う必要がある。

《成績評価の方法》

実験態度 50%、卒業論文 50%

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究計画・材料調製	卒業演習Ⅰで得た結果を更に発展させるために議論し、実験計画を立てる。
2	研究計画・材料調製	実験計画にそって必要と思われる物品を抽出し、準備していく。
3	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
4	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
5	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
6	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
7	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
8	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
9	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
10	実験・文献検索・議論	実験計画に沿って実験を進める。文献検索により既知の事実を整理する。
11	結果のまとめ	実験結果を整理し、卒業論文の作成を開始する。
12	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
13	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
14	卒業論文の作成	議論しながら、卒業論文の作成を進める。
15	報告会	卒業論文に沿って結果を発表する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	増村 美佐子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究Ⅰで得た成果を元に、研究テーマに沿った研究を継続して実施する。不足している事項を明らかにするために、研究計画を立て、計画に沿った研究を行なう。得られた結果を統計解析し、考察をする。論文を作成し、発表を行う。

《テキスト》

テキストは使用しないが、必要に応じて資料を配布する。

《参考図書》

必要に応じて指示する。

《授業の到達目標》

- 研究実施課程の中で、論理的思考力を修得する。
- 得られた情報を客観的に評価する能力を身につける。
- 分析結果について自分の意見をまとめ、発表する能力を身につける。

《授業時間外学習》

文献検索・文献講読、研究、分析やまとめを授業時間以外にも行う必要がある。

《成績評価の方法》

- (1) 研究態度50% (2) 卒業論文50%

《備考》

卒業研究Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。データの取扱いには十分注意する。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	研究概要の説明・テーマの設定	卒業研究Ⅰで得られたデータから、再度研究テーマを設定する。
2	文献検索および抄読会	研究テーマに関連した論文を読み、先行研究の内容を確認し、その研究分野での独創的な研究であることを事前に調査する。
3	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
4	研究計画	研究テーマに沿った、研究方法（対象、実施期間など）を検討する。
5	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
6	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
7	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
8	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
9	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
10	研究・データ解析	研究の実施、得られたデータの解析を行う。
11	結果のまとめ	得られたデータをまとめる。
12	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
13	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
14	論文作成	得られたデータを論理的かつ客観的にまとめる。
15	発表	各自のテーマから得られた結果について発表し、評価を得る。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	佐藤 隆				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

卒業研究Ⅰに引き続き行う。
特定の研究テーマについての情報収集や文献調査を通じて、
テーマの背景や問題点などを分析した後、スライドによる口頭
発表、グループでの討議および卒業研究論文の作成を行う。

《テキスト》

プリントを配布する場合がある。

《参考図書》

《授業の到達目標》

調査・分析した内容について口頭発表や研究論文を作成すること
により、研究方法について理解する。

《授業時間外学習》

新聞、ニュース、雑誌などを通じて研究に関する情報を収集す
る。

《成績評価の方法》

研究態度（30%）、口頭発表（30%）、研究論文（40%）により
評価する。

《備考》

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	調査研究①	文献調査・分析・ディスカッション（1）を行う。
2	調査研究②	文献調査・分析・ディスカッション（2）を行う。
3	調査研究③	文献調査・分析・ディスカッション（3）を行う。
4	調査研究④	文献調査・分析・ディスカッション（4）を行う。
5	調査研究⑤	文献調査・分析・ディスカッション（5）を行う。
6	調査研究⑥	文献調査・分析・ディスカッション（6）を行う。
7	調査研究⑦	文献調査・分析・ディスカッション（7）を行う。
8	調査研究⑧	文献調査・分析・ディスカッション（8）を行う。
9	調査研究⑨	資料の作成および研究論文を作成（1）する。
10	調査研究⑩	資料の作成および研究論文を作成（2）する。
11	調査研究⑪	資料の作成および研究論文を作成（3）する。
12	調査研究⑫	資料の作成および研究論文を作成（4）する。
13	プレゼンテーション①	スライドによる口頭発表（1）を行う。
14	プレゼンテーション②	スライドによる口頭発表（2）を行う。
15	卒業研究最終報告	卒業研究論文の完成させ、提出する。

《専門教育科目 卒業研究》

科目名	卒業研究Ⅱ				
担当者氏名	嶋津 裕子				
授業方法	演習	単位・必選	3・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	○ 1-5 方法、結果、分析を関連づけて考察できる力（論理思考力） ◎ 3-3 データや情報に基づいて論理的に評価できる力（客観的評価力）				

《授業の概要》

研究テーマに沿って、取り組み方を見いだし検証していく等の研究過程は、柔軟な発想と積極性があれば面白みも見いだせます。研究論文を書き上げ、発表を行うことは、大学4年間の学びの集大成であり、最も自分を成長させる場となります。併せて卒業後社会に貢献できる多面的な応用能力の養成もめざします。

《授業の到達目標》

- データを統計的に分析し、先行研究と比較して論理的に考察することができる。
- 研究成果を研究論文としてまとめることができる。
- 研究発表会で、研究の概要をわかりやすく適切に伝えることができる。

《成績評価の方法》

進捗状況表等提出物（30%）、研究論文（40%）、研究発表（30%）

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	オリエンテーション	研究計画確認、進捗状況の確認、研究のまとめ方を整理する。
2	統計処理①	質問紙等調査実施、データ入力を行う。
3	統計処理②	質問紙等調査実施、データ入力を行う。
4	統計分析①	記述統計、検定、解析、グラフ作成を行ない理解を深める。
5	統計分析②	記述統計、検定、解析、グラフ作成を工夫し理解を深める。
6	卒業論文の作成①	研究のまとめ方、研究論文の構成、章立て及びその内容について主体的に取り組むことができる。
7	卒業論文の作成②	論文を作成し添削を受け自主的に研究に取り組むことができる。
8	卒業論文の作成③	論文を作成し添削を受け自主的に研究に取り組むことができる。
9	卒業論文の作成④	論文を作成し添削を受け自主的に研究に取り組むことができる。
10	卒業論文の作成⑤	論文を作成し添削を受け自主的に研究に取り組むことができる。
11	卒業論文の提出	論文の仕上げにより主張事項を表現することができる能力を高めることができる。
12	研究発表会準備①	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成に取り組む。
13	研究発表会準備②	研究要約の作成、パワーポイントのスライド作成、プレゼンテーションリハーサルにより情報発信能力を高めることができる。
14	研究発表会	発表のふりかえり、論文修正により総括することができる。
15	まとめ	多面的な応用能力が修得できる。

《テキスト》

必要に応じ資料を配布する。

《参考図書》

各自の研究テーマに合わせて、必要な文献等をその都度紹介する。

《授業時間外学習》

- データ処理、研究、まとめを授業時間外にも行う必要がある。

《備考》

- 研究の進捗状況表を作成し、毎授業日に提出すること。
- 卒業研究Ⅰに引き続いて履修することが望ましい。

《教職に関する科目》

科目名	栄養教育実習				
担当者氏名	前田 典子、小林 麻貴、宮田 さと子				
授業方法	実習	単位・必選	1・選択	開講年次・開講期	4年・I期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

栄養教諭としての専門的知識の習得と技術の向上を目指し、教職に関する実践能力、研究能力及び態度を養っていくことを目標とする。栄養教諭の役割、職務について理解を深め、栄養教育に必要な資質の向上を図る。実際の学校現場において、児童・生徒に対する食に関する授業研究、生徒指導、学校行事などに主体的に取り組み、体験的学習を深め、栄養教育における実践的な指導力を養う。

《授業の到達目標》

実習には「管理」と「指導」の二領域がある。「管理」では安全・安心な食事を調整し指導に活かす。「指導」では、児童・生徒に直接向かい合うことから出発するので、常に児童・生徒に愛情を持ち、人格を尊重する態度で接することが大切であると理解することができる。また、各実習校において、学校経営、校務分掌、学校教育方針等を理解し、栄養教諭の職務を体験することができる。

《成績評価の方法》

実習校の指導教諭による実習態度、課題内容等の評価（70%）
 栄養教諭実習ノートの記述内容（30%）

《テキスト》

事前事後指導に配布した栄養教諭実習ノートを使用する他、必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『栄養教諭養成における実習の手引き』田中信 監修・編著（東山書房）

《授業時間外学習》

実習時間だけでなく、帰宅後も実習内容は詳細に記録し、実習目標や課題について可能な範囲で研究・考察を行うこと。

《備考》

この科目は3年生Ⅱ期の事前事後指導に継続する科目であるため、将来栄養教諭になりたいと強い希望を持つ学生以外の履修は不可。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	教育実習	実習は原則加古川市内の小学校で行い、各実習校における指導教諭の計画に基づく1週間のプログラムで実施する。
2	-	-
3	-	-
4	-	-
5	-	-
6	-	-
7	-	-
8	-	-
9	-	-
10	-	-
11	-	-
12	-	-
13	-	-
14	-	-
15	-	-

《教職に関する科目》

科目名	教職実践演習（栄養教諭）				
担当者氏名	矢埜 みどり、山本 啓子				
授業方法	演習	単位・必選	2・選択	開講年次・開講期	4年・Ⅱ期
ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力	履修カルテ参照				

《授業の概要》

教員として学級経営ができる資質や生徒指導の能力を向上させるため、グループ討議やロールプレイによりスキルを身につける。また栄養教諭として、教壇に立つための基本的な教育力を養うため、生徒の食の問題点の調査・分析に基づく模擬授業を实践する。最後に学校現場で、現職教員の学級経営及び授業進行と自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較し、自分にとっての教職の意義及び教員の役割について論じる。

《授業の到達目標》

栄養教諭として、学校経営を理解したうえで、児童・生徒を指導できる能力及び授業の実践力を養い、教職の意義及び教員の役割について認識を深める。

《成績評価の方法》

学習態度（20%）、討議時の意見や役割遂行度（20%）、学級経営案（20%）、模擬授業の評価（20%）、提出レポート（20%）

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する

《参考図書》

「学級経営力を高める一感化主義の提唱」堀裕嗣著（明治図書）
「学校栄養教育概論 学校における食の指導」上田伸男編（化学同人）

《授業時間外学習》

学級経営案や授業案など授業時間内では、作成できないため時間外の学習が必要となる。また、学校現場の見学も含まれているため移動時間も必要となる。

《備考》

活発な討議により多くの学びが生まれる。教員を目指す者同士、お互いに高めあう気持ちをもって、自分の考えを必ず述べるという意識をもつこと。

《授業計画》

週	テーマ	学習内容など
1	イントロダクション	グループ討議により、学習の振り返りを行いながら、自己の問題点などを認識する
2	教職の意義や教員の役割	教職の職務内容、子供に対する責任などグループ討議を行いながら教職の意義や教員の役割について理解を深める
3	学級経営講義Ⅰ	社会性、対人関係能力、児童生徒理解、学級経営についての理論を理解する
4	学級経営講義Ⅱ	講義で学んだ社会性、対人関係能力、児童生徒理解、学級経営についてグループ討議を行い、他人の考えを傾聴しながら、自分なりの考えを整理することができる。
5	学級経営講義Ⅲ	学級経営案を作成する力を身につける。
6	学級経営講義Ⅳ	学級経営案を説明し、意見交換を行い、学級経営についてより理解を深める。
7	コーチング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、コーチングのスキルを身につける。
8	カウンセリング	学生指導の能力を向上させるため、ロールプレイにより、カウンセリングのスキルを身につける。
9	模擬授業Ⅰ	生徒の食の問題点の調査・分析する力を身につける。
10	模擬授業Ⅱ	授業計画を立案し、媒体を作成する力を身につける。
11	模擬授業Ⅲ	模擬授業を行い、授業運営について改善点を検討することで、授業運営能力を育てる。
12	模擬授業Ⅳ	栄養に関する科目及び事前事後指導の担当教員を含めて、改善した指導案をもとに模擬授業を行い、授業運営能力を身につける。
13	学校現場の見学	現職教員の学級経営及び授業進行を見学し、自分で作成した学級経営案・模擬授業を比較することで、自分に不足している能力を認識することができる
14	グループ討議	見学により感じたことについて、グループ討議を行い、どのようにしてその能力を身につければよいか改善策を考えることができる
15	まとめ	自分にとっての教職の意義及び教員の役割についてまとめることにより、これからの教職に対する方向性を自覚することができる。

授業科目索引一覧 (50音順)

授業科目の名称	ページ
<エ> 英語	29～31
栄養教育実習	219
栄養教育論 I	149
栄養教育論 II	150
栄養教育論演習	170
栄養教育論実習 I	171
栄養教育論実習 II	172
<オ> 応用栄養学 I	147
応用栄養学 II	148
応用栄養学 II (スポーツ・環境栄養)	201
応用栄養学 III	168
応用栄養学実習	169
<カ> 解剖生理学 I	117
解剖生理学 II	118
解剖生理学実験 I	140
解剖生理学実験 II	141
化学	61、84
化学基礎	105
学校栄養教育論 I	192
学校栄養教育論 II	193
韓国語 (初級)	37、38、91、92
韓国語 (中級)	39、40、93、94
管理栄養士概論	114
<キ> 基礎栄養学 I	125
基礎栄養学 II	126
基礎栄養学実験	146
基礎生化学	109
基礎ゼミ I	107
基礎ゼミ II	108
給食管理実習 I	155
給食管理実習 II	178
給食管理臨地実習	182
給食経営管理論	154
教育課程論 (道徳・特別活動を含む)	157
教育原理	128
教育史	190
教育心理学	156
教育制度論	129
教育相談 (カウンセリングを含む)	130
教育方法・技術論	158
教職概論	127
教職実践演習 (栄養教諭)	220

授業科目の名称	ページ
<ケ> 経済学	58、83
芸術	49、72
健康・スポーツ科学 I (講義)	64、65、95、96
健康・スポーツ科学 II (演習)	66、97
健康・スポーツ科学 III (演習)	67、98
健康科学	112
健康情報処理演習	113
<コ> 公衆衛生学 I	115
公衆衛生学 II	135
公衆栄養学 I	153
公衆栄養学 II	176
公衆栄養学実習	177
公衆栄養臨地実習	206
国際関係論	45
国際理解と宗教 I (キリスト教)	43、75
国際理解と宗教 II (イスラム教)	44、76
コミュニケーション論	111
コンピュータ演習	41、42
<シ> 色彩とデザイン	50、77
事前事後指導	191
実践栄養教育演習	202
実践栄養教育演習	202
実用英語 (初級)	87
実用英語 (中級)	88
実用英語 I	32～34
社会学	57、82
社会保障制度論	136
宗教と人生	26
食と健康	63、86
食品衛生学	144
食品衛生学実験	167
食品学 I	120
食品学 II	121
食品学実験 I	122
食品学実験 II	143
食品機能論	200
食料経済	199
人権の歴史	55、80
心理学	60、73
<セ> 生化学 I	116
生化学 II	137
生化学実験 I	138
生化学実験 II	139

授業科目の名称	ページ
<セ> 政治学	56、81
生体防御論	166
生徒指導論	159
生物学	62、85
生物基礎	106
生命倫理学	59、69
<ソ> 総合演習	203
総合演習 I	180
総合演習 II	181
卒業演習 I	204
卒業演習 II	205
卒業研究 I	184～189、207～212
卒業研究 II	213～218
<チ> 地域文化論	51
中国語 (初級)	35、89
中国語 (中級)	36、90
調理学	123
調理学実習 I	124
調理学実習 II	145
調理基礎実習	110
<テ> 哲学	52、70
<ニ> 日本語 (読解と表現)	28
日本国憲法	54、79
<ヒ> 比較文化論	46
<フ> フードサービスマネジメント演習	179
仏教と現代社会	27、74
文学	48、71
<ホ> 法と社会	53、78
保健統計学実習	165
<リ> 臨床栄養学 I	151
臨床栄養学 II	152
臨床栄養学 III	173
臨床栄養学演習	175
臨床栄養学実習	174
臨床栄養臨地実習	183
臨床病態学 I	119
臨床病態学 II	142
<レ> 歴史学	47
<ワ> 私のためのキャリア設計	68、99

